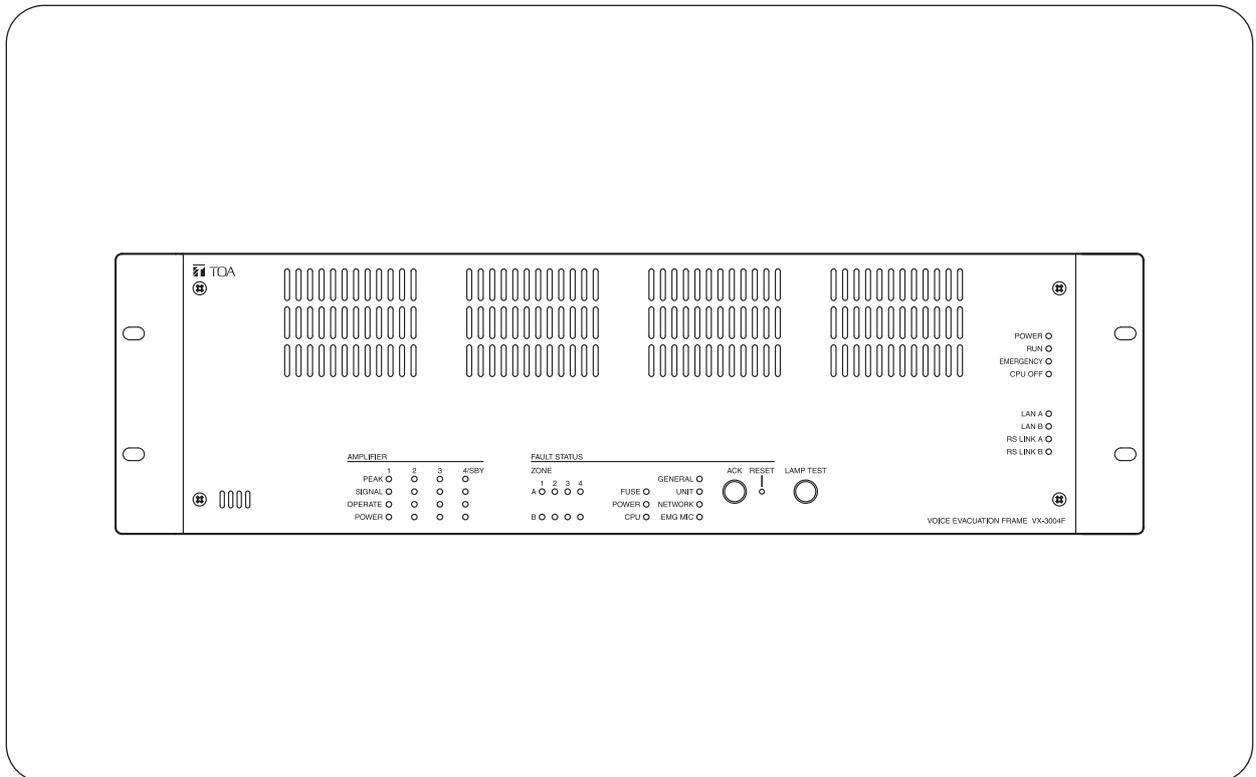


ラック型業務用放送設備

VX-3000 シリーズ



このたびは、TOA ラック型業務用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
 正しくご使用いただくために、必ずこの設置説明書をお読みにになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

第1章 システムの概要

安全上のご注意	1-2
概 要	1-7
システムの特長	1-7
システム例	1-8

第2章 各部の名称とはたらき

VX-3000 フレーム	2-2
デジタルパワーアンプモジュール	2-9
ラインアウトプットモジュール	2-11
プリアンプマトリクスパネル	2-12
コントロールパネル	2-16
接続端子盤パネル	2-18
壁掛型リモートマイク	2-20
壁掛型リモートマイク拡張ユニット	2-23
卓上型リモートマイク (RM-300X)	2-24
卓上型リモートマイク拡張ユニット	2-27
RJ45 端子盤	2-28
卓上型リモートマイク (RM-500)	2-29

第3章 機器の設置と設定のしかた

デジタルパワーアンプモジュールの設置と設定	3-2
スピーカーライン電圧の変更	3-2
ヒューズの交換	3-2
VX-3000 フレームの設置と設定	3-3
デジタルパワーアンプモジュールの取り付け	3-3
ゾーンの割り当ての設定	3-5
ラインアウトプットモジュールの取り付け	3-7
ID 番号の設定	3-9

IP アドレスの設定	3-10
プリアンプマトリクスパネルの設定	3-11
IP アドレスの設定	3-11
コントロールパネルの設定	3-14
IP アドレスの設定	3-14
リモートマイクの設置と設定	3-19
ID 番号の設定 (RM-200SF、RM-300X：スイッチ 1～3 の操作、 RM-500：スイッチ 2～4 の操作)	3-19
マイクの感度を調節する (RM-200SF：スイッチ 5 の操作、 RM-300X：スイッチ 4 の操作)	3-22
RM-500 のメニュー画面での設定のしかた	3-24
CPU オフ機能 (緊急一斉放送) の設定	3-30
終端設定 (RM-200SF、RM-500：スイッチ 8 の操作)	3-31
外部マイクを使用するとき (RM-300X のみ)	3-32
AUX 入力を使用するとき (RM-300X のみ)	3-34
AUX 入力端子のレベルを設定する (RM-500 のみ)	3-35
ダイレクト選択モードを使用する場合の設定 (RM-500 のみ)	3-35
コンプレッサー機能の設定 (RM-200SF、RM-300X のみ)	3-36
マイク故障検知機能の設定 (RM-300X のみ)	3-38
RM-200SF を壁に取り付ける	3-39
RM-220FW を壁に取り付ける (RM-200SF のみ)	3-43
RM-300X と RM-210F の連結のしかた (卓上設置のとき)	3-45
RM-300X を壁に取り付ける	3-46
RM-210F を壁に取り付ける (RM-300X のみ)	3-47
RM-500 を壁に取り付ける	3-49
リモートマイクの表示ラベルの取り付け (RM-200SF、RM-220FW、RM-300X と RM-210F のみ)	3-52
ラックへの取り付けかた	3-55
接続のしかた	3-56
着脱式ターミナルプラグの接続	3-56
プッシュ式ターミナルの接続のしかた (RM-500 のみ)	3-57
入力機器の接続	3-58
スピーカーの接続	3-91
制御出力端子の接続	3-95
制御入力端子の接続	3-97
非常断 24 V 入力端子の接続	3-99
VX-3000 機器の LAN 端子の接続	3-101
スタンバイアンプを共用する	3-107
スピーカーセレクターの拡張	3-108
アナログリンク端子の接続	3-109
プリアンプマトリクスパネルの接続	3-110
コントロールパネルの接続	3-113
アース線の接続	3-114

スピーカー線の初期設定	3-116
設定項目	3-116
現在値と初期インピーダンス値の比較による開放／短絡の基準	3-116
設定手順	3-117

第4章 付 録

ファームウェアバージョンを確認する	4-2
仕 様	4-4
VX-3000 フレーム 4AB VX-3004F	4-4
VX-3000 フレーム 8SS VX-3008F	4-7
VX-3000 フレーム 16SS VX-3016F	4-10
デジタルパワーアンプモジュール 120W VX-012DA-2	4-13
デジタルパワーアンプモジュール 240W VX-024DA-2	4-14
デジタルパワーアンプモジュール 360W VX-036DA-2	4-15
ラインアウトプットモジュール VX-300LO	4-16
プリアンプマトリクスパネル VX-3000PM	4-17
コントロールパネル VX-3000CT	4-18
接続端子盤パネル VX-3000JB	4-19
壁掛型リモートマイク RM-200SF	4-20
壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW	4-21
卓上型リモートマイク RM-300X	4-22
卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F	4-23
RJ45 端子盤 RM-200RJ	4-23
卓上型リモートマイク RM-500	4-24
リモートマイク壁掛金具 WB-RM500	4-24

第1章

システムの概要

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号			行為を強制する記号		
					
分解禁止	禁止	接触禁止	強制	電源プラグを抜く	アース線を接続せよ



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない (VX-300LO を除く)

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000PM、VX-3000CT、VX-3000JB、RM-200SF、RM-300X、RM-500、VX-3000AD のみに適用)

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない (VX-3000AD のみに適用)

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

配線後は端子カバーを取り付ける (VX-3000JB のみに適用)

ハイインピーダンスラインのスピーカー端子には最大 100 V の電圧がかかりますので、触れると感電の原因となります。



強制

安全アースを接続する (VX-3000AD のみに適用)

接地しないで使用すると、感電の原因となります。
ただし、ガス管は危険ですから、接続しないでください。



アース線を接続せよ

不安定な場所に置かない

(RM-200SF、RM-220FW、RM-300X、RM-210F、RM-500 のみに適用)

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

設置場所の強度を確認する

(RM-200SF、RM-220FW、RM-300X、RM-210F、RM-500 のみに適用)
取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。



強制

屋外に設置しない

本機は、屋内専用品です。
雨などがかかると、感電の原因となります。



禁止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- VX-3000AD の電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



電源プラグ
を抜け

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

RM-200SF および RM-300X の内部を開けての作業は、専門業者にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000AD のみに適用)

本機の通風口から内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。

火災・感電の原因となります。



禁止

雷が鳴ったらさわらない (VX-3000AD のみに適用)

雷が鳴り出したら、電源プラグにはさわらないでください。

感電の原因となります。



接触禁止

ヒューズの交換は、付属のものを使用する

交換する場合は、付属のヒューズ（下記のとおり）以外は使用しないでください。

VX-012DA-2：10 A

VX-024DA-2：20 A

VX-036DA-2：30 A

VX-3000AD：F12AH、30 A、T6AL

守らないと、火災・感電の原因となります。



強制

**警告**

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき**ヒューズを交換するときは、アンプの電源を切る**

電源を入れたままでヒューズを着脱すると、けがの原因となります。



強 制

**注意**

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき**ぬれた手で電源プラグをさわらない (VX-3000AD のみに適用)**

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となることがあります。



禁 止

電源コードを引っ張らない (VX-3000AD のみに適用)

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

必ずプラグを持って抜いてください。



禁 止

通風口をふさがない

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000AD のみに適用)

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

また、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、および VX-3000AD は、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。



禁 止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。

火災・感電の原因となることがあります。



禁 止

電源の極性を間違えない

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000PM、VX-3000CT、VX-3000JB、RM-200SF、RM-300X、VX-3000AD のみに適用)

電源コードの接続はプラス(+)、マイナス(-)を間違えないようにしてください。

アンプの故障の原因となることがあります。



禁 止

配線は VX-3000F の電源を切ってから行う

(VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2 のみに適用)

電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。



強 制

配線はアンプの電源を切ってから行う

(VX-3000JB のみに適用)

電源を入れたまま配線すると、感電の原因となることがあります。



強 制



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ラックに取り付けるときの注意

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-3000PM、VX-3000CT、VX-3000JB、VX-3000AD のみに適用)

リモートマイクを除くシステム構成部品は、ラックマウント専用です。

次のことを必ずお守りください。

守らないと、火災・けがの原因となることがあります。

- ラックは安定したところに据え付け、アンカーボルトなどで転倒・移動防止の処置を行うこと。
- 本機に付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。
- VX-3000AD の電源コードをコンセントに接続するときは、コンセントの許容電流を超えないこと。



強制

コンセントの許容電流容量を超えて接続しない

(VX-3000AD のみに適用)

複数口テーブルタップを使用して複数の機器を1つのコンセントに接続する場合、機器の合計消費電流がコンセントの許容電流容量を超えないようにしてください。

許容電流容量を超えると、火災や感電の原因となることがあります。



禁止

複数の機器が接続されているテーブルタップをコンセントから抜かない (VX-3000AD のみに適用)

複数の電源コードを複数口テーブルタップに接続している場合は、コンセントから複数口テーブルタップを取り外さないでください。



禁止

使用するとき

長時間、音が歪んだ状態で使わない

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000PM のみに適用)

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

AC アダプターは指定のものを使用する

(RM-200SF、RM-300X、RM-500 のみに適用)

指定以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。



強制

定期的に内部の掃除をする

(VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、VX-3000AD のみに適用)

内部の掃除については、販売店にご相談ください。

内部にほこりがたまったまま長い間掃除をしないと、火災の原因となることがあります。



強制

定期的な点検をする

(VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、RM-200SF、RM-220FW、RM-300X、RM-210F、RM-500、VX-3000AD のみに適用)

販売店に、定期的な点検を依頼してください。

本機または取付金具類の破損や腐食などにより、落下して、けがの原因となることがあります。



強制

警告

この機器は、クラス A 製品です。家屋内で使用すると無線障害を起こすことがあり、その場合、使用者は適切な対策を施す必要が生じます。

概要

VX-3000 シリーズは、VX-3000 フレーム、デジタルパワーアンプモジュール、ラインアウトプットモジュール、プリアンプマトリクスパネル、コントロールパネル、直流電源パネル、停電時用電源、およびリモートマイクで構成される業務放送システムです。

本システムでは、次の4種類の放送ができます。

- 業務放送 : ページング放送やBGM放送です。
- 音声警報放送 : 自動アナウンス機器やリモートマイクで音声警報メッセージを放送します。
- 緊急入力放送 : 音声警報放送より優先して放送できる放送です（優先度は任意に設定できます）。
- 緊急一斉放送* : システム故障時や異常発生時でも全ゾーンに一斉放送ができます。

音声警報放送は2つのパターンを同時に起動することができます。

専用ソフトウェアで、以下の設定を含む、システム全体の動作と機能に関するすべての設定ができます。

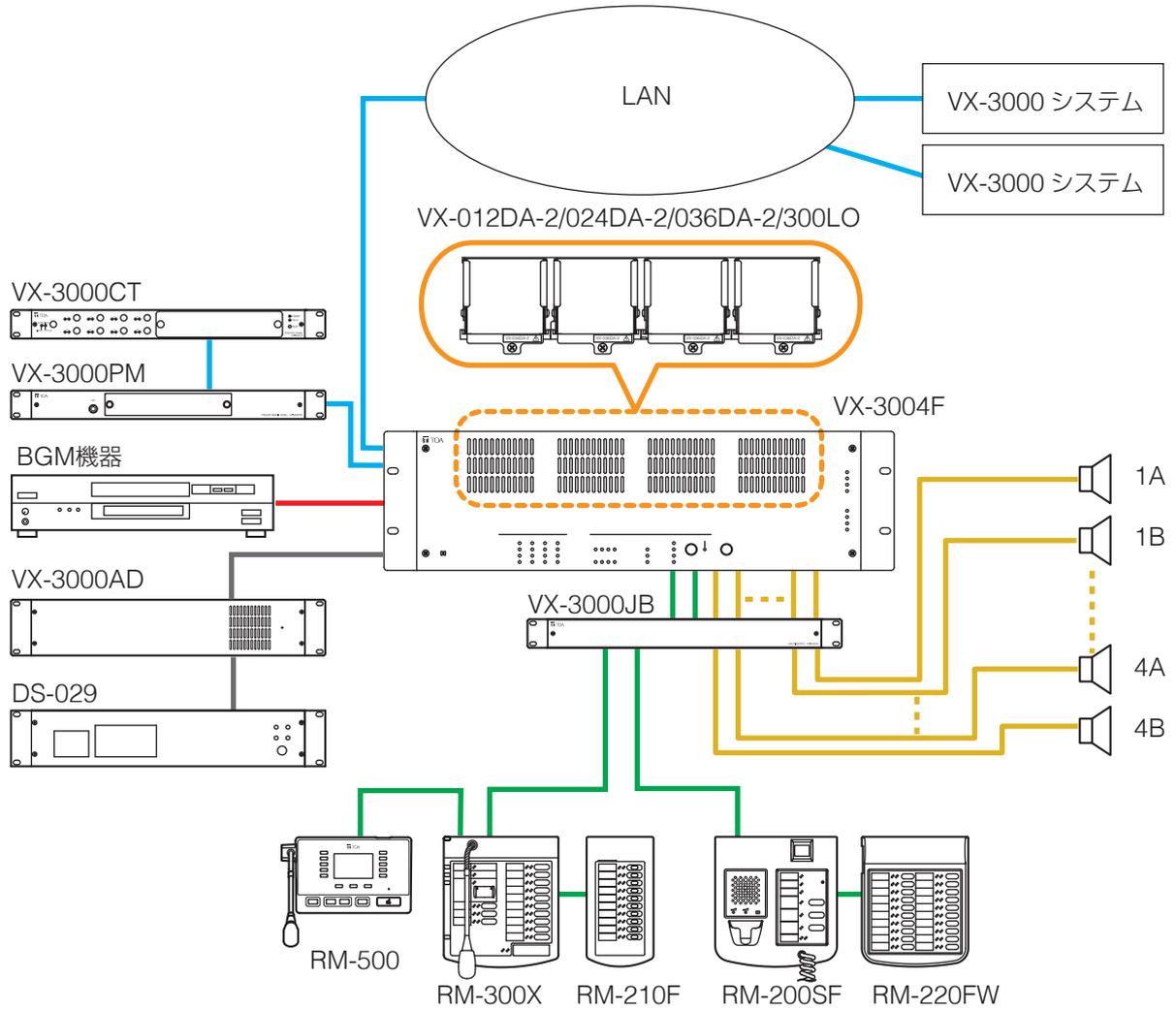
- システム構成、入力から出力への信号ルーティング、操作キーへの機能割り当て、制御端子の動作、故障検知ポイントの選択

* アナログリンクが接続されている場合に使用できます。

システムの特長

- 分散配置が可能な業務放送システムです。
- 最大640のゾーンに放送できます。
- 音声入出力に音質調整機能があり、放送に最適な音質に調整することができます。
- 最大1440の接点入力があり、さまざまな機能に設定することができます。
- 最大1360の接点出力があり、放送状態や機器異常状態に連動して起動することができます。

システム例



第2章

各部の名称とはたらき

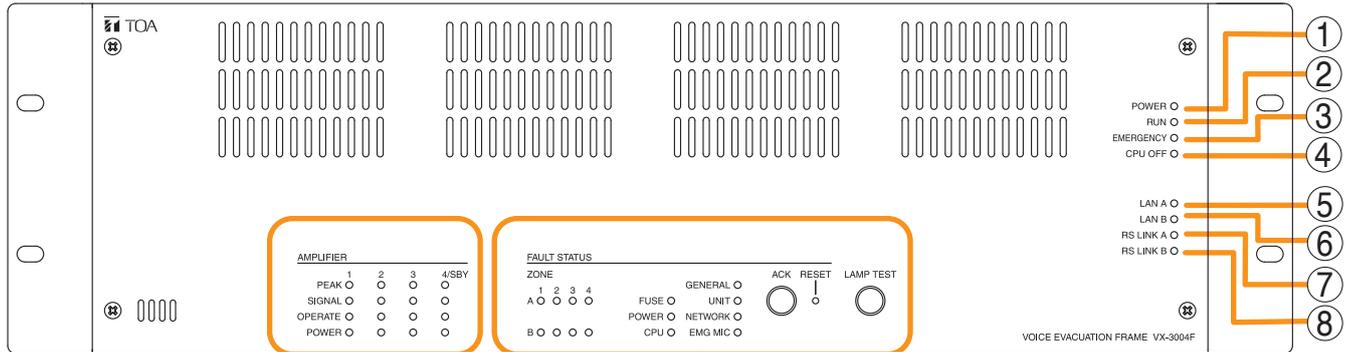
VX-3000 フレーム

本書では、VX-3000 フレーム VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F を総称して「VX-3000F」と表記します。

- VX-3000F は、VX-3000 シリーズの音声案内を制御するために設計されたユニットです。
- 音声入力端子を備えており、3 種類のデジタルパワーアンプモジュールおよび 1 種類のラインアウトブックモジュールがオプションで搭載できます。
- システムを分散配置することができます。

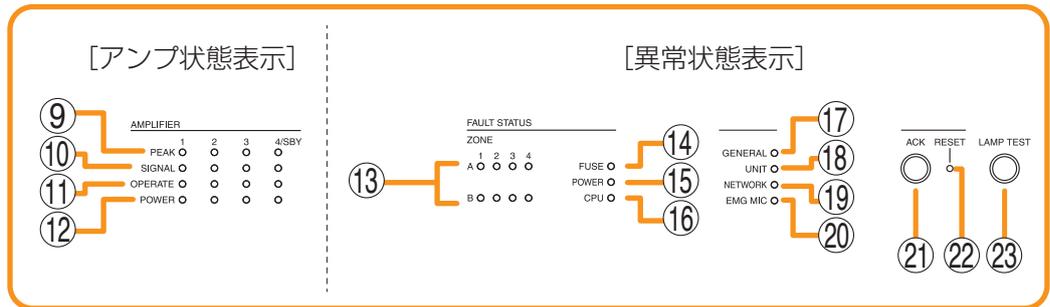
[前面]

VX-3004F

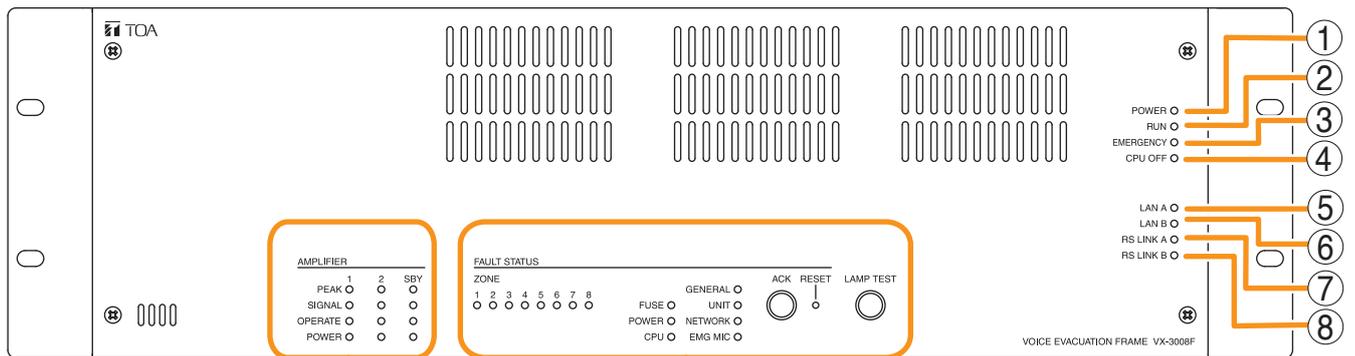


アンプ状態表示

異常状態表示

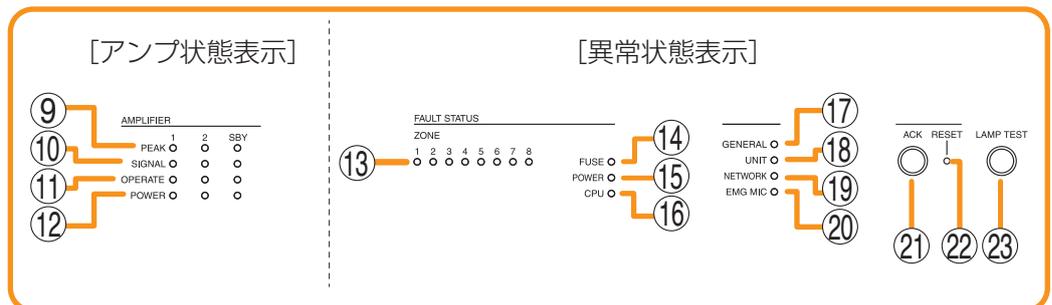


VX-3008F

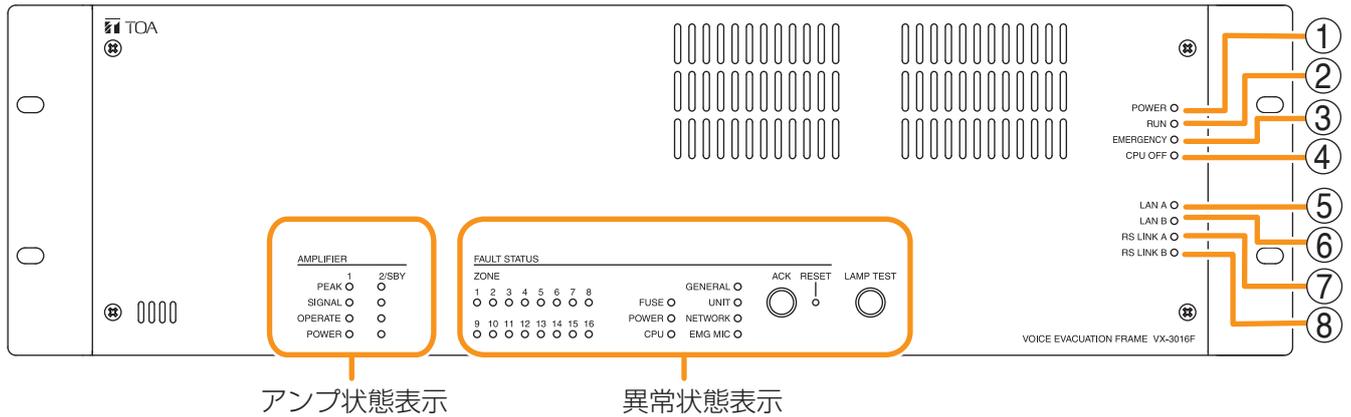


アンプ状態表示

異常状態表示

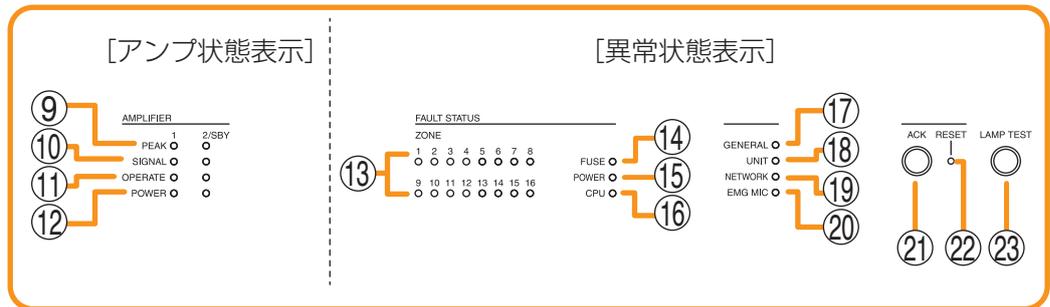


VX-3016F



アンプ状態表示

異常状態表示



1. 電源表示灯 [POWER] (緑)

電源を供給すると点灯します。
スタンバイ状態で点滅します。

2. RUN 表示灯 [RUN] (緑)

通常動作時、点滅します。
CPU オフ状態 (P.3-30) 時、停電時、電源投入後の初期化中は、消灯します。

3. EMERGENCY 表示灯 [EMERGENCY] (赤)

VX-3000 システムが音声警報放送状態または CPU オフ状態にある間、点灯します。

4. CPU オフ表示灯 [CPU OFF] (赤)

CPU オフ状態時、点灯します。(P.3-30)

5. LAN A 表示灯 [LAN A] (緑)

LAN リンクコネクタ A (49) を接続すると点灯し、通信時に点滅します。

6. LAN B 表示灯 [LAN B] (緑)

LAN リンクコネクタ B (49) を接続すると点灯し、通信時に点滅します。

7. RS リンク A 表示灯 [RS LINK A] (緑)

RS リンクコネクタ A (50) を接続すると点灯し、通信中は点滅します。

8. RS リンク B 表示灯 [RS LINK B] (緑)

RS リンクコネクタ B (50) を接続すると点灯し、通信中は点滅します。

9. アンプピーク表示灯 [PEAK] (赤)

モジュールが組み込まれているとき、パワーアンプ入力信号のピーク状態を表示します。
モジュールスロットに対応する音声入力信号レベルが +0.5 dB *を超えると、点灯します。
モジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

10. アンプ信号表示灯 [SIGNAL] (緑)

モジュールが組み込まれているとき、パワーアンプ入力信号の状態を表示します。
モジュールスロットに対応する音声入力信号レベルが -25 dB *を超えると、点灯します。
モジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

* 0 dB = 1 V

11. アンブ動作表示灯 [OPERATE] (緑)

デジタルパワーアンブモジュールが組み込まれているとき、パワーアンブの動作状態に応じて、モジュールスロットに対応する表示灯が点灯または消灯します。

動作状態	表示灯の状態
使用中	点灯
スタンバイ	消灯
DC ヒューズ切断	消灯
保護回路*起動	消灯

* 異常温度上昇や、ファン故障などの異常がアンブ内部で発生したときに動作します。
ラインアウトプットモジュールが組み込まれているとき、およびモジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

12. アンブ電源表示灯 [POWER] (緑)

デジタルパワーアンブモジュールが組み込まれているとき、パワーアンブの動作状態に応じて、モジュールスロットに対応する表示灯が点灯または消灯します。

動作状態	表示灯の状態
使用中	点灯
スタンバイ	点灯
DC ヒューズ切断	消灯
保護回路*起動	点灯

* 異常温度上昇や、ファン故障などの異常がアンブ内部で発生したときに動作します。
ラインアウトプットモジュールが組み込まれているとき、およびモジュールが組み込まれていないときは、消灯したままです。

13. ゾーン異常表示灯 [ZONE] (黄)

スピーカー回線の異常（短絡、開放、地絡）が検出されたとき、点灯または点滅します。

14. ヒューズ異常表示灯 [FUSE] (黄)

DC ヒューズの切断時に点灯または点滅します。

15. 電源異常表示灯 [POWER] (黄)

電源に異常が検出されたときに、点灯または点滅します。

16. CPU 異常表示灯 [CPU] (黄)

CPU オフ状態 (P. 3-30) または VX-3000F で異常が検出されたときに点灯します。

17. システム異常表示灯 [GENERAL] (黄)

CPU オフ状態 (P. 3-30) で点灯します。また、システムのどこかで異常が検出されると点灯または点滅します。

18. ユニット異常表示灯 [UNIT] (黄)

機器異常が検出されると点灯または点滅します。

19. ネットワーク異常表示灯 [NETWORK] (黄)

他の VX-3000F との通信に異常が検出されたときに点灯または点滅します。
ネットワーク設定をしているときと、機器構成エラーが発生したときにも、点灯または点滅します。

20. 音声警報マイク異常表示灯 [EMG MIC] (黄)

音声警報放送用のリモートマイクに異常が検出されたとき、点灯または点滅します。

21. 故障受理キー [ACK]

システムで故障を検出するとブザーが鳴動し、システム異常表示灯が点滅します。
このキーを押すとブザーの鳴動が停止します。
また、システム異常表示灯が点滅から点灯に変化します。

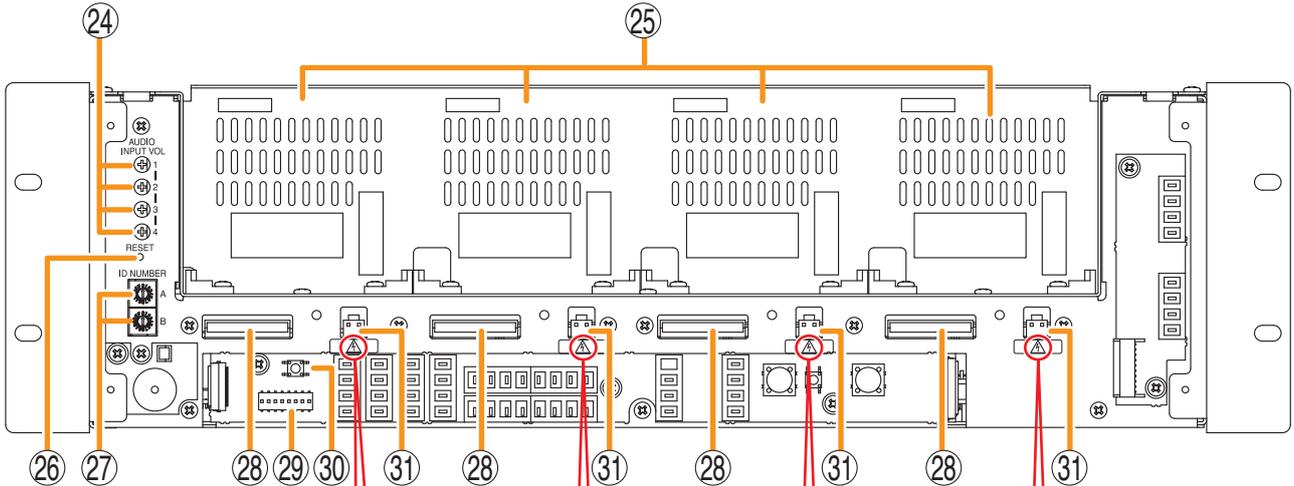
22. 故障リセットキー [RESET]

このキーを押すと、システムの故障検知情報がリセットされます。

23. ランプテストキー [LAMP TEST]

前面パネルの各表示灯を確認するために使用します。
このキーを押している間、VX-3000F のすべての表示灯が点灯し、ブザーが鳴動します。

〔前面パネルを外した図〕



これは電気的ハザードマークです。
ケーブルを接続すると感電する可能性があります。
デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、VX-024DA-2、および VX-036DA-2 に電源が供給されていないときに接続してください。

24. 入力音量調節器 [AUDIO INPUT VOL]

各音声入力の音量を調節します。
調節器を反時計方向に回し切ると、無音になります。

25. モジュールスロット

デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2、およびラインアウトモジュール VX-300LO を取り付けます。

最大取付台数は次のとおりです。

VX-3004F：4 台

VX-3008F：デジタルパワーアンプモジュールの場合は 3 台、ラインアウトモジュールの場合は 2 台

VX-3016F：2 台

26. リセットキー [RESET]

このキーを押すと、VX-3000F が再起動します。

27. ID スイッチ [ID NUMBER]

VX-3000F の ID 番号を設定します。

28. DA 制御リンク端子

デジタルパワーアンプモジュールまたはラインアウトモジュールの DA 制御リンク端子に接続します。

29. DIP スイッチ

[VX-3004F]

- スイッチ 1～6

使用しません。

- スイッチ 7

ファームウェアのバージョンを確認するときに使用します。(P. 4-2)

- スイッチ 8

IP アドレスの設定に使用します。(P. 3-10)

[VX-3008F]

- スイッチ 1～3

スピーカーラインの割り当てに使用します。(P. 3-5)

- スイッチ 4～6

使用しません。

- スイッチ 7

ファームウェアのバージョンを確認するときに使用します。(P. 4-2)

- スイッチ 8

IP アドレスの設定に使用します。(P. 3-10)

[VX-3016F]

- スイッチ 1

VX-3016F をアンプ 2 系統モードで使うときに使用します。(P. 3-5)

- スイッチ 2～6

使用しません。

- スイッチ 7

ファームウェアのバージョンを確認するときに使用します。(P. 4-2)

- スイッチ 8

IP アドレスの設定に使用します。(P. 3-10)

ご注意

工場出荷時は、スイッチ 1～7 は OFF、スイッチ 8 は ON に設定されています。

30. インピーダンス初期化キー

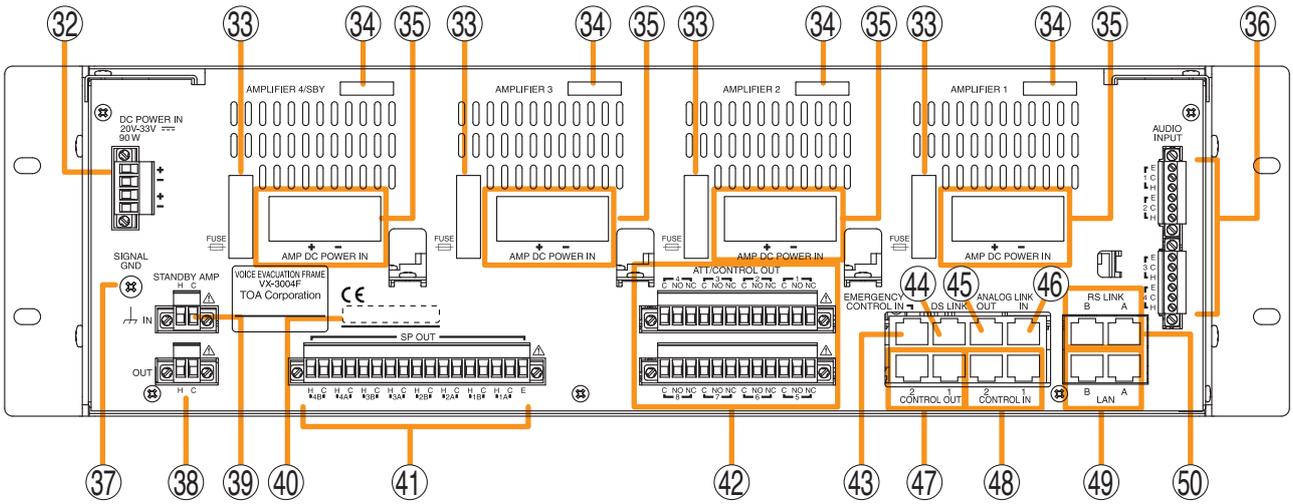
スピーカー回線のインピーダンス初期値を取得するときに押します。故障検出はこのインピーダンス値の変化を基に行われます。

31. DA 出力リンク端子

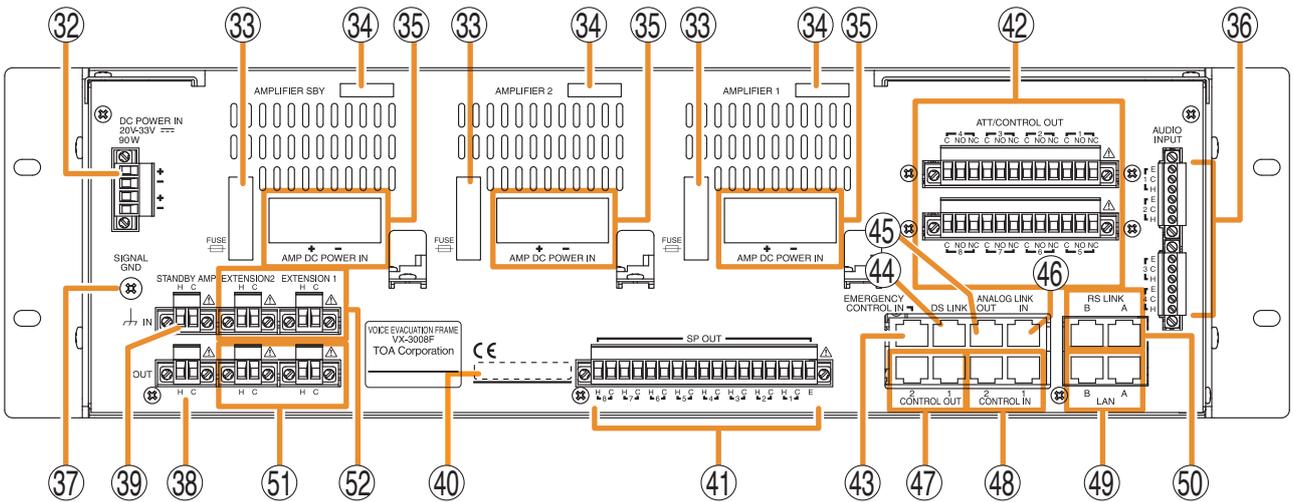
デジタルパワーアンプモジュールの DA 出力リンク端子に接続します。

【後面】

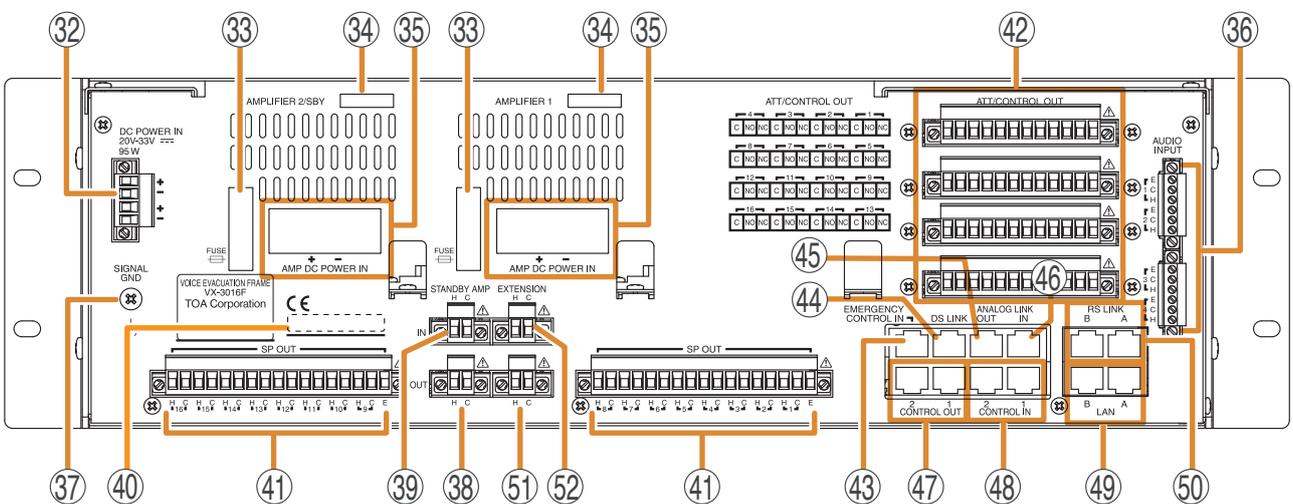
VX-3004F



VX-3008F



VX-3016F

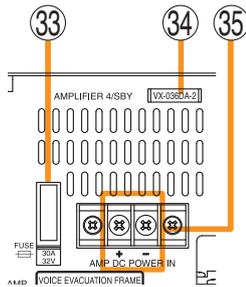


32. DC 電源入力端子 [DC POWER IN]

別売の直流電源パネルを接続します。
DC 電源は、VX-3000F が接続されるシステムの消費電流を超える容量のものを使用してください。
( VX-3000AD に付属の取扱説明書)

33. ヒューズ [FUSE]

組み込まれているデジタルパワーアンプモジュールのヒューズを確認できます。
また、そのヒューズを交換することができます。
( P. 2-10)

**34. アンプ品番表示部 [AMPLIFIER]**

組み込まれているデジタルパワーアンプモジュールの品番を確認できます。

35. アンプ DC 電源入力端子 [AMP DC POWER IN]

組み込まれているデジタルパワーアンプモジュールの DC 電源入力端子を確認できます。
( P. 2-10)

36. 音声入力端子 [AUDIO INPUT]

電子バランス 47 k Ω 、-20 dB * /-60 dB *
LINE または MIC 入力を選択できます。
ファンタム電源を供給できます。
( 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器構成設定」)
* 0 dB = 1 V

37. 機能アース端子 [SIGNAL GND]

本機に外部機器を接続してノイズが多いときは、この端子と外部機器の機能アース端子を接続してください。ノイズが少なくなることがあります。
※ 安全アースではありません。

38. スタンバイアンプ出力端子 [STANDBY AMP OUT]

スタンバイアンプを複数の VX-3000F で共有するときは、この端子を他の VX-3000F のスタンバイアンプ入力端子に接続してください。

39. スタンバイアンプ入力端子 [STANDBY AMP IN]

本機にスタンバイアンプが取り付けられていないときに他の VX-3000F のスタンバイアンプを共有させるには、この端子を他の VX-3000F のスタンバイアンプ出力端子に接続してください。

40. MAC アドレス

VX-3000F の MAC アドレスです。- (ハイフン) 区切りの 12 桁の英数字です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときには必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

41. スピーカー出力端子 [SP OUT]

スピーカーを接続します。

42. アッテネーター／制御出力端子 [ATT/CONTROL OUT]

この端子を使用すると、VX-3000 システムで接続された他の外部機器を制御できます。
あるいは、設定によりアッテネーター制御出力としても使用できます。

43. 非常断 24 V 入力端子 [EMERGENCY CONTROL IN]

非常用放送設備と接続して、非常放送が起動されたときに VX-3000 システムの全ゾーンの音量を $-\infty$ に減衰させることができます。
入力された電圧の極性が反転すると起動します。(通常はこの端子には DC24 V の電圧がかかっています。)

44. DS リンク端子 [DS LINK]

VX-3000AD の DS リンク入力端子に接続します。

45. アナログリンク出力端子 [ANALOG LINK OUT]

他の VX-3000F のアナログリンク入力端子に接続します。

46. アナログリンク入力端子 [ANALOG LINK IN]

他の VX-3000F のアナログリンク出力端子に接続します。

47. 制御出力端子 [CONTROL OUT]

この端子を使用すると、VX-3000 システムから、この端子に接続された外部機器を制御できます。

48. 制御入力端子 [CONTROL IN]

この端子を使用すると、外部機器からの起動信号を受けて、他の VX-3000F システムを制御できます。

49. LAN 端子 [LAN]

VX-3000 システムの構成機器またはスイッチングハブを接続します。( P. 3-101 [VX-3000 機器の LAN 端子の接続])

50. RS リンク端子 [RS LINK]

RM-200SF、RM-300X、または RM-500 を接続します。

51. 拡張出力端子 [EXTENSION OUT]

VX-3008F または VX-3016F でゾーン番号を拡張するときは、この端子を SS モード*²の VX-3000F の拡張入力端子に接続してください。

52. 拡張入力端子 [EXTENSION IN]

SS モード*²に設定されている VX-3008F または VX-3016F の場合は、この端子をノーマルモード*³の VX-3000F の拡張出力端子に接続してください。

*²VX-3008F または VX-3016F をスピーカーセクターとして使用する状態。デジタルパワーアンプモジュールを組み込んでいません。

*³VX-3000F にデジタルパワーアンプモジュールを組み込んでいる状態。

デジタルパワーアンプモジュール

- デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、VX-024DA-2、および VX-036DA-2 は、VX-3000F に組み込んで使用するデジタルパワーアンプです。
- クラス D デジタルパワーアンプを 1 チャンネル搭載したモジュールタイプで、軽量かつ省エネルギー設計です。
- スタンバイモードを設定してスタンバイ時の消費電力を削減する機能も備えています。
- VX-3000F と直流電源パネル VX-3000AD が必要です。

定格出力が異なる次の 3 機種をラインアップしています。

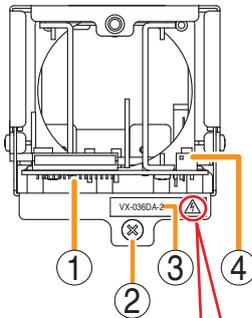
VX-012DA-2 : 120 W

VX-024DA-2 : 240 W

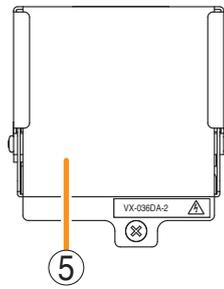
VX-036DA-2 : 360 W

【前面】

フィルターを外したとき



フィルター付きのとき



これは電気のハザードマークです。
ケーブルを接続すると感電する可能性があります。
デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、
VX-024DA-2、および VX-036DA-2 に電源が供給
されていないときに接続してください。

1. DA 制御リンク端子

取り付ける VX-3000F の DA 制御リンク端子に接続します。
接続には、付属のハーネスを使用します。

2. 固定ねじ

モジュールを VX-3000F に固定します。

3. 品番表示

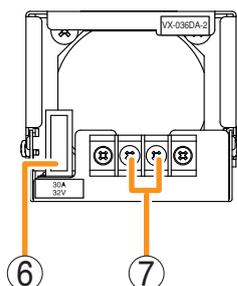
4. DA 出力リンク端子

取り付ける VX-3000F の DA 出力リンク端子に接続します。
接続には、付属のハーネスを使用します。

5. 防塵フィルター

フィルターは定期的に取り外し、清掃してください。
フィルターが詰まると、モジュールの内部に熱がこもります。

【後面】



6. ヒューズ

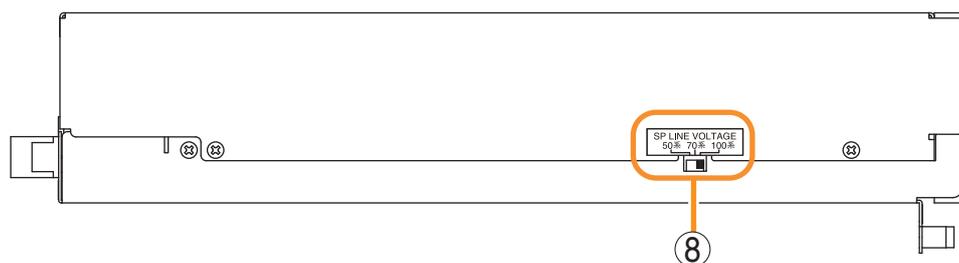
パワーアンプの定格出力に応じて、以下のブレードヒューズを使用してください。

- VX-012DA-2 : 10 A
- VX-024DA-2 : 20 A
- VX-036DA-2 : 30 A

7. DC 電源入力端子

別売の直流電源パネルを接続します。
(❶ VX-3000AD に付属の取扱説明書)

【側面】



8. 出力電圧選択スイッチ

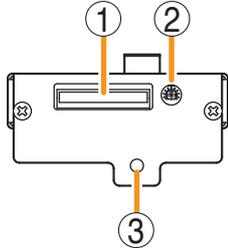
【SP LINE VOLTAGE】

デジタルパワーアンプモジュールのスピーカーライン電圧を選択します。

ラインアウトプットモジュール

- VX-300LO は VX-3000F の音声出力をラインレベルで出力するモジュールです。
- VX-3000F に組み込んで使用し、VX-3000F から外部機器へ音声を出力することができます。

【前面】



1. DA 制御リンク端子

取り付ける VX-3000F の DA 制御リンク端子に接続します。
接続には、付属のハーネスを使用します。

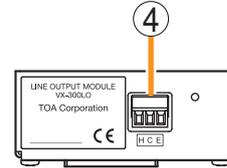
2. 音量調節器

接続先の機器の入力感度に応じて、 $-\infty \sim 0$ dB の範囲で、出力レベルの微調整ができます。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。
工場出荷時は「0 dB」に設定されています。

3. 固定ねじ穴

付属のねじを使用して、モジュールを VX-3000F に固定します。

【上面】



4. 音声出力端子

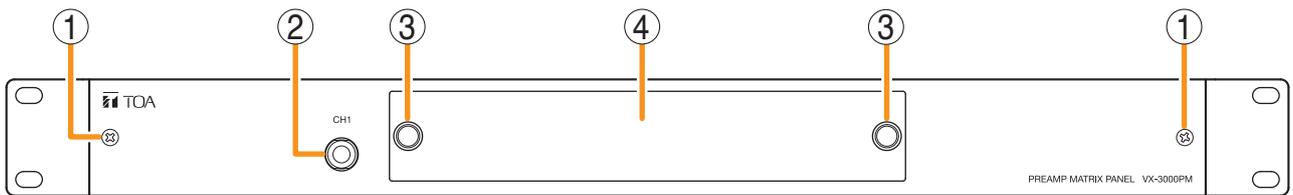
着脱式ターミナルブロック（3P）
ラインレベルで音声を出力します。

プリアンプマトリクスパネル

- VX-3000PM は、EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*1 のプリアンプマトリクスパネルです。
- VX-3000F にネットワーク経由で接続して、音声入力、制御入力、および制御出力の数を増やすことができます。1 台の VX-3000F に本機を 1 台接続できます。
- 1 台あたり 8 つの音声入力を備えており、各種音源が接続できます。
- 1 台あたり 20 の制御入力と 10 の制御出力があり、外部からの放送起動を受けたり、放送状態により外部機器を制御することなどができます。

*1 1U サイズ = 44.5 mm (基準サイズ)

[前面]



1. 前面パネル取付ねじ

2. 入力1 ジャック [CH1]

マイクのホーンプラグを差し込みます。
この入力1は、後面部の同じ入力1に対して優先の機能を持っています。この入力1ジャックにホーンプラグを差し込むことにより、後面の音声入力端子1の入力が切れます。

3. 音量調節部カバーつまみ

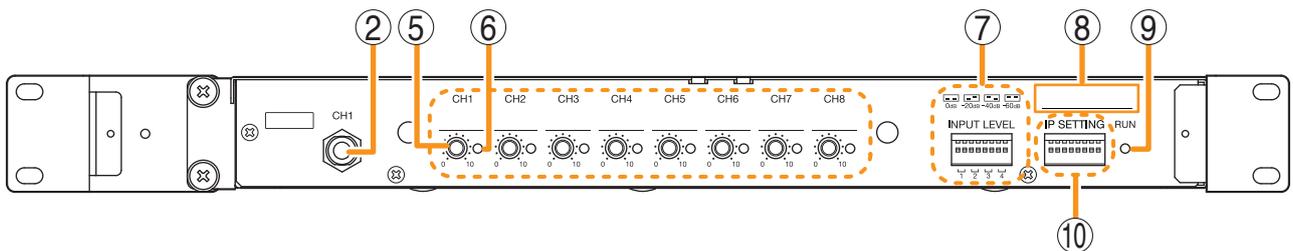
両方のつまみを引くと、音量調節部カバーが取り外せます。

4. 音量調節部カバー

このカバー内部に各入力の音量調節器があります。

[前面パネル内部]

前面パネル取付ねじを緩めて前面パネルを取り外すと、入力の音量調節器や、設定用スイッチがあります。入力の音量調節器の操作は、前面パネルを外さずに、音量調節部カバーを取り外すことでも可能です。



5. 音量調節器 [CH1 ~ CH8]

各入力の音量調節器です。左から入力1～入力8の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回し切ると音量が0になります。

6. 信号表示灯 (緑)

各入力の信号表示灯です。一定レベル以上の信号が入力されると点灯します。
音量調節器を最大位置にしたときに、入力レベル設定と点灯する信号レベルはおおよそ以下のようになります。

入力レベル設定	点灯レベル
0 dB *2	-25 dB *2
-20 dB *2	-45 dB *2
-40 dB *2	-65 dB *2
-60 dB *2	-85 dB *2

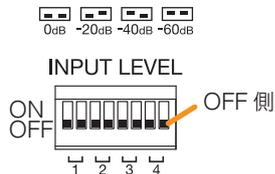
*2 0 dB = 1 V

7. 入力レベル設定スイッチ [INPUT LEVEL]

入力1～4の入力レベルをそれぞれ2つのスイッチの ON/OFF の組み合わせで設定します。入力信号のレベルに合わせて 0 dB *2 / -20 dB *2 (ラインレベル) / -40 dB *2 / -60 dB *2 (マイクレベル) の4種類から選択できます。(工場出荷時の設定：0 dB *2)
スイッチの ON/OFF と入力レベルの設定は以下のとおりです。

スイッチの ON/OFF		入力レベル
OFF		0 dB *2
OFF		-20 dB *2
ON		-40 dB *2
ON		-60 dB *2

*2 0 dB = 1 V



※ 左端からスイッチ 1～8

(工場出荷時の設定：すべて OFF)

- **スイッチ 1、2**
音声入力 1 の入力レベルを設定します。
- **スイッチ 3、4**
音声入力 2 の入力レベルを設定します。
- **スイッチ 5、6**
音声入力 3 の入力レベルを設定します。
- **スイッチ 7、8**
音声入力 4 の入力レベルを設定します。

ご注意

放送中に入力レベル設定スイッチの切り換えは行わないでください。

8. MAC アドレス

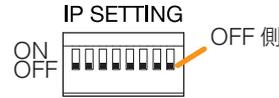
VX-3000PM の MAC アドレスです。- (ハイフン) 区切りの 12 桁の英数字です。本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときに必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。

9. RUN 表示灯 [RUN] (緑)

本機の CPU が正常に動作しているときは、常時点滅します。

10. IP アドレス設定スイッチ [IP SETTING]

本機の IP アドレスを設定します。



※ 左端からスイッチ 1～8

(工場出荷時の設定：すべて OFF)

• スイッチ 1

IP アドレス設定スイッチによる IP アドレスの設定を有効にするか、無効にするかを設定します。

ON：IP アドレス設定スイッチにより設定された IP アドレスが有効になります。

OFF：IP アドレス設定スイッチにより設定された IP アドレスは無効になります。VX-3000 設定ソフトウェアで設定された IP アドレスになります。

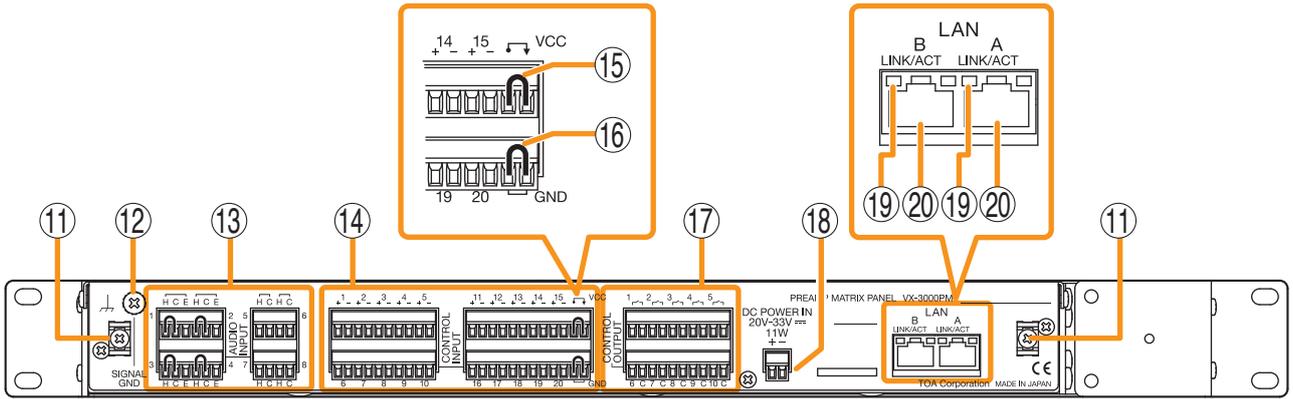
• スイッチ 2～8

7つのスイッチの ON/OFF の組み合わせで IP アドレスを設定します。(参照 P.3-11)

ご注意

- 電源投入後に IP アドレスを設定し直したときは、必ず本機を再起動させてください。
- IP アドレス設定スイッチでは、「192.168.14.51」～「192.168.14.100」の IP アドレスしか設定できません。それ以外の IP アドレスに設定する場合は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。(参照 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」)

[後面]



11. 結束バンド固定具

結束バンドを通して、各端子への配線を固定します。

12. 機能アース端子 [SIGNAL GND]

サージ対策のために、この端子を必ず接地してください。(参照 P.3-114 「アース線の接続」)
※ 安全アース端子ではありません。

13. 音声入力端子 (1～8) [AUDIO INPUT]

演奏機器などの音声信号を接続します。
音声入力端子 1～4 は平衡入力で、入力信号のレベルを前面パネル内部の入力レベル設定スイッチで設定可能です。
音声入力端子 5～8 は不平衡入力で、それぞれ以下の入力信号レベルで固定です。
音声入力端子 5、6 : -20 dB *
音声入力端子 7、8 : 0 dB *

* 0 dB = 1 V

ご注意

音声入力端子 5～8 はラック内音源機器の接続用端子です。

14. 制御入力端子 (1～20) [CONTROL INPUT]

この端子を使用すると、外部機器からの起動信号を受けて、VX-3000 システムを制御できます。

ご注意

制御入力端子 1～20 の一側端子は、相互に接続されています。

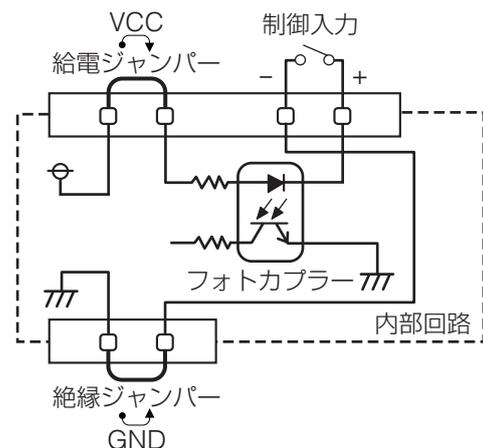
15. 給電ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1～20 (14) の回路に機器内部から電源を供給します。このジャンパーを外すと、内部電源が切り離されますので、外部から電源を供給します。
(参照 下記の「給電ジャンパーと絶縁ジャンパーのはたらき」)

16. 絶縁ジャンパー

工場出荷時は着脱式ターミナルプラグにジャンパーが装着されています。ジャンパー装着状態では、制御入力端子 1～20 (14) のマイナス端子が電源 (アース) に接続されています。このジャンパーを外すと、マイナス端子が本機から切り離され、絶縁されます。
(参照 下記の「給電ジャンパーと絶縁ジャンパーのはたらき」)

[給電ジャンパーと絶縁ジャンパーのはたらき]



17. 制御出力端子 (1 ~ 10)

[CONTROL OUTPUT]

この端子を使用すると、VX-3000 システムから、この端子に接続された外部機器を制御できます。

・ 制御出力端子 1 ~ 5

リレー接点出力 (a 接点)、耐電圧：DC30 V、
許容電流：1 A

・ 制御出力端子 6 ~ 10

オープンコレクター出力 (極性あり)、
耐電圧：DC30 V、許容電流：100 mA

ご注意

制御出力端子 6 ~ 10 の C 端子は、相互に接続されています。

18. 電源入力端子 [DC POWER IN]

直流電源パネル VX-3000AD または AC アダプター AD-246 から電源を供給します。

19. LINK/ACT 表示灯 (緑) [LINK/ACT]

LAN 接続端子の接続状態を表示します。
接続が正常なときは、点灯または点滅します。
未接続のときは消灯します。

20. LAN 接続端子 (A、B) [LAN]

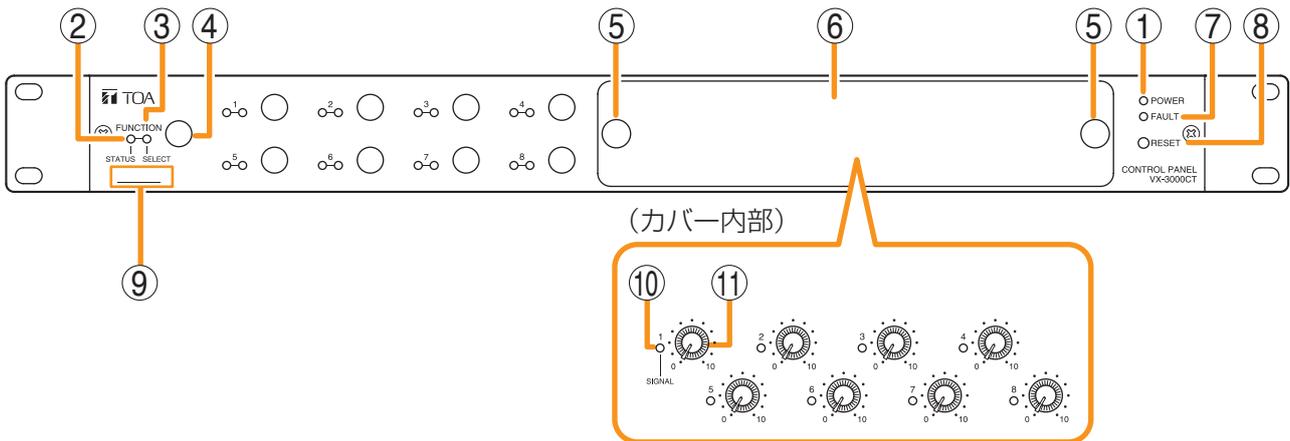
VX-3000 システムの構成機器の LAN 端子を接続します。( P. 3-101「VX-3000 機器の LAN 端子の接続」)

コントロールパネル

- VX-3000CT は、EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*の操作パネルです。
- VX-3000F にネットワーク経由で接続して、業務放送の起動や音量の制御などの操作が行えます。1 台の VX-3000F に本機を 2 台まで接続できます。
- 1 台あたり 9 つの機能キーと 8 つの音量調節器を備えています。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各機能キーおよび音量調節器に機能を割り当てます。

* 1U サイズ = 44.5 mm (基準サイズ)

[前面]



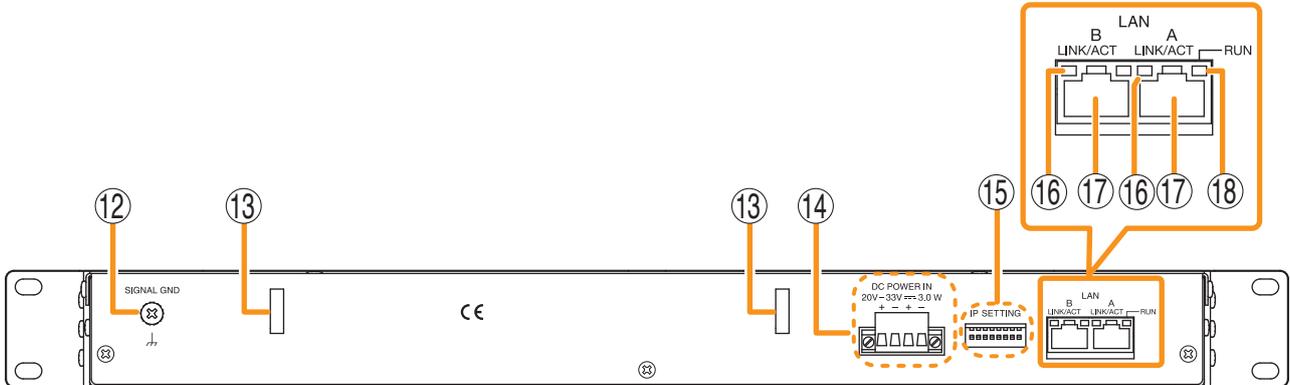
- 1. 電源表示灯 [POWER] (緑)**
電源が入力されているときに点灯します。
- 2. 状態表示灯 [STATUS] (黄/緑)**
機能キーの操作状態に連動して、黄色に点灯、緑色に点灯、または消灯します。
(別冊の操作説明書「コントロールパネルの表示灯の状態」)
- 3. 選択表示灯 [SELECT] (緑)**
機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。
(別冊の操作説明書「コントロールパネルの表示灯の状態」)
- 4. 機能キー [FUNCTION]**
各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」)
- 5. 音量調節部カバーつまみ**
両方のつまみを引くと、音量調節部カバーが取り外せます。
- 6. 音量調節部カバー**
- 7. 異常表示灯 [FAULT] (黄)**
機器異常が検出されると点灯します。
- 8. リセットキー [RESET]**
押すと、本機をリセットします。
- 9. MAC アドレス**
VX-3000CT の MAC アドレスです。-(ハイフン)区切りの 12 桁の英数字です。
本機の設置場所と MAC アドレスの対応は、ネットワーク属性を設定するときには必要ですので、設置時に記録して、後から分かるようにしておいてください。
- 10. 信号表示灯 [SIGNAL] (緑)**
音量調節器 (11) に設定されている入力または出力の状態を表示します。
入力の場合は、音量調節器 (11) の値によらず、音量調節器に設定された入力チャンネルの音声レベルが -25 dB 以上のときに点灯します。
出力の場合は、設定された個別の出力ゾーンの音声レベルが -25 dB 以上のときに点灯します。
設定は VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」)

11. 音量調節器

VX-3000F の音声入力または音声出力の音量を $-\infty \sim 0$ dB の範囲で調節します。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

音量を調節する入力チャンネルまたは出力ゾーンは、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して割り当てます。
(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000CT 設定」)

[後面]



12. 機能アース端子 [SIGNAL GND]

サージ対策のために、この端子を必ず接地してください。(別冊 P. 3-114 「アース線の接続」)
※ 安全アース端子ではありません。

13. コードクランプ

電源線を固定します。(別冊 P. 3-113 「コントロールパネルの接続」)

14. 電源入力端子 [DC POWER IN]

直流電源パネル VX-3000AD または AC アダプター AD-246 から電源を供給します。

15. IP アドレス設定スイッチ [IP SETTING]

本機の IP アドレスを設定します。



※ 左端からスイッチ 1~8

(工場出荷時の設定：すべて OFF)

• スイッチ 1

IP アドレス設定スイッチによる IP アドレスの設定を有効にするか、無効にするかを設定します。

ON : IP アドレス設定スイッチにより設定された IP アドレスが有効になります。

OFF : IP アドレス設定スイッチにより設定された IP アドレスは無効になります。
VX-3000 設定ソフトウェアで設定された IP アドレスになります。

• スイッチ 2 ~ 8

7つのスイッチの ON/OFF の組み合わせで IP アドレスを設定します。(別冊 P. 3-14 「コントロールパネルの設定」)

【ご注意】

- 電源投入後に IP アドレスを設定し直したときは、必ず本機を再起動させてください。
- IP アドレス設定スイッチでは、「192.168.14.111」～「192.168.14.200」の IP アドレスしか設定できません。それ以外の IP アドレスに設定する場合は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」)

16. LINK/ACT 表示灯 [LINK/ACT] (緑)

LAN 接続端子の接続状態を表示します。
接続が正常なときは、点灯または点滅します。
未接続のときは消灯します。

17. LAN 接続端子 (A、B) [LAN]

VX-3000 システムの構成機器の LAN 端子を接続します。(別冊 P. 3-101 「VX-3000 機器の LAN 端子の接続」)

18. RUN 表示灯 [RUN] (緑)

本機の CPU が正常に動作しているときは、常時点滅します。

接続端子盤パネル

- VX-3000JB は、EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*の接続端子盤パネルです。
- 着脱式ターミナルブロックおよび RJ45 端子をねじ端子に変換できます。
- スピーカー出力を 3 線式配線に変換できます。
- VX-3000F 後面の端子を VX-3000JB の後面の端子と接続することで、ラック前面から配線できるようになります。

* 1U サイズ = 44.5 mm (基準サイズ)

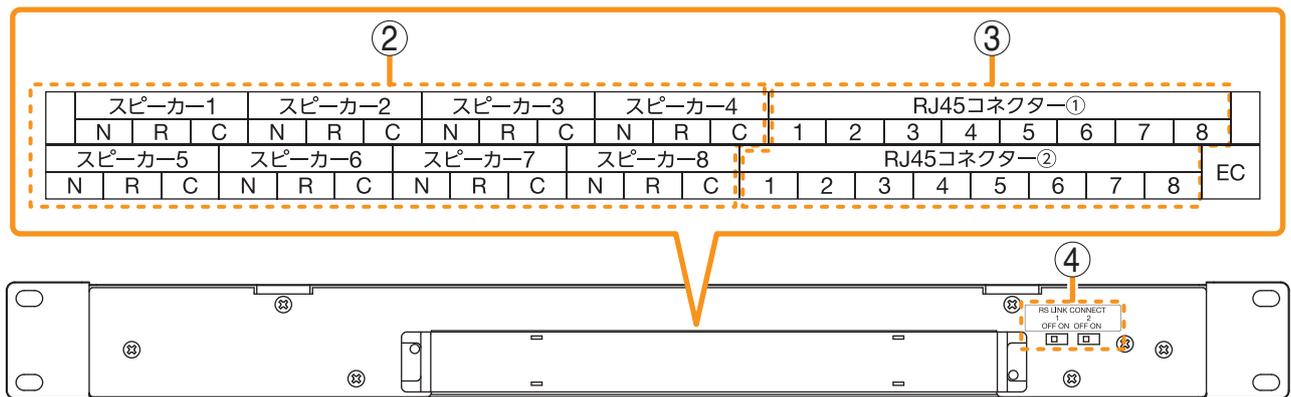
[前面]



1. 前面パネル取付ねじ

[前面パネル内部]

前面パネル取付ねじを緩めて前面パネルを取り外すと、ねじ端子部があります。



2. スピーカー回線接続端子

後面のスピーカー入力端子 (7) と内部で接続されています。

スピーカーに対して音声信号を出力します。
1 回線ごとに「N」「R」「C」の 3 端子を備えています。
8 回線まで接続できます。

ご注意

1 回線あたりの容量は 360 W までです。

警告

⚡ の表示されている端子には危険電圧がかかります。スピーカーラインの接続には「適正な取扱指導を受けた人」が接続作業を行うか、簡単接続できるよう製作したケーブルを使用する必要があります。

3. RJ45 コネクタ接続端子

後面の RJ45 入力端子 (9) と内部で接続されて

います。1 ~ 8 の数字は、RJ45 入力端子に接続する RJ45 コネクタのピン番号を表します。

4. RS リンク接続制御スイッチ 1、2 [RS LINK CONNECT]

RJ45 入力端子 (9) に VX-3000F の RS リンク端子を接続したときに使用する機能です。それ以外の端子を接続したときは、OFF のままにしておいてください。

RJ45 入力端子 1 の接続には RS リンク接続制御スイッチ 1 で、RJ45 入力端子 2 の接続には RS リンク接続制御スイッチ 2 で設定します。

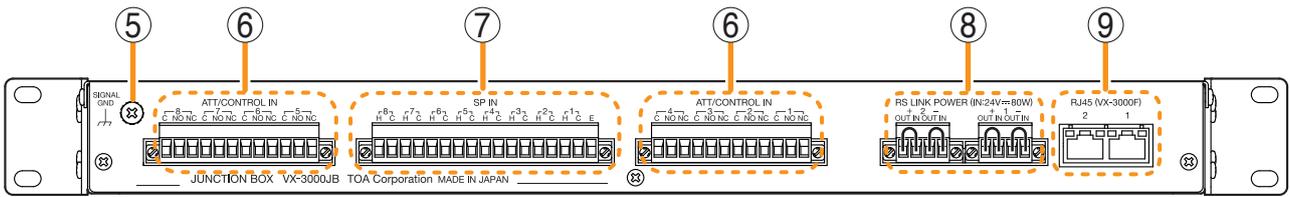
OFF : VX-3000F とリモートマイク間で接続確認を行います。(工場出荷時の設定)

ON : VX-3000F と VX-3000JB 間で接続確認を行います。

リモートマイク RM-200SF または RM-300X をシールド線なしで接続する場合に ON に設定します。

リモートマイク RM-500 を接続する場合は、常に ON に設定します。

【後面】



5. 機能アース端子【SIGNAL GND】

サージ対策のために、この端子を必ず接地してください。（参照 P.3-114 「アース線の接続」）
※ 安全アース端子ではありません。

6. アッテネーター／制御入力端子【ATT/CONTROL IN】

VX-3000F のアッテネーター／制御出力端子を接続します。
8 系統まで接続できます。
VX-3016F を接続する場合は、VX-3000JB が 2 台必要です。

7. スピーカー入力端子【SP IN】

VX-3000F のスピーカー出力端子を接続します。
8 回線まで接続できます。
VX-3016F を接続する場合は、VX-3000JB が 2 台必要です。

8. RS リンク外部電源端子 1、2【RS LINK POWER】

付属の着脱式ターミナルプラグ（4P）は工場出荷時には 1-2 番ピン間および 3-4 番ピン間が短絡された状態になっています。
RJ45 入力端子（9）に接続する VX-3000F の端子により、付属の着脱式ターミナルプラグ（4P）の使いかたが異なります。

次の場合は、付属の着脱式ターミナルプラグ（4P）を工場出荷時のまま装着してください。

- ・ 何も接続しない場合
- ・ RS リンク端子以外の端子を接続する場合
- ・ RS リンク端子を接続する場合で、リモートマイクへの電源供給が 1 A 以下のとき（リモートマイクへの電源を VX-3000F から供給）

次の場合は、付属の着脱式ターミナルプラグ（4P）の 1-2 番ピン間および 3-4 番ピン間のジャンパー線を取り外し、VX-3000AD などの外部電源の電源出力端子を 2 番ピンと 4 番ピンに接続して、装着してください。

- ・ RS リンク端子を接続する場合で、リモートマイクへの電源供給が 1 A を超えるとき（リモートマイクへの電源を外部から供給）

RJ45 入力端子 1 には RS リンク外部電源入力端子 1、RJ45 入力端子 2 には RS リンク外部電源入力端子 2 が対応します。

9. RJ45 入力端子 1、2【RJ45 (VX-3000F)】

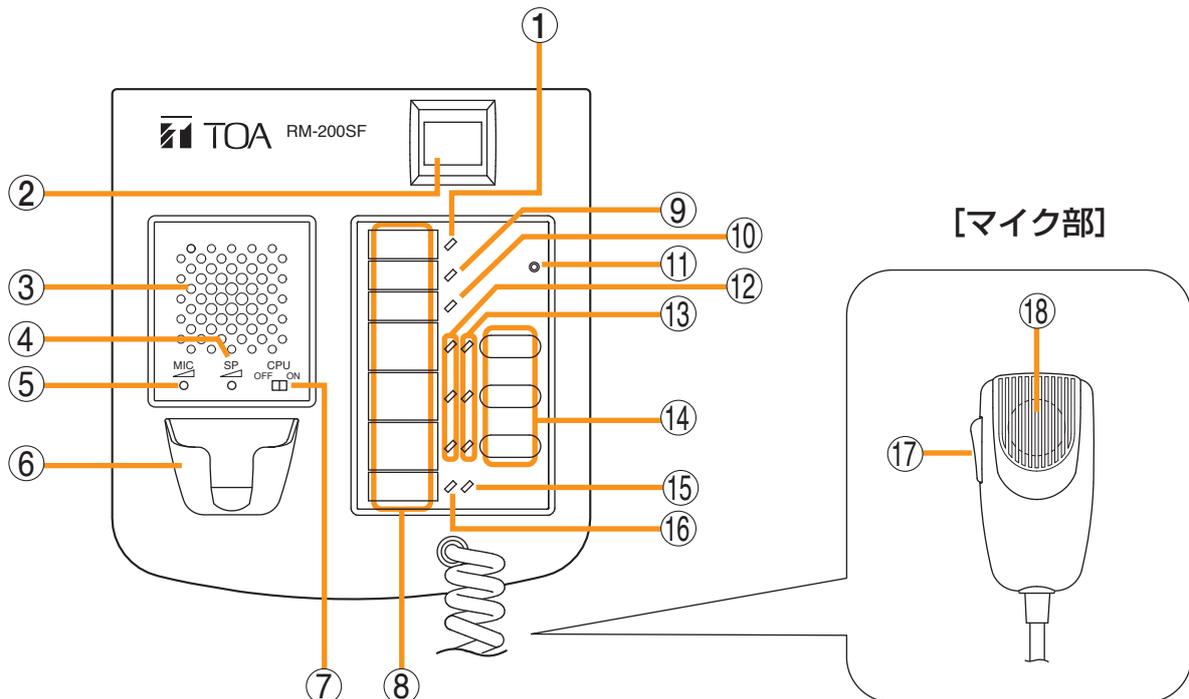
VX-3000F の以下の端子が接続できます。

- 制御入力端子 1、2
- 制御出力端子 1、2
- RS リンク端子 A、B
- アナログリンク入力端子
- アナログリンク出力端子
- 非常断 24 V 入力端子
- DS リンク端子

壁掛型リモートマイク

- 壁掛型リモートマイク RM-200SF には、3つの機能キー、1つの音声警報／緊急入力キー、1つのトークキー、およびこれらのキーに関連付けられた表示灯があります。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各キーに機能を割り当てます。
- 本機は音声警報放送と業務放送に使用でき、機能キーでゾーン選択してマイクで放送します。
- 各 RM-200SF には、最大 4 台の壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW を使用できます。
- 1 台の VX-3000F に最大 8 台の RM-200SF を接続できます。
- CPU スイッチを使用すると、システムの故障などで通常の放送ができないときでも、RM-200SF からの緊急一斉放送が可能になります。
- 音声警報／緊急入力キーと、マイク（内蔵マイクを含む）と VX-3000F 間の信号路（制御と音声）の故障は、自動的に検出されます。

[前面]



- 1. 電源表示灯（緑）**
電源を入れると点灯します。
- 2. 音声警報／緊急入力キー**
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して音声警報放送または緊急入力放送に関する機能を割り当てます。
割り当てた機能に応じて、このキーが点灯または点滅します。
- 3. モニタースピーカー**
現在の放送を監視するために使用します。
- 4. モニタースピーカー音量調節器【SP】**
内蔵モニタースピーカー(3)の音量を調節します。
- 5. マイク音量調節器【MIC】**
マイクの入力感度を調節します。
- 6. マイクハンガー**
本機のマイクを保持するために使用します。
- 7. CPU スイッチ【CPU】**
通常は ON に設定します。（工場出荷時：ON）
このスイッチを底面の DIP スイッチ(20)と組み合わせて OFF に設定すると、CPU 制御を介さないアナログ送信で、マイクを使った緊急一斉放送を行うことができます。
- 8. 表示ラベル挿入スロット**
表示ラベルを挿入するスペースです。
ラベルは VX-3000 設定ソフトウェアを使用して印刷できます。
（別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルの印刷」）
- 9. 故障表示灯（黄／赤）**
システム内で故障が検出されたときに黄色で点滅します。
接続先の VX-3000F との通信で 5 秒以上信号が途絶えたときに、黄色に点灯します。
リセットスイッチ（11）を押して本機をリセット状態にすると、赤色に点灯します。

10. CPU 表示灯 (赤)

システム内に接続されている RM-200SF の CPU スイッチのいずれか 1 つが OFF に設定されているか、システム内に接続されているいずれかの RM-300X で緊急一斉放送が行われているときに、赤色に点灯します。

11. リセットスイッチ

本機を再起動します。
このスイッチと機能キー (14) の R3 キーの両方を 2 秒以上押したままにすると、故障表示灯 (9) が赤色に点灯し、本機がリセット状態になります。

12. 状態表示灯 (赤/黄/緑)

機能キーの操作状態、故障状態、または音声警報放送状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。
(別冊の操作説明書「リモートマイクの表示灯の状態」)

13. 選択表示灯 (緑)

機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。
(別冊の操作説明書「リモートマイクの表示灯の状態」)

14. 機能キー (R1 ~ R3)

上から順に、R1、R2、R3 が配置されています。各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てられている機能が実行されます。
各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。
(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「RM イベント設定」)

15. マイク表示灯 (緑)

トークキーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。

16. 放送状態表示灯 (黄/緑)

トークキーの操作状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。

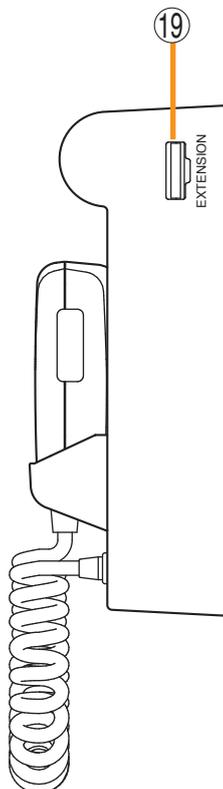
17. トークキー

このキーを押して、音声アナウンス放送をします。放送中はキーを押し続けてください。
トークキーの操作方法は「PTT」に固定されており、変更することはできません。

18. マイク

音声アナウンスに使用します。

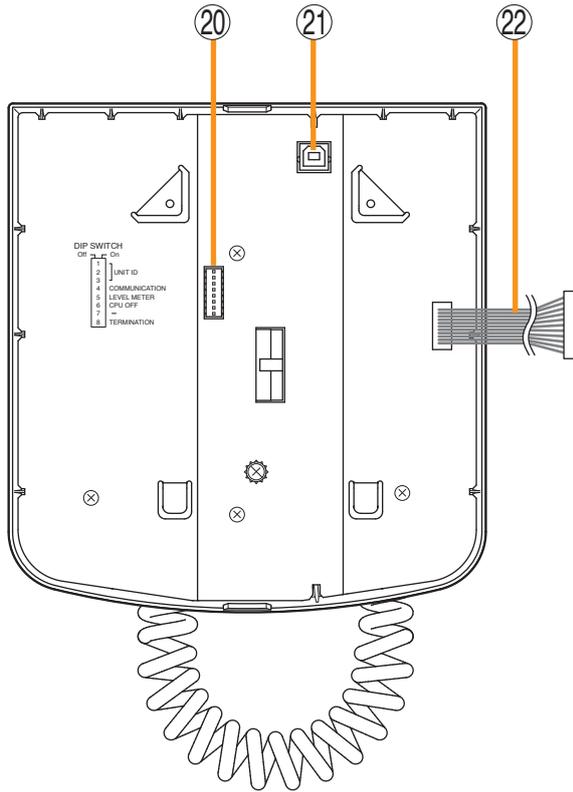
【側面】



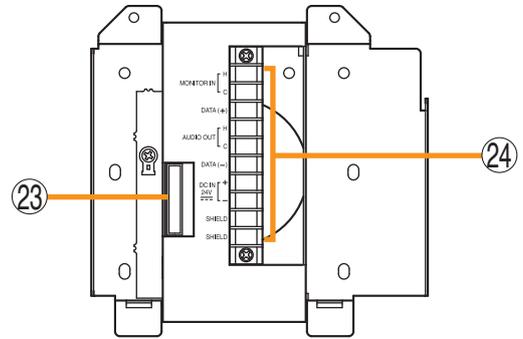
19. RM-220FW 接続端子 [EXTENSION]

壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW (P. 2-23) を接続します。

【後面】



【壁掛け金具ユニット(付属品)】



20. DIP スイッチ [DIP SWITCH]

本体の設定をする DIP スイッチです。

● スイッチ 1～3 [UNIT ID]

RM-200SF の機器番号 (ID 番号) を設定します。(P. 3-19)

● スイッチ 4 [COMMUNICATION]

使用しません。
通常は OFF に設定します。

● スイッチ 5 [LEVEL METER]

放送状態表示灯 (12) を出力信号レベル表示灯に変更します。(P. 3-22)

● スイッチ 6 [CPU OFF]

CPU オフ機能 (緊急一斉放送) を有効または無効に設定します。(P. 3-30)

● スイッチ 7

使用しません。
通常は OFF に設定します。

● スイッチ 8 [TERMINATION]

RM 通信ライン (VX-3000F と RM-200SF の間の制御通信ライン) の終端を設定します。
通常は OFF に設定します。(P. 3-31)

【ご注意】

工場出荷時は、スイッチ 1～5 と 7 は OFF に、スイッチ 6 および 8 は ON に設定されています。

21. USB 端子

使用しません。

22. 接続ケーブル

付属の壁掛け金具ユニットの中継端子 (23) に接続します (P. 3-42)

23. 中継端子

RM-200SF の接続ケーブル (22) を接続します。(P. 3-42)

24. ねじ端子ブロック

● 音声モニターライン [MONITOR IN]

VX-3000F から RM-200SF への音声モニター入力ラインを接続します。

● RM 通信ライン [DATA]

VX-3000F と RM-200SF の間の制御通信ラインを接続します。

● 音声出力ライン [AUDIO OUT]

RM-200SF から VX-3000F へのオーディオ信号出力ラインを接続します。

● DC 電源入力 [DC IN 24 V]

VX-3000F から RM-200SF への DC 電源供給に使用します。

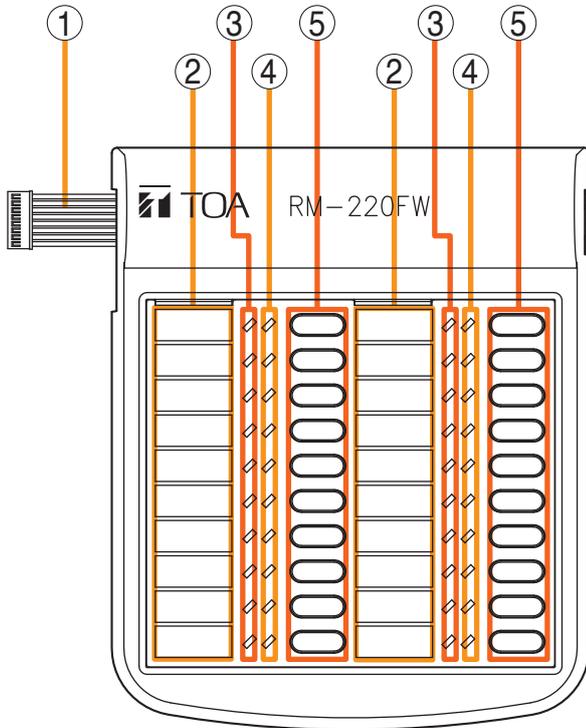
● シールド [SHIELD]

ノイズ対応のシールドおよびシステム制御用に使用します。
必ず 1 つ以上接続してください。

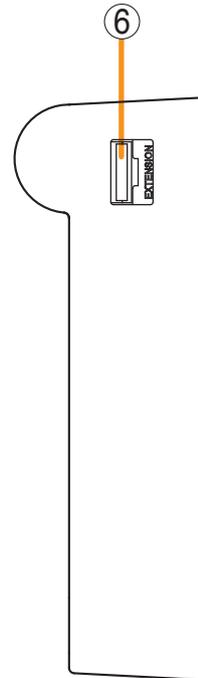
壁掛型リモートマイク拡張ユニット

壁掛型リモートマイク RM-200SF に壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW を接続すると、機能キーが 20 個増設できます。

[前面]



[側面]



1. 接続ケーブル

RM-200SF または RM-220FW を接続します。

2. 表示ラベル挿入口

ラベルは、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して印刷できます。
(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルを印刷する」)

3. 状態表示灯 (赤/黄/緑)

機能キーの操作状態に連動して、点灯、点滅、または消灯します。

4. 選択表示灯 (緑)

機能キーの操作状態に連動して、点灯または消灯します。

5. 機能キー (1 ~ 20)

左側のキーは上から順番に 1 ~ 10 の番号が、右側のキーは 11 ~ 20 の番号が割り振られています。

各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに割り当てた機能が実行されます。

各キーへの機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアを使用して行います。

(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「RM イベント設定」)

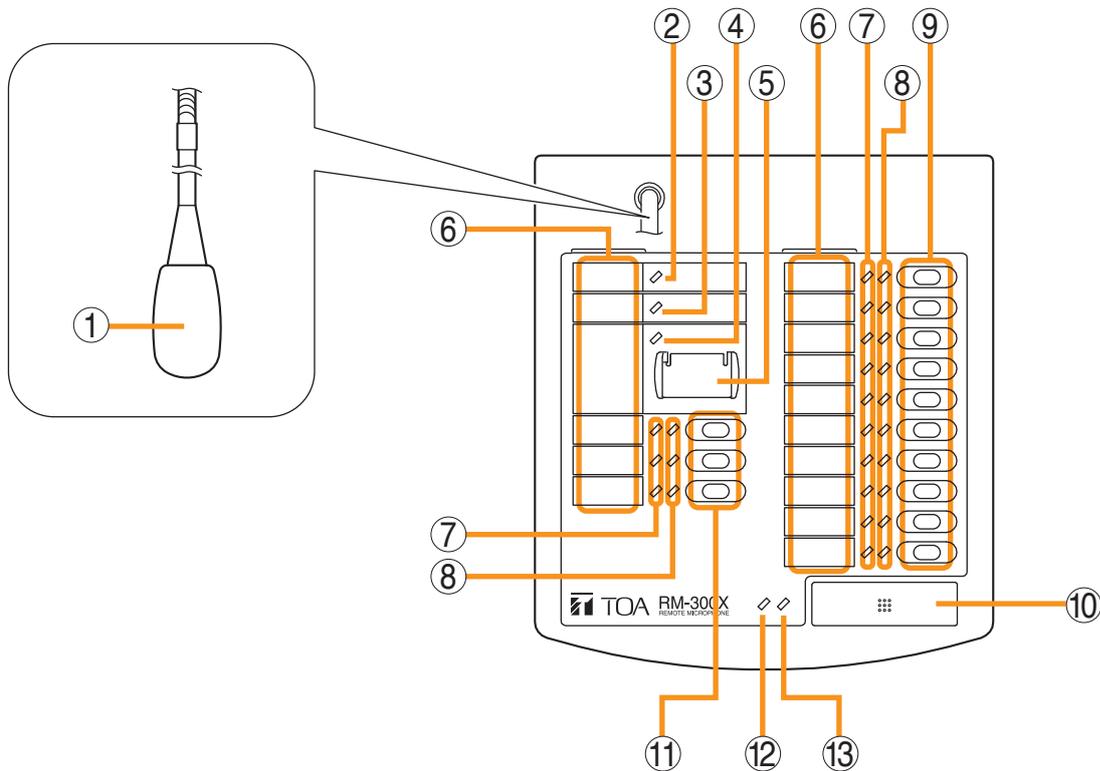
6. RM 接続端子 [EXTENSION]

他の RM-220FW を接続します。

卓上型リモートマイク (RM-300X)

- 卓上型リモートマイク RM-300X には、13 個の機能キー、1 個のカバー付きキー、1 個のトークキー、およびこれらのキーに関連付けられた表示灯があります。VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、各キーに機能を割り当てます。
- 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F を RM-300X に接続すると、機能キーと表示灯が 10 個単位で増設できます。RM-210F は RM-300X に最大で 7 台まで接続できます
- 1 台の VX-3000F には最大 8 台の RM-300X を接続できます。
- DIP スイッチの設定により、システムの故障などで通常の放送ができないときでも、RM-300X で緊急一斉放送ができます。

【上面】



1. マイク

マイク放送時に使用します。

2. 電源表示灯 (緑)

電源を入れると点灯します。

3. 異常表示灯 (黄／赤)

システム内で何らかの故障が検知された場合、黄色に点滅します。
接続先の VX-3000F との通信で 5 秒以上通信が途絶えると、黄色に点灯します。緊急一斉放送中 (P. 3-30) および RM-300X のリセット中は赤色に点灯します。

4. 音声警報放送／緊急入力放送表示灯 (赤)

カバー付きキー (5) に割り当てた機能に応じて、点灯または点滅します。

5. 音声警報放送／緊急入力放送／緊急一斉放送キー (カバー付き)

[音声警報放送または緊急入力放送に関する機能]
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、音声警報放送または緊急入力放送に関する機能をこのキーに割り当てます。
[緊急一斉放送に関する機能]
VX-3000 設定ソフトウェアでの設定とは関係なく、DIP スイッチ (14) の設定と組み合わせると、このキーを 4 秒以上押し続けると、CPU 制御を介さないアナログ伝送による緊急一斉放送ができます。(P. 3-30)

6. 表示ラベル挿入部

表示ラベルを挿入するスペースです。
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、ラベルを印刷できます。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクの表示ラベルを印刷する」)

7. 状態表示灯（黄／緑／赤）

機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。
 (別冊の操作説明書「リモートマイクの表示灯の状態」)

8. 選択表示灯（緑）

機能キーの操作状態に連動して点灯、消灯します。
 (別冊の操作説明書「リモートマイクの表示灯の状態」)

9. 機能キー（R1～R10）

上から順に R1、R2、……、R10 となっています。
 各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに設定した機能が実行できます。
 機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアで行います。
 (別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」)

10. トークキー

マイク放送時に使用します。
 PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。
 ロック式に設定されているときは、押すと放送

が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
 放送開始・終了時のチャイムが設定されているときは、設定に従ってチャイム音が流れます。
 操作の方式およびチャイムの設定は VX-3000 設定ソフトウェアで行います。
 ただし、放送の種類を「音声警報／業務」に設定された RM-300X は PTT 式でチャイム設定なしに固定されます。
 (別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「システム設定」)

11. 機能キー（L1～L3）

上から順に L1、L2、L3 となっています。
 このキーの動作は機能キー（R1～R10）(9) と同じです。

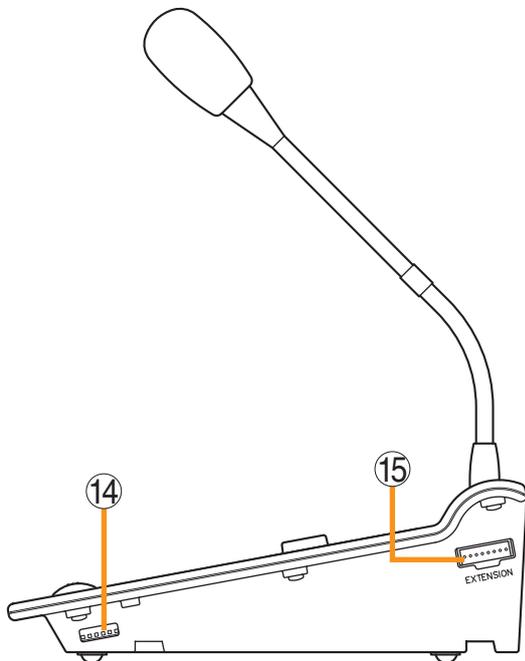
12. 放送状態表示灯（黄／緑）

トークキーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

13. マイク表示灯（緑）

トークキーの操作状態に連動して点灯、消灯します。
 チャイム起動中に点滅します。

【側面】



14. DIP スイッチ

本体の設定をする DIP スイッチです。

●スイッチ 1～3

RM-300X の機器番号 (ID 番号) を設定することができます。
 (別冊 P. 3-19)

●スイッチ 4

放送状態表示灯 (12) を出力信号レベル表示機能に切り換えることができます。
 (別冊 P. 3-22)

●スイッチ 5

CPU オフ機能 (緊急一斉放送) を使用するかどうかを設定します。
 (別冊 P. 3-30)

●スイッチ 6

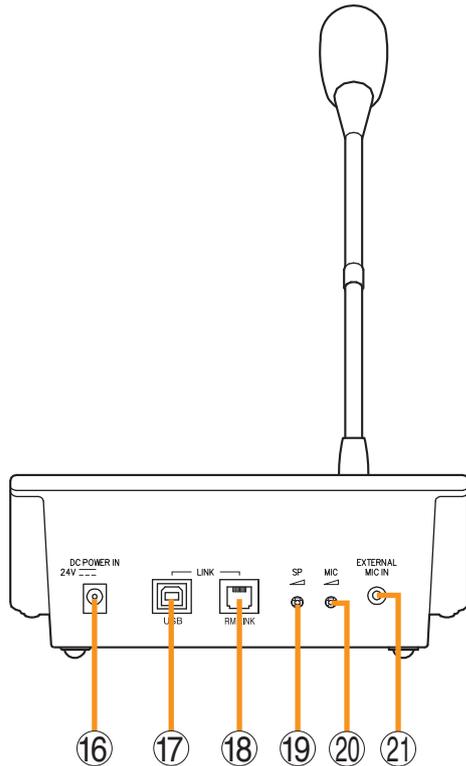
使用しません。

※ 工場出荷時は、スイッチ 1～4 と 6 は OFF、スイッチ 5 は ON に設定されています。

15. RM-210F 接続端子 [EXTENSION]

リモートマイク拡張ユニット RM-210F (別冊 P. 3-48) と接続します。

[後面]

**16.電源入力端子 [DC POWER IN]**

RM-300X、RM-210F には VX-3000F から電源が供給されますが、接続ケーブルの延長距離を伸ばしたい場合は、この端子に、別売の AC アダプター AD-246 を接続します。(P. 3-81)

17.USB 端子 [USB]

使用しません。

18.RM リンク端子 [RM LINK]

VX-3000F と接続します。STP カテゴリー 5 規格のケーブルを使用してください。

19.スピーカー音量調節器 [SP]

内蔵スピーカーの音量を調節します。

20.マイク音量調節器 [MIC]

マイク (1) および外部マイク (21) の音量を調節します。

21.外部マイク入力端子 [EXTERNAL MIC IN]

別売の外部マイク*¹ または AUX 入力を使用するときに接続します。

使用するには、基板上のジャンパー設定が必要です。(P. 3-32、 P. 3-34)

[外部マイク使用時]

-40 dB *²、2.2 k Ω 、不平衡、ミニジャック、ファンタム電源付き

[AUX 入力使用時]

-20 dB *²、4.7 k Ω 、不平衡、ミニジャック

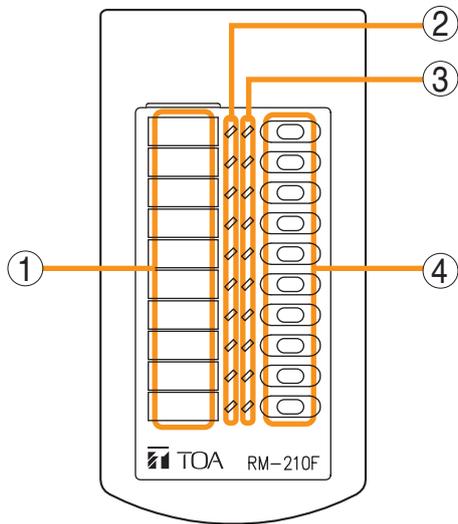
*¹ 外部マイクには、WH-4000A、YP-M101、YP-M301 が使用できます。

*² 0 dB = 1 V

卓上型リモートマイク拡張ユニット

卓上型リモートマイク RM-300X に卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F を接続すると、機能キーが 10 個増設できます。

【上面】



1. 表示ラベル挿入部

表示ラベルを挿入するスペースです。

VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、ラベルを印刷できます。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「リモートマイクのラベルを印刷する」)

2. 状態表示灯 (黄/緑/赤)

機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

3. 選択表示灯 (緑)

機能キーの操作状態に連動して点灯、点滅、消灯します。

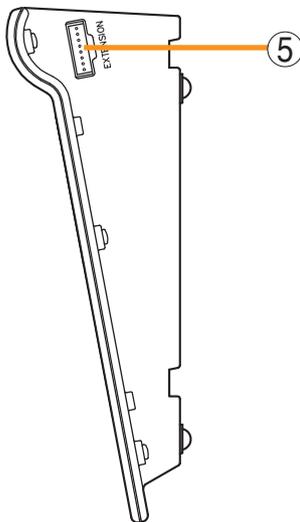
4. 機能キー (1 ~ 10)

上から順に 1、2、……、10 となっています。

各キーを押すと、VX-3000 設定ソフトウェアでそのキーに設定した機能が実行できます。

機能の割り当ては、VX-3000 設定ソフトウェアで行います。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「RM 機能キー設定」)

【側面】



5. RM 接続端子 [EXTENSION]

リモートマイク RM-300X または他の RM-210F と接続します。(P.3-45、P.3-47)

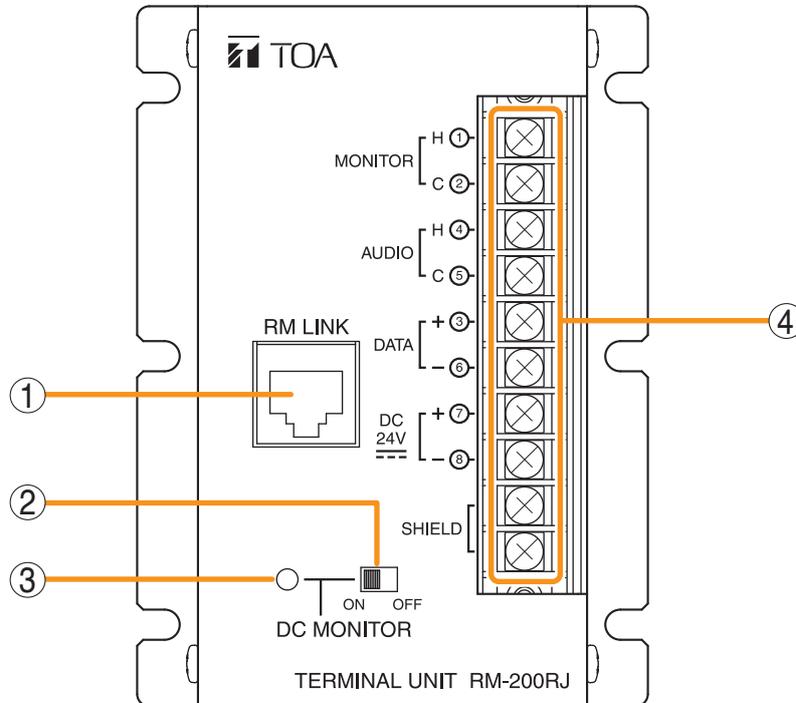
※ 反対側にも同じ端子があります。

RJ45 端子盤

RJ45 端子盤 RM-200RJ は、RJ45 コネクターをねじ端子台に変換します。

リモートマイク RM-300X を配線するとき、トランクケーブル（CPEV ケーブルなど）とフィーダー線（LAN ケーブルなど）間の接続に使用します。

【前面】



1. RM リンク端子 [RM LINK]

RM-300X の RM リンク端子または VX-3000F の RS 接続端子に接続します。

2. 電源監視スイッチ

[DC MONITOR、ON/OFF]

電源監視表示灯 (3) を使用するとき、ON に設定します。(工場出荷時：ON)

3. 電源監視表示灯 [DC MONITOR] (緑)

電源監視スイッチ (2) が ON のとき、DC 電源入力の電源電圧が RM-300X の最小動作電圧以上であれば点灯します。

4. ねじ端子台

RM リンク端子 (1) と内部で接続されています。各端子の横に表示されている①～⑧の数字は、RM リンク端子に接続される RJ45 コネクターのピン番号を表します。

● 音声モニター端子 [MONITOR H/C]

VX-3000 システムから RM-300X への音声モニターラインを接続します。

● 音声出力端子 [AUDIO H/C]

RM-300X から VX-3000 システムへの音声出力ラインを接続します。

● RM 通信端子 [DATA +/-]

VX-3000 システムと RM-300X の制御通信ラインを接続します。

● DC 電源入力端子 [DC 24 V +/-]

VX-3000 システムから RM-300X への DC 電源供給ラインを接続します。

● シールド端子 [SHIELD]

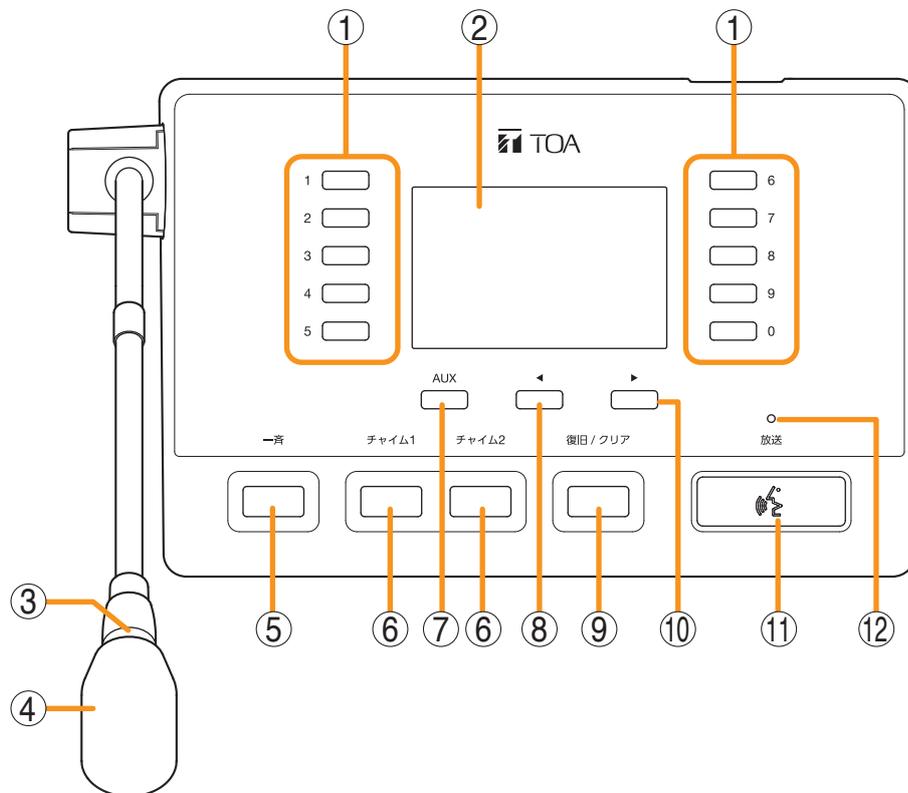
ノイズ対応のシールドおよびシステム制御用に使用します。

必ず 1 つ以上接続してください。

卓上型リモートマイク (RM-500)

- 業務放送に使用する卓上型のリモートマイクです。
- 液晶画面を搭載しているため、あらかじめ登録しておいた最大 80 の機能の名称を表示することができ、キー操作によりそれらの機能を実行できます。
- AUX キーにより、外部音声のみの制御もできます。
- 音声明瞭化機能により、マイク音声は雑音環境下でも聞き取りやすくなり、マイクに近づいたり離れたりしても適切なレベルで音声を拾いやすくなります。
- 別売の壁掛金具を使用することにより、壁に取り付けることもできます。
- RM-500 を VX-3000F に接続するときは、必ず VX-3000JB を介して接続してください。(P.3-58 「リモートマイクの接続」)

【操作面】



1. 数字キー (0～9)

通常は液晶画面に表示されている項目の番号を選択します。VX-3000 設定ソフトウェアで設定した機能が実行できます。
メニュー画面表示中にはメニュー項目の番号、選択肢の番号を選択します。

2. 液晶画面

通常は設定された機能のリストと放送または機能の状態を表示します。
設定スイッチ (16) のスイッチ 6 を ON にすると、ダイレクト選択モードに切り換わり、回線番号登録画面が表示されます。
設定スイッチ (16) のスイッチ 7 を ON にすると、メニュー画面に切り換わります。

3. マイク表示灯 (緑)

マイク放送中に点灯します。ただし、AUX 入力端子に接続したマイクからの音声を放送しているときは点灯しません。
システム設定により、点灯しないようにすることもできます。(P.3-24 「RM-500 のメニュー画面での設定のしかた」)

4. マイク

業務放送時に使用するマイクです。
マイクの音量は、マイク音量調節器 (15) で調節できます。

5. 一斉キー

あらかじめ設定されたゾーンを選択します。

6. チャイムキー (1、2)

VX-3000 設定ソフトウェアで設定した機能が実行できます。

7. AUX キー

AUX 入力端子 (20) からの音声を放送します。メニュー画面表示中には画面下部左のガイド表示の動作になります。

8. ◀キー

液晶画面に表示されているページの1つ前のページに移動します。メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部中央のガイド表示の動作になります。

9. 復旧/クリアキー

放送中に押すと、放送を終了します。通常の液晶画面で選択中のすべてのゾーンについて、選択を解除します。

10. ▶キー

液晶画面に表示されているページの1つ次のページに移動します。メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部右のガイド表示の動作になります。

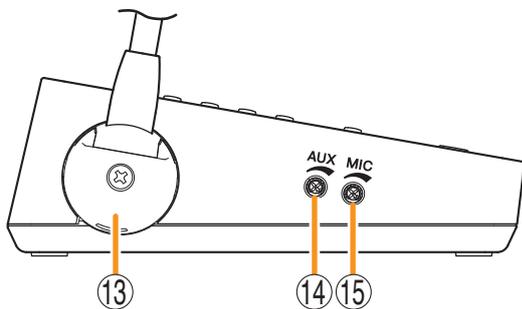
11. トークキー

マイク放送時に使用します。システム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかを設定します。PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。LOCK 式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「システム設定」)

12. 放送表示灯 (緑)

トークキーの操作状態に連動して点灯、消灯します。

[左側面]



13. マイク固定カバー

マイクを固定するためのカバーです。壁掛け設置のときには、このカバーを外してマイクの向きを変更します。(P. 3-49「マイクの向きを変更する」)

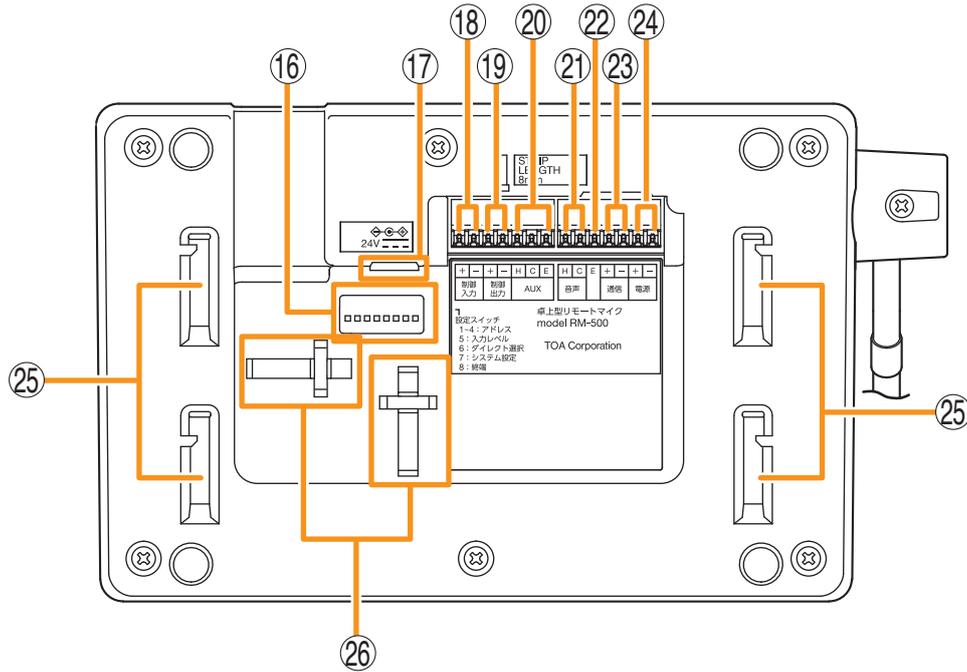
14. AUX 音量調節器

AUX 入力の音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。メニュー画面で入力レベルを確認できます。(P. 3-24「RM-500 のメニュー画面での設定のしかた」)

15. マイク音量調節器

マイクの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。メニュー画面で入力レベルを確認できます。(P. 3-24「RM-500 のメニュー画面での設定のしかた」)

[底面]



16. 設定スイッチ

- **スイッチ 1～4 [アドレス]**
RM-500 の機器番号 (ID 番号) を設定します。
([P. 3-19「ID 番号の設定 \(RM-200SF、RM-300X: スイッチ 1～3 の操作、RM-500: スイッチ 2～4 の操作\)」](#))
(工場出荷時の設定: すべて OFF)
- **スイッチ 5 [入力レベル]**
AUX 入力端子の入力レベルを設定します。
OFF: ラインレベル
ON: マイクレベル
([P. 3-35「AUX 入力端子のレベルを設定する \(RM-500 のみ\)」](#))
(工場出荷時の設定: OFF)
- **スイッチ 6 [ダイレクト選択]**
ダイレクト選択モードを使用するときは ON 側にします。
([P. 3-35「ダイレクト選択モードを使用する場合の設定 \(RM-500 のみ\)」](#)、別冊の操作説明書「ダイレクト選択モードでの放送のしかた」)
(工場出荷時の設定: OFF)
- **スイッチ 7 [システム設定]**
RM-500 の設定をするときに ON 側にします。
([P. 3-24「RM-500 のメニュー画面での設定のしかた」](#))
(工場出荷時の設定: OFF)
- **スイッチ 8 [終端]**
VX-3000F に業務リモコンを複数台接続するときに設定します。
([P. 3-31「終端設定 \(RM-200SF、RM-500: スイッチ 8 の操作\)」](#))
(工場出荷時の設定: ON)

17. AC アダプター接続端子

RM-500 には VX-3000F から電源が供給されますが、接続ケーブルの延長距離を延ばしたい場合は、この端子に、別売の AC アダプター AD-246 を接続します。([P. 3-89](#))

18. 制御入力端子

業務パターン放送、緊急入力放送などの機能を割り当てることができます。
([別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「制御入力イベント設定」](#))
無電圧メイク接点
開放電圧: DC30 V
短絡電流: 10 mA

19. 制御出力端子

システムの状態を外部機器に出力したいときに、外部機器と接続して使用します。
([別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「制御出力パターン設定」「イベント設定」](#))
オープンコレクター出力 (極性あり)
耐電圧: DC30 V
最大制御電流: 35 mA

20. AUX 入力端子

ラインレベル入力設定時: -20 dB^* 、10 k Ω 、不平衡
マイクレベル入力設定時: -60 dB^* 、2.2 k Ω 、不平衡

入力レベルは設定スイッチ (16) のスイッチ 5 により設定されています。外部音源機器、外部マイクなどを接続し、AUX 放送に使用します。ファンタム電源は供給しません。

* 0 dB = 1 V

21. 音声出力端子

RM-500 から VX-3000JB への音声出力ラインを接続します。( P. 3-88)

22. シールド端子

ノイズ対策のシールドおよびシステム制御用に使用します。( P. 3-88)

23. 通信端子

VX-3000JB と RM-500 の制御通信ラインを接続します。( P. 3-88)

24. 電源入力端子

VX-3000JB から RM-500 への DC 電源供給ラインを接続します。( P. 3-88)

25. 壁掛金具取付穴

別売の壁取付金具を使用して壁に設置するときに使用します。

( P. 3-50 「RM-500 の壁掛け設置のしかた」)

26. 配線固定用穴

配線をバインドするときに使用します。

( P. 3-57 「プッシュ式ターミナルの接続のしかた (RM-500 のみ)」)

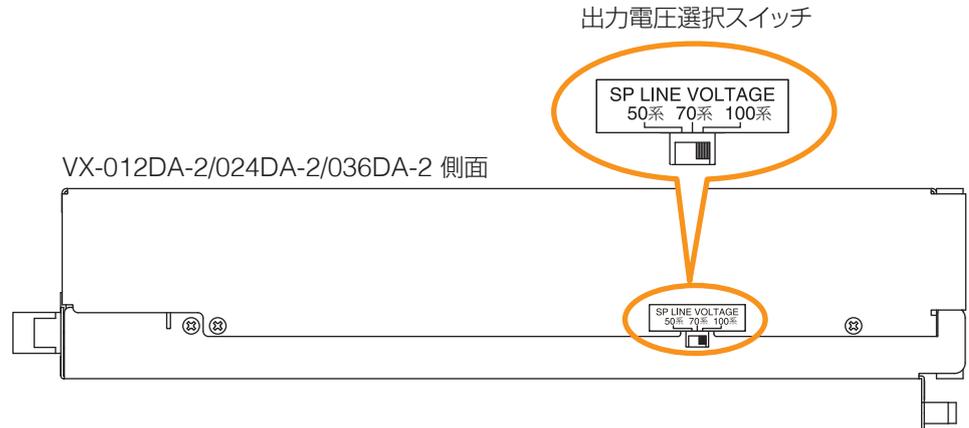
第3章

機器の設置と設定のしかた

デジタルパワーアンプモジュールの設置と設定

■ スピーカーライン電圧の変更

デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2 のスピーカーライン電圧は工場出荷時に「100系」（ハイインピーダンス 100系）に設定されていますが、側面の出力電圧選択スイッチで「50系」（ハイインピーダンス 50系）または「70系」（ハイインピーダンス 70系）に変更できます。



■ ヒューズの交換



警告

ヒューズを交換するときは、アンプの電源を切ってください。
アンプの電源をオンにしてヒューズを挿入または取り外すと、けがの原因となります。

ヒューズが切れたときは、以下の手順で交換してください。

手順：後面パネルのヒューズを交換する。

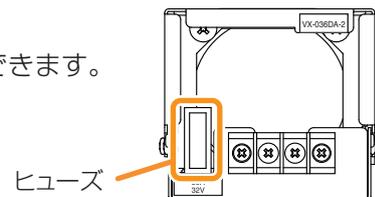
× 毛

ヒューズ交換は、本機を VX-3000F に取り付けただまで行うことができます。

[ヒューズの容量]

Model No.	容量
VX-012DA-2	10 A
VX-024DA-2	20 A
VX-036DA-2	30 A

VX-012DA-2/024DA-2/036DA-2 後面



VX-3000 フレームの設置と設定

■ デジタルパワーアンプモジュールの取り付け

VX-3000F は、デジタルパワーアンプモジュール VX-012DA-2、VX-024DA-2、VX-036DA-2 を複数台組み込むことができます。

組み込むデジタルパワーアンプモジュールの数とそのモジュールスロットは、使用するゾーンとアンプの構成によって異なります。

[構成と VX-3004F のモジュールスロット]

	スタンバイアンプなし				スタンバイアンプあり			
	1	2	3	4/STANDBY	1	2	3	4/STANDBY
系統なし	構成不可				—	—	—	○
1 系統	○	—	—	—	○	—	—	○
2 系統	○	○	—	—	○	○	—	○
3 系統	○	○	○	—	○	○	○	○
4 系統	○	○	○	○	構成不可			

○：設置が必要
—：設置が不要

[構成と VX-3008F のモジュールスロット]

	スタンバイアンプなし			スタンバイアンプあり		
	1	2	STANDBY	1	2	STANDBY
8 回線	—	—	—	構成不可		
アンプ 1 系統、8 回線	○	—	—	○	—	○
アンプ 2 系統、8 回線	○	○	—	○	○	○

[構成と VX-3016F のモジュールスロット]

	スタンバイアンプなし		スタンバイアンプあり	
	1	2/STANDBY	1	2/STANDBY
16 回線	—	—	構成不可	
アンプ 1 系統、16 回線	○	—	○	○
アンプ 2 系統、8 回線	○	○	構成不可	

スタンバイアンプとして取り付けるデジタルパワーアンプモジュールは、スタンバイアンプを共有するデジタルパワーアンプモジュールの中で最大出力のものと同等またはそれ以上の定格出力が必要です。

[デジタルパワーアンプモジュールの取り付けかた]



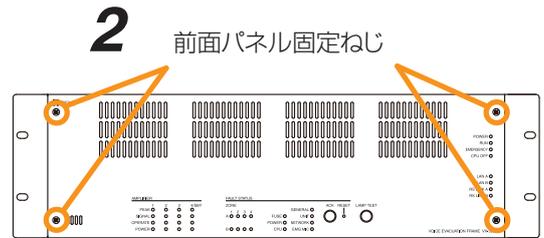
デジタルパワーアンプモジュールの内部には電圧の高い部分があります。
決してモジュール内部に指や金属物を挿入しないでください。
コネクタを取り付けたり、取り外したりするときは、コネクタ以外の内部の部品には触れないでください

1 電源を切る。

VX-3000F に電源が供給されているときは、電源の供給を停止してください。

2 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。

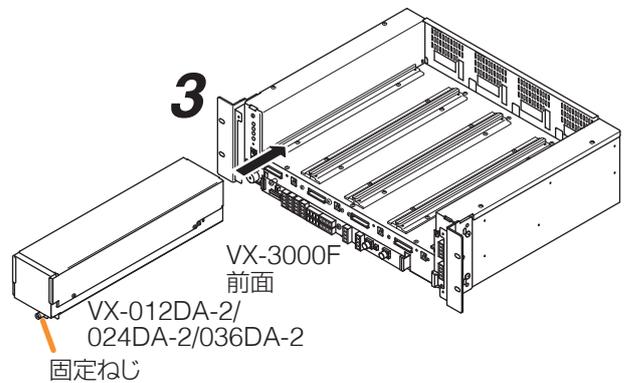


3 デジタルパワーアンプモジュールを取り付ける。

デジタルパワーアンプモジュールをガイドレールに沿って奥までしっかり挿入し、デジタルパワーアンプモジュールの固定ねじを使って固定します。

ご注意

固定には、2 番ビットのプラスドライバーを使用してください。



4 フィルターの下部を持ち上げて、ケーブルを接続する。

4-1 デジタルパワーアンプモジュールの DA 制御リンク端子と DA 出力リンク端子を、VX-3000F の該当する端子へ接続する。

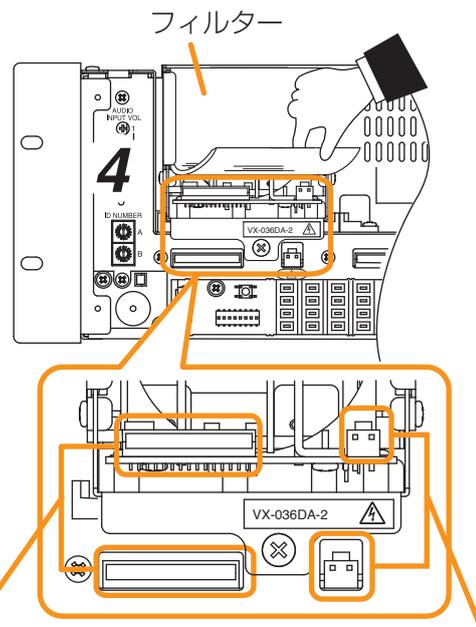
デジタルパワーアンプモジュールに付属のケーブルを使用します。

ご注意

ケーブルを接続し終えたら、ケーブルがはみ出して前面パネル取り付け作業の邪魔にならないように、ケーブルをアンプ側に押し付けてください。

4-2 フィルターを元の位置に戻す。

5 複数のデジタルパワーアンプモジュールを取り付けるときは、手順 3 ~ 4 を繰り返す。



6 前面パネルを元に戻す。

手順 2 で外した固定ねじ 4 本を使用して、前面パネルを固定してください。

■ ゾーンの割り当ての設定

VX-3008F と VX-3016F は、デジタルパワーアンプモジュールおよびラインアウトブツトモジュールと出力ゾーンの割り当て設定を、前面パネル内の DIP スイッチによって変更することができます。

VX-3008F：CPU オフ状態の緊急一斉放送用のゾーンの割り当て設定を行うことができます。

ご注意

通常の放送の割り当て設定は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。

VX-3016F：通常の放送と CPU オフ状態の緊急一斉放送の、ゾーンの割り当て設定を行うことができます。

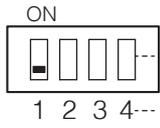
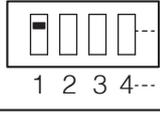
ご注意

通常の放送の割り当て設定は、VX-3000 設定ソフトウェアでも設定が必要です。DIP スイッチと同じ設定にしてください。

[VX-3008F に組み込まれているモジュールと出力ゾーンの構成]

スイッチ			スイッチの図	モジュールと出力ゾーンの構成
1	2	3		
OFF	OFF	OFF		ゾーン 1～8 にスロット 1 の出力を割り当てます。
ON	OFF	OFF		ゾーン 1～7 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
OFF	ON	OFF		ゾーン 1～6 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 7～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
ON	ON	OFF		ゾーン 1～5 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 6～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
OFF	OFF	ON		ゾーン 1～4 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 5～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
ON	OFF	ON		ゾーン 1～3 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 4～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
OFF	ON	ON		ゾーン 1～2 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 3～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。
ON	ON	ON		ゾーン 1 にスロット 1 の出力を割り当て、ゾーン 2～8 にスロット 2 の出力を割り当てます。

[VX-3016F に組み込まれているモジュールと出力ゾーンの構成]

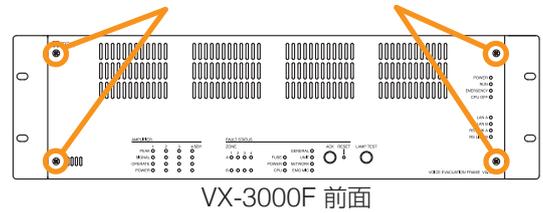
スイッチ 1	スイッチの図	モジュールと出力ゾーンの構成
OFF	 <p>ON 1 2 3 4--</p>	ゾーン1～16にスロット1の出力を割り当てます。 (1チャンネル、16スピーカセクター)
ON	 <p>ON 1 2 3 4--</p>	ゾーン1～8にスロット1の出力を、ゾーン9～16にスロット2の出力を、それぞれ割り当てます。 (2チャンネル、8スピーカセクター)

[DIP スイッチの設定]

1 前面パネルを取り外す。

固定ねじ4本を外し、前面パネルを取り外してください。

1 前面パネル固定ねじ

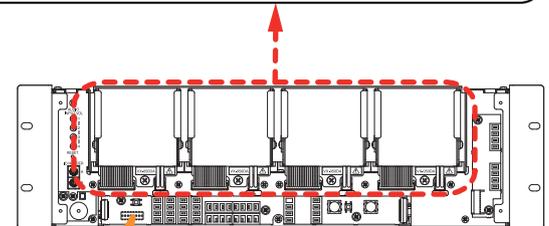


警告

デジタルパワーアンプモジュールのフィルター内部には電圧の高い部分があります。決してモジュール内部に指や金属物を挿入しないでください。

2 DIP スイッチを設定する。

デジタルパワーアンプモジュールとゾーンの構成が意図どおりになるように、DIP スイッチを設定してください。



2 DIP スイッチ

3 前面パネルを元に戻す。

手順1で外した固定ねじ4本を使用して、前面パネルを固定してください。

■ ラインアウトプットモジュールの取り付け

VX-3000F は、ラインアウトプットモジュール VX-300LO を下記の台数だけ組み込むことができます。

VX-3004F：最大 4 台

VX-3008F：最大 2 台

VX-3016F：最大 2 台

[ラインアウトプットモジュールの取り付けかた]

1 電源を切る。

VX-3000F に電源が供給されているときは、電源の供給を停止してください。

2 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。

3 ラインアウトプットモジュールを取り付ける。

ラインアウトプットモジュールをガイドレールに沿って挿入し、モジュールに付属のねじを使って固定します。

【ご注意】

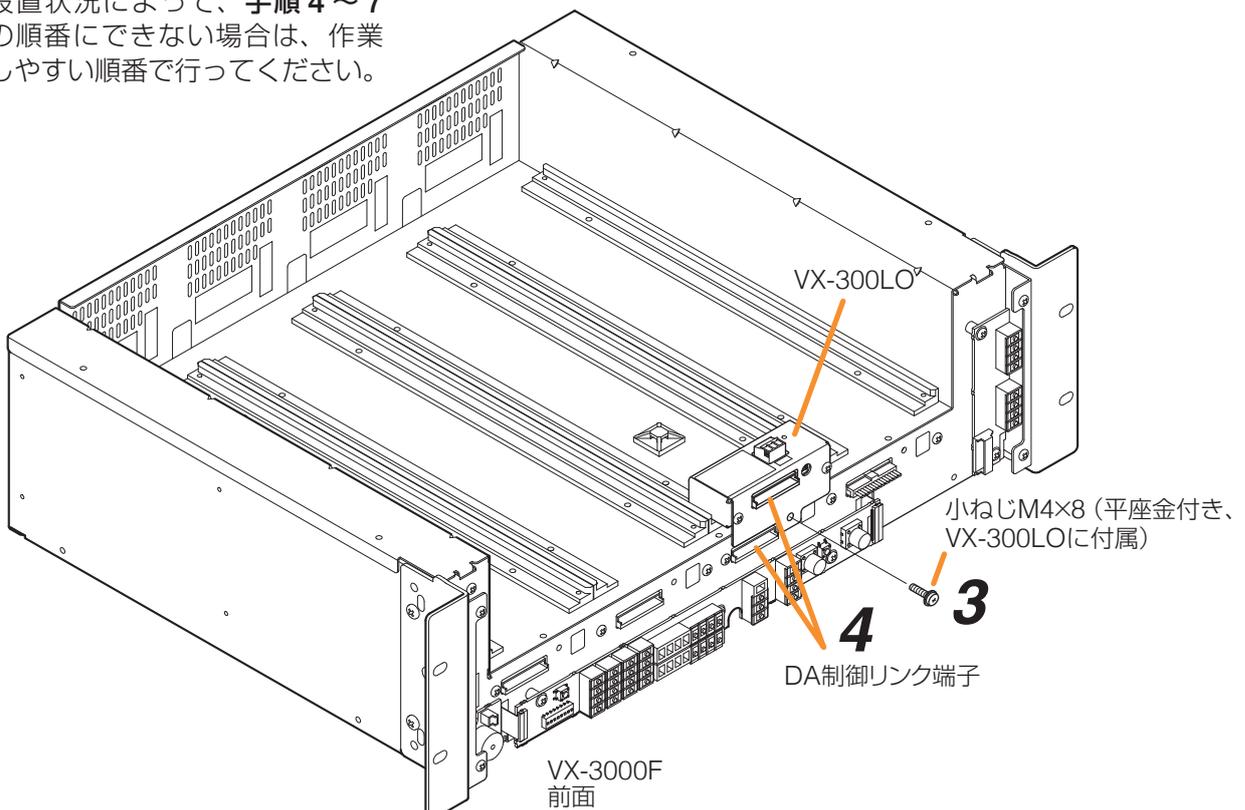
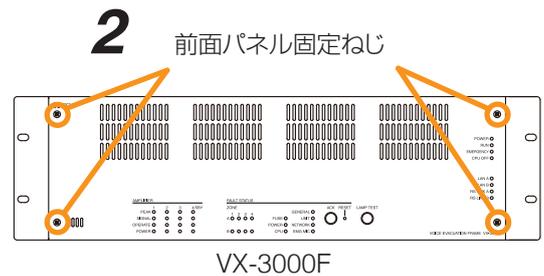
固定には、2 番ビットのプラスドライバーを使用してください。

4 DA 制御リンク端子を接続する。

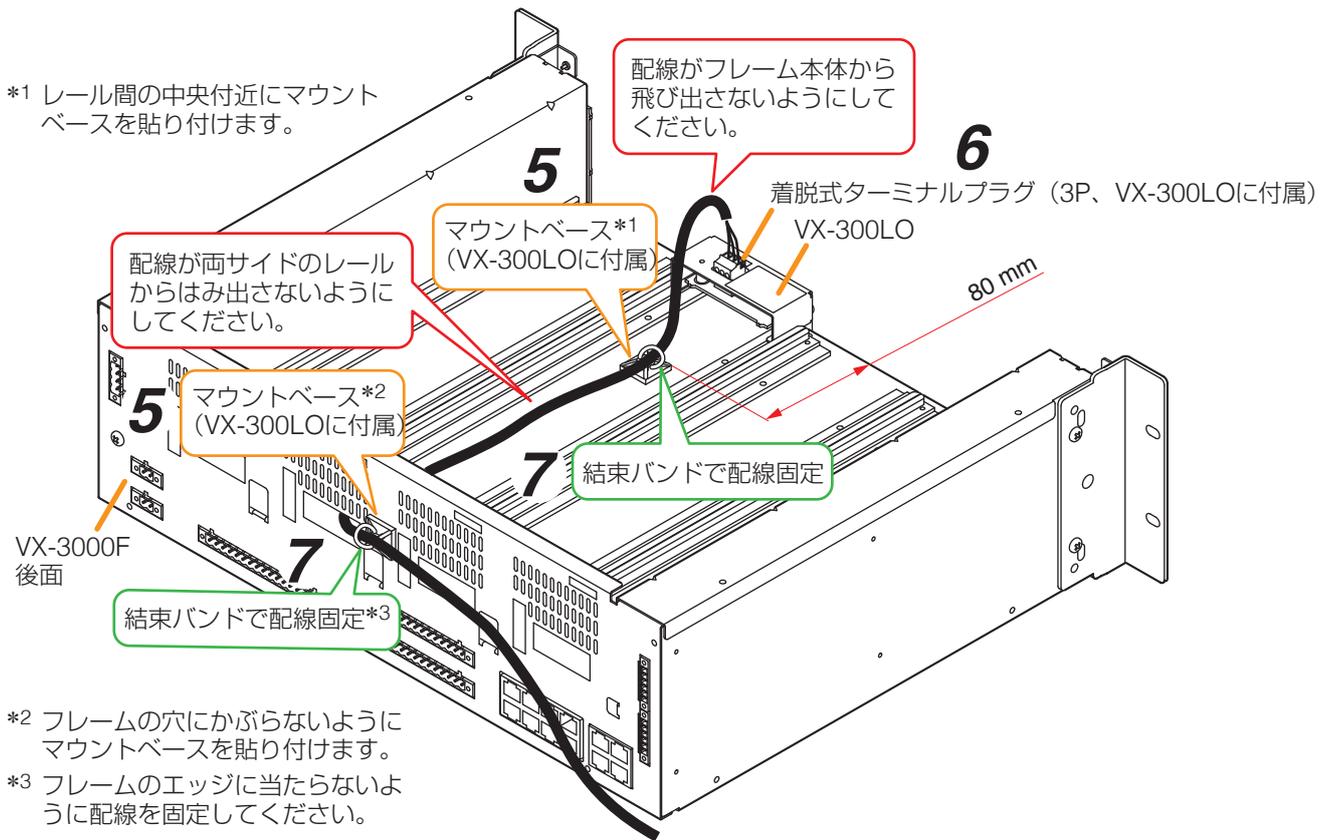
モジュールに付属のケーブルで VX-3000F の DA 制御リンク端子に接続します。

【×モ】

設置状況によって、手順 4～7 の順番にできない場合は、作業しやすい順番で行ってください。



5 ラインアウトポートモジュールに付属のマウントベースを2カ所に取り付ける。(下図参照)



6 ラインアウトポートモジュールに付属の着脱式ターミナルプラグ (3P) にケーブルを接続し、モジュールに装着する。

着脱式ターミナルプラグの接続のしかたは、P. 3-56 をお読みください。

7 VX-3000F 後面の穴からケーブルを引き出し、結束バンドでマウントベースに固定する。

ご注意

- 配線が VX-3000F フレーム本体から飛び出したり、両サイドのレールからはみ出したりしないようにしてください。
- VX-3000F フレーム後面の穴から引き出したケーブルがエッジに当たらないようにしてください。

8 前面パネルを元に戻す。

手順 2 で外した固定ねじ 4 本を使用して、前面パネルを固定してください。

■ ID 番号の設定

ご注意

- VX-3000F が 1 台の場合、ID 番号は「0」に設定してください。
- システム内に複数の VX-3000F がある場合、各 VX-3000F に異なる番号を割り当てます。
- ID 番号が重複していると、重複した番号の VX-3000F は VX-3000F システムで制御できません。
- ID 番号が「0」に設定された VX-3000F は、システム全体のリーダー機の役割を果たします。システム内で故障が発生したときはシステム異常表示灯で表示し、故障の信号を出力します。

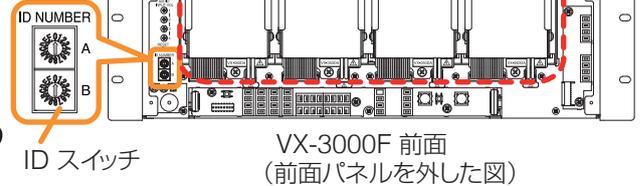
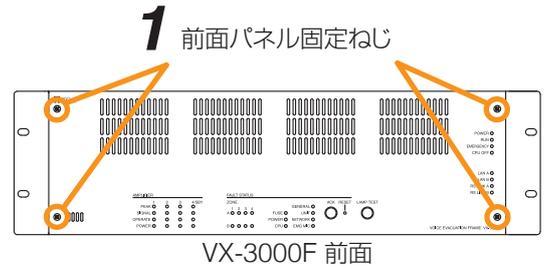
[ID 番号の設定のしかた]

1 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。

警告

デジタルパワーアンプモジュールのフィルター内部には電圧の高い部分があります。決してモジュール内部に指や金属物を挿入しないでください。



2 ID スイッチを設定する。

ID スイッチ 矢印	ID NUMBER																	
	A		0															
	B		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
ID 番号			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

ID スイッチ 矢印	ID NUMBER																	
	A		1															
	B		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
ID 番号			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

※ 工場出荷時には、ID 番号は「0」に設定されています。

3 前面パネルを元に戻す。

手順 1 で外した固定ねじ 4 本を使用して、前面パネルを固定してください。

■ IP アドレスの設定

VX-3000F の IP アドレスは、前面パネル内の DIP スイッチのスイッチ 8 が ON に設定されているとき（工場出荷時設定）は、ID スイッチの設定によって自動的に次のとおり決定します。

IP アドレス : 192.168.14.xx ("xx" は ID 番号よりも 1 大きい)
 サブネットマスク : 255.255.255.0
 デフォルトゲートウェイ : 0.0.0.0

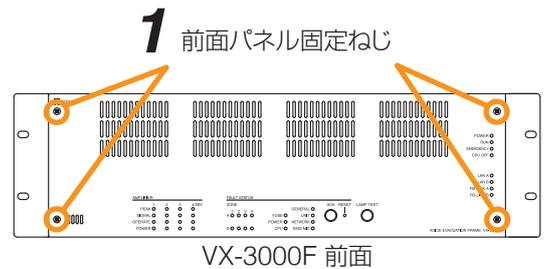
VX-3000F の上記 IP アドレスを変更するには、以下の手順で DIP スイッチの設定を変更し、VX-3000F を再起動してください。

ご注意

- スイッチ 8 が ON になっていると、VX-3000 設定ソフトウェアを使って IP アドレスを変更してアップロードしても、IP アドレスは変更されず、工場出荷時の設定のままです。
- 設定スイッチでは、上記の IP アドレスしか設定できません。それ以外の IP アドレスに設定する場合は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。（別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」）

1 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。



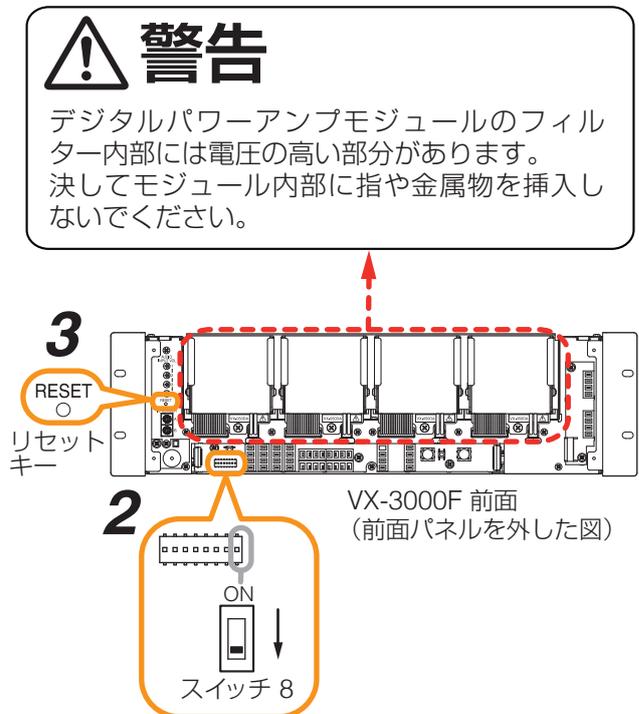
2 DIP スイッチのスイッチ 8 を OFF に設定する。

3 リセットキーを押す。

VX-3000F が再起動されます。

4 前面パネルを元に戻す。

手順 1 で外した固定ねじ 4 本を使用して、前面パネルを固定してください。

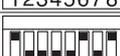
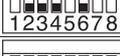


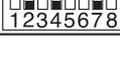
プリアンプマトリクスパネルの設定

■ IP アドレスの設定

VX-3000PM の IP アドレスは、前面パネル内の IP アドレス設定スイッチのスイッチ 1 が ON に設定されているときには、IP アドレス設定スイッチのスイッチ 2～8 の設定によって自動的に次のとおり決定します。

【IP アドレス設定表】

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.51	ON	OFF	ON OFF 						
192.168.14.52	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.53	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.54	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.55	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.56	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.57	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.58	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.59	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.60	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.61	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.62	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.63	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.64	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.65	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.66	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.67	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.68	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.69	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.70	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.71	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.72	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.73	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.74	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.75	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.76	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.77	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.78	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.79	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.80	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.81	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.82	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.83	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.84	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.85	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.86	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.87	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.88	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.89	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.90	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.91	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.92	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.93	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.94	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.95	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.96	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.97	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 12345678
192.168.14.98	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	ON OFF 12345678
192.168.14.99	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 12345678
192.168.14.100	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 12345678

[IP アドレスの設定のしかた]

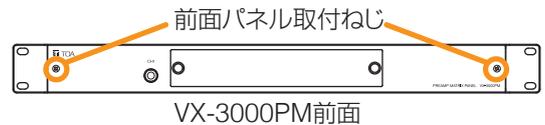
VX-3000PM の IP アドレスを設定するには、以下の手順で IP アドレス設定スイッチの設定を変更してください。

ご注意

- スイッチ 1 が OFF になっていると、スイッチ 2～8 による設定は無効になります。VX-3000 設定ソフトウェアを使ってアップロードした IP アドレスの設定が有効になります。
- IP アドレス設定スイッチでは、「192.168.14.51」～「192.168.14.100」の IP アドレスしか設定できません。それ以外の IP アドレスに設定する場合は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。（別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」）

1 前面パネルを取り外す。

前面パネル取付ねじ 2 本を緩め、前面パネルを取り外してください。



2 IP アドレス設定スイッチのスイッチ 1 を ON 側にし、スイッチ 2～8 を設定したい IP アドレスに設定する。



3 前面パネルを元に戻す。

手順 1 で外したねじ 2 本を使用して、前面パネルを取り付けてください。

4 (電源投入後に IP アドレスを設定し直したときのみ) VX-3000PM を再起動させる。

VX-3000PM への電源供給をいったん止めた後、もう一度電源を供給する、または VX-3000 設定ソフトウェアを使用して機器を再起動します。（別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「VX-3000 機器を再起動する」）

コントロールパネルの設定

■ IP アドレスの設定

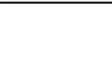
VX-3000CT の IP アドレスは、後面パネルの IP アドレス設定スイッチのスイッチ 1 が ON に設定されているときには、IP アドレス設定スイッチのスイッチ 2～8 の設定によって自動的に次のとおりに決定します。

【IP アドレス設定表】

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.111	ON	OFF	ON OFF 						
192.168.14.112	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.113	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.114	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.115	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.116	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.117	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.118	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.119	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.120	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.121	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.122	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.123	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.124	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.125	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.126	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.127	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.128	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.129	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.130	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.131	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.132	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.133	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.134	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.135	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.136	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.137	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.138	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.139	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.140	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.141	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.142	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.143	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.144	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.145	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.146	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.147	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.148	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.149	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.150	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.151	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.152	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.153	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.154	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.155	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.156	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.157	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.158	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.159	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.160	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.161	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.162	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.163	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.164	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.165	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.166	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.167	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.168	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.169	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.170	ON	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.171	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.172	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.173	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.174	ON	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.175	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.176	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.177	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.178	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.179	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.180	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.181	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 

IP アドレス	SW1	SW2	SW3	SW4	SW5	SW6	SW7	SW8	IP アドレス設定 スイッチ
192.168.14.182	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.183	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.184	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.185	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.186	ON	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.187	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.188	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.189	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.190	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.191	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.192	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.193	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.194	ON	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.195	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.196	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON OFF 
192.168.14.197	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	OFF	ON OFF 
192.168.14.198	ON	ON	OFF	ON	OFF	ON	ON	ON	ON OFF 
192.168.14.199	ON	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	ON OFF 
192.168.14.200	ON	ON	OFF	ON	ON	OFF	OFF	ON	ON OFF 

[IP アドレスの設定のしかた]

VX-3000CT の IP アドレスを設定するには、以下の手順で IP アドレス設定スイッチの設定を変更してください。

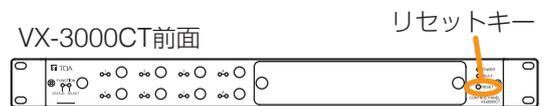
ご注意

- スイッチ 1 が OFF になっていると、スイッチ 2～8 による設定は無効になります。VX-3000 設定ソフトウェアを使ってアップロードした IP アドレスの設定が有効になります。
- IP アドレス設定スイッチでは、「192.168.14.111」～「192.168.14.200」の IP アドレスしか設定できません。それ以外の IP アドレスに設定する場合は、VX-3000 設定ソフトウェアで設定してください。（別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「機器検出とネットワーク設定」）

1 IP アドレス設定スイッチのスイッチ 1 を ON 側にし、スイッチ 2～8 を設定したい IP アドレスに設定する。



2 (電源投入後に IP アドレスを設定し直したときのみ) VX-3000CT のリセットキーを押して、再起動させる。



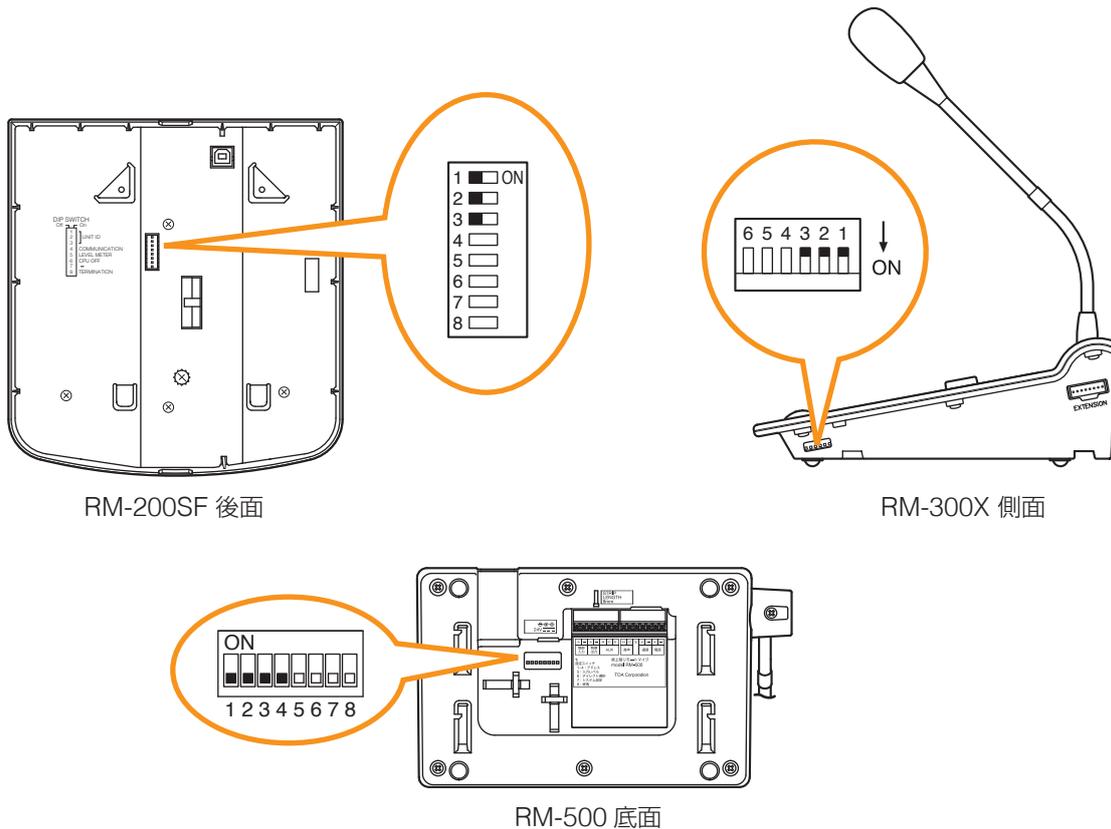
リモートマイクの設置と設定

■ ID 番号の設定

(RM-200SF、RM-300X：スイッチ 1～3 の操作、RM-500：スイッチ 2～4 の操作)

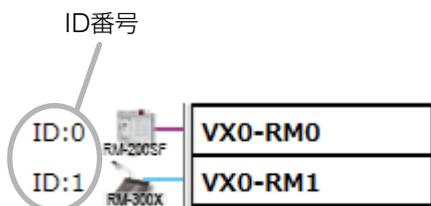
RM-200SF と RM-300X の場合は DIP スwitch のスイッチ 1～3 を使って、RM-500 の場合は DIP スwitch のスイッチ 2～4 * を使って、ID 番号（機器番号）を設定します。DIP スwitch は、RM-200SF の場合は機器後面に、RM-300X の場合は側面に、RM-500 の場合は底面にあります。

* RM-500 の ID 番号設定スイッチはスイッチ 1～4 ですが、1 は常に工場出荷時のまま OFF にして使用します。

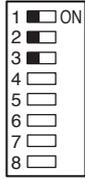
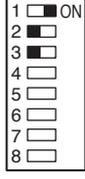
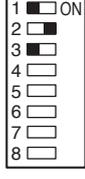
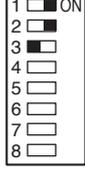
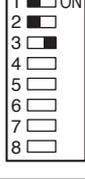
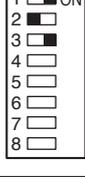
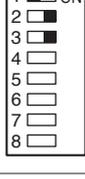


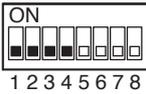
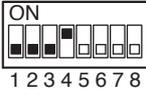
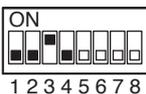
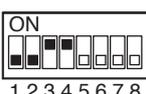
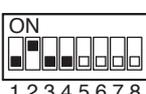
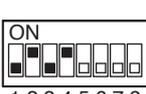
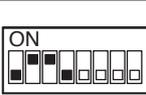
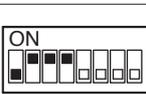
- RM-200SF、RM-300X、RM-500 は 1 台の VX-3000F に合計 8 台まで接続できます。
- 接続するリモートマイクには、それぞれ ID 番号を設定する必要があります。また、ID 番号は VX-3000 設定ソフトウェアで設定した ID 番号と一致している必要があります。VX-3000 設定ソフトウェアの画面では、ID 番号はリモートマイクのシンボルの左側に表示されます。

[VX-3000 設定ソフトウェアの画面上でのリモートマイク]



※ 工場出荷時には、ID 番号は「0」に設定されています。

ID 番号	スイッチ 3	スイッチ 2	スイッチ 1	RM-200SF	RM-300X
0 (工場出荷時)	OFF	OFF	OFF		
1	OFF	OFF	ON		
2	OFF	ON	OFF		
3	OFF	ON	ON		
4	ON	OFF	OFF		
5	ON	OFF	ON		
6	ON	ON	OFF		
7	ON	ON	ON		

ID 番号	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチ 3	スイッチ 4	RM-500
0 (工場出荷時)	OFF	OFF	OFF	OFF	
1	OFF	OFF	OFF	ON	
2	OFF	OFF	ON	OFF	
3	OFF	OFF	ON	ON	
4	OFF	ON	OFF	OFF	
5	OFF	ON	OFF	ON	
6	OFF	ON	ON	OFF	
7	OFF	ON	ON	ON	

■ マイクの感度を調節する

(RM-200SF：スイッチ5の操作、RM-300X：スイッチ4の操作)

マイクの入力感度を調節します。

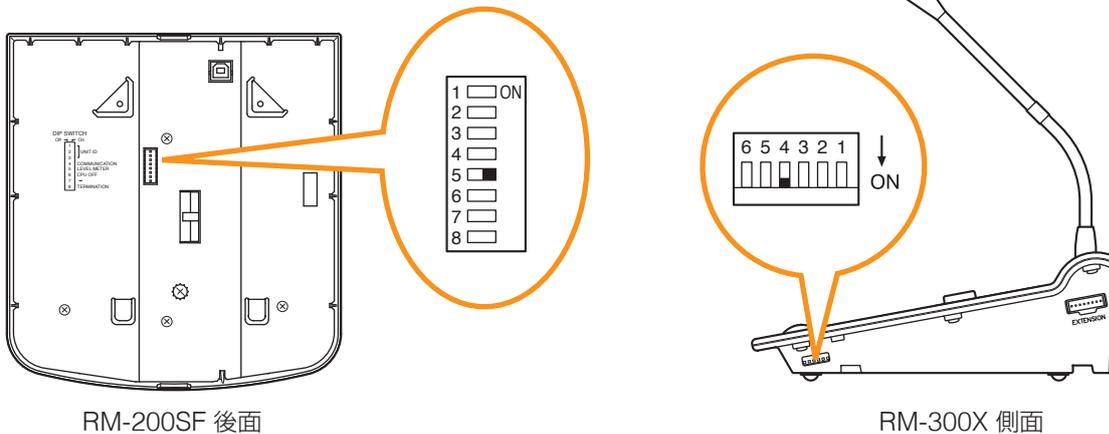
DIPスイッチの操作で放送状態表示灯を出力信号レベル表示機能*に切り換えることができますので、以下の手順で調節してください。

* マイクで放送しているときは出力信号レベルを表示し、マイクを使用していないときは放送状態を表示します。

1 RM-200SF 後面の DIP スイッチのスイッチ 5、または RM-300X 側面の DIP スイッチのスイッチ 4 を ON にする。

RM-200SF の前面または RM-300X の上面にある放送状態表示灯が出力信号レベルの表示に切り換わります。

※ どちらのスイッチも、工場出荷時は ON に設定されています。



RM-200SF 後面

RM-300X 側面

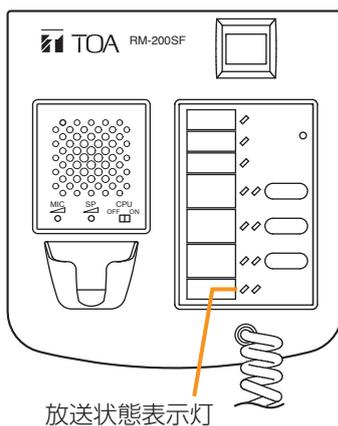
2 マイクに向かって話す。

放送状態表示灯がマイクの出力信号レベルを表示します。
各表示灯が示す出力レベルは、次の表のとおりです。

表示灯の状態	出力信号レベル
赤色点灯	0 dB より大
緑色点灯	-20 dB to 0 dB
消灯	-20 dB より小

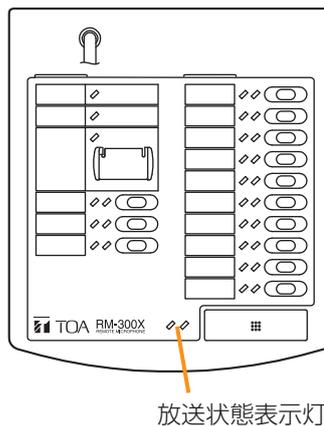
— 適切なレベル

RM-200SF 前面



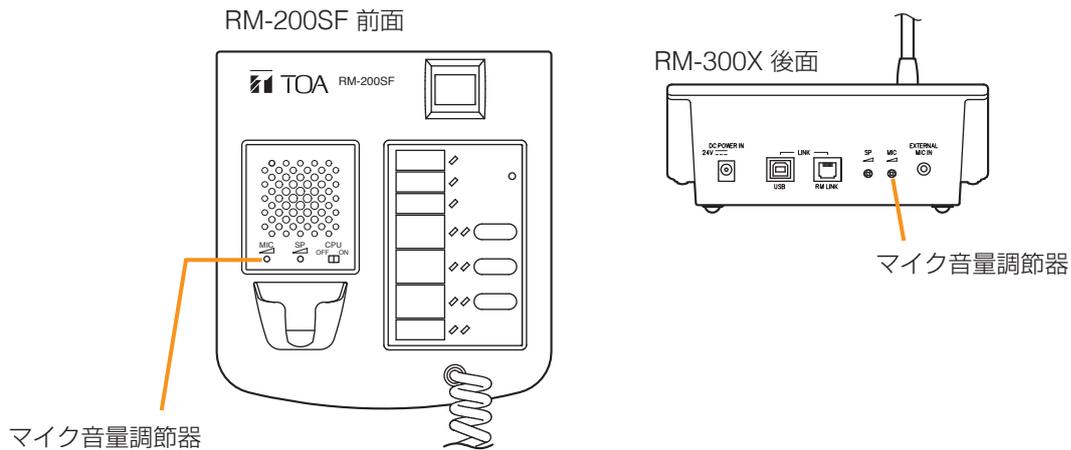
放送状態表示灯

RM-300X 上面



放送状態表示灯

3 放送状態表示灯が緑色に点灯するように、マイク音量調節器でマイク入力感度を調節する。



4 RM-200SF 後面の DIP スイッチのスイッチ 5、または RM-300X 側面の DIP スイッチのスイッチ 4 を OFF にする。

ご注意

DIP スイッチは、マイク入力感度を調節した後、OFF にしておいてください。

■ RM-500 のメニュー画面での設定のしかた

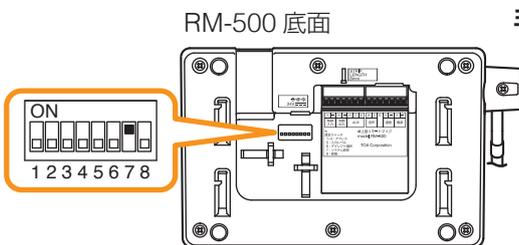
リモコンに関する設定は VX-3000 設定ソフトウェアで行いますが、RM-500 については、RM-500 の液晶画面のメニューから、自機の動作設定の変更のみ行えます。メニューからはレベルメーターの表示と RM-500 の再起動も行えます。

● メニュー構成

設定項目	設定内容	選択肢	初期値
1 動作設定			
1-1 LCD 設定			
1-1-1 コントラスト設定	RM-500 の液晶画面のコントラストを設定します。	1 ~ 9	4
1-1-2 輝度設定*	RM-500 の液晶画面の輝度を設定します。	1 ~ 6	3
1-2 拡張設定			
1-2-1 マイクレベル表示	この機能を ON に設定すると、液晶画面のチャイム表示エリアに、チャイムマークが表示されていない間、マイク音量のレベルメーターが表示されます。	ON、OFF	OFF
1-2-2 音声明瞭化	信号処理機能により音声を明瞭化するかどうかを選択します。(P. 3-28 「音声明瞭化機能の設定」)	ON、OFF	OFF
1-2-3 AUX マイク設定	この機能を使用すると、RM-500 のマイクを無効にし、AUX 入力端子に接続したマイクが RM-500 のトークキーで制御できるようになります。	使用する、 使用しない	使用しない
1-2-4 TALK タイムアウト延長	この機能を使用すると、トークキーのタイムアウトの設定時間を VX-3000 設定ソフトウェアで設定した時間に 30 秒追加することができます。	延長なし、 +30 秒	延長なし
2 メンテナンス／音量調節			
2-1 音量調節／レベルメーター	マイク、AUX の入力レベルに応じて 14 段階で表示します。(P. 3-27 「入力感度を調節する」)	—	—
2-2 状態表示	接続対象のシステム名称 (VX-3000 システム接続時：VX-3000) および操作中のリモートマイクの ID 番号とファームウェアバージョンを表示します。		
2-3 リモコン再起動	RM-500 を再起動させます。	—	—
3 メニュー終了	—	—	—

* 輝度設定の値が大きくなるほど、暗い所でも見やすくなりますが、バックライトの寿命が短くなります。

● メニュー画面への入りかた



手順：RM-500 底面の設定スイッチのスイッチ 7 を ON 側にする。

【ご注意】

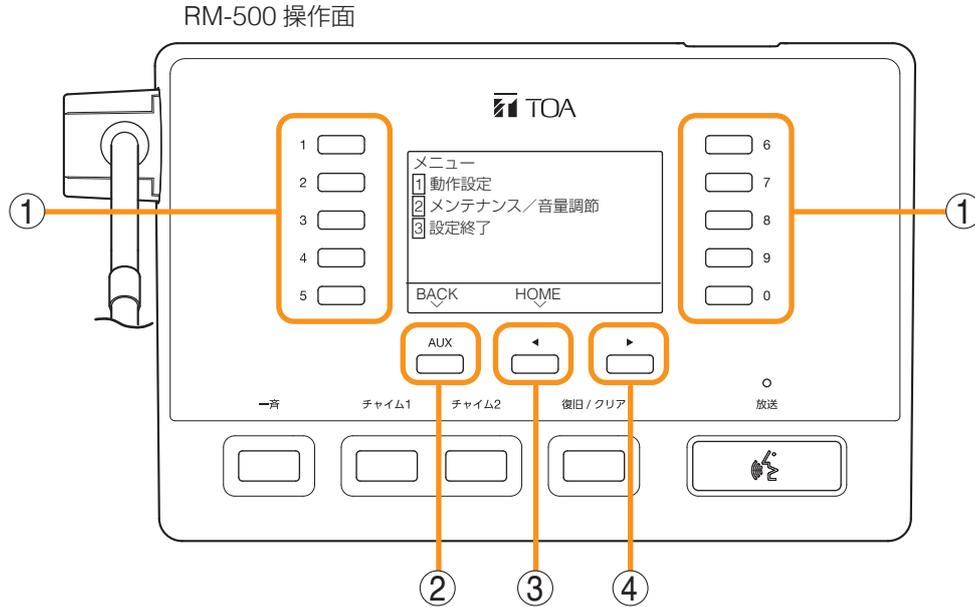
- 本機放送中は設定スイッチの操作をしないでください。放送中に設定スイッチの操作をしても、メニュー画面に移りません。
- メニュー画面表示中は本機からの放送ができません。

メニュー
1 動作設定
2 メンテナンス／音量調節
3 メニュー終了
BACK

RM-500 の液晶画面にメニューが表示されます。

● メニュー画面で使用するキー

メニュー画面では以下のキーを使用します。



1. 数字キー

選択項目または選択肢の番号の入力に使用します。

2. AUX キー

メニュー画面下部左側のガイド表示があるときに押すと、表示に従った動作をします。

3. ◀キー

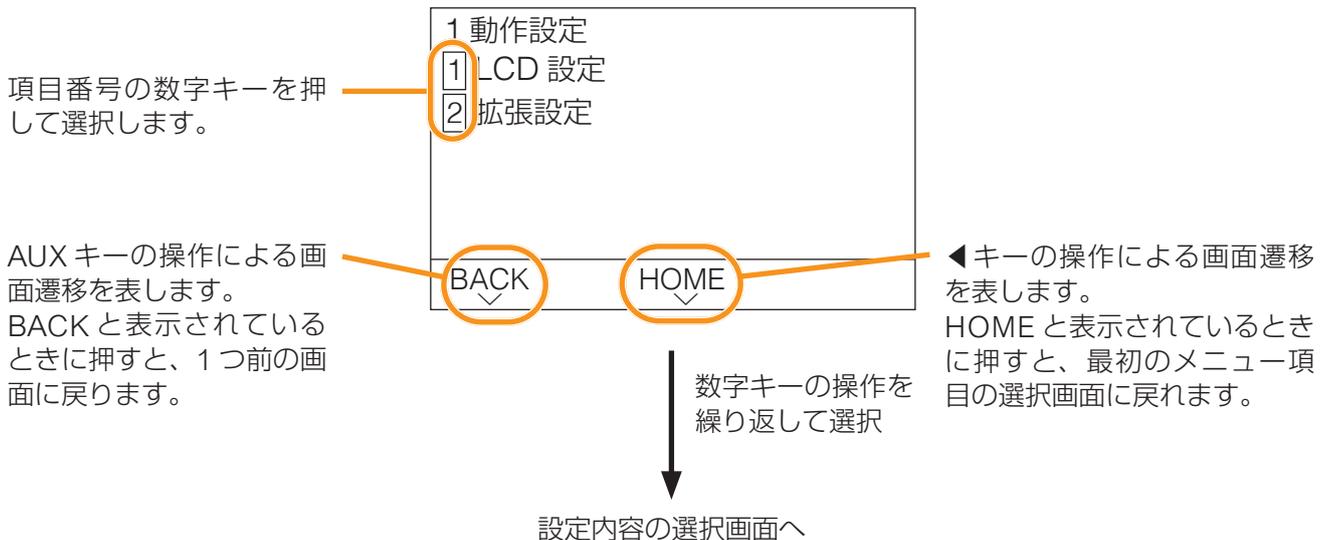
メニュー画面下部中央のガイド表示があるときに押すと、表示に従った動作をします。

4. ▶キー

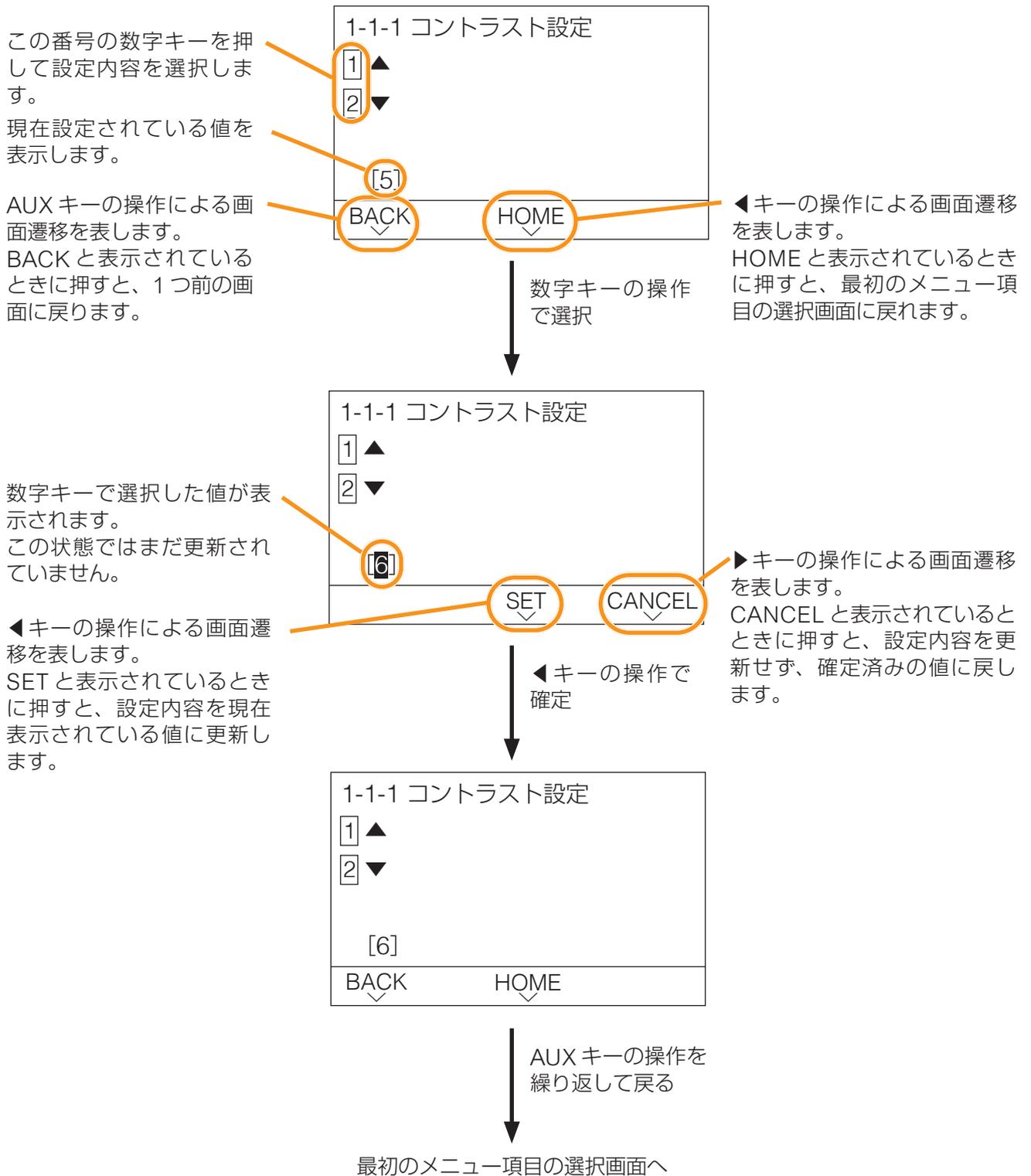
メニュー画面下部右側のガイド表示があるときに押すと、表示に従った動作をします。

● メニュー画面での基本操作

●メニュー項目の選択画面では、次のように操作します。

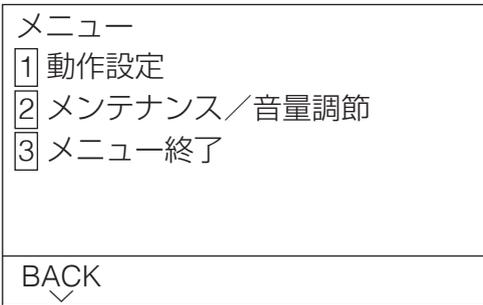


- 設定内容の選択画面では、次のように操作します。



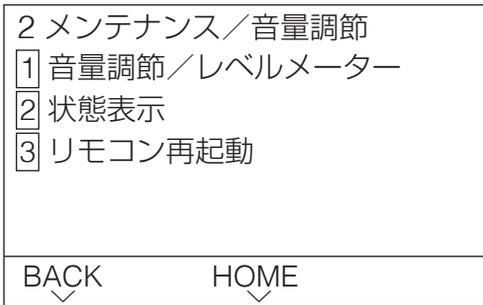
● 入力感を調節する

RM-500 のマイクの入力感度は液晶画面で確認しながら調節してください。



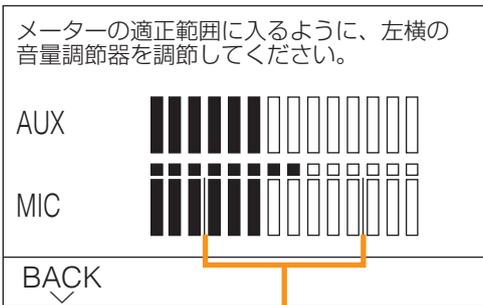
1 メニュー画面で「2」キーを押す。

メンテナンス項目の選択画面が表示されます。



2 「1」キーを押す。

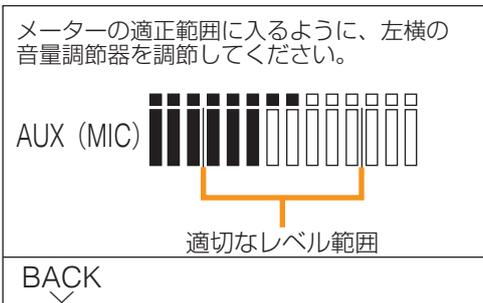
(AUX マイク設定：「使用しない」時)



マイク入力および AUX 入力の入力レベルが 14 段階で表示されます。
マイク音量の上の表示はピーク値、下の表示は現在の音量を表します。

適切なレベル範囲

(AUX マイク設定：「使用する」時)

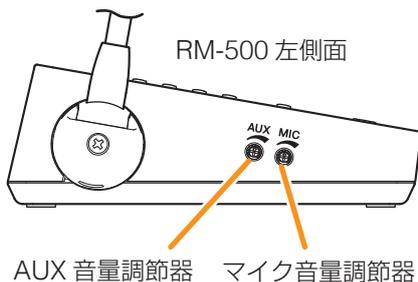


メモ

AUX マイク設定を「使用する」にしているときは、AUX 入力端子に入力したマイクの入力レベルのみ表示されます。

適切なレベル範囲

3 マイクに向かって話す。



4 適切なレベル内に収まるように、マイク音量調節器または AUX 音量調節器でマイク入力感を調節する。

● 音声明瞭化機能の設定

音声明瞭化機能を ON にすることで、マイク音声は雑音環境下でも聞き取りやすくなり*、マイクに近づいたり離れたとしても適切なレベルで音声を拾いやすくなります。

* 周囲環境によります。聞こえかたには個人差があるので、効果があることを保証するものではありません。

メニュー
1 動作設定
2 メンテナンス／音量調節
3 メニュー終了
BACK

1 メニュー画面で「1」キーを押す。

動作設定項目の選択画面が表示されます。

1 動作設定
1 LCD 設定
2 拡張設定
BACK HOME

2 「2」キーを押す。

拡張設定項目の選択画面が表示されます。

1-2 拡張設定
1 マイクレベル表示
2 音声明瞭化
3 AUX マイク設定
4 TALK タイムアウト延長
BACK HOME

3 「2」キーを押す。

音声明瞭化の設定画面が表示されます。

1-2-2 音声明瞭化
1 ON
2 OFF
[OFF]
BACK HOME

4 「1」キーを押す。

「ON」が選択されます。

1-2-2 音声明瞭化
1 ON
2 OFF
[ON]
SET CANCEL

5 ◀キーを押す。

設定内容が確定します。

【ご注意】

マイク周囲騒音が気になる場合やハウリングが気になる場合は、使用しないでください。

● メニューを終了して通常画面に戻る

メニュー
1 動作設定
2 メンテナンス／音量調節
3 メニュー終了
BACK ▽

設定保存確認
1 保存して終了する
2 保存せずに終了する
3 元の画面に戻る
BACK ▽

設定変更終了
DIP スイッチを通常に戻して ください
BACK ▽

1 メニューでの操作が終わったら、◀キーを押して「HOME」を選択し、最初のメニュー項目の選択画面に戻る。

メ モ

AUX キーを何度か押しても戻れます。

2 「3」キーを押して「メニュー終了」を選択する。
設定保存確認画面が表示されます。

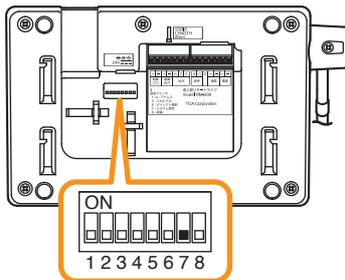
3 「1」キーを押す。

設定変更終了画面が表示されます。

4 RM-500 底面の設定スイッチのスイッチ 7 を OFF 側にする。

通常画面に戻ります。

RM-500 底面



■ CPU オフ機能（緊急一斉放送）の設定

（RM-200SF：スイッチ 6 の操作、RM-300X：スイッチ 5 の操作）

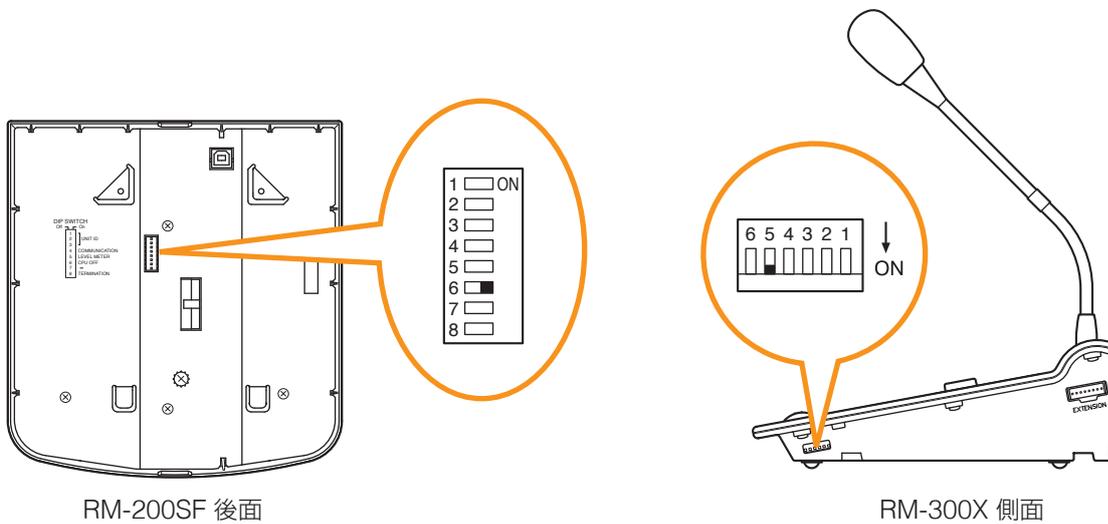
CPU オフ機能とは、VX-3000 システムが通常の放送時に使用している CPU をバイパスさせ、アナログリンクを使用して、リモートマイクから一斉放送を行う機能です。システムの故障などで通常の放送ができないときに使用します。

RM-200SF の場合は、CPU スイッチを OFF にすると、リモートマイクからの音声をシステム内のすべてのゾーンに放送することができます。

RM-300X の場合は、緊急一斉放送キーを 4 秒以上押し続けている間だけ、リモートマイクからの音声をシステム内のすべてのゾーンに放送することができます。

この機能を使用するか使用しないかは、RM-200SF の DIP スイッチのスイッチ 6、または RM-300X の DIP スイッチのスイッチ 5 で設定します。

※ 放送のしかたは、別冊の操作説明書「操作のしかた」をお読みください。



RM-200SF 後面

RM-300X 側面

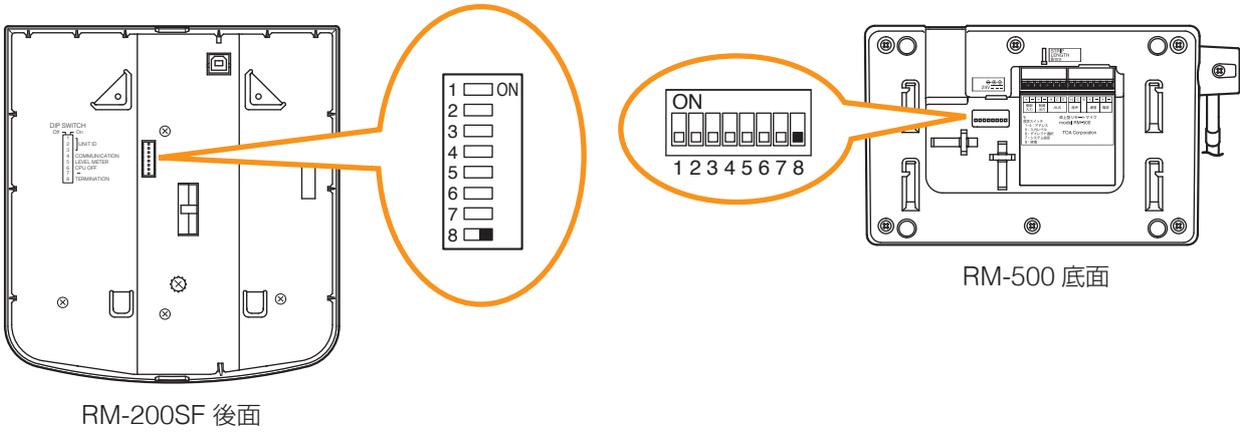
で注意

アナログリンクを使用しない場合、CPU オフ機能は「使用しない」に設定してください。

CPU オフ機能 （緊急一斉放送）	スイッチ	RM-200SF	RM-300X
使用する	ON （工場出荷時）		
使用しない	OFF		

■ 終端設定 (RM-200SF、RM-500 : スイッチ 8 の操作)

RM 通信回線の終端を設定します。通常は OFF に設定してください。



終端機能	スイッチ	RM-200SF	RM-500
OFF	OFF		
ON	ON (工場出荷時)		

■ 外部マイクを使用するとき (RM-300X のみ)



ここに記載の作業は専門業者にご依頼ください。
お客様ご自身で、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

RM-300X の基板上的ジャンパー設定を変更することにより、外部マイクを使用できるようになります。

ご注意

- この作業は、電源の供給を停止した状態で行ってください。
- 基板上的の部品には触れないでください。静電気により、故障の恐れがあります。

1 RM-300X の上ケースを開ける。

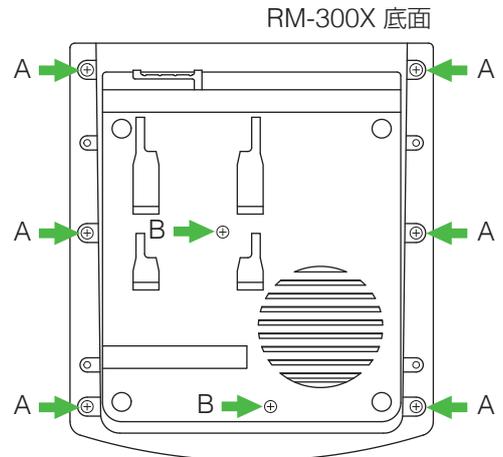
右図に示す 8 本のねじを外して、上ケースを開けます。

ご注意

ねじの種類に注意してください。

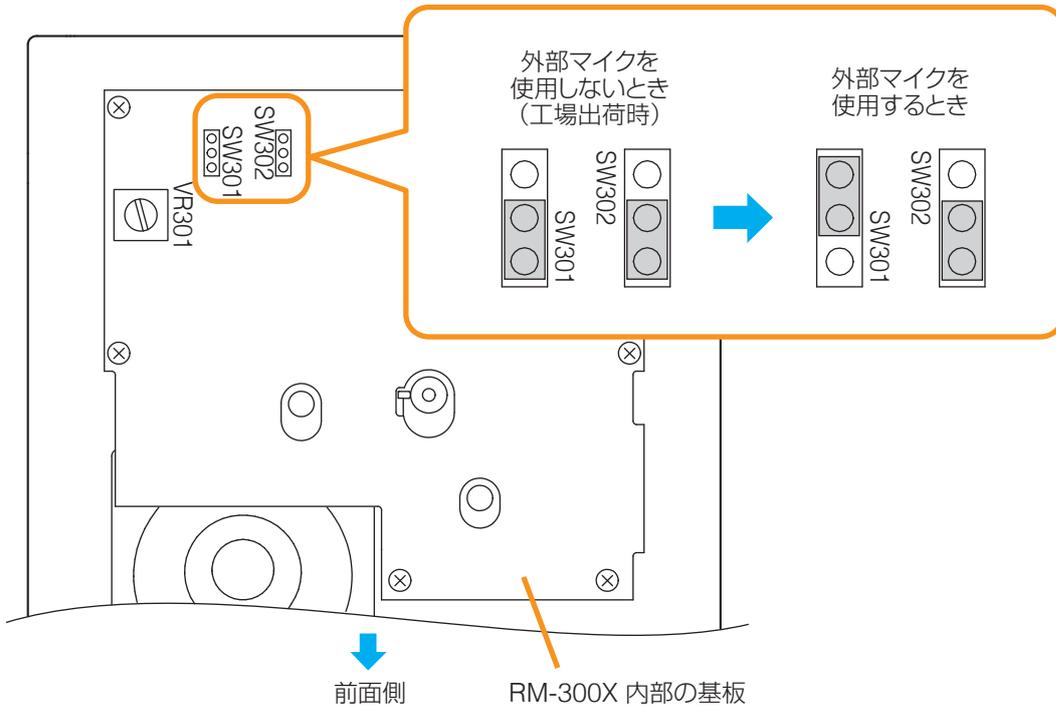
A：タッピンねじ 3 × 8 (白銀色) 6 本

B：タッピンねじ 3 × 10 (黒色) 2 本



2 基板上的のジャンパーを設定する。

下ケースに取り付けられている基板上的のジャンパー (SW301) を下図のように設定します。



3 RM-300X の上ケースを元どおりに取り付ける。

で注意

上ケースを取り付けるときは、ねじの種類に注意してください（手順 1 を参照）。

[RM-300X の外部入力端子に接続するプラグ]

平衡型ミニプラグまたは不平衡型ミニプラグのチップ／スリーブ間に信号を入力してください。

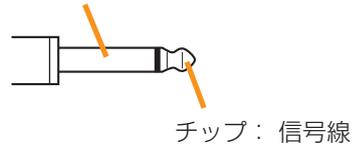
[平衡型ミニプラグ]

スリーブ：接地



[不平衡型ミニプラグ]

スリーブ：接地



メモ

外部マイクには、WH-4000A、YP-M101、YP-M301 が使用できます。

■ AUX 入力を使用するとき (RM-300X のみ)



ここに記載の作業は専門業者にご依頼ください。
お客様ご自身で、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

RM-300X の基板上的ジャンパー設定を変更することにより、AUX 入力を使用できるようになります。
基板上的 VR301 で AUX 入力の音量を調節します。

ご注意

- この作業は、電源の供給を停止した状態で行ってください。
- 基板上的の部品には触れないでください。静電気により、故障の恐れがあります。
- 外部マイク入力 (P. 3-32) と AUX 入力は、同時に使用することができません。

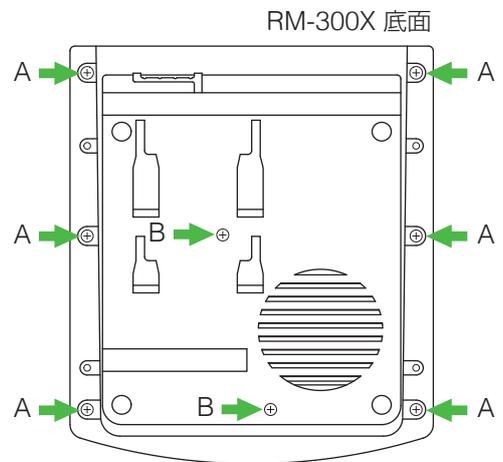
1 RM-300X の上ケースを開ける。

右図に示す 8 本のねじを外して、上ケースを開けます。

ご注意

ねじの種類に注意してください。

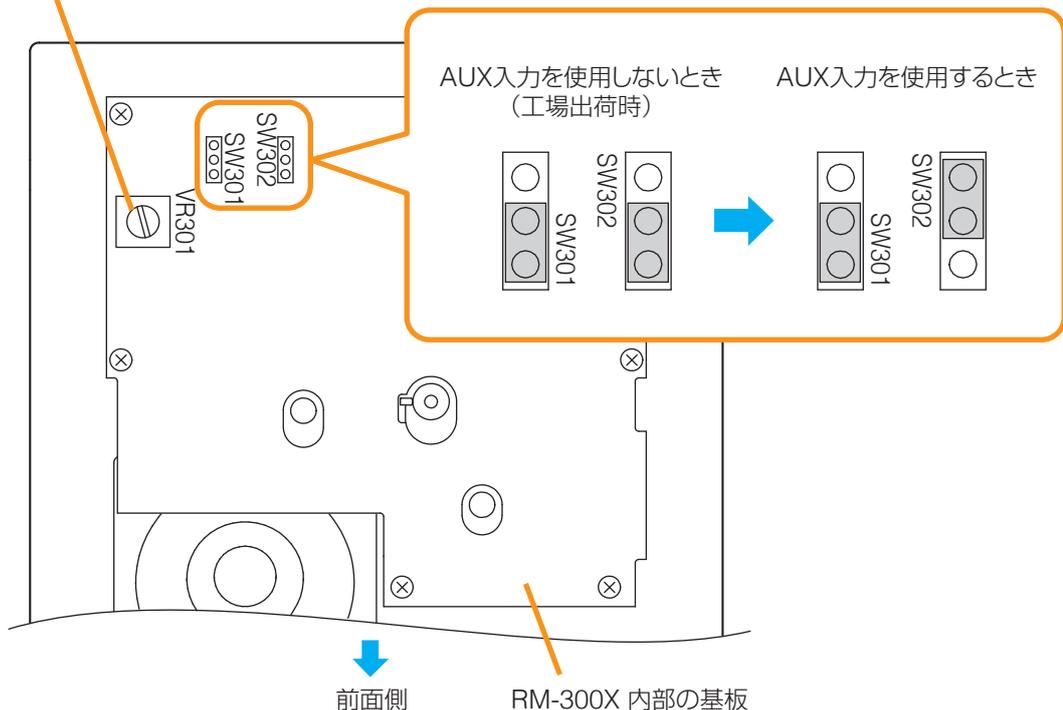
- A : タッピンねじ 3 × 8 (白銀色) 6 本
- B : タッピンねじ 3 × 10 (黒色) 2 本



2 基板上的のジャンパーを設定する。

下ケースに取り付けられている基板上的のジャンパー (SW302) を下図のように設定します。

AUX入力音量調節器



3 RM-300X の上ケースを元どおりに取り付ける。

ご注意

上ケースを取り付けるときは、ねじの種類に注意してください（手順 1 を参照）。

【RM-300X の外部入力端子に接続するプラグ】

ステレオミニプラグのリング／スリーブ間に信号を入力してください。

[ステレオミニプラグ]

スリーブ：接地

リング：信号線

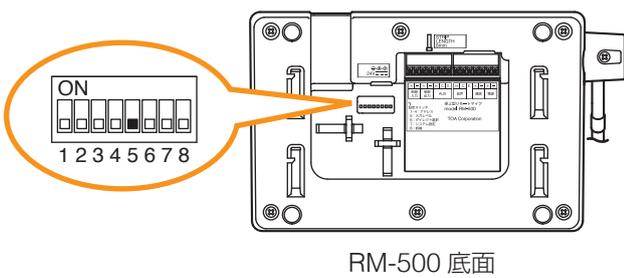
チップ



■ AUX 入力端子のレベルを設定する（RM-500 のみ）

RM-500 の AUX 入力端子を使用する場合、接続する機器に応じて、設定スイッチのスイッチ 5 で入力レベルを設定します。

外部音源機器を接続するときはラインレベル（OFF）、外部マイクを接続するときはマイクレベル（ON）に設定してください。



RM-500 底面

入力レベル	スイッチ	RM-500
ラインレベル -20 dB* 10 kΩ 不平衡	OFF (工場出荷時)	
マイクレベル -60 dB* 2.2 kΩ 不平衡	ON	

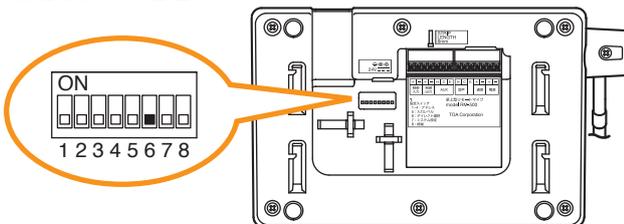
* 0 dB = 1 V

■ ダイレクト選択モードを使用する場合の設定（RM-500 のみ）

RM-500 には、放送階の選択をするときに、回線番号を直接入力して指定することができるダイレクト選択機能があります。

ダイレクト選択モードを使用する場合は、設定スイッチのスイッチ 6 を設定します。

ダイレクト選択モードでの操作のしかたは、別冊の操作説明書「ダイレクト選択モードでの放送のしかた」をお読みください。



RM-500 底面

ダイレクト選択モード	スイッチ	RM-500
使用しない (液晶画面に通常画面が表示されます。)	OFF (工場出荷時)	
使用する (液晶画面に回線番号登録画面が表示されます。)	ON	

ご注意

本機放送中は設定スイッチの操作をしないでください。

放送中に設定スイッチの操作をしても、液晶画面の表示は切り換わりません。

■ コンプレッサー機能の設定 (RM-200SF、RM-300X のみ)



ここに記載の作業は専門業者にご依頼ください。
お客様ご自身で、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

コンプレッサー機能を使用すると、大きな信号のときでも歪むことなく放送ができます。

※ 工場出荷時は「使用する」に設定されています。

【ご注意】

- この作業は、電源の供給を停止した状態で行ってください。
- 基板上的の部品には触れないでください。静電気により、故障の恐れがあります。

[RM-200SF]

1 RM-200SF の後面プレートを開ける。

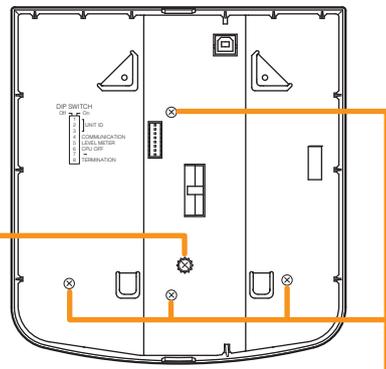
右図に示す 5 本のねじを外して、後面プレートを開けます。

【ご注意】

形状の異なる 2 種類のねじを使用していますので、注意してください。

インチねじ No.6-32 × 1/4
菊座金付き (1カ所)

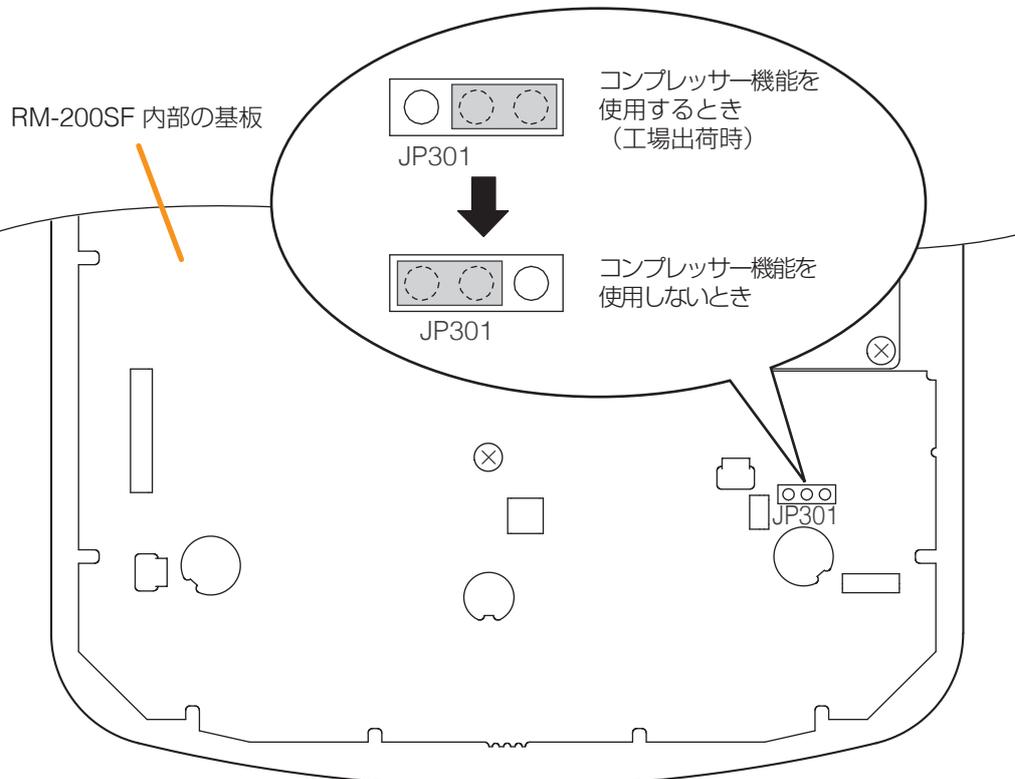
RM-200SF 後面



タッピングねじ
(フィリップスねじ)
3×8 (4カ所)

2 基板上的のジャンパーを設定する。

上ケースに取り付けられている基板上的のジャンパー (JP301) を下図のように設定します。



3 RM-200SF の後面プレートを元どおりに取り付ける。

【ご注意】 後面プレート取り付けるときは、ねじの種類に注意してください。(手順 1 を参照。)

[RM-300X]

1 RM-300X の上ケースを開ける。

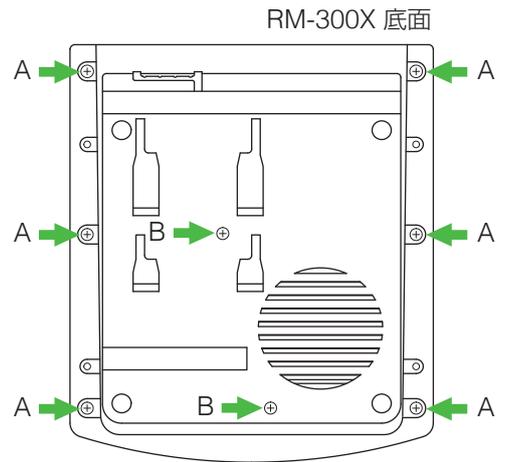
右図に示す 8 本のねじを外して、上ケースを開けます。

ご注意

ねじの種類に注意してください。

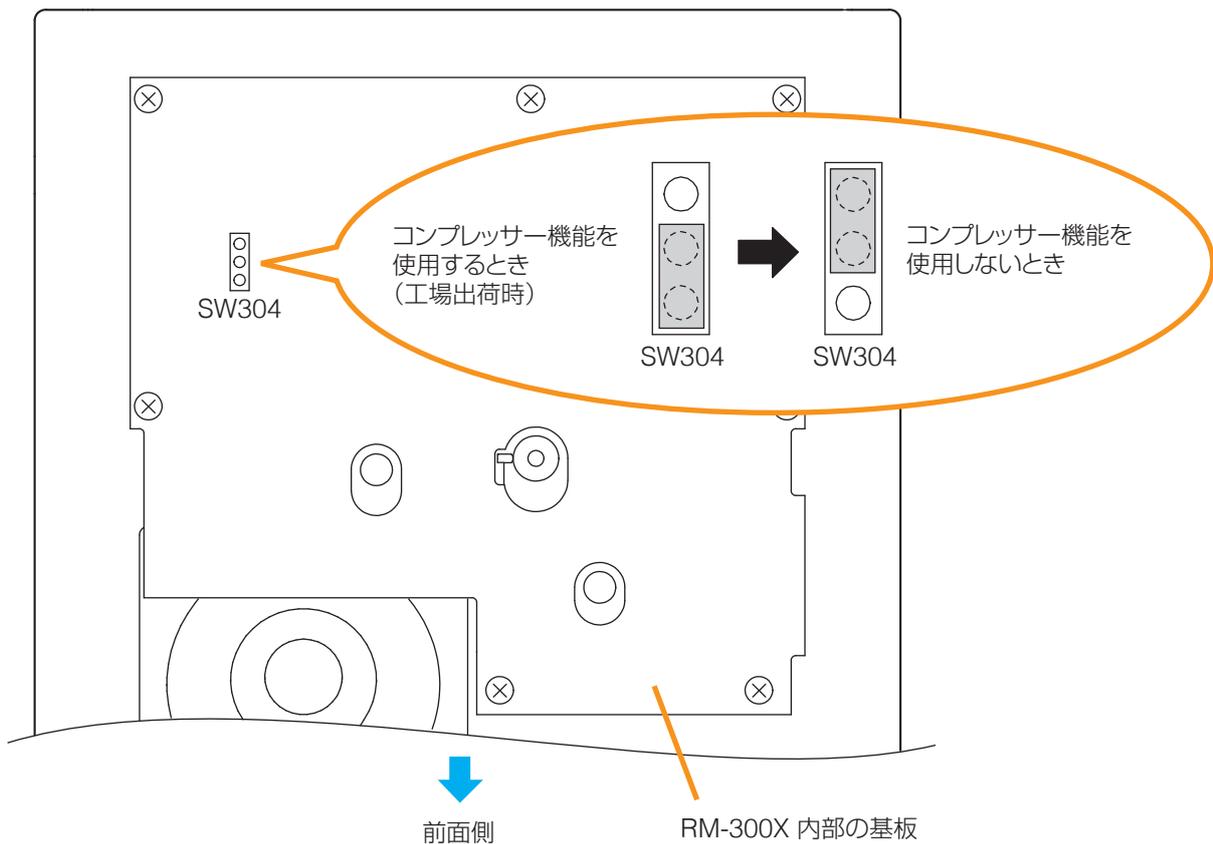
A：タッピンねじ 3 × 8（白銀色） 6 本

B：タッピンねじ 3 × 10（黒色） 2 本



2 基板上のジャンパーを設定する。

下ケースに取り付けられている基板上のジャンパー（SW304）を下図のように設定します。



3 RM-300X の上ケースを元どおりに取り付ける。

ご注意 上ケースを取り付けるときは、ねじの種類に注意してください。(手順 1 を参照。)

■ マイク故障検知機能の設定 (RM-300X のみ)



ここに記載の作業は専門業者にご依頼ください。
お客様ご自身で、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。

RM-300X にはマイクの故障検知機能があり、この機能をオフにすることができます。
(工場出荷時はオンに設定されています。)

ご注意

- この作業は、電源の供給を停止した状態で行ってください。
- 基板上の部品には触れないでください。静電気により、故障の恐れがあります。

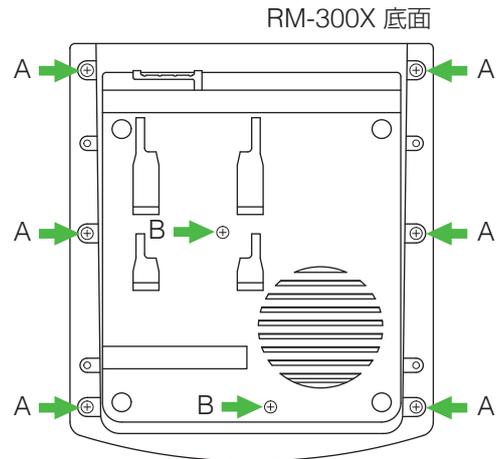
1 RM-300X の上ケースを開ける。

右図に示す 8 本のねじを外して、上ケースを開けます。

ご注意

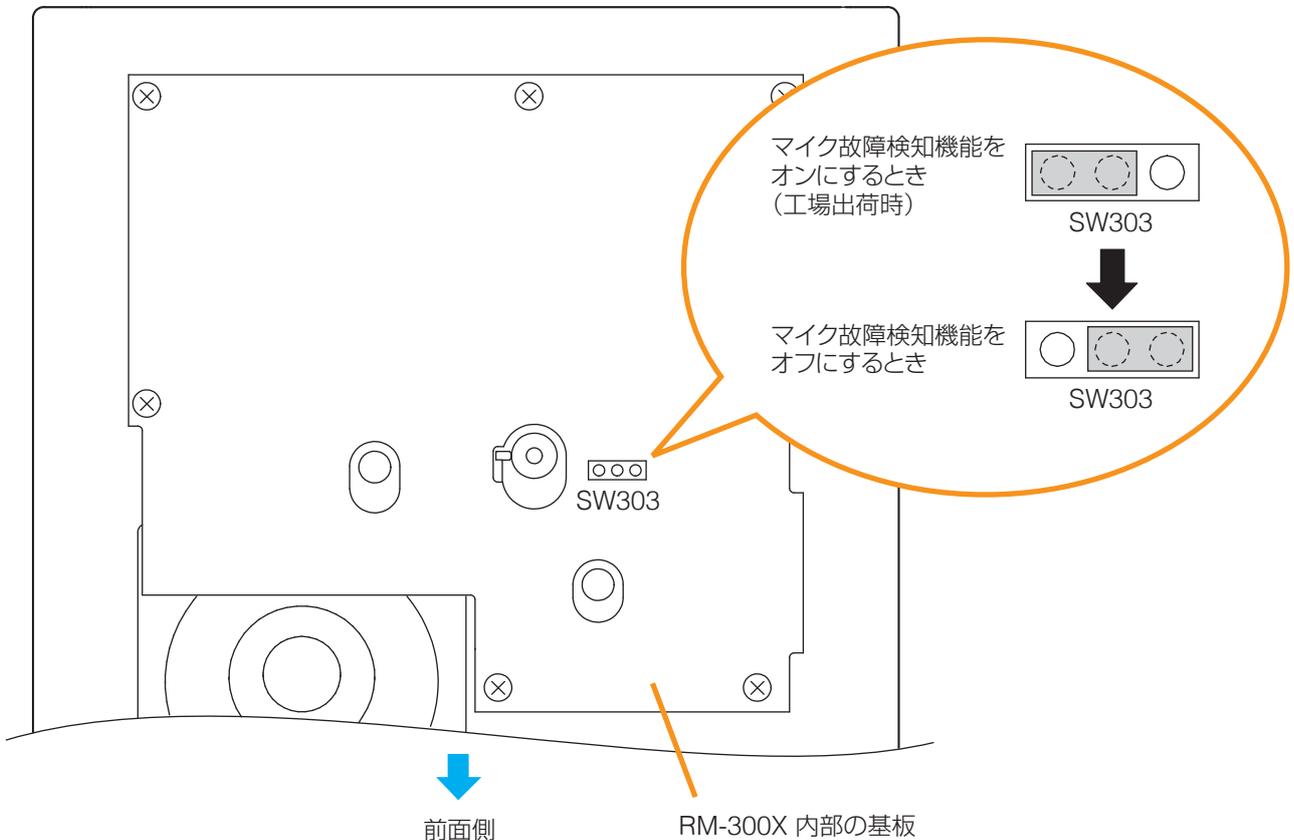
ねじの種類に注意してください。

- A：タッピンねじ 3 × 8 (白銀色) 6 本
- B：タッピンねじ 3 × 10 (黒色) 2 本



2 基板上のジャンパーを設定する。

下ケースに取り付けられている基板上のジャンパー (SW303) を下図のように設定します。



3 RM-300X の上ケースを元どおりに取り付ける。

ご注意 上ケースを取り付けるときは、ねじの種類に注意してください。(手順 1 を参照。)

■ RM-200SF を壁に取り付ける

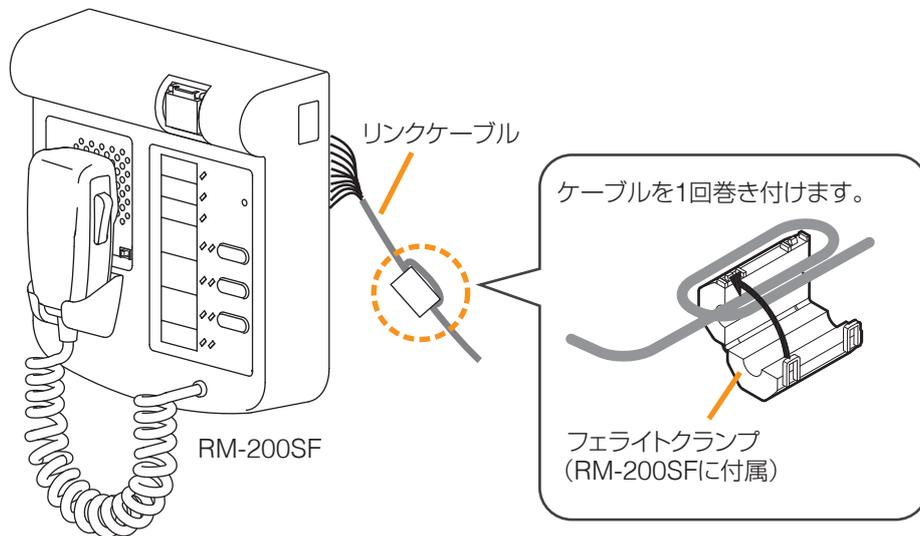
RM-200SF は、壁に設置できます。

RM-200SF を壁に取り付けるときは、次の部品が必要です。

壁掛け金具ユニット (RM-200SF 用)	1 (RM-200SF に付属)
壁取付ねじ	
タッピンねじ 4 × 25 (木壁用)	2 (RM-200SF に付属)
小ねじ M3.5 × 20 (電工ボックス用)	2 (RM-200SF に付属)

[フェライトクランプの取り付け]

付属のフェライトクランプを、下図のようにリンクケーブルに取り付ける必要があります。RM-200SF の取り付けかたによってどの手順のときに取り付けるかが異なります。適切な手順で取り付けてください。



上図のように、ケーブルをフェライトクランプ (RM-200SF に付属) に 1 回巻き付けてから接続します。

[取り付けかた]

1 RM-200SF に付属の壁掛け金具ユニットを壁に取り付ける。

1-1 壁に直接取り付けるとき

設置場所に応じて 2 本以上のねじを使用して壁面に設置してください。

RM-200SF には、壁取り付け用のタッピンねじ 4 × 25 が 2 本付属されています。



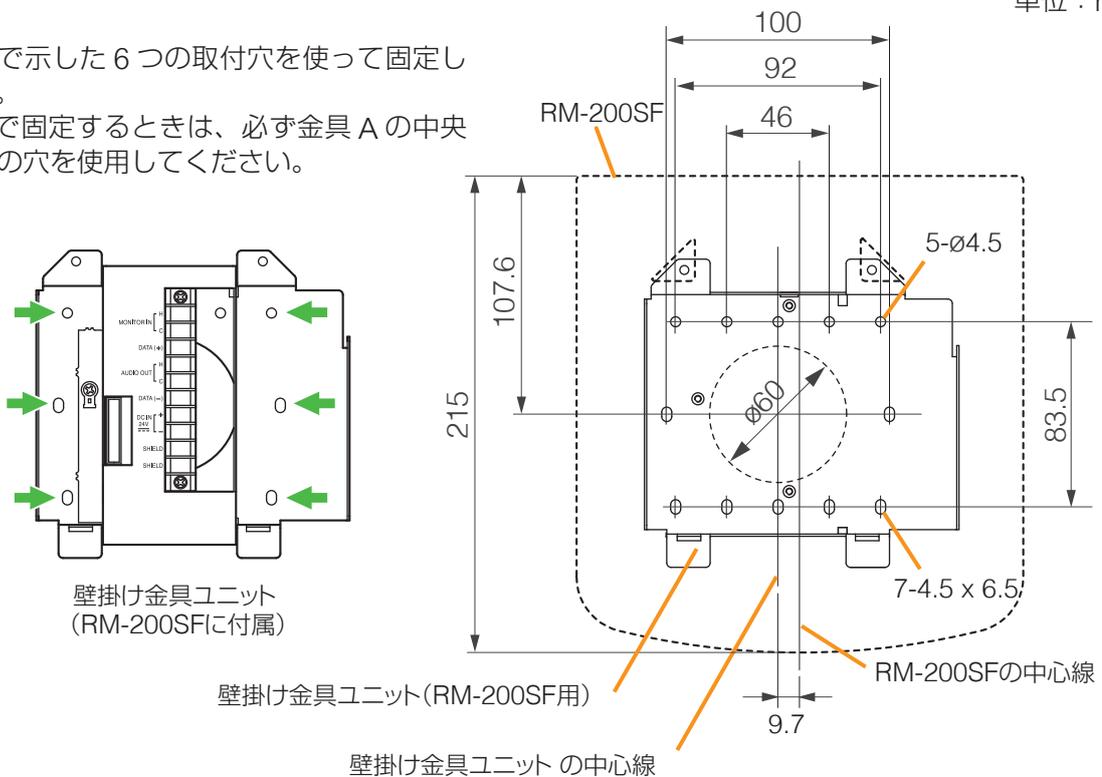
警告

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。
十分な強度がないと落下して、けがの原因になります。
- 取付金具は、ねじを必ず 2 本以上使用して壁に取り付けてください。

ご注意

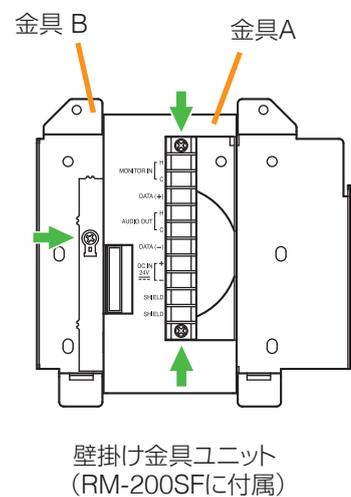
- 下図の矢印で示した 6 つの取付穴を使って固定してください。
- 2 本のねじで固定するときは、必ず金具 A の中央にある 2 つの穴を使用してください。

単位：mm

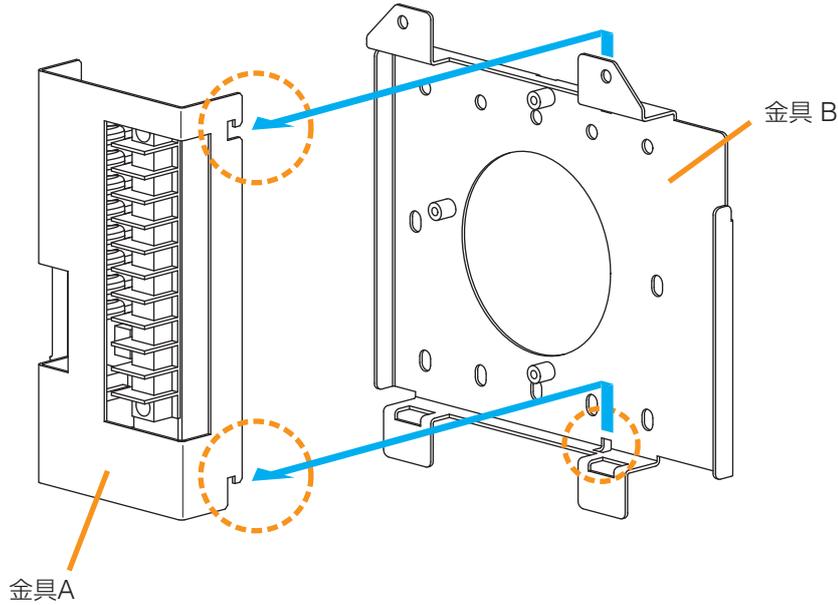


1-2 電工ボックスに取り付けるとき

- (1) 壁掛け金具ユニットの金具 A を金具 B に固定しているねじ 3 本 (右図の矢印で示した部分) を外す。

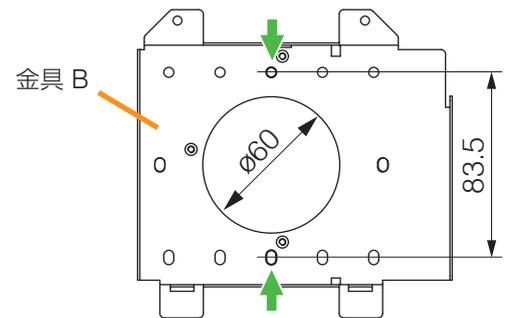


(2) 下図のように、金具 A をスライドさせて金具 B から外す。



(3) 金具 B を電気ボックスに取り付ける。
RM-200SF に付属の小ねじ M3.5 × 20 を 2 本使用します。

電気ボックスに取り付けるためのねじ穴 (2カ所)

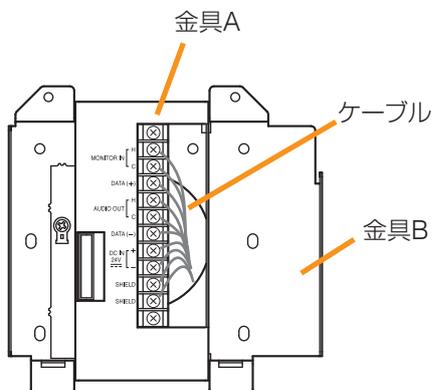


(4) 金具 A を元どおりに戻す。
手順 (1)、(2) を逆にした手順で行ってください。

ご注意

金具 A と B の間に配線されたケーブルをはさまないように注意してください。

2 ねじ端子ブロックにケーブルを接続する。



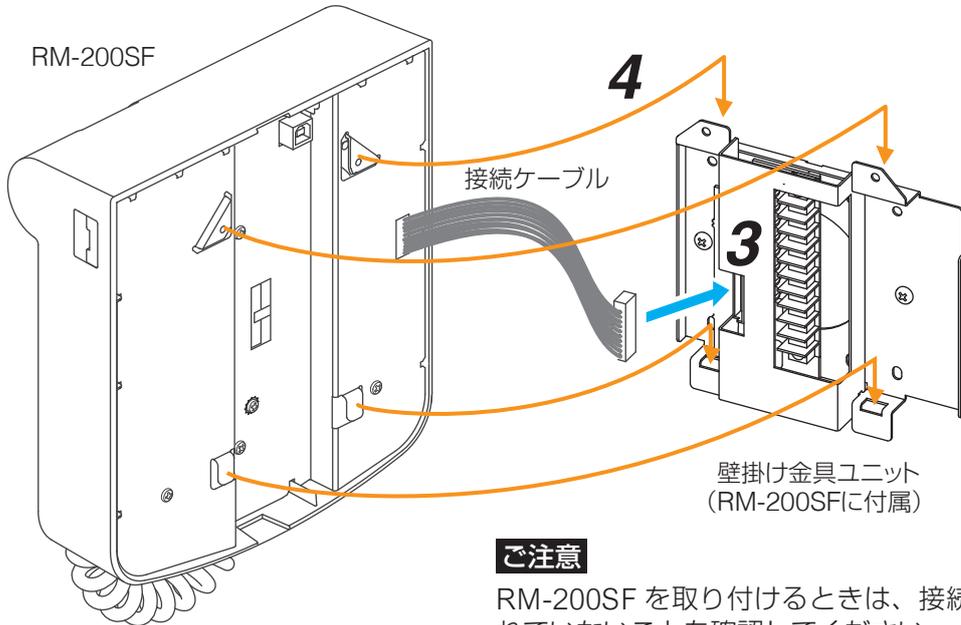
壁掛け金具ユニット
(RM-200SFに付属)

ご注意

接続完了後、金具 A の内部にケーブルを入れてください。ケーブルがはみ出さないようにしてください。壁掛け金具ユニットを壁に取り付けるときにケーブルがはみ出すと、ケーブルが損傷する可能性があります。

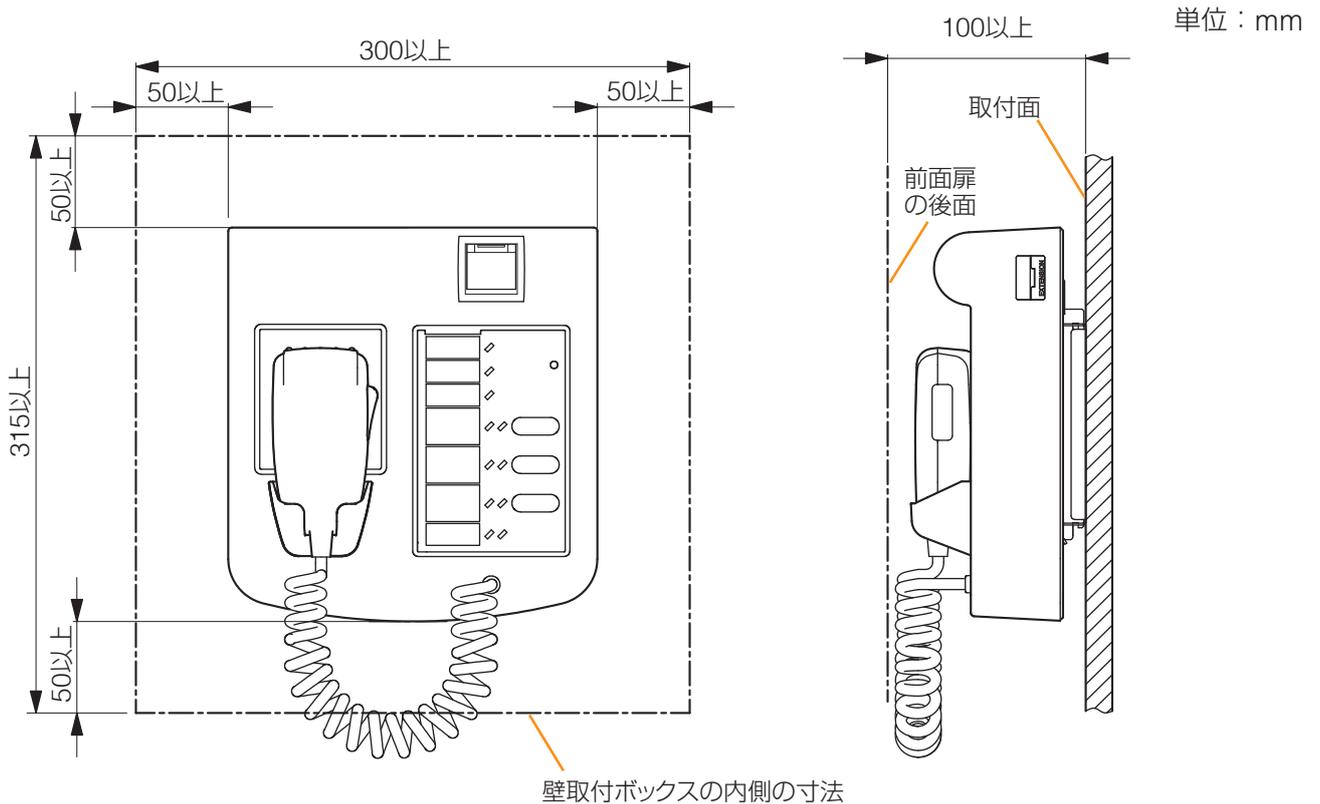
3 RM-200SF の接続ケーブルを壁掛け金具ユニットの中継端子に差し込む。

4 RM-200SF を壁掛け金具ユニットに取り付ける。



[RM-200SF を壁取付ボックスに設置する場合]

RM-200SF を壁取付ボックス（別途手配）に収納して取り付けるときは、下図のように少なくとも 300 mm（幅）× 315 mm（高さ）の大きさが必要です。



■ RM-220FW を壁に取り付ける (RM-200SF のみ)

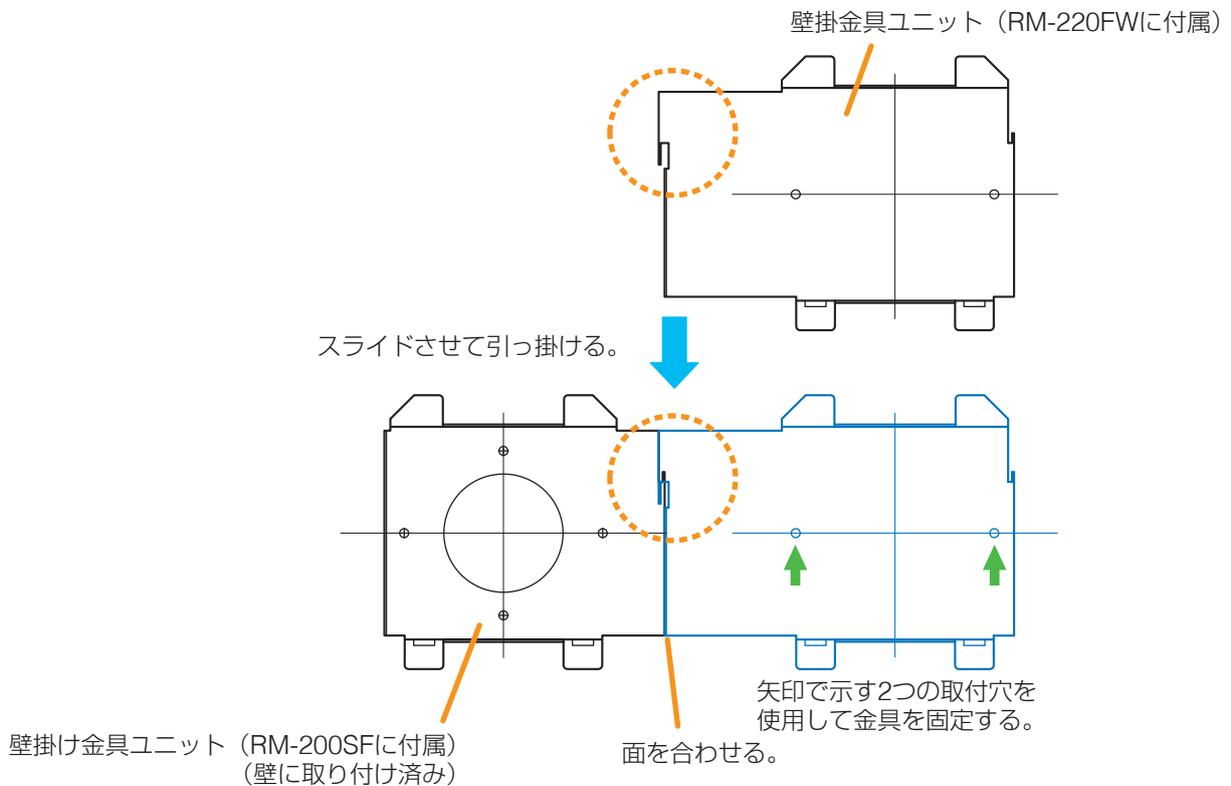
RM-220FW は壁に取り付けることができます。RM-200SF に RM-220FW を増設するときは、拡張ケーブルと連結金具を使ってお互いを連結します。1 台の RM-200SF には最大 4 台の RM-220FW を接続できます。

RM-220FW を壁に取り付けるときは、次の部品が必要です。

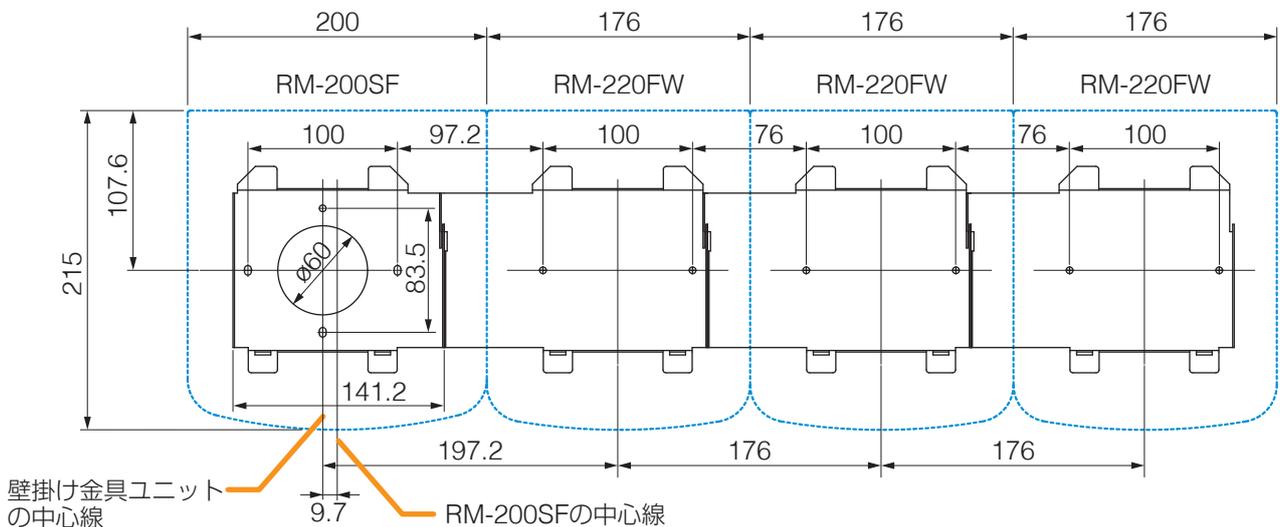
壁掛金具ユニット (RM-220FW 用)	1 (RM-220FW に付属)
タッピンねじ 4 × 25 (壁直付け用)	2 (RM-220FW に付属)

1 RM-200SF に付属の壁掛け金具ユニットを壁に取り付ける。(P. 3-40、3-41 の手順 1、2 を参照)

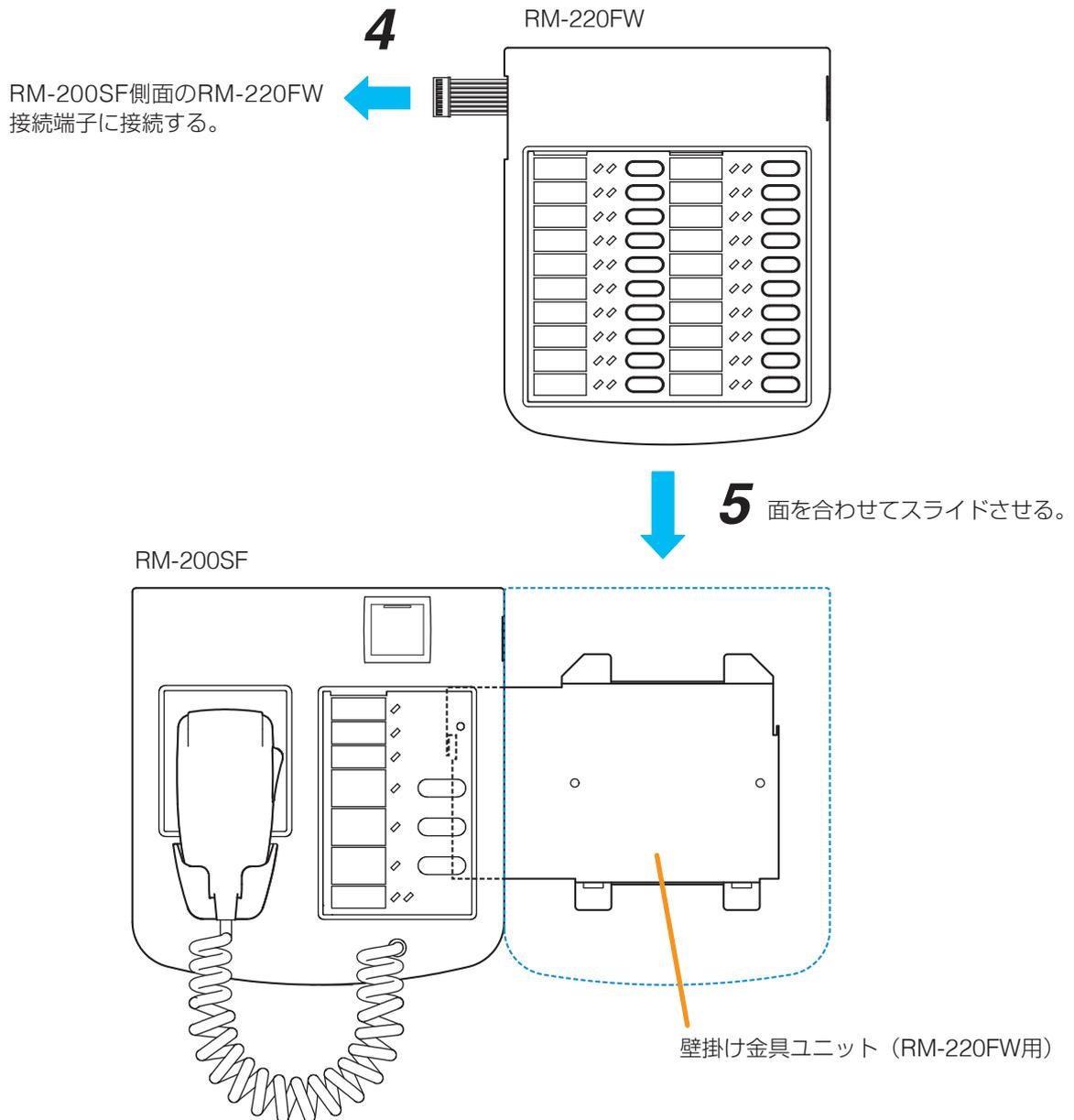
2 下図のように、RM-220FW の金具が RM-200SF の金具とぴったり合うように取り付ける。



[RM-200SF と RM-220FW の位置関係図]



- 3 RM-200SF を壁掛け金具ユニットに取り付ける。(P. 3-42 の手順 3、4 を参照)
- 4 RM-220FW のケーブルを RM-200SF の側面にある RM-220FW 接続端子に接続する。
- 5 RM-220FW の左端を RM-200SF 右端に合わせながらスライドさせて、RM-220FW 用の壁掛け金具ユニットに取り付ける。



■ RM-300XとRM-210Fの連結のしかた(卓上設置のとき)

リモートマイク拡張ユニットRM-210Fを追加してRM-300Xを拡張する場合は、RM-210に付属の拡張ケーブルと連結金具を使って連結します。

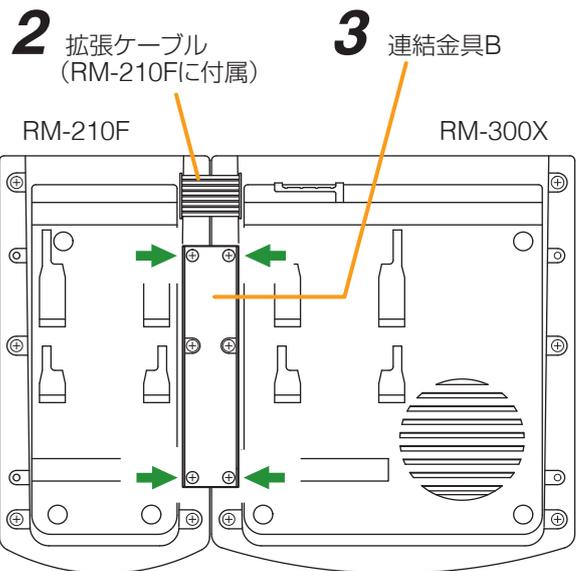
DIPスイッチでの設定が完了後、以下の手順で連結してください。

連結金具 A	2 (RM-210F に付属)
連結金具 B	1 (RM-210F に付属)
タッピンねじ 3 × 8	12 (RM-210F に付属)
拡張ケーブル	1 (RM-210F に付属)

1 RM-300XとRM-210Fを裏返して、お互いを密着させる。

2 RM-210Fに付属の拡張ケーブルで、RM-300X側面のRM-210F接続端子とRM-210F側面のRM接続端子を接続する。

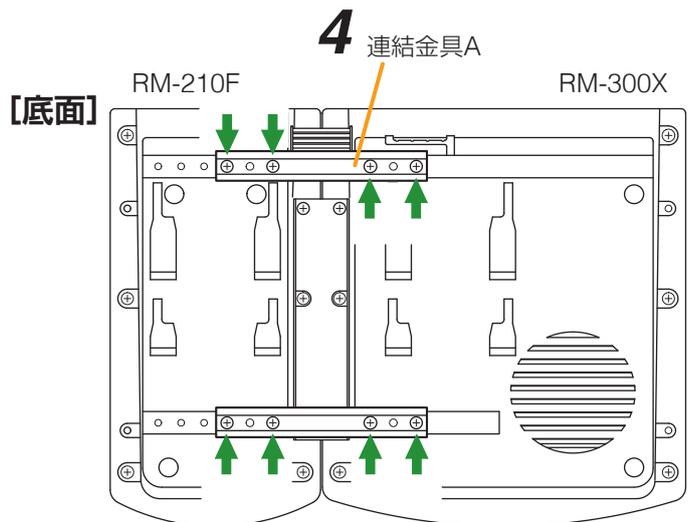
3 RM-210Fに付属の連結金具Bと付属ねじ(4本、➡)を使用して、RM-300XとRM-210Fを連結する。



4 RM-210Fに付属の連結金具A(2本)と付属ねじ(8本、➡)を使用して、RM-300XとRM-210Fをしっかりと固定する。

【ご注意】

- 連結金具Aには、予備のねじ穴が2カ所あります。指示したねじ穴が損傷している場合は、予備のねじ穴を利用して2台を連結させてください。
- 両機器の間で接続間違いやケーブルのゆるみがあれば、金具取付ねじをすべて外し、正しく接続されていることを確認して、もう一度ねじを締めて連結させてください。



※ RM-210Fをさらにもう1台RM-210Fに連結する場合も、同様の手順で行います。

■ RM-300X を壁に取り付ける

RM-300X を壁に取り付けるときは、次の部品が必要です。

リモートマイク壁掛金具 WB-RM200	1 (別売品)
小ねじ M3.5 × 20 (電工ボックス用)	2 (WB-RM200 に付属)
タッピンねじ 4 × 25 (壁直付け用)	2 (WB-RM200 に付属)

1 別売のリモートマイク壁掛金具 WB-RM200 を壁に取り付ける。

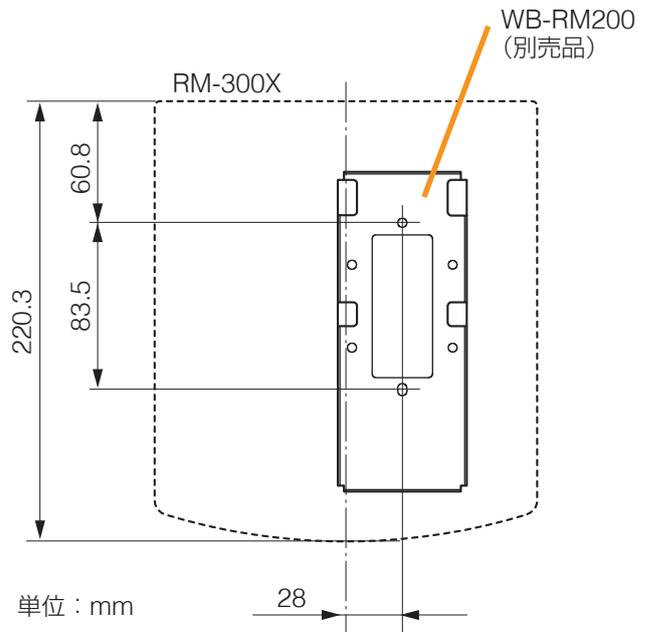
このとき、リンクケーブルを金具の切り欠き部から外に出しておきます。

※ 取付ねじは、電工ボックス用と壁直付け用の2種類がありますので、取付面に応じて使い分けてください。

警告

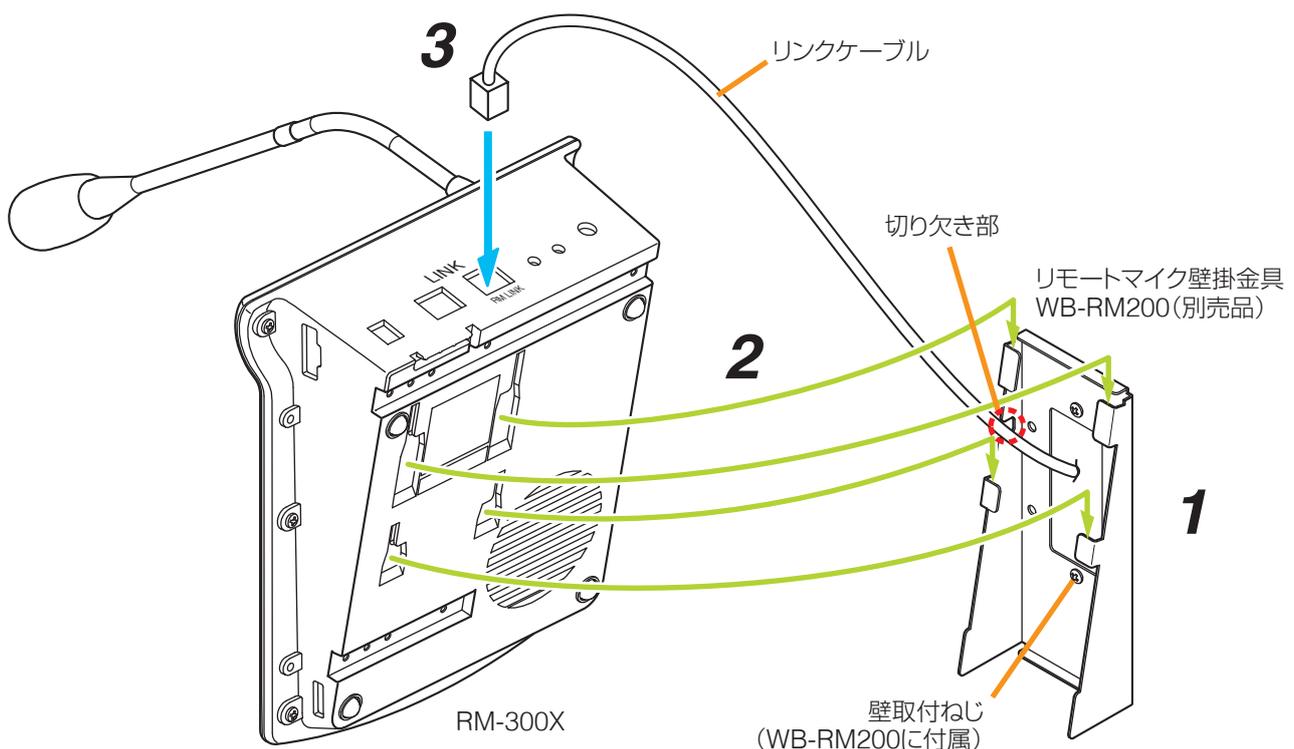
- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。
- 取付金具は、ねじを必ず2本以上使用して壁に取り付けてください。

[壁取付金具 WB-RM200 取付寸法]



2 RM-300X の底面を WB-RM200 に引っ掛ける。

3 リンクケーブルを RM-300X の RM リンク端子に接続する。



■ RM-210F を壁に取り付ける (RM-300X のみ)

RM-210F を壁に取り付けるときは、次の部品が必要です。

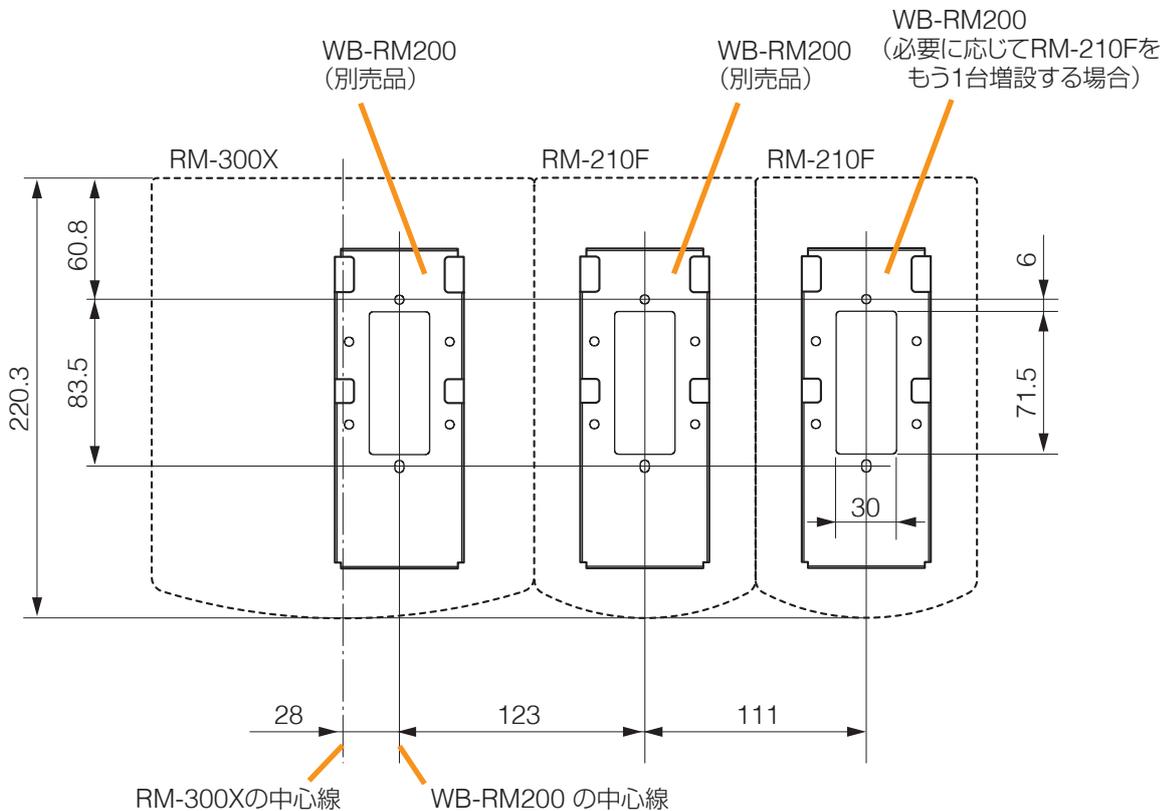
リモートマイク壁掛金具 WB-RM200	1 (別売品)
小ねじ M3.5 × 20 (電工ボックス用)	2 (WB-RM200 に付属)
タッピンねじ 4 × 25 (壁直付け用)	2 (WB-RM200 に付属)

1 RM-300X を壁に取り付ける。(P. 3-46 参照)

2 RM-210F 取り付け用の WB-RM200 を壁に取り付ける。

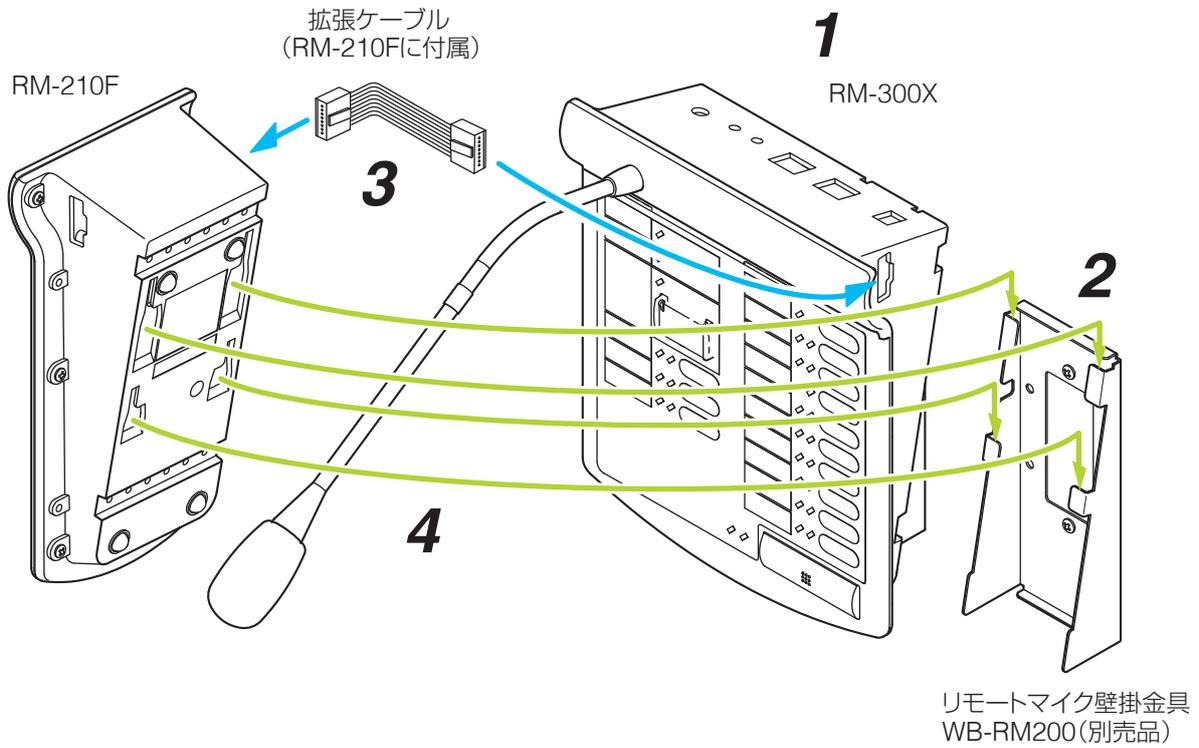
[WB-RM200 取付寸法]

単位：mm



3 RM-210F に付属の拡張ケーブルで、RM-300X 側面の RM-210F 接続端子と RM-210F 側面の RM 接続端子を接続する。

4 RM-210F の底面を WB-RM200 に引っ掛ける。



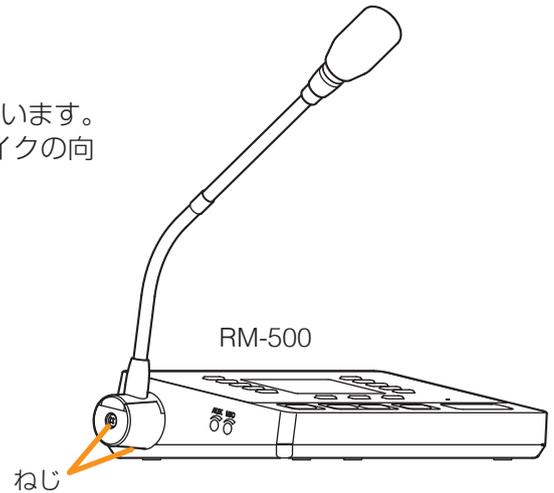
■ RM-500 を壁に取り付ける

RM-500 を壁に取り付けるときは、次の部品が必要です。

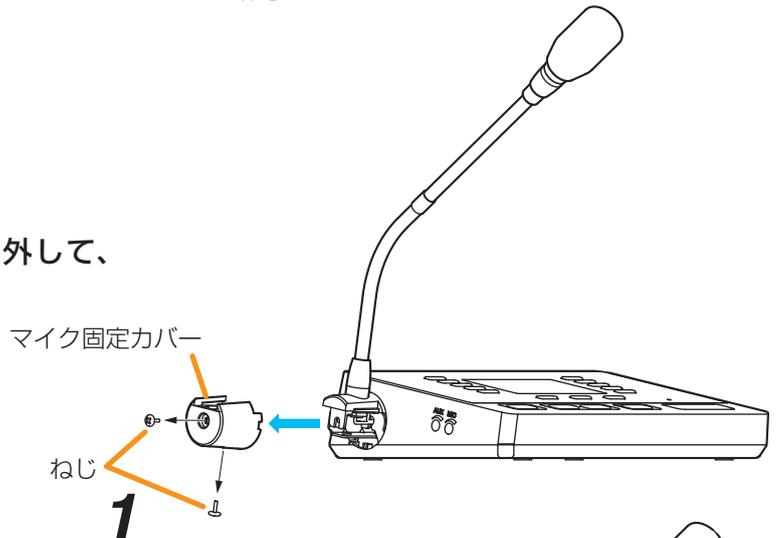
リモートマイク壁掛金具 WB-RM500	1 (別売品)
壁取付ねじ	
・タッピンねじ 4 × 25 (壁直付け用)	2 (WB-RM500 に付属)
・小ねじ M4 × 20 (電工ボックス取り付け用)	2 (WB-RM500 に付属)

● マイクの向きを変更する

工場出荷時は RM-500 のマイクは右図の向きに取り付けられています。RM-500 を壁に取り付けて使用するとき、以下の手順でマイクの向きを変更してください。



- 1** マイクを固定しているねじ 2 本を外して、マイク固定カバーを外す。



- 2** マイクを 90° 回転させる。

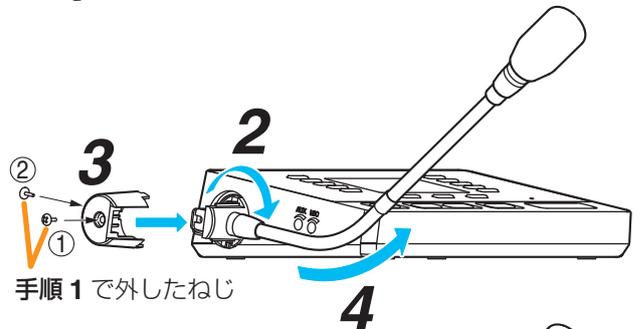
【ご注意】

指定角度以外では固定できません。
回転させるとき、線材をはさみ込まないように注意してください。
故障の原因となります。

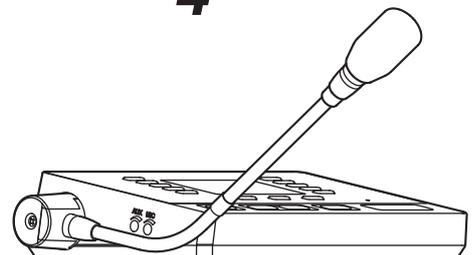
- 3** マイク固定カバーの方向を合わせて取り付け、手順 1 で外したねじ 2 本で固定する。

【ご注意】

- 必ず図の①、②の順番に取り付けてください。
- 固定するとき、ねじ穴を確認し、ねじを正しく固定してください。



- 4** マイクの曲げ方向を変える。



● RM-500 の壁掛け設置のしかた

1 WB-RM500 を壁に取り付ける。

設置場所に応じて、ねじを2本以上使用して壁に取り付けてください。

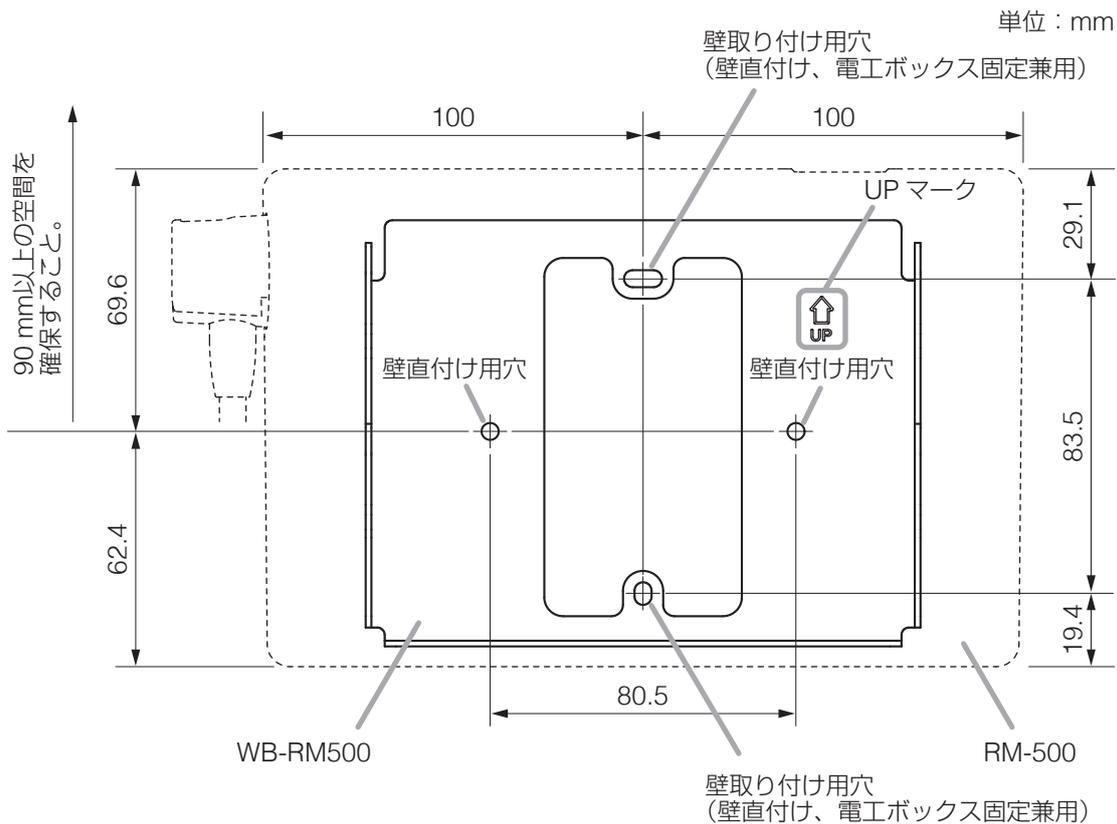
WB-RM500 には、壁直付け用としてタッピンねじ 4 × 25 (2本)、電気ボックス取り付け用として小ねじ M4 × 20 (2本) が付属されています。

警告

- 取付金具類を含む全重量に十分耐えられる強度のある所に取り付けてください。十分な強度がないと落下して、けがの原因となります。
- 取付金具は、ねじを必ず2本以上使用して壁に取り付けてください。

ご注意

- WB-RM500 の壁直付け用穴より上側に 90 mm 以上の空間を設けて設置してください。空間を設けないと、RM-500 本体を取り付けることができません。
- 下図に示す壁直付け用穴2カ所または壁取り付け用穴2カ所を使用して、しっかりと固定してください。
- WB-RM500 に刻印されている UP マークを目印に、上下方向に注意して設置してください。

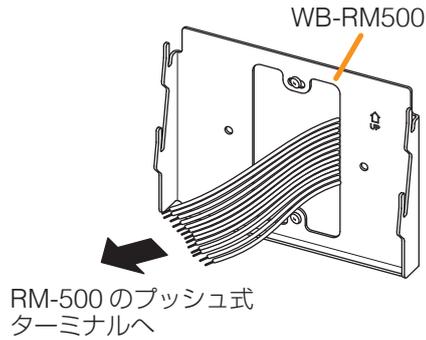


2 VX-3000F からの接続ケーブルを RM-500 に接続する。

ケーブルの配線には、壁の中を通す方法と RM-500 の上下方向から露出配線する方法があります。プッシュ式ターミナルへの接続のしかたは P. 3-57 をお読みください。

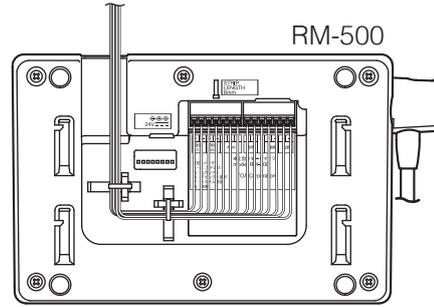
【壁の中を通して配線するとき】

壁側から WB-RM500 の開口部を通して表側に引き出し、プッシュ式ターミナルに接続してください。



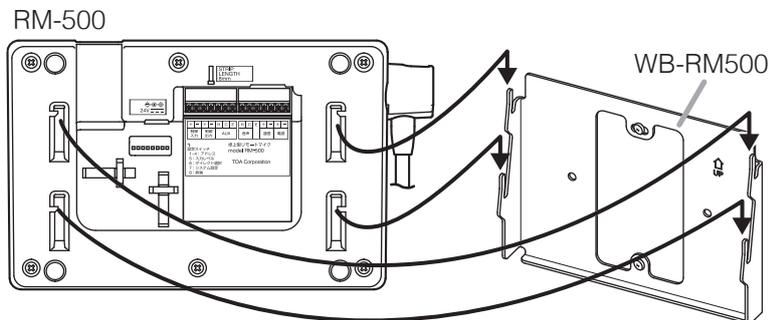
【露出配線するとき】

RM-500 のプッシュ式ターミナルに接続した後、RM-500 と WB-RM500 のすき間を通して引き出してください。



3 RM-500 を WB-RM500 に取り付ける。

RM-500 の壁掛金具取付穴 4 カ所を WB-RM500 の突起部 4 カ所に合わせ、4 カ所ともしっかりと奥まで挿入してください。



【ご注意】

取り付け後、4 カ所すべてが正しく挿入され、緩みやがたつきがないことを確認してください。

■ リモートマイクの表示ラベルの取り付け (RM-200SF、RM-220FW、RM-300XとRM-210Fのみ)

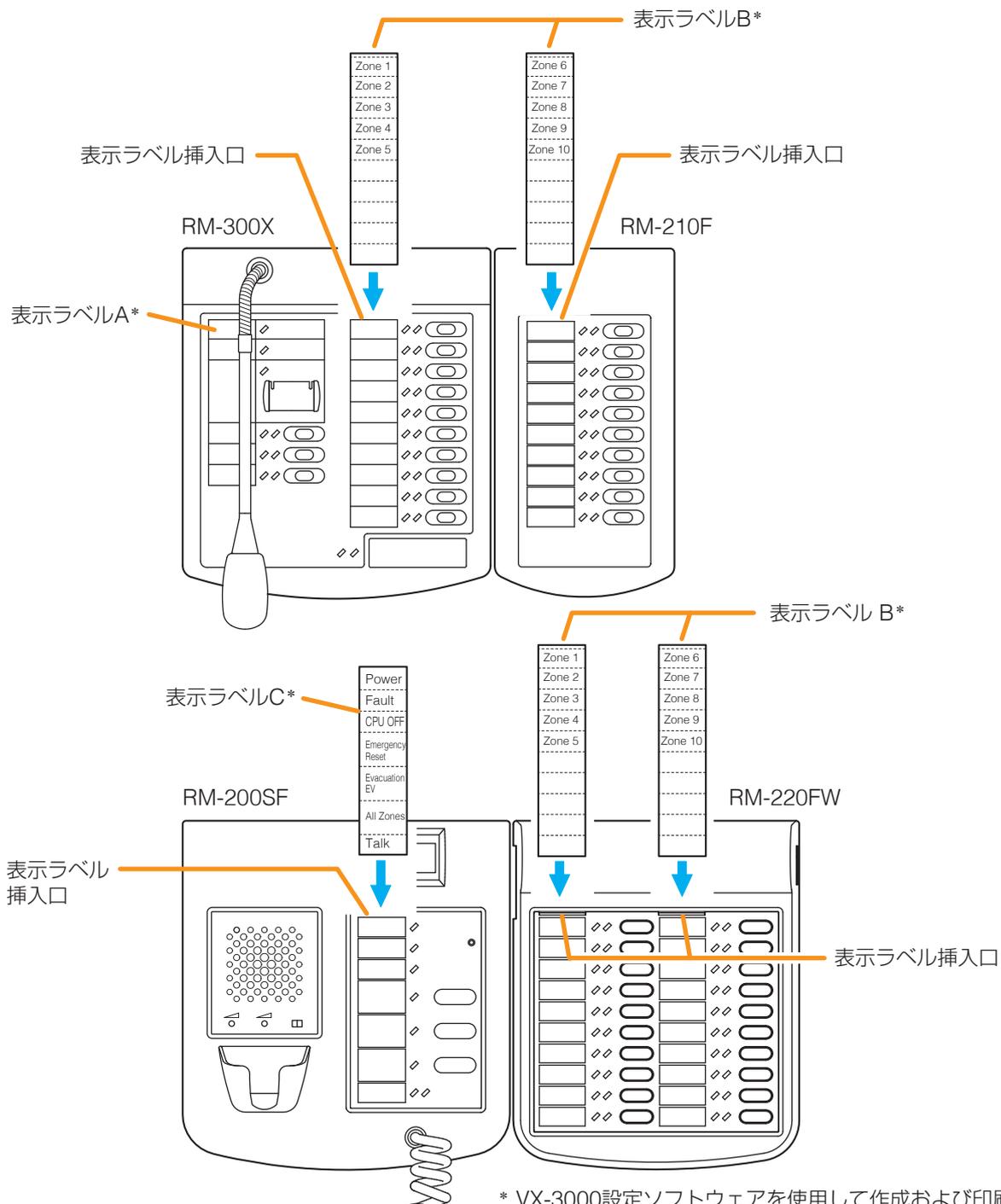
VX-3000 設定ソフトウェアを使って、RM-200SF、RM-220FW、RM-300X と RM-210F の機能キーに割り当てた名称を印刷できます。

印刷後、はさみで切り取り、表示ラベルとして使用します。表示ラベルは、厚さ 0.2 mm 以下の紙を使用してください。

※ VX-3000 設定ソフトウェアによる表示ラベルの作りかた、および印刷のしかたについては、別冊のソフトウェア取扱説明書「リモートマイクの表示ラベルを印刷する」をお読みください。

[表示ラベルを挿入する]

- 指定のサイズに切り取った表示ラベルを、挿入口からしっかりと差し込みます。
- ラベルを取り出すときは、刃物の先端などを使って挿入口から引き出します。



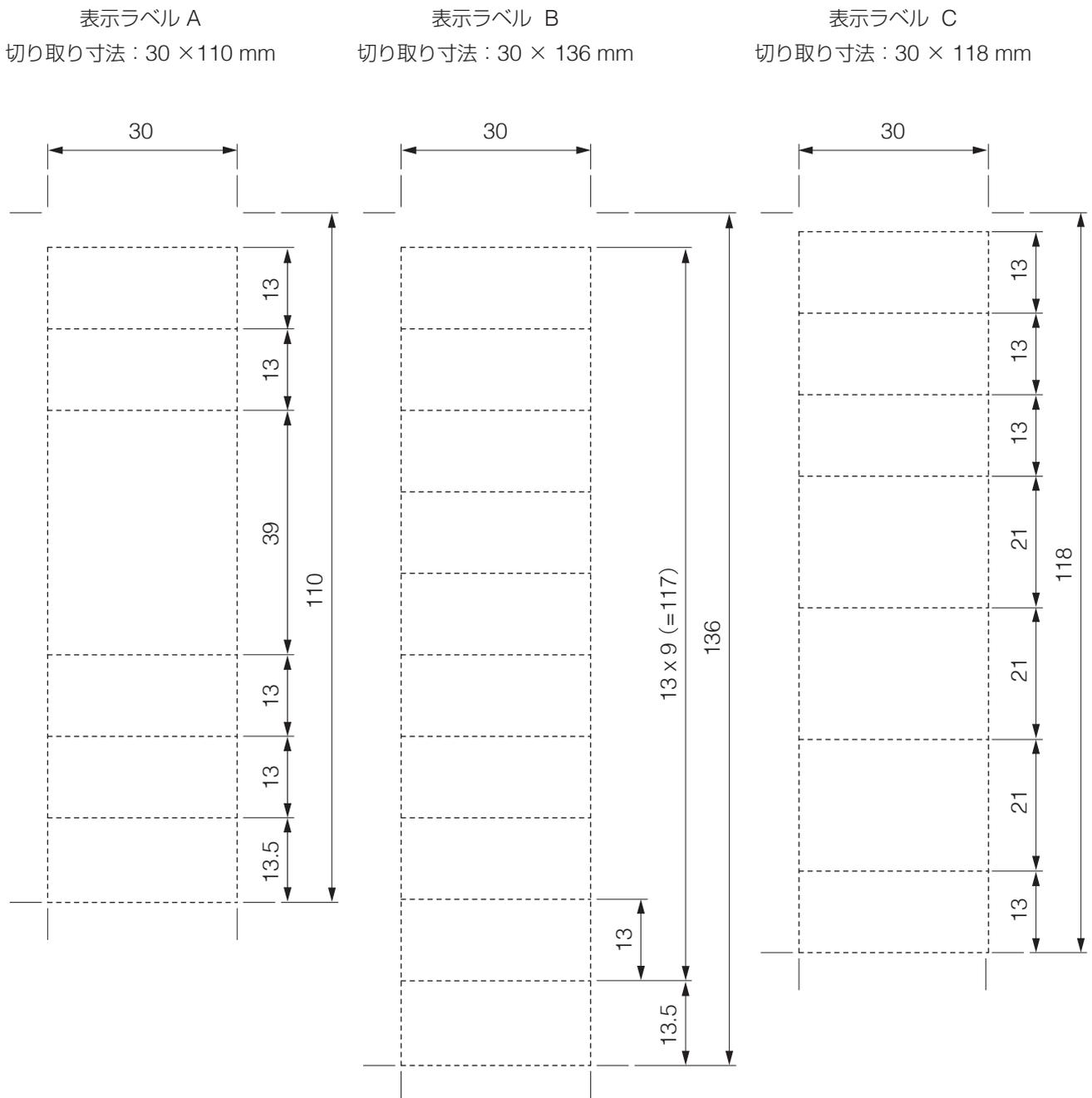
* VX-3000設定ソフトウェアを使用して作成および印刷します。

● 表示ラベルが正しく印刷されない場合

パソコンの設定環境によっては、VX-3000 設定ソフトウェアを使って作成した表示ラベルが正しいサイズで印刷されないことがあります。そのときは、以下の方法で表示ラベルを作成してください。

- (1) 手書きで作成する場合
 P.3-54 の「手書き用コピー台紙」を厚さ 0.2 mm 以下の紙にコピーし、表示内容を記入して、ガイドラインに合わせて切り取ってください。
- (2) パソコンで作成する場合
 以下の「表示ラベル寸法図」に従って作成し、厚さ 0.2 mm 以下の紙に印刷して、指定寸法に切り取ってください。

【表示ラベル寸法図】

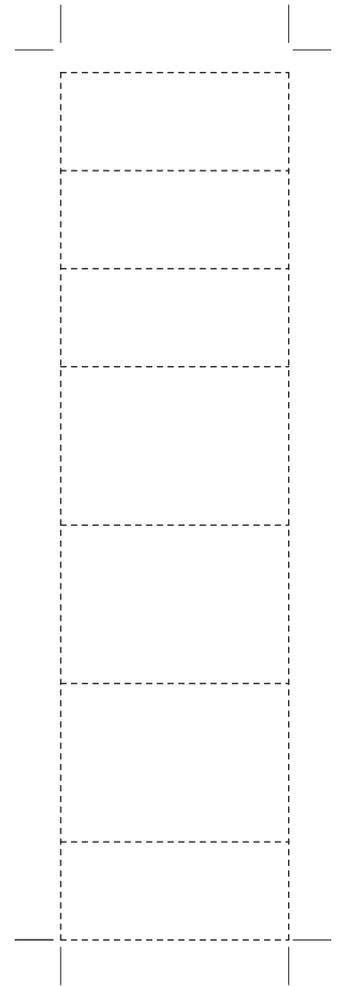
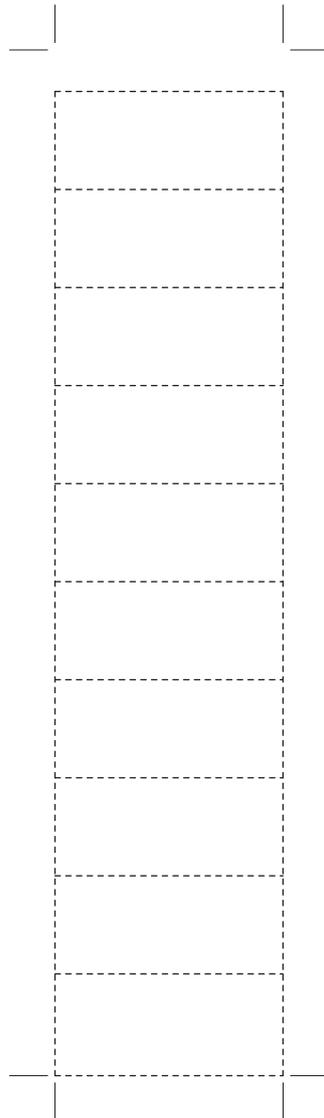
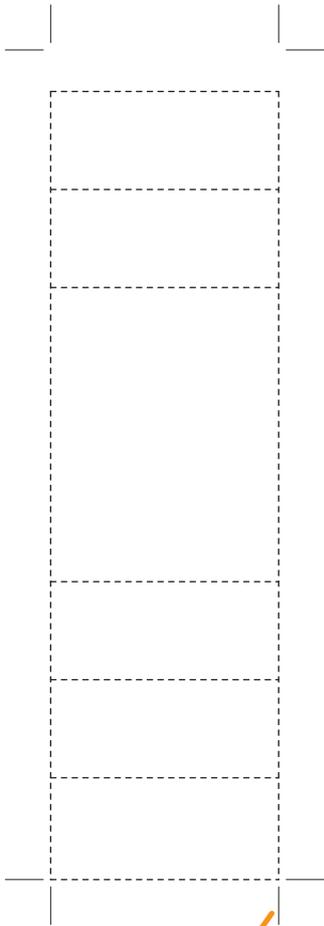


[手書き用コピー台紙]

表示ラベル A

表示ラベル B

表示ラベル C



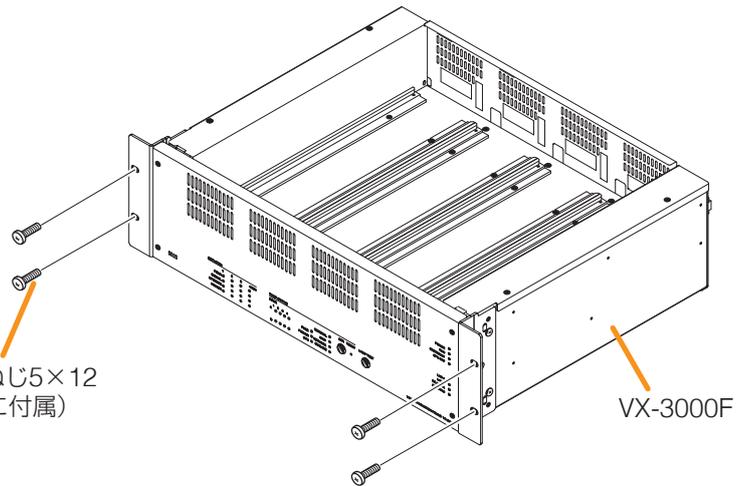
切り取り用ガイドライン

実寸で表示

ラックへの取り付けかた

注意

付属のラック取付ねじは、当社のラック専用です。他のラックには使用しないでください。ラックに合ったねじをご使用ください。守らないと、火災・けがの原因となることがあります。



【通気パネルの取り付け】

以下の位置には、必ず通気パネル PF-013B を取り付けてください。

- 連続した2台の VX-3000F の上
- 1台の VX-3000AD の上下
- キャビネットラックの最上部と最下部

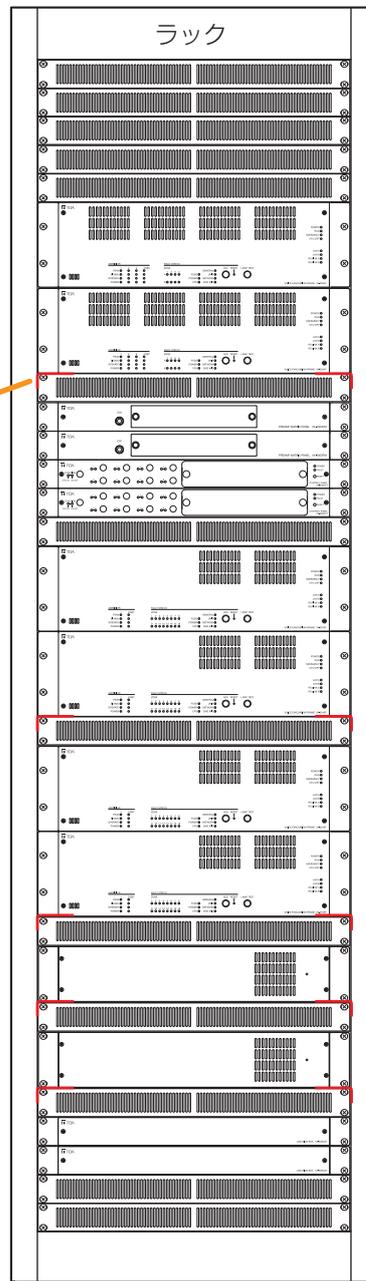
【ガイドレールの取り付け】

以下の位置には、必ずガイドレールを取り付けてください。

- 連続した2台の VX-3000F の下側
- 1台の VX-3000AD の下側

(例)

ガイドレール



1	PF-013B	
2	PF-013B	
3	PF-013B	
4	PF-013B	
5	PF-013B	
6		
7	VX-3004F	
8		
9		
10	VX-3004F	
11		ガイドレール
12	PF-013B	
13	VX-3000PM	
14	VX-3000PM	
15	VX-3000CT	
16	VX-3000CT	
17	PF-013B	
18		
19	VX-3008F	
20		
21		
22	VX-3008F	
23		ガイドレール
24	PF-013B	
25		
26	VX-3016F	
27		
28		
29	VX-3016F	
30		ガイドレール
31	PF-013B	
32		
33	VX-3000AD	ガイドレール
34	PF-013B	
35		
36	VX-3000AD	ガイドレール
37	PF-013B	
38	VX-3000JB	
39	VX-3000JB	
40	PF-013B	
41	PF-013B	

【接続端子盤パネルの取り付け】

接続端子盤パネル VX-3000JB は、以下の機器よりも下側に配置してください。

- VX-3000F
- VX-3000AD
- VX-3000PM
- VX-3000CT

接続のしかた

■ 着脱式ターミナルプラグの接続

ご注意

- 精密ドライバー、時計ドライバーは使用しないでください。
ねじ締め付けのとき、トルクが十分にかからず接触不良になる可能性があります。
- より線、シールド線を使用するときは、むきしろ部分にはんだめっきをしないでください。
線材を締め付けたときに、はんだスズが破砕し接触抵抗が高くなるため、接続部の温度が異常に上昇することがあります。
- 1つの端子に2本の線材を接続する場合や信号線を接続する場合などに心線がばらけるのを防ぐためには、絶縁スリーブ付き棒端子で圧着してください。

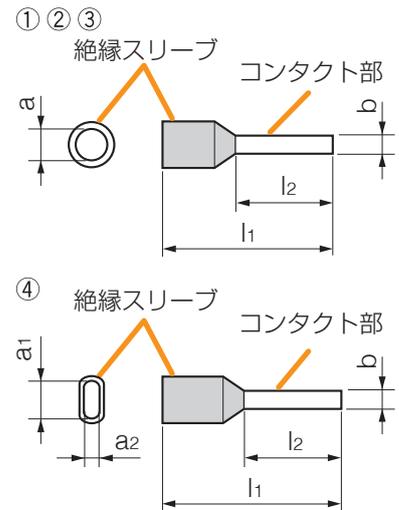
推奨棒端子：信号線用（DINKLE ENTERPRISE 製）

	品番	a	b	l ₁	l ₂
①	DN00308D	1.9 mm	0.8 mm	12 mm	8 mm
②	DN00508D	2.6 mm	1 mm	14 mm	8 mm

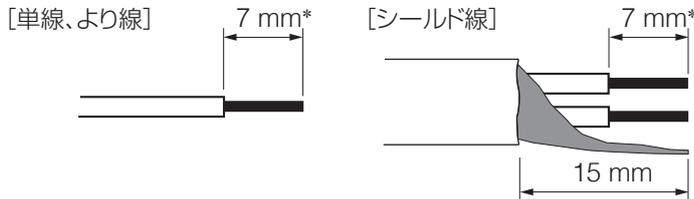
推奨棒端子：電源線用（DINKLE ENTERPRISE 製）

	品番	a	a ₁	a ₂	b	l ₁	l ₂
③	DN01508D	3.5 mm	—	—	1.7 mm	14 mm	8 mm
④	DN01508B	—	6.6 mm	3.6 mm	2.3 mm	16 mm	8 mm

かしめ工具：DNT01-2206B4（DINKLE ENTERPRISE 製）



● 線材のむきしろ



* 絶縁スリーブ付き棒端子を使用する場合は 8 mm 以上とし、はみ出た分はカットしてください。

● 配線手順

※ 以下は、固定ねじ付きの手順です。

1 着脱式ターミナルプラグに線材を接続する。

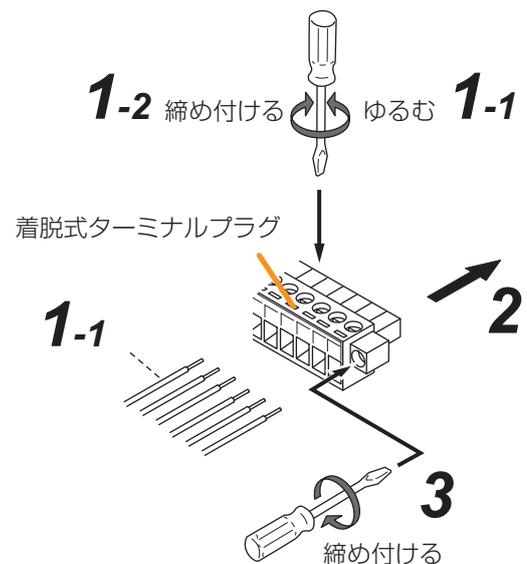
1-1 端子ねじをゆるめて、線材を差し込む。

1-2 端子ねじをしっかりと締め付ける。

線材を引っ張って抜けないことを確認してください。
抜けたら、端子ねじをゆるめてやり直してください。

2 プラグを機器側のターミナルブロックに差し込む。

3 固定ねじを締め付ける。

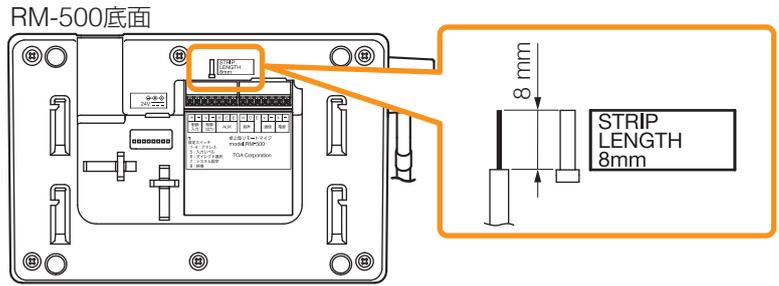


ご注意

- 手順の 1 と 2 を逆にしないでください。端子ねじを締め付けるときに、ボードとの接続部のコネクターピンに力が加わり、接触不良になる恐れがあります。
- ターミナルプラグを抜くときは、まっすぐ引き抜いてください。斜め方向に無理に引き抜くと、ターミナルプラグまたはターミナルブロックの破損の原因となります。

■ プッシュ式ターミナルの接続のしかた (RM-500のみ)

- 1** 線材の被覆を 8 mm むく。
RM-500 底面にあるストリップゲージを使用してください。



- 2** 線材を接続する。

2-1 単線の場合

プッシュ式ターミナルの穴に線材を差し込み、被覆の根元まで押し込みます。

[推奨線材]

銅単線 $\phi 0.4 \sim 1.1$ mm (AWG28 ~ 17)

2-2 より線の場合

先端を棒端子で圧着してください。

[推奨棒端子]

メーカー	型番	仕様
Weidmuller	H0,75/14T HBL	8 mm 14 mm
フェニックス・コンタクト	AI 0.75-8 BU - 320027	

[推奨ハーネス]

AWG18 以下

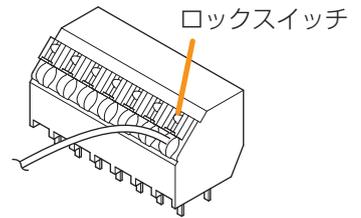
プッシュ式ターミナル上部のロックスイッチを押し、被覆の根元まで押し込みます。線材を押し込んだままロックスイッチから手を離します。

ご注意

ロックスイッチは、必要以上に強く押さないでください。

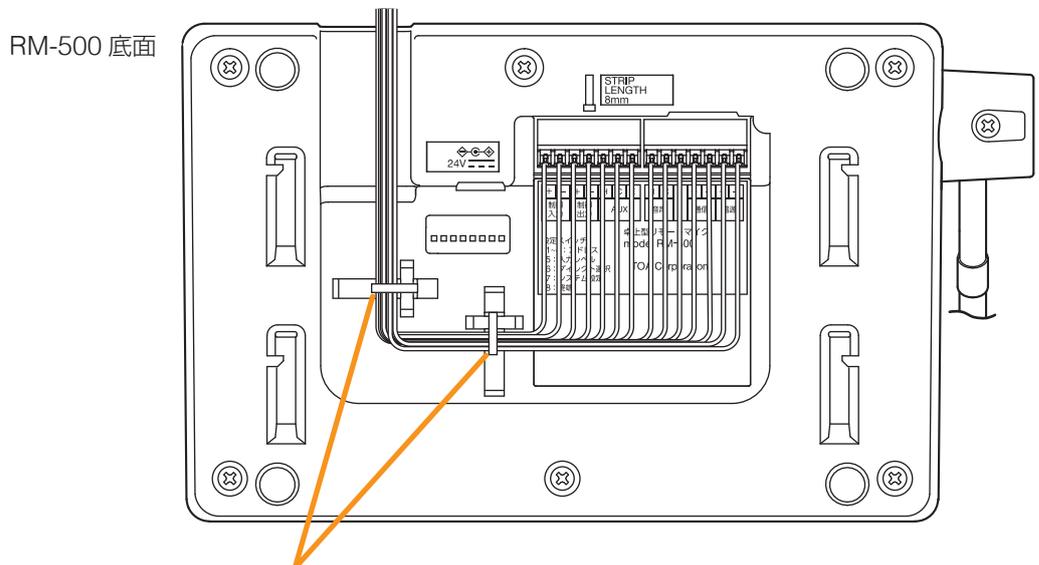
メモ

線材を外すときは、ロックスイッチを押したまま、線材を引き抜きます。



- 3** すべての端子に接続し終わったら、線材を結束バンドで束ねる。

卓上に設置するときは、RM-500 が線材に押されて浮かないよう、下図のように底面に固定してください。



RM-500 に付属の結束バンドで、配線用固定穴に線材を束ねて固定

■ 入力機器の接続

● リモートマイクの接続

● VX-3000Fには2チャンネルのRSリンク端子が装備されています。リモートマイクはどちらかの端子に接続します。

接続可能なユニットの数には以下のような制限があります。

(1) 1台のVX-3000Fには、最大で8台のRM-200SF、RM-300X、またはRM-500を接続できます。

(2) RSリンク端子には、最大で4台のRM-200SF、RM-300X、またはRM-500を接続できます。

ただし、VX-3000Fから電源を供給できるのは2台までです。3台目以降のリモートマイクにはACアダプターまたはVX-3000ADが必要です。

(3) 各RSリンク端子からの最大ケーブル長は1200mです。

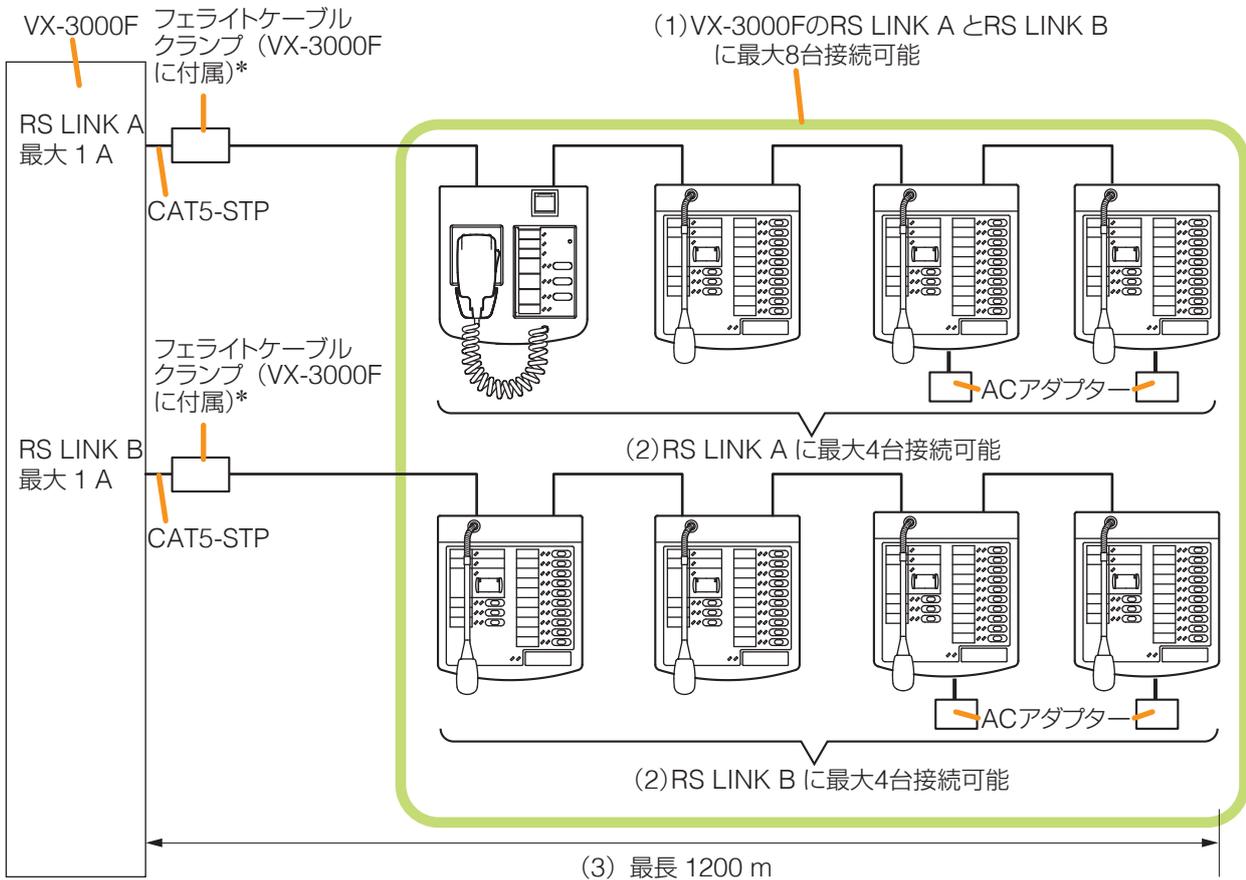
ご注意

● RM-500をVX-3000Fに接続するときは、必ずVX-3000JBを介して接続してください。

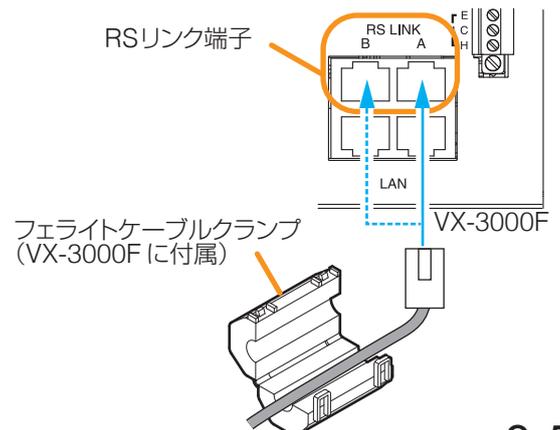
● RM-500をRM-200SFまたはRM-300Xが接続されているRSリンク端子に接続する場合は、RM-500のID番号を7で使うことができません。

RM-500のID番号を0から6の間で設定してください。

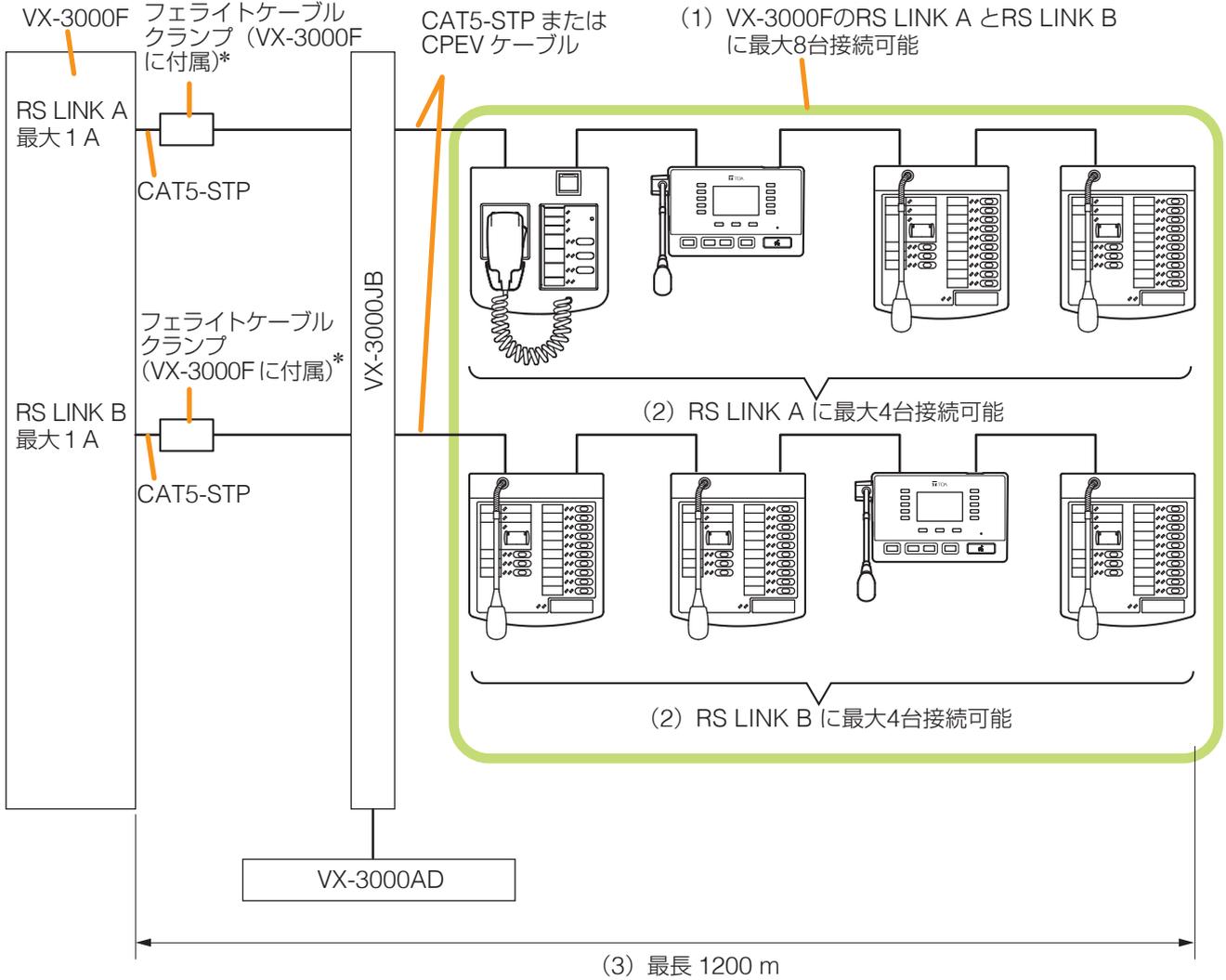
[接続例1]



* フェライトケーブルクランプの取り付け
電磁ノイズを低減するために、VX-3000FのRSリンク端子から20cm以内の位置に、付属のフェライトケーブルクランプをシールド付きカテゴリ5ツイストペアケーブル上に取り付けます。



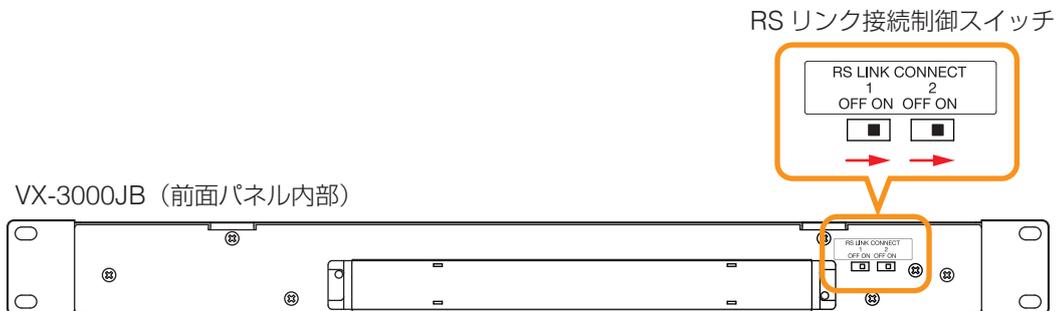
[接続例 2]



ご注意

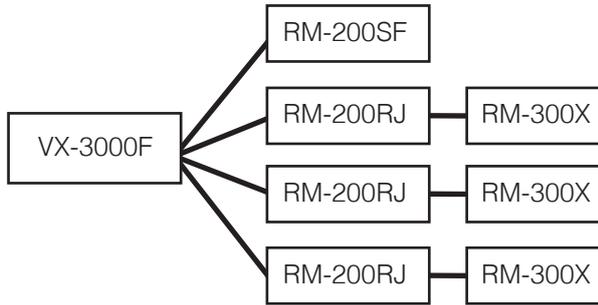
以下の場合、該当する RS リンク接続制御スイッチを ON 側にしてください。

- ・ VX-3000JB とリモートマイク RM-200SF または RM-300X 間をシールドなしのケーブルで接続する場合
- ・ VX-3000JB とリモートマイク RM-500 を接続する場合

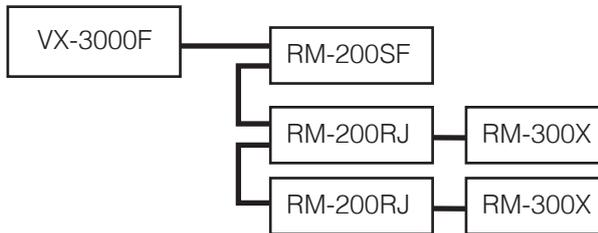


- 複数のリモートマイクをRSリンク端子に接続するときは、RM-200RJ か、RM-200SF に付属の壁取付金具を使って配線を分岐してください。

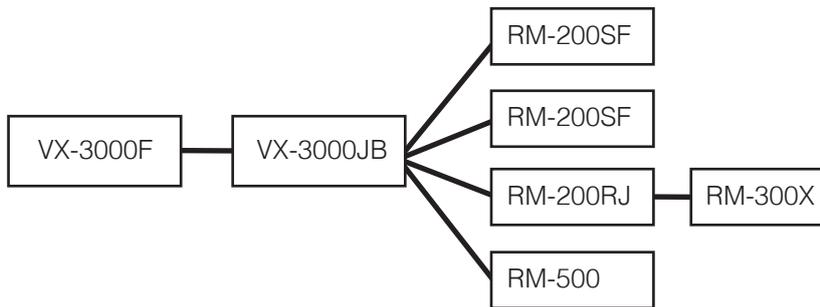
(複数のリモートマイクを接続する場合：例 1)



(複数のリモートマイクを接続する場合：例 2)

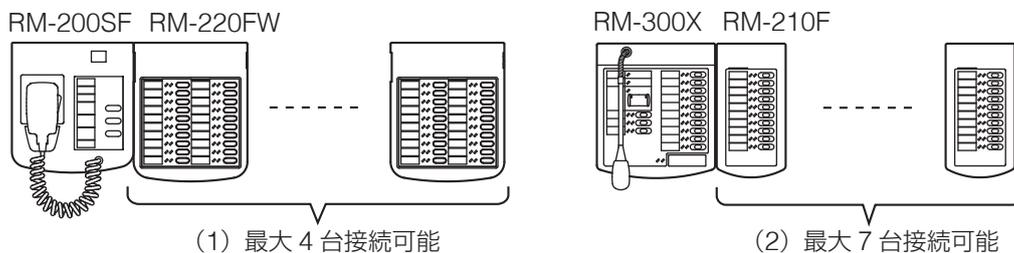


(複数のリモートマイクを接続する場合：例 3)



- RM-200SF および RM-300X に拡張ユニットを接続すると、機能キーの数を増やすことができます。

- (1) RM-200SF に RM-220FW を最大 4 台接続できます。
- (2) RM-300X に RM-210F を最大 7 台接続できます。



ご注意

- VX-3000F から電源を供給できるリモートマイクの台数には、VX-3000F またはリモートマイクの構成による制限があります。(P.3-61)
- VX-3000F から電源を供給できないリモートマイクには、AD-246 または VX-3000AD が必要です。停電中でもリモートマイクを使いたい場合は、VX-3000AD が必要です。(P.3-61)

● 電源とリモートマイクの数制限

システムに接続可能なリモートマイクの数には以下のとおりです。

- VX-3000F には RM-200SF を最大 8 台、RM-300X を最大 8 台、RM-500 を最大 8 台、3 機種合計で最大 8 台を接続できます。
- RM-200SF には RM-220FW を最大 4 台、RM-300X には RM-210F を最大 7 台接続できます。

リモートマイクへの電源供給方法は、システムの用途と構成、そしてリモートマイクのタイプによって異なります。

システム構成では、VX-3000F に接続できるマイクの台数が制限されることがあります。

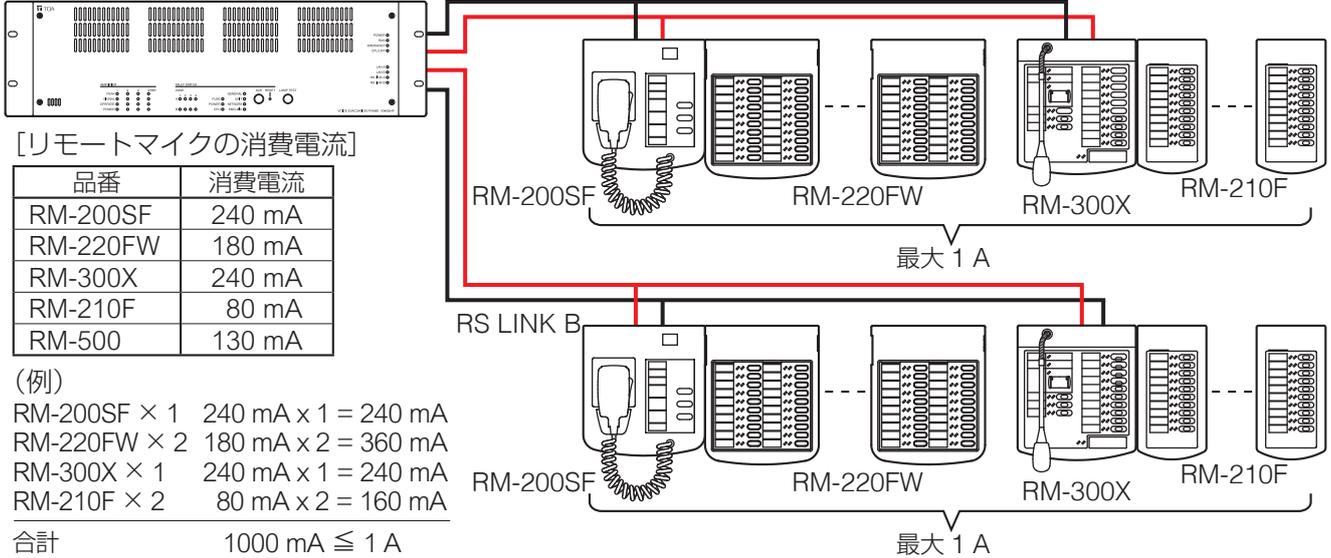
[リモートマイクへの電源供給]

【ご注意】

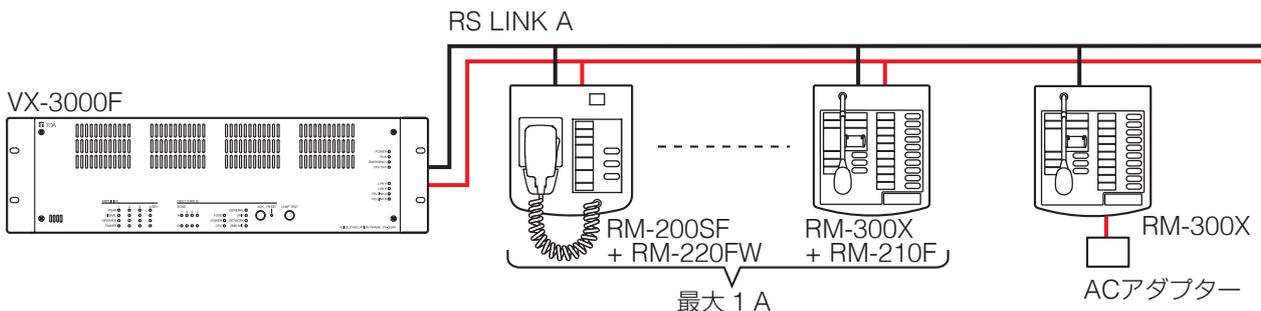
赤い線は、直流電源線です。黒い線は他の制御線です。

- VX-3000F の RS リンク A および B それぞれの最大供給電力は、1 A です。
各 RS リンク端子に接続するリモートマイクの合計消費電流は、1 A 以下にしてください。
AC アダプターまたは VX-3000AD から電源が供給されていないときは、各 RS リンク端子に接続可能なリモートマイクは、RM-200SF、RM-300X、または RM-500 を組み合わせて最大 2 台です。

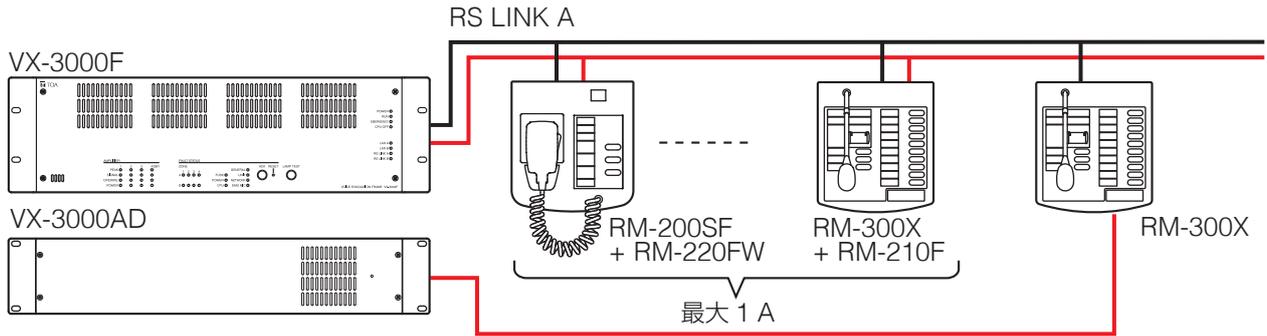
VX-3000F



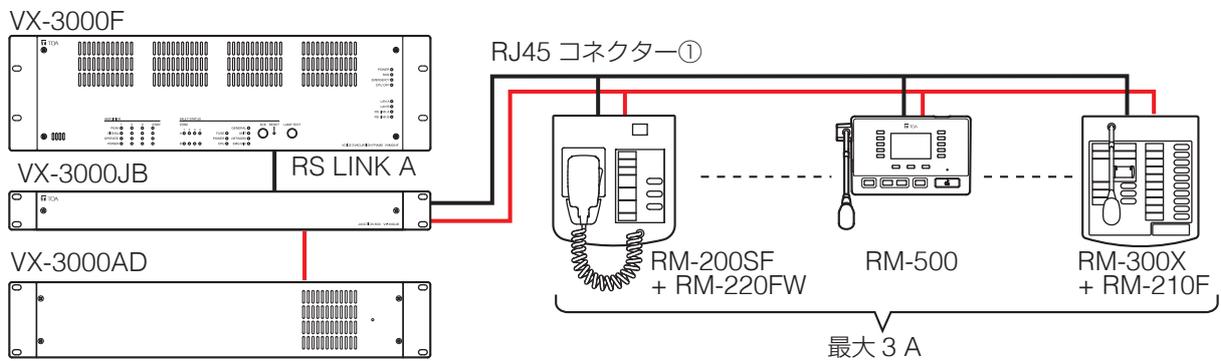
- 各 RS リンク端子に接続するリモートマイクの合計消費電流が 1 A を超える場合は、超過電流分を補償するために AC アダプターまたは VX-3000AD を追加する必要があります。
- 停電中にリモートマイクを使用しない場合は、AC アダプターを使用して電源を供給することができます。



- 停電中にリモートマイクを使用する場合は、VX-3000AD を使用して電源を供給してください。



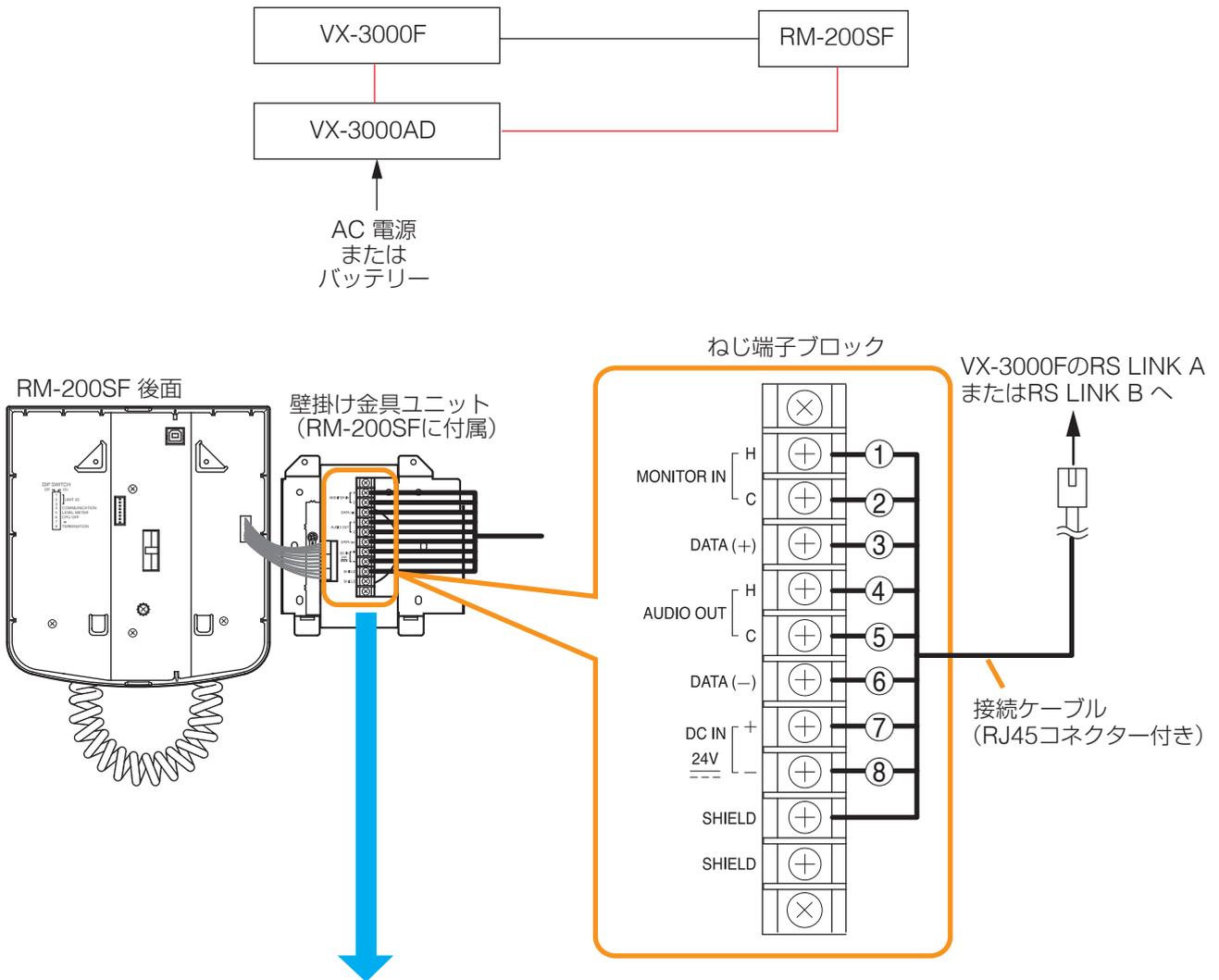
- VX-3000JB を使用するとき、各 RJ45 コネクターに接続するリモートマイクの合計消費電流が 1 A を超える場合は、VX-3000AD を追加してください。VX-3000AD を追加すると、合計消費電流 3 A まで電源を供給することができます。



● RM-200SF の接続

RM-200SF を VX-3000F の RS リンク端子の A または B どちらかに接続します。
ケーブルの最長距離は、電源の供給方法によって異なります。

[VX-3000AD とともに使用されている VX-3000F から電源が供給されているとき]



壁掛け金具ユニット (RM-200SFに付属)	RJ45 ピン No.	線 色 (T568B の場合)	線 色 (T568A の場合)
MONITOR IN (H)	①	橙／白	緑／白
MONITOR IN (C)	②	橙	緑
DATA (+)	③	緑／白	橙／白
AUDIO OUT (H)	④	青	青
AUDIO OUT (C)	⑤	青／白	青／白
DATA (-)	⑥	緑	橙
DC IN 24 V (+)	⑦	茶／白	茶／白
DC IN 24 V (-)	⑧	茶	茶
SHIELD	Shield	—	—

● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	181 m	102 m	70 m	53 m	43 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	299 m	168 m	116 m	88 m	71 m
ø0.9 mm	581 m	328 m	227 m	172 m	138 m
ø1.2 mm	1029 m	581 m	401 m	305 m	244 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

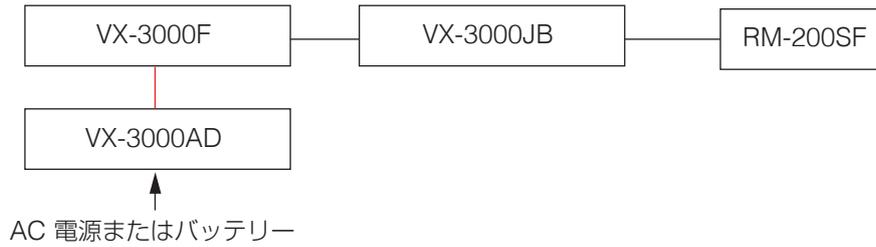
次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	92 m	51 m	35 m	26 m	20 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	152 m	85 m	58 m	43 m	34 m
ø0.9 mm	296 m	165 m	112 m	84 m	66 m
ø1.2 mm	524 m	292 m	199 m	149 m	118 m

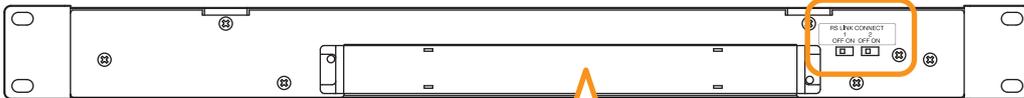
[VX-3000JBを経由して、VX-3000ADとともに使用されているVX-3000Fから電源が供給されているとき]



- シールド付きケーブルの場合は下図のように接続し、RS リンク接続制御スイッチを OFF 側（工場出荷時の設定）にします。
- シールドなしのケーブルの場合は、RS リンク接続制御スイッチを ON 側にします。

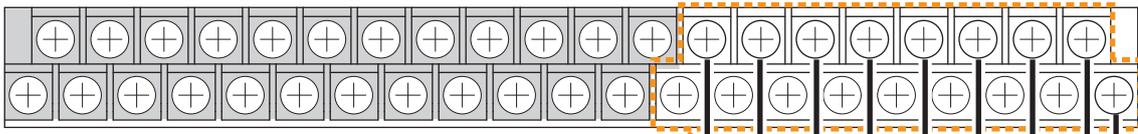


VX-3000JB 前面パネル内部

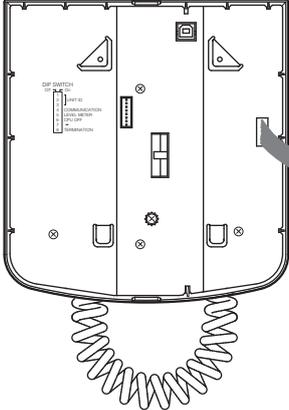


VX-3000JB ねじ端子部

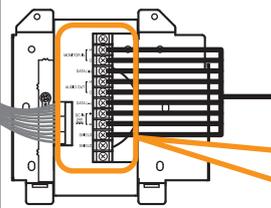
スピーカー1			スピーカー2			スピーカー3			スピーカー4			RJ45コネクタ①								
N	R	C	N	R	C	N	R	C	N	R	C	1	2	3	4	5	6	7	8	
スピーカー5			スピーカー6			スピーカー7			スピーカー8			RJ45コネクタ②								EC
N	R	C	N	R	C	N	R	C	N	R	C	1	2	3	4	5	6	7	8	



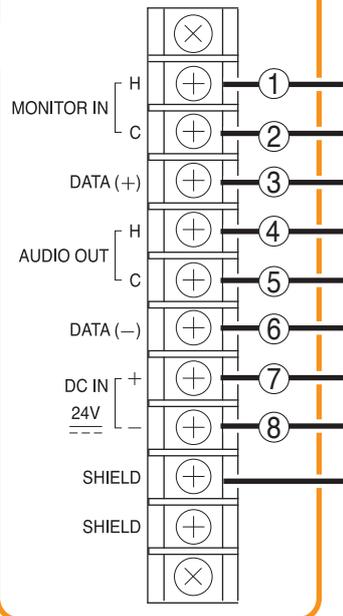
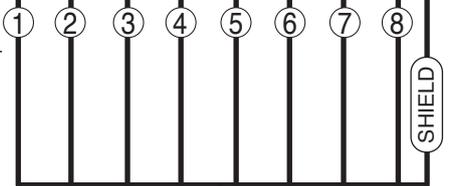
RM-200SF 後面



壁掛け金具ユニット (RM-200SFに付属)



RJ45コネクタ 接続端子



● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	178 m	99 m	67 m	50 m	40 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	294 m	164 m	112 m	83 m	66 m
ø0.9 mm	572 m	319 m	217 m	163 m	129 m
ø1.2 mm	1013 m	565 m	385 m	289 m	228 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

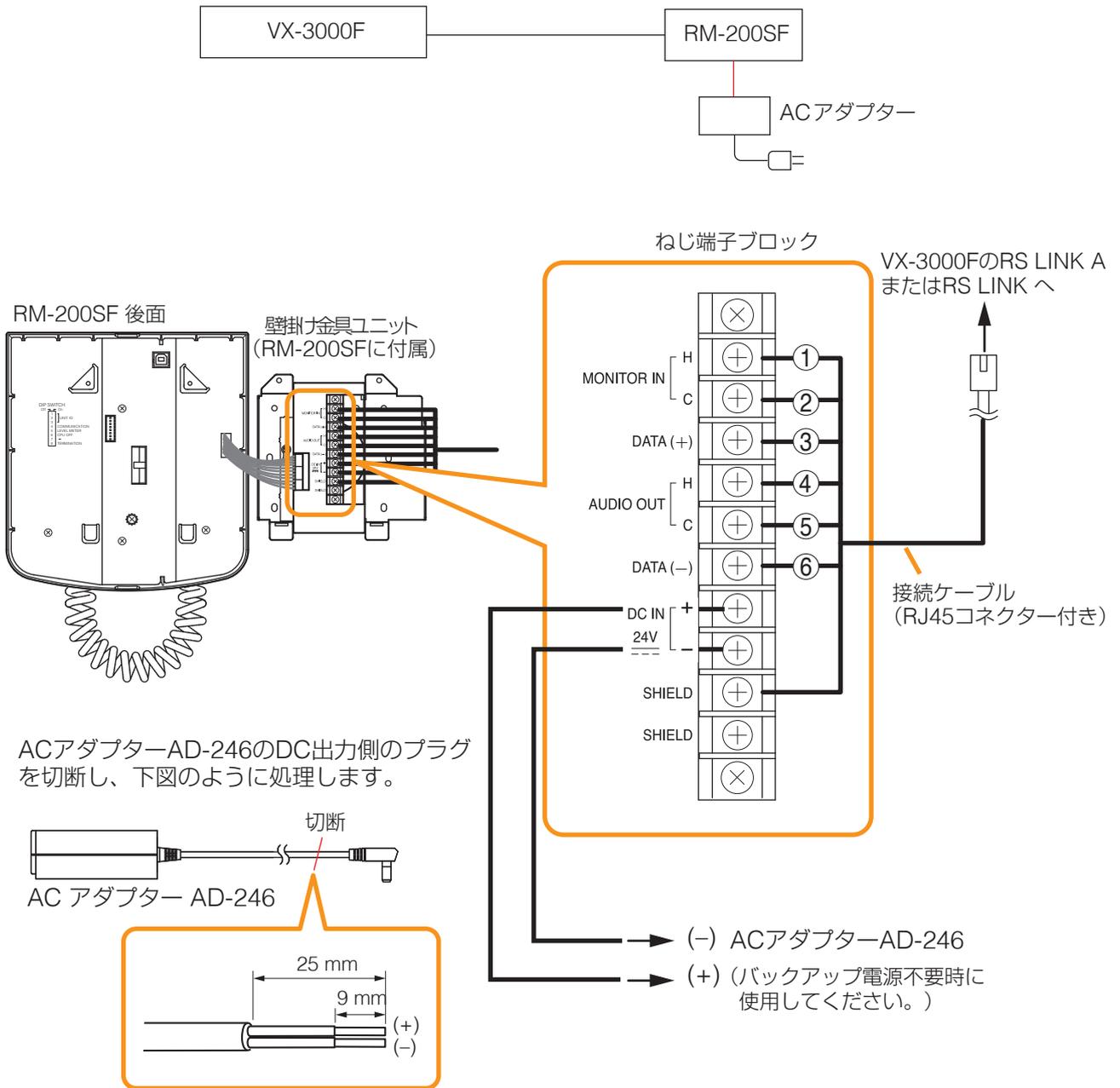
次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	89 m	48 m	32 m	23 m	18 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	147 m	80 m	53 m	38 m	29 m
ø0.9 mm	287 m	156 m	103 m	75 m	57 m
ø1.2 mm	508 m	276 m	183 m	133 m	102 m

[ACアダプターから電源が供給されているとき]

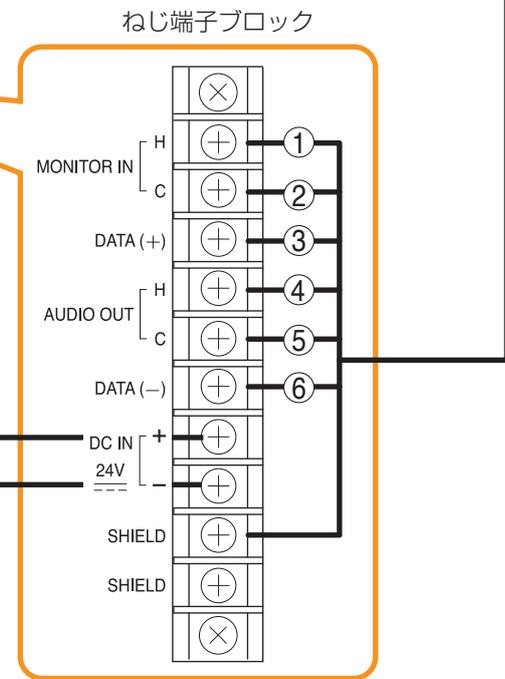
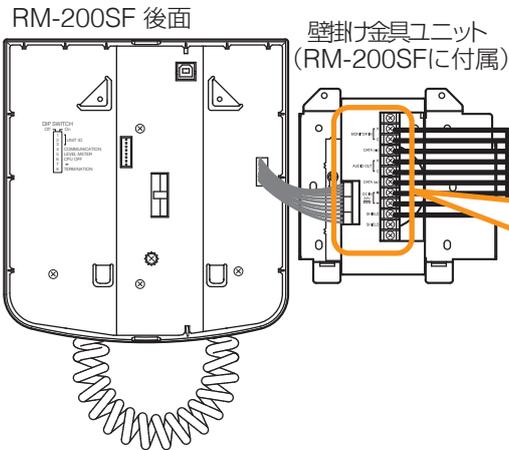
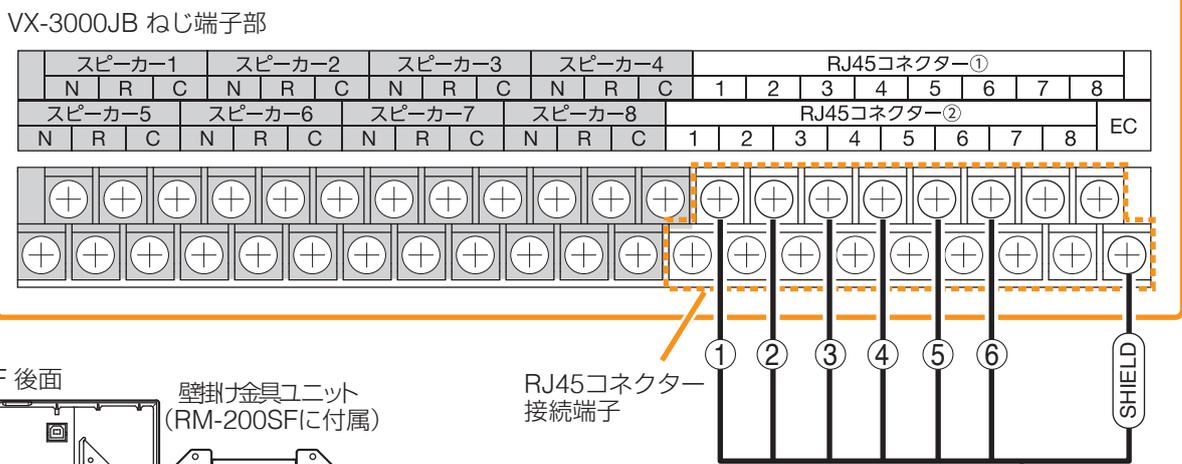
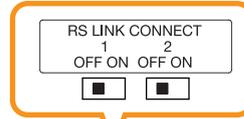


RM-200SFとVX-3000F間の通信ケーブル（電源線を除く）に、STP カテゴリー5ストレートケーブルまたは4対以上のシールド付きCPEV線を使用しているときは、システム内の最長ケーブル距離は合計で1200 mです。

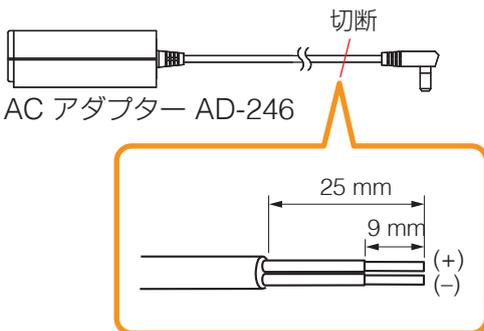
[VX-3000JB を使用し、AC アダプターから電源が供給されているとき]



- シールド付きケーブルの場合は下図のように接続し、RS リンク接続制御スイッチを OFF 側（工場出荷時の設定）にします。
- シールドなしのケーブルの場合は、RS リンク接続制御スイッチを ON 側にします。



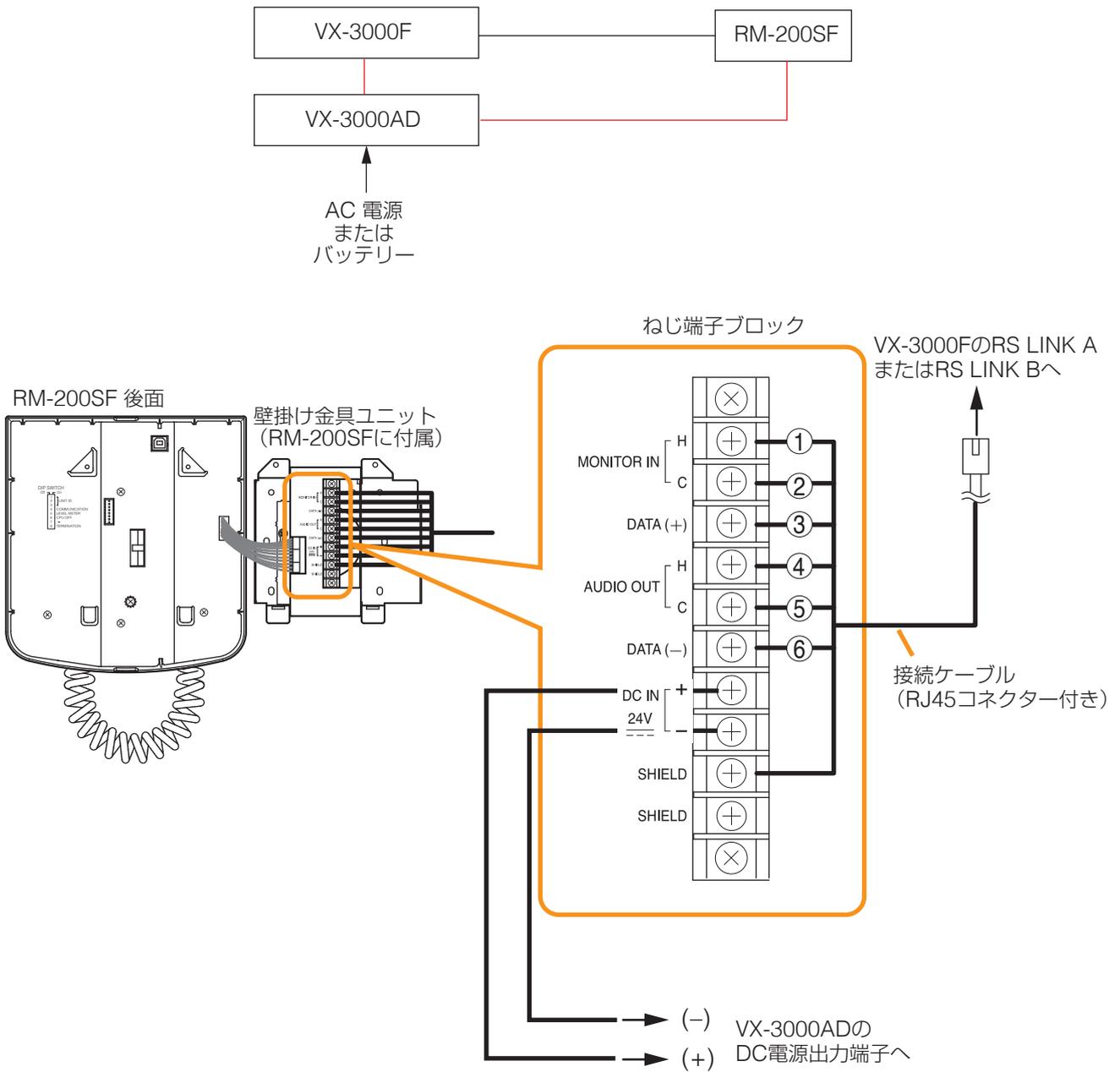
ACアダプターAD-246のDC出力側のプラグを切断し、下図のように処理します。



(-) ACアダプターAD-246
 (+) (バックアップ電源不要時に使用してください。)

RM-200SFとVX-3000F間の通信ケーブル（電源線を除く）に、STP カテゴリー5ストレートケーブルまたは4対以上のシールド付きCPEV線を使用しているときは、システム内の最長ケーブル距離は合計で1200 mです。

[VX-3000AD から電源が供給されているとき]



RM-200SF と VX-3000F 間の通信ケーブル（電源線を除く）に、STP カテゴリー5 ストレートケーブルまたは4対以上のシールド付き CPEV 線を使用しているときは、システム内の最長ケーブル距離は合計で1200 mです。

● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

RM-200SF と VX-3000AD 間の電源ケーブルの最長距離は次のとおりです。

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	199 m	114 m	79 m	61 m	49 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	330 m	188 m	132 m	101 m	82 m
ø0.9 mm	642 m	366 m	256 m	197 m	160 m
ø1.2 mm	1136 m	649 m	454 m	349 m	284 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

RM-200SF と VX-3000AD 間の電源ケーブルの最長距離は次のとおりです。

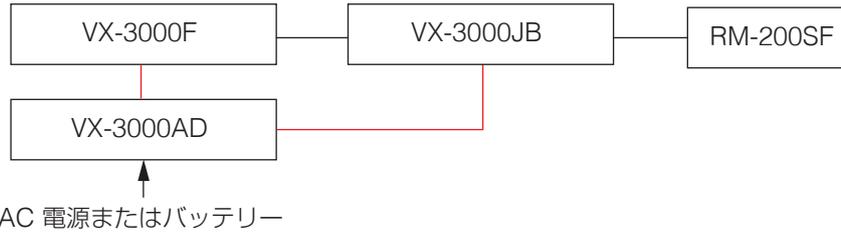
次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	111 m	63 m	44 m	34 m	27 m

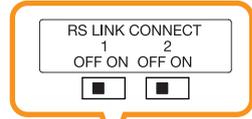
上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	183 m	104 m	73 m	56 m	45 m
ø0.9 mm	356 m	203 m	142 m	109 m	89 m
ø1.2 mm	631 m	360 m	252 m	194 m	157 m

[VX-3000JB を使用し、VX-3000AD から電源が供給されているとき]



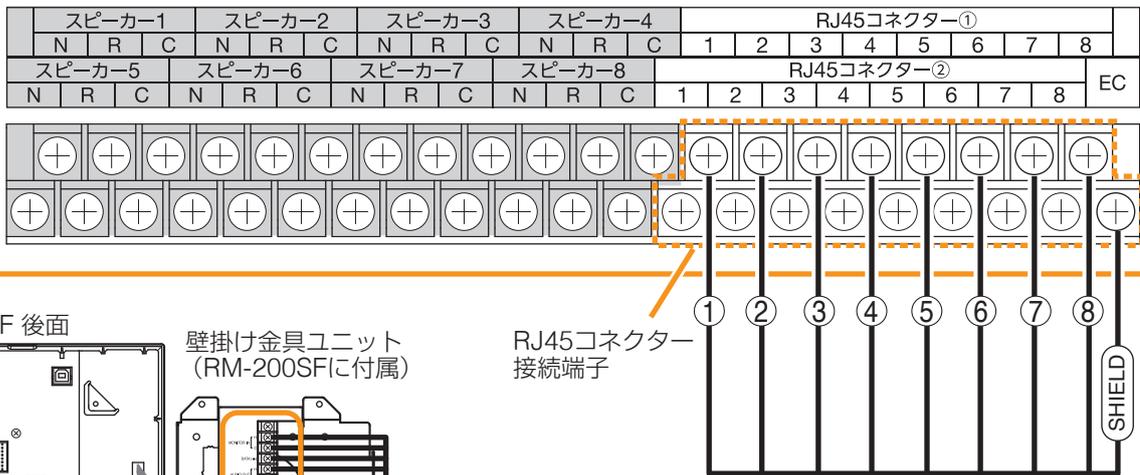
- シールド付きケーブルの場合は下図のように接続し、RS リンク接続制御スイッチを OFF 側（工場出荷時の設定）にします。
- シールドなしのケーブルの場合は、RS リンク接続制御スイッチを ON 側にします。



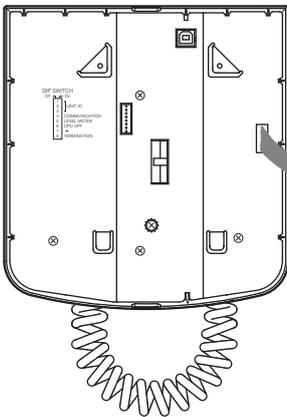
VX-3000JB 前面パネル内部



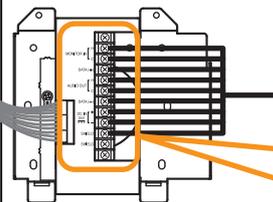
VX-3000JB ねじ端子部



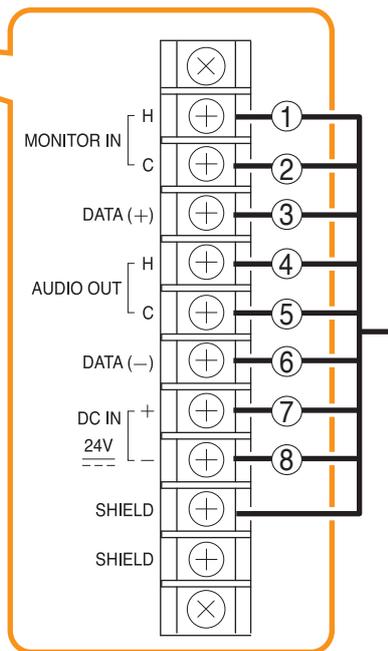
RM-200SF 後面



壁掛け金具ユニット (RM-200SFに付属)



RJ45コネクタ 接続端子



ねじ端子ブロック

● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	197 m	111 m	77 m	59 m	47 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	326 m	184 m	128 m	97 m	78 m
ø0.9 mm	634 m	359 m	249 m	190 m	153 m
ø1.2 mm	1123 m	636 m	441 m	336 m	271 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

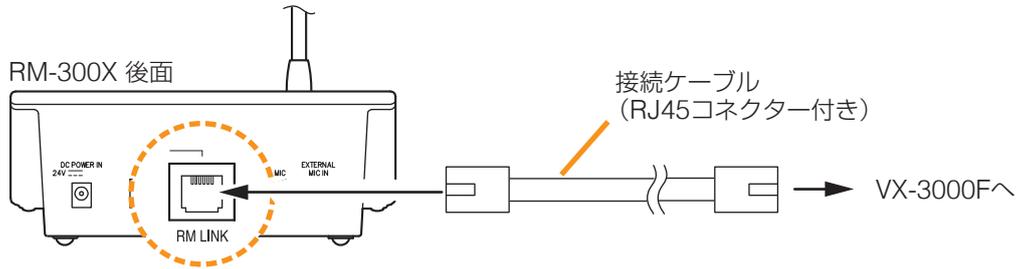
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
STP カテゴリー 5	108 m	61 m	42 m	31 m	25 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

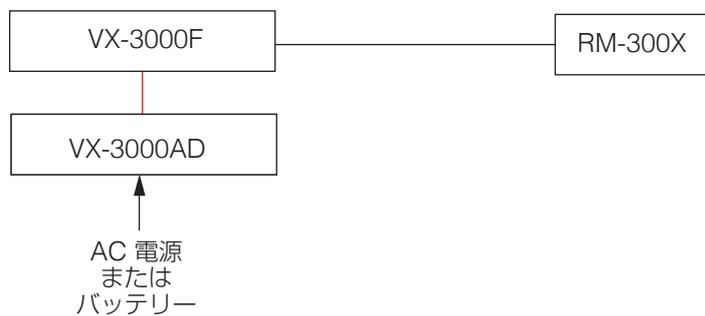
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-200SF のみ	RM-200SF + RM-220FW × 1	RM-200SF + RM-220FW × 2	RM-200SF + RM-220FW × 3	RM-200SF + RM-220FW × 4
ø0.65 mm	179 m	101 m	69 m	52 m	42 m
ø0.9 mm	349 m	196 m	135 m	102 m	81 m
ø1.2 mm	618 m	347 m	239 m	181 m	144 m

● RM-300X の接続

RM-300X を VX-3000F の RS リンク接続端子の A または B どちらかに接続します。ケーブルの最長距離は、電源の供給方法によって異なります。



[VX-3000AD とともに使用されている VX-3000F から電源が供給されているとき]



● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクター付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5		181 m	135 m	107 m	89 m
ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5		75 m	66 m	58 m	52 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。

( P. 3-75)

CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm		299 m	223 m	177 m	147 m
∅0.9 mm		581 m	434 m	345 m	286 m
∅1.2 mm		1029 m	768 m	611 m	506 m
ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm		125 m	109 m	96 m	86 m
∅0.9 mm		243 m	212 m	187 m	167 m
∅1.2 mm		431 m	375 m	331 m	297 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	92 m	68 m	54 m	44 m
拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	37 m	32 m	28 m	25 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。
 P. 3-75

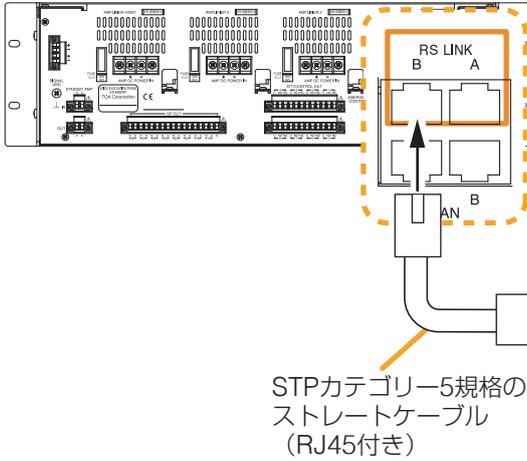
CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	152 m	113 m	89 m	73 m
∅0.9 mm	296 m	220 m	174 m	143 m
∅1.2 mm	524 m	389 m	308 m	253 m
拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	62 m	54 m	47 m	42 m
∅0.9 mm	121 m	105 m	92 m	82 m
∅1.2 mm	215 m	186 m	163 m	145 m

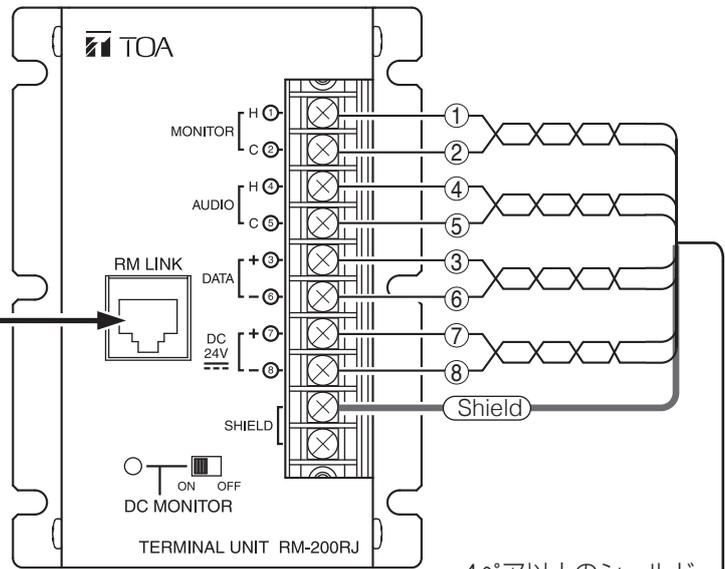
×モ

- シールド付き CPEV 線を使用するときは、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル (RJ45 付き) と CPEV 線の配線変換を行う RJ45 端子盤 RM-200RJ を用います。
1 と 2、4 と 5、3 と 6、7 と 8 をペアとし、RM-200RJ の同じ端子同士を接続します。

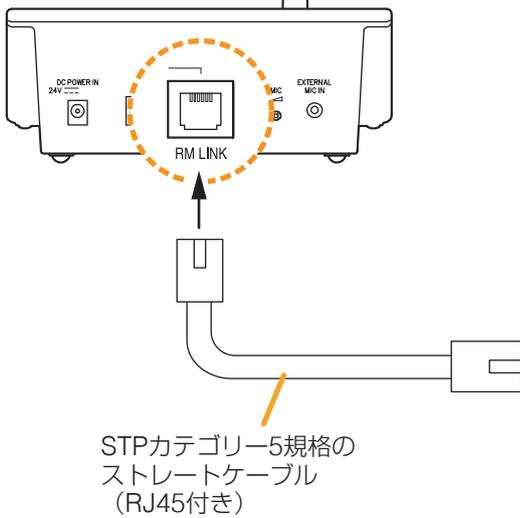
VX-3000F



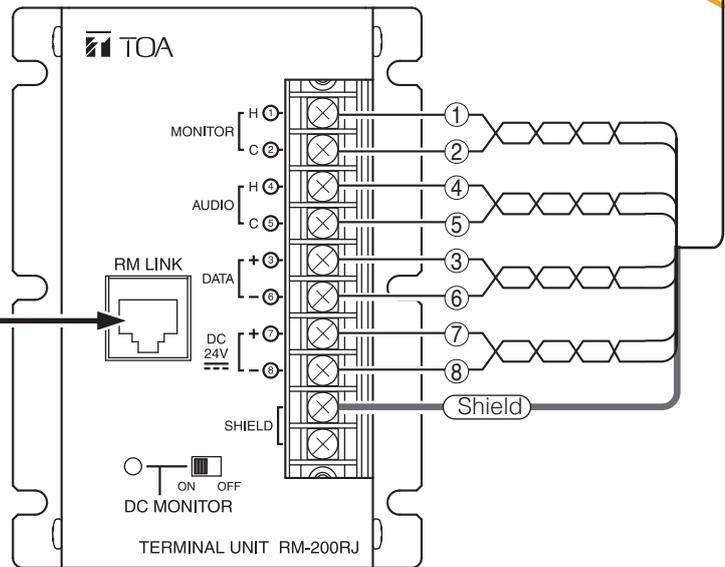
RM-200RJ



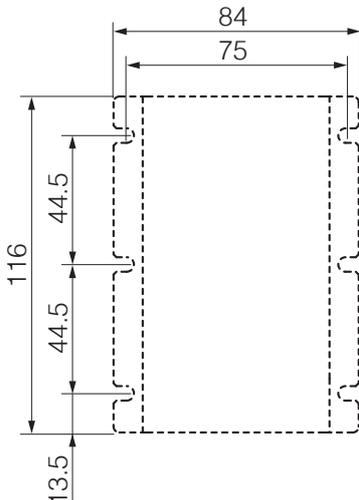
RM-300X 後面



RM-200RJ



[RM-200RJ 取付参考寸法]

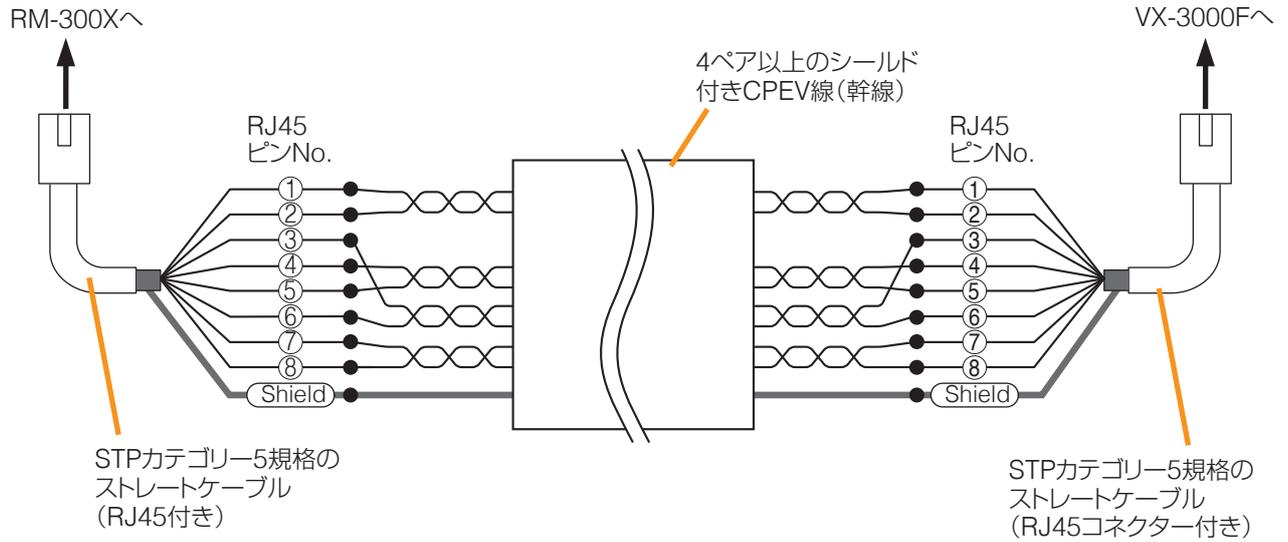


×モ

RM-200RJ は壁などへの取り付けもできます。

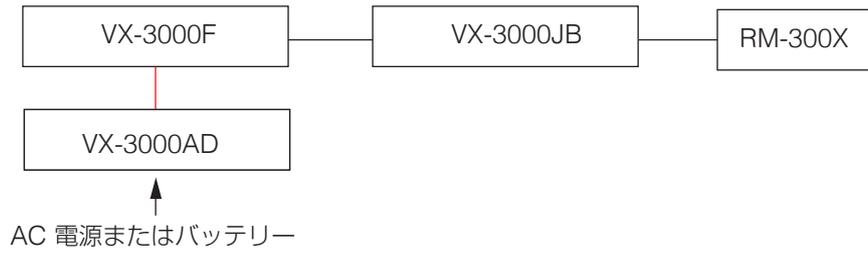
単位：mm

- シールド付き CPEV 線を使用し、RJ45 端子盤 RM-200RJ を使用しないときは、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル (RJ45 コネクター付き) と次のように接続します。
ペア取りは、1 と 2、3 と 6、4 と 5、7 と 8 で行います。



RM-300X	RJ45 ピン No.	線 色 (T568B の場合)	線 色 (T568A の場合)	VX-3000F
Monitor in (H)	①	橙/白	緑/白	Monitor out (H)
Monitor in (C)	②	橙	緑	Monitor out (C)
RM data (+)	③	緑/白	橙/白	RM data (+)
Audio out (H)	④	青	青	Audio in (H)
Audio out (C)	⑤	青/白	青/白	Audio in (C)
RM data (-)	⑥	緑	橙	RM data (-)
DC power in (+)	⑦	茶/白	茶/白	DC power out (+)
DC power in (-)	⑧	茶	茶	DC power out (-)
Shield	Shield	—	—	Shield

[VX-3000JB を経由して、VX-3000AD とともに使用されている VX-3000F から電源が供給されているとき]



● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5		178 m	132 m	104 m	86 m
ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5		73 m	63 m	55 m	49 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。
 (参照 p. 3-79)

CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm		294 m	218 m	172 m	142 m
∅0.9 mm		572 m	424 m	336 m	277 m
∅1.2 mm		1013 m	752 m	595 m	490 m
ケーブル	拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm		120 m	104 m	91 m	81 m
∅0.9 mm		234 m	203 m	178 m	158 m
∅1.2 mm		415 m	359 m	315 m	281 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	89 m	65 m	51 m	41 m
拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	35 m	29 m	25 m	22 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。
 ( p. 3-79)

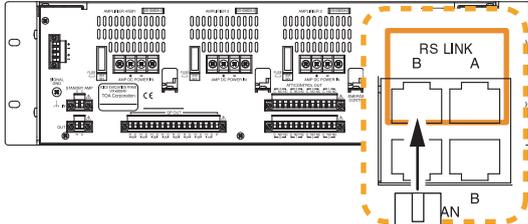
CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	147 m	108 m	84 m	69 m
∅0.9 mm	287 m	210 m	165 m	134 m
∅1.2 mm	508 m	373 m	292 m	237 m
拡張ユニット数 ケーブル	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	57 m	49 m	42 m	37 m
∅0.9 mm	112 m	96 m	83 m	73 m
∅1.2 mm	199 m	170 m	147 m	129 m

×モ

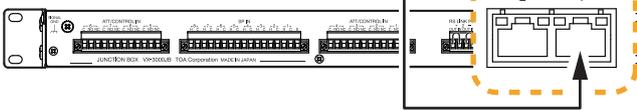
- VX-3000JB と RM-300X を接続するときは、STP カテゴリー5 規格のストレートケーブル (RJ45 付き) と CPEV 線の配線変換を行う RJ45 端子盤 RM-200RJ を用います。1 と 2、4 と 5、3 と 6、7 と 8 をペアとし、VX-3000JB と RM-200RJ の同じ端子同士を接続します。

VX-3000F

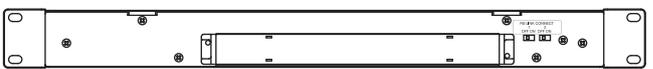


STP カテゴリー5規格のストレートケーブル (RJ45付き)

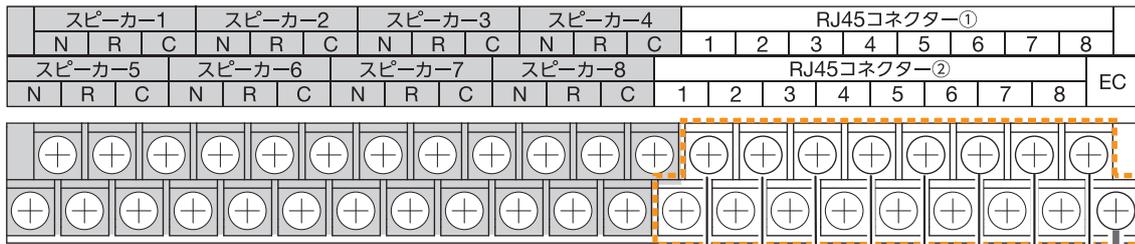
VX-3000JB 後面



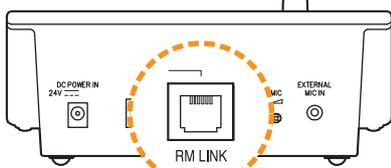
VX-3000JB 前面パネル内部



VX-3000JB ねじ端子部



RM-300X 後面

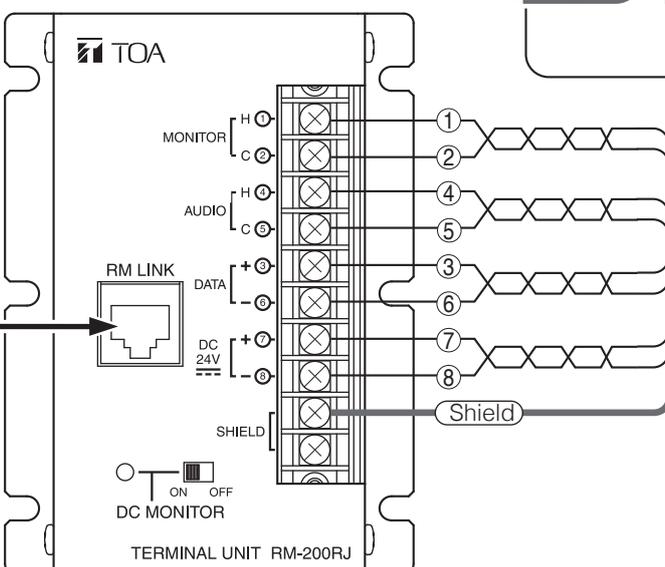


RJ45コネクタ
接続端子

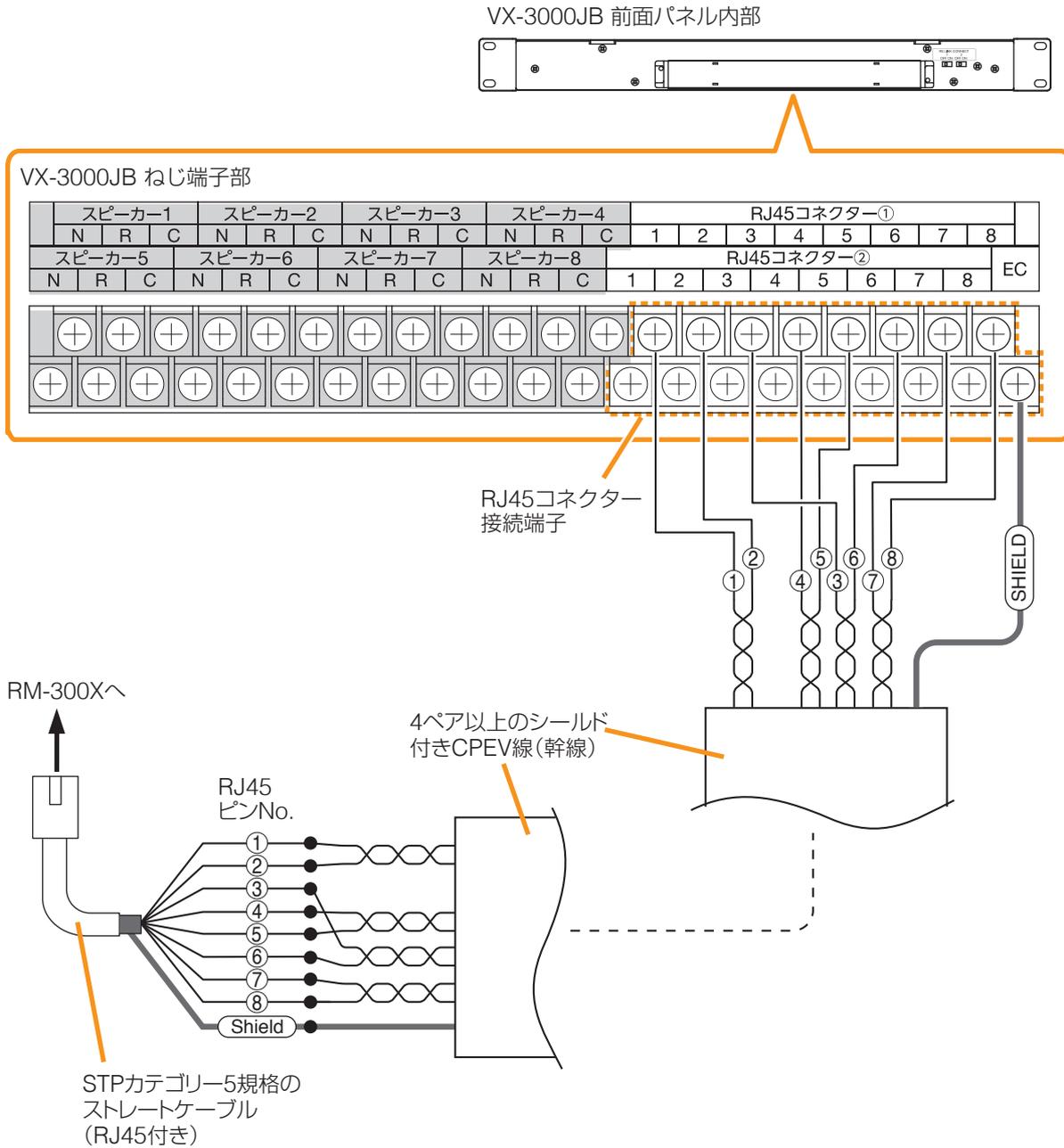
4ペア以上のシールド
付きCPEV線 (幹線)

STP カテゴリー5規格の
ストレートケーブル
(RJ45付き)

RM-200RJ



- シールド付き CPEV 線を使用し、RJ45 端子盤 RM-200RJ を使用しないときは、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル (RJ45 コネクター付き) と次のように接続します。
ペア取りは、1と2、3と6、4と5、7と8で行います。



RM-300X	RJ45 ピン No.	線色 (T568B の場合)	線色 (T568A の場合)	VX-3000JB
Monitor in (H)	①	橙/白	緑/白	①
Monitor in (C)	②	橙	緑	②
RM data (+)	③	緑/白	橙/白	③
Audio out (H)	④	青	青	④
Audio out (C)	⑤	青/白	青/白	⑤
RM data (-)	⑥	緑	橙	⑥
DC power in (+)	⑦	茶/白	茶/白	⑦
DC power in (-)	⑧	茶	茶	⑧
Shield	Shield	—	—	Shield

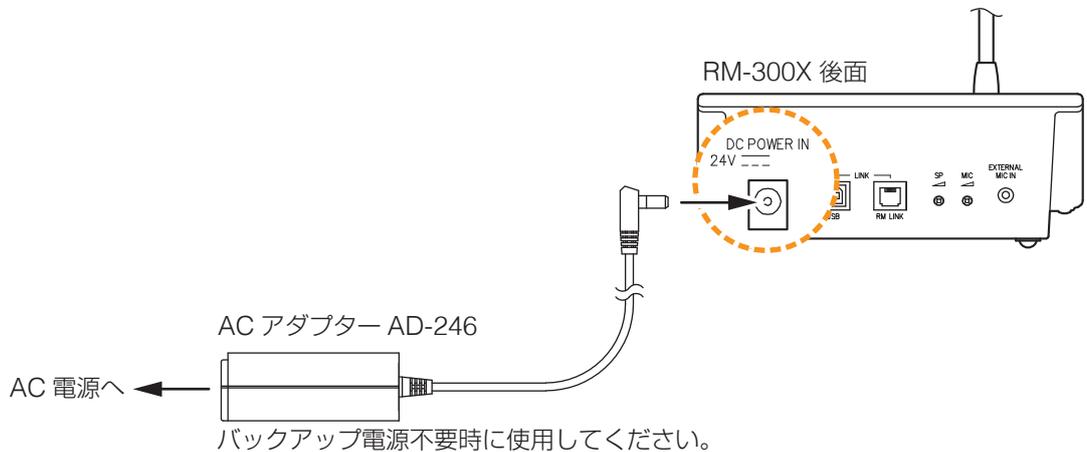
[AC アダプターから電源が供給されているとき]



別売の AC アダプター AD-246 から STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブルまたは 4 対以上のシールド付き CPEV 線を使用して RM-300X に電源を供給する場合、電源線を除く接続ケーブルの最長距離はケーブルの種類とリモートマイク拡張ユニットの台数に関係なく 1200 m です。

ご注意

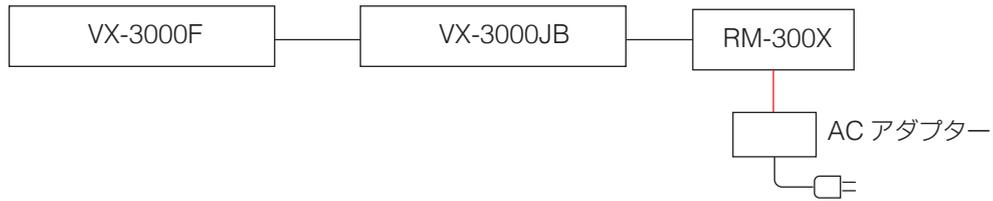
停電中でもリモートマイクに電源を供給するためには、AC アダプター用のバックアップ電源が必要です。あるいは、AC アダプターを使わずに VX-3000AD からリモートマイクに電源を供給してください。



ご注意

DC プラグを RM-300X の電源入力端子に差し込むと、RM-300X の DC 電源入力がこの端子に自動的に切り換えられ、RM リンク端子からの電源が切断されます。
 電源ケーブルを RM-300X 底面ケーブルフックに固定して、DC プラグを確実に固定してください。
 DC プラグを抜くと、RM リンク端子が電源の供給元になり、システム電源ラインに接続されます。
 そうすると、電源の電圧が低くなり、VX-3000F からの消費電流が増加し、システムが故障する可能性があります。

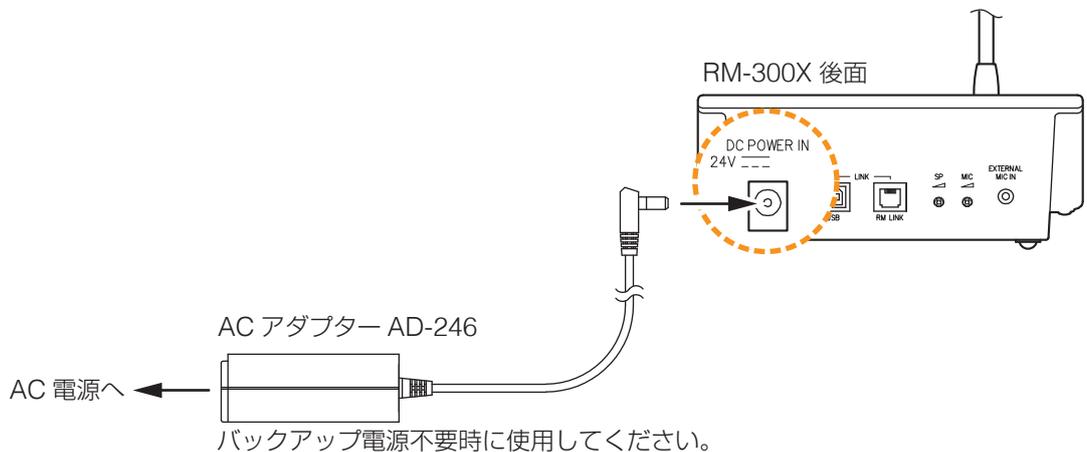
[VX-3000JB を使用し、AC アダプターから電源が供給されているとき]



別売の AC アダプター AD-246 から STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブルまたは 4 対以上のシールド付き CPEV 線を使用して RM-300X に電源を供給する場合、電源線を除く接続ケーブルの最長距離はケーブルの種類とリモートマイク拡張ユニットの台数に関係なく 1200 m です。

ご注意

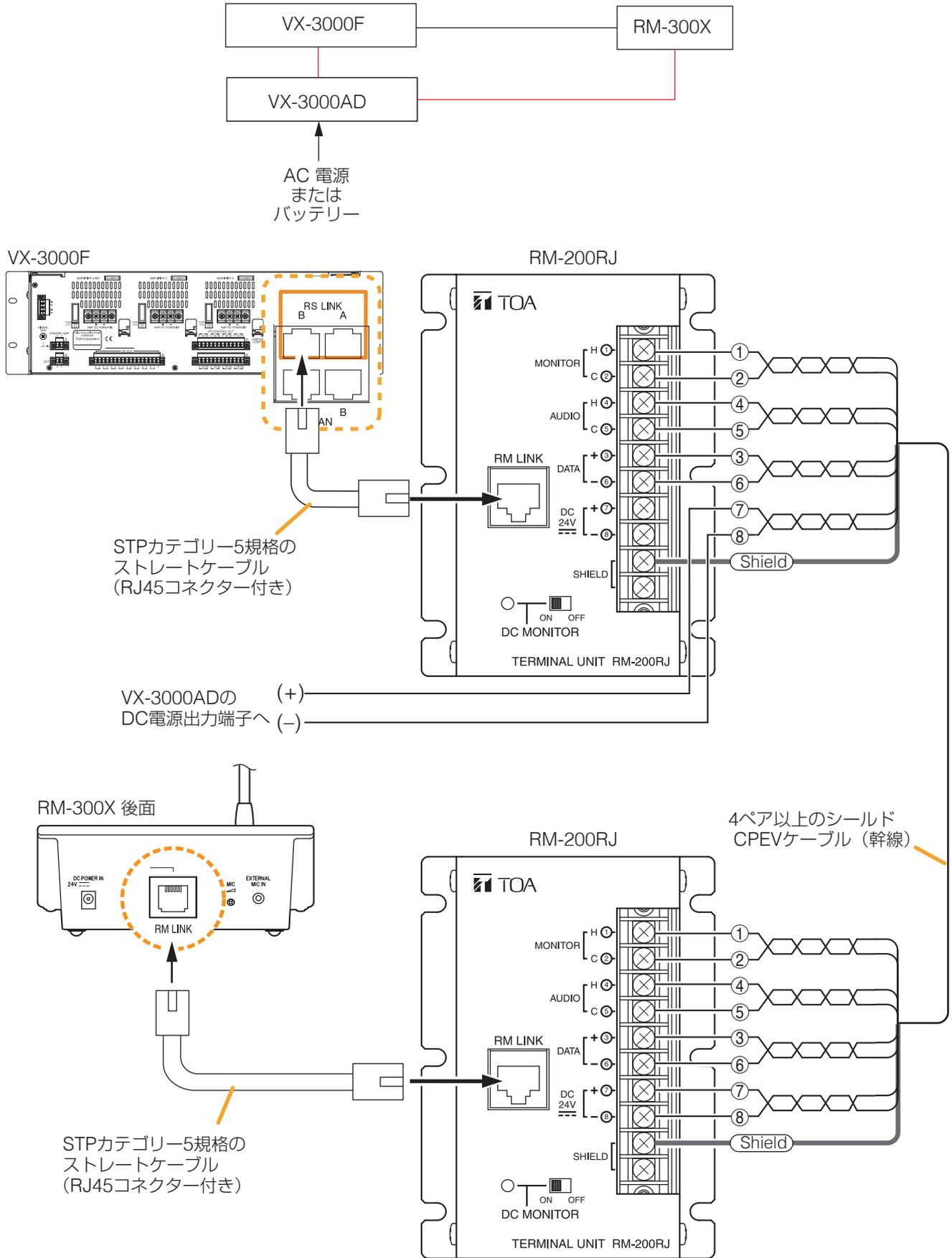
停電中でもリモートマイクに電源を供給するためには、AC アダプター用のバックアップ電源が必要です。あるいは、AC アダプターを使わずに VX-3000AD からリモートマイクに電源を供給してください。



ご注意

DC プラグを RM-300X の電源入力端子に差し込むと、RM-300X の DC 電源入力がこの端子に自動的に切り換えられ、RM リンク端子からの電源が切断されます。
 電源ケーブルを RM-300X 底面ケーブルフックに固定して、DC プラグを確実に固定してください。
 DC プラグを抜くと、RM リンク端子が電源の供給元になり、システム電源ラインに接続されます。
 そうすると、電源の電圧が低くなり、VX-3000F からの消費電流が増加し、システムが故障する可能性があります。

[VX-3000AD から電源が供給されているとき]



RM-300X と VX-3000F 間の通信ケーブル（電源線を除く）に、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブルを使用しているときは、システム内の最長ケーブル距離は合計で 1200 m です。

● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

RM-300X と VX-3000AD 間の電源ケーブルの最長距離は次のとおりです。

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	199 m	149 m	119 m	99 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	85 m	74 m	66 m	59 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。（ケーブル接続については、[p. 3-83](#) を参照してください）。

CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	330 m	247 m	198 m	165 m
∅0.9 mm	642 m	481 m	385 m	321 m
∅1.2 mm	1136 m	852 m	681 m	568 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	141 m	123 m	110 m	99 m
∅0.9 mm	275 m	240 m	214 m	192 m
∅1.2 mm	487 m	426 m	378 m	340 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

RM-300X と VX-3000AD 間の電源ケーブルの最大距離は次のとおりです。

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

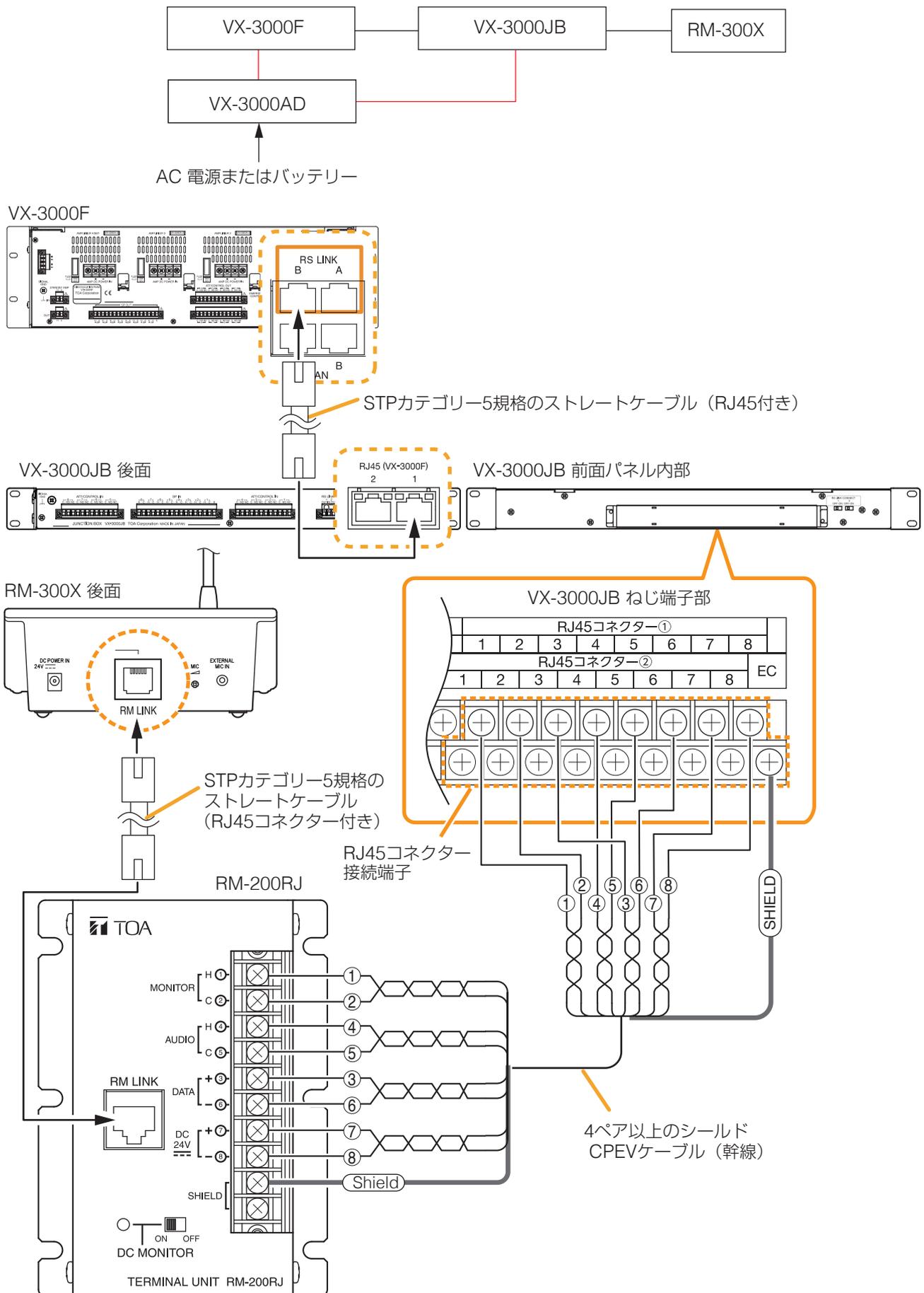
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	111 m	83 m	66 m	55 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	47 m	41 m	37 m	33 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。（ケーブル接続については、[p. 3-83](#) を参照してください）。

CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	183 m	137 m	110 m	91 m
∅0.9 mm	356 m	267 m	214 m	178 m
∅1.2 mm	631 m	473 m	378 m	315 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	78 m	68 m	61 m	55 m
∅0.9 mm	152 m	133 m	118 m	107 m
∅1.2 mm	270 m	236 m	210 m	189 m

[VX-3000JB を使用し、VX-3000AD から電源が供給されているとき]



● VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	197 m	147 m	117 m	97 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	83 m	72 m	64 m	57 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。（ケーブル接続については、[p. 3-85](#) を参照してください）。

CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	326 m	243 m	194 m	161 m
∅0.9 mm	634 m	474 m	378 m	313 m
∅1.2 mm	1123 m	839 m	668 m	555 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	137 m	120 m	106 m	95 m
∅0.9 mm	267 m	233 m	206 m	185 m
∅1.2 mm	474 m	413 m	365 m	328 m

● VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき

次の表は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル（RJ45 コネクタ付き）使用時の最長ケーブル距離です。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
STP カテゴリー 5	108 m	81 m	64 m	53 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
STP カテゴリー 5	45 m	39 m	34 m	31 m

上記の表よりケーブルの距離を延長したいときは、4 対のシールド付き CPEV ケーブルを使用してください。（ケーブル接続については、[p. 3-85](#) を参照してください）。

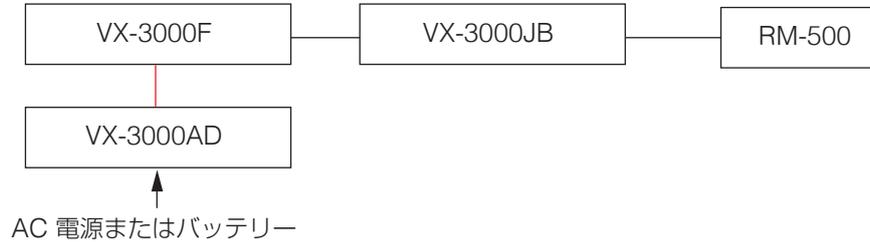
CPEV ケーブル線径と最長ケーブル距離の関係は次のとおりです。

ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X のみ	RM-300X + RM-210F × 1	RM-300X + RM-210F × 2	RM-300X + RM-210F × 3
∅0.65 mm	179 m	133 m	106 m	87 m
∅0.9 mm	349 m	260 m	206 m	171 m
∅1.2 mm	618 m	460 m	365 m	302 m
ケーブル \ 拡張ユニット数	RM-300X + RM-210F × 4	RM-300X + RM-210F × 5	RM-300X + RM-210F × 6	RM-300X + RM-210F × 7
∅0.65 mm	74 m	65 m	57 m	51 m
∅0.9 mm	145 m	126 m	111 m	99 m
∅1.2 mm	257 m	223 m	197 m	176 m

● RM-500 の接続

VX-3000JB を経由して、3 ペア以上のシールド付き CPEV 線で接続します。
CPEV 線の線径および電源の供給方法により、最長ケーブル距離が異なります。

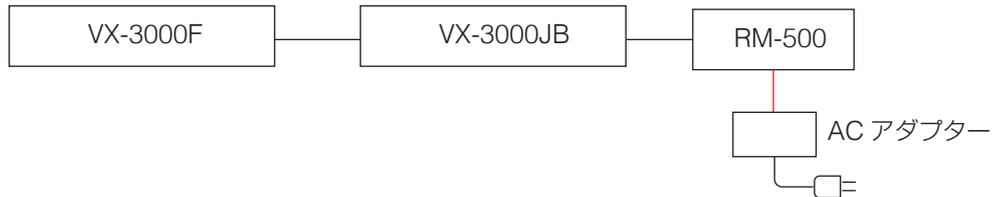
[VX-3000AD とともに使用されている VX-3000F から電源が供給されているとき]



最長ケーブル距離は以下のようになります。

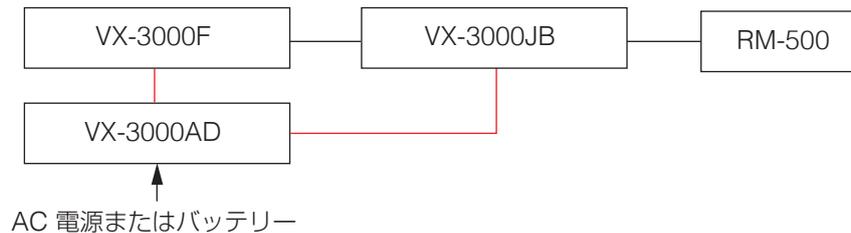
CPEV ケーブル線径	最長ケーブル距離							
	VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき				VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき			
	RM-500 × 1 台	RM-500 × 2 台	RM-500 × 3 台	RM-500 × 4 台	RM-500 × 1 台	RM-500 × 2 台	RM-500 × 3 台	RM-500 × 4 台
ø0.65 mm	551 m	271 m	177 m	130 m	280 m	135 m	87 m	63 m
ø0.9 mm	1073 m	527 m	345 m	254 m	546 m	263 m	169 m	122 m
ø1.2 mm	1200 m	933 m	611 m	450 m	967 m	467 m	300 m	217 m

[AC アダプターから電源が供給されているとき]



システム内の最長ケーブル距離は合計で 1200 m です。

[VX-3000AD から電源が供給されているとき]

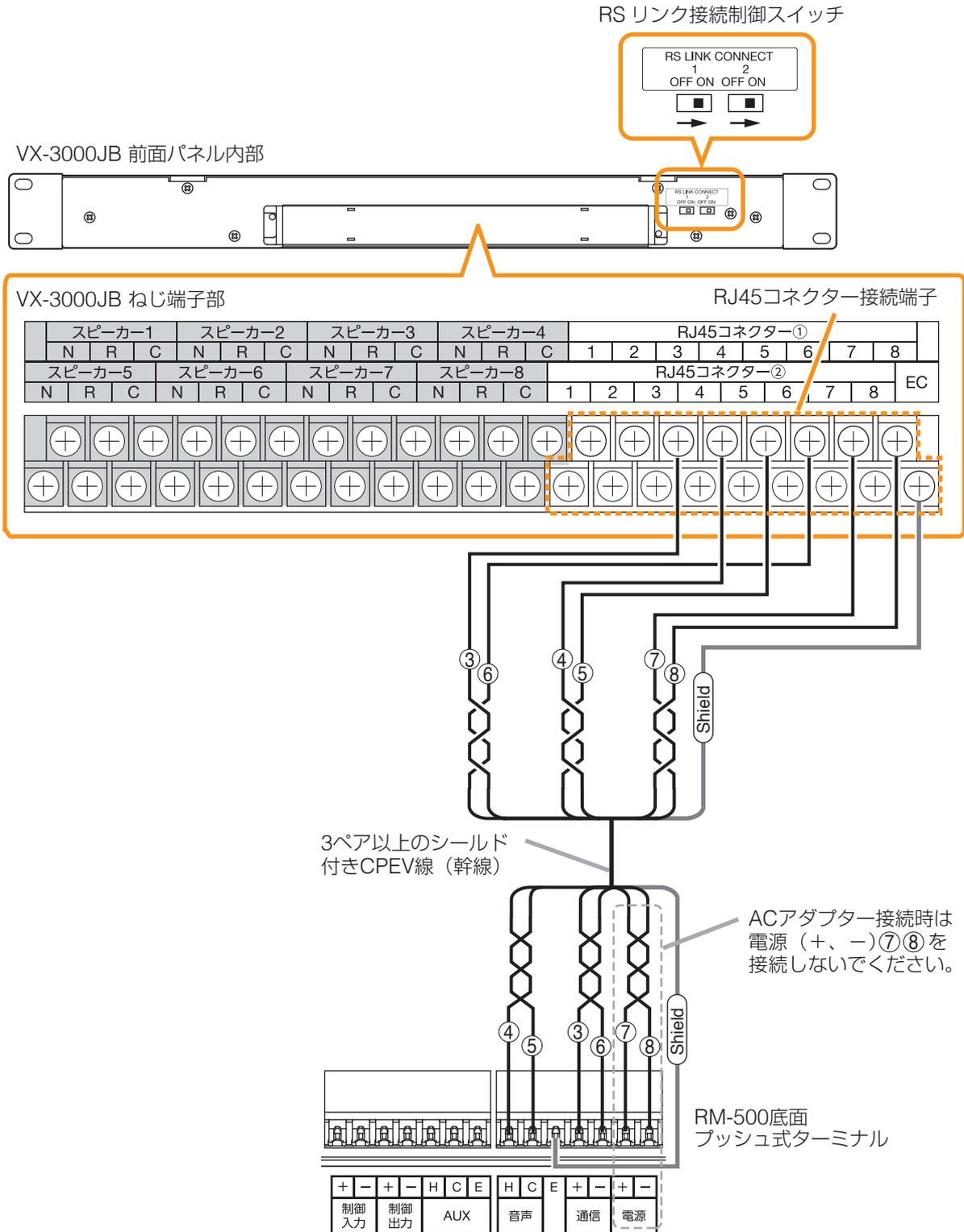


最長ケーブル距離は以下のようになります。

CPEV ケーブル線径	最長ケーブル距離							
	VX-3000AD が AC 電源で動作しているとき				VX-3000AD がバッテリーで動作しているとき			
	RM-500 × 1 台	RM-500 × 2 台	RM-500 × 3 台	RM-500 × 4 台	RM-500 × 1 台	RM-500 × 2 台	RM-500 × 3 台	RM-500 × 4 台
ø0.65 mm	605 m	300 m	199 m	148 m	334 m	165 m	109 m	80 m
ø0.9 mm	1178 m	585 m	387 m	289 m	651 m	322 m	212 m	157 m
ø1.2 mm	1200 m	1036 m	686 m	511 m	1152 m	569 m	375 m	278 m

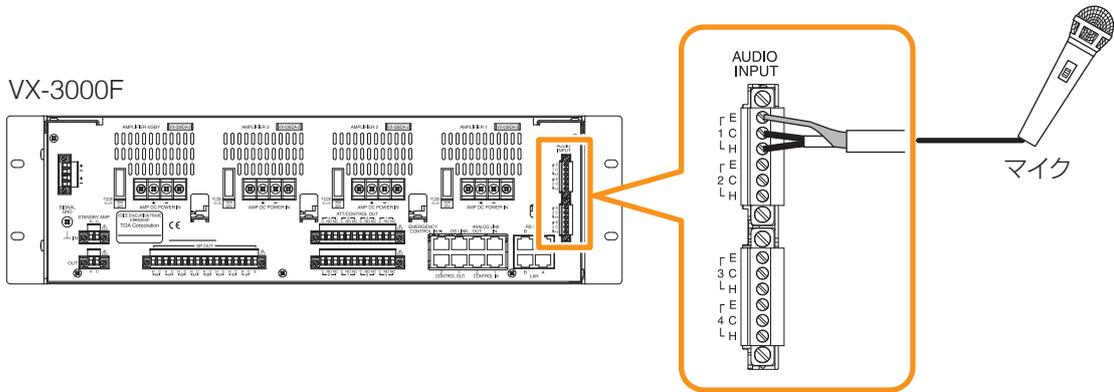
[VX-3000JB への接続のしかた]

下図のように接続し、VX-3000JB のRS リンク接続制御スイッチを ON 側（工場出荷時の設定：OFF 側）にします。



● 他への入力機器の接続

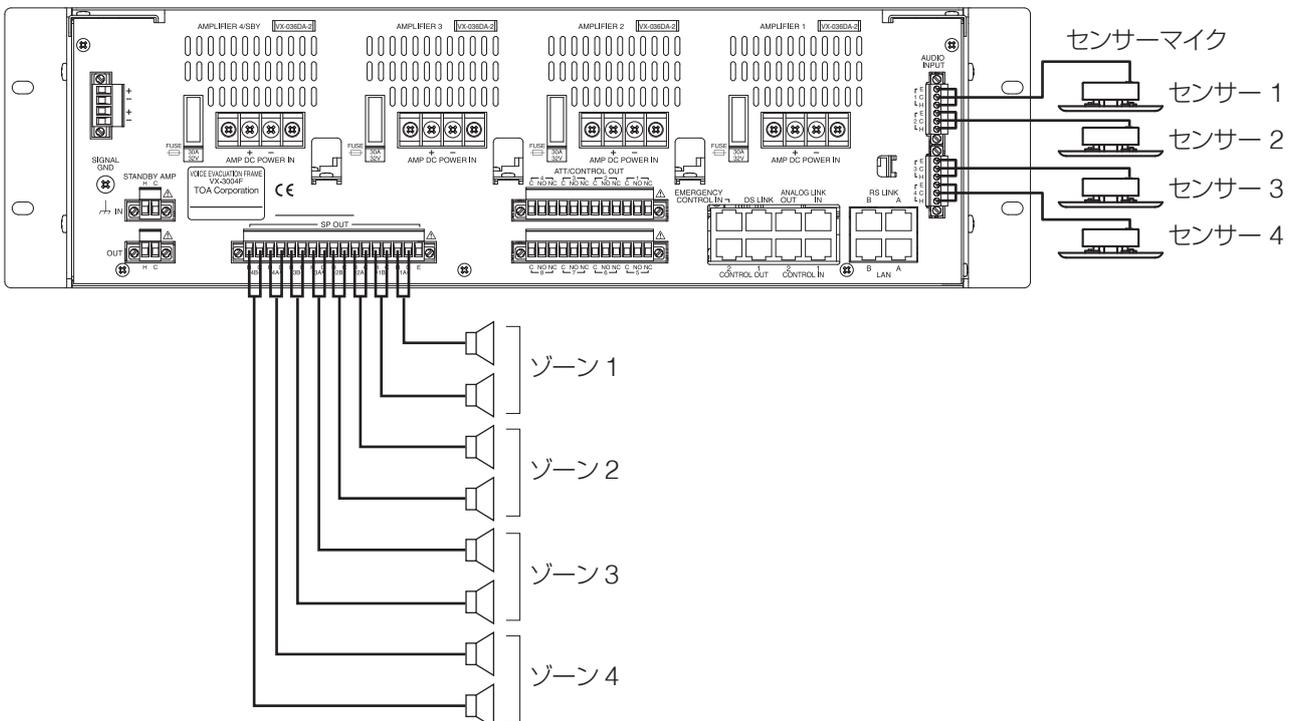
2心シールド線を使用して、マイクやその他の音源を音声入力に接続します。
 音声入力には4つの入力チャンネル（1～4）があります。
 VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、音量、目的、タイプなどを設定します。
 (別冊の設定ソフトウェア説明書「機器構成設定」)



● ANC 機能を使用するとき

ANC 機能を使用するときは、センサーマイクを接続してください。
 ANC の設定は、あらかじめ設定された VX-3000F の1つまたは複数の音声出力チャンネル番号に適用されます。
 ANC 機能の設定には VX-3000 設定ソフトウェアが必要です。

VX-3004F



さらに、機器接続完了後、音声出力のための作業と設定を行う必要があります。
 詳細については、別途設定ソフトウェア説明書「ANC 機能」を参照してください。

■ スピーカーの接続

スピーカーをスピーカー出力端子に接続します。

アッテネーターが接続されていないときは2線式配線、アッテネーターが接続されているときは3線式配線の配線方式が使用できます。

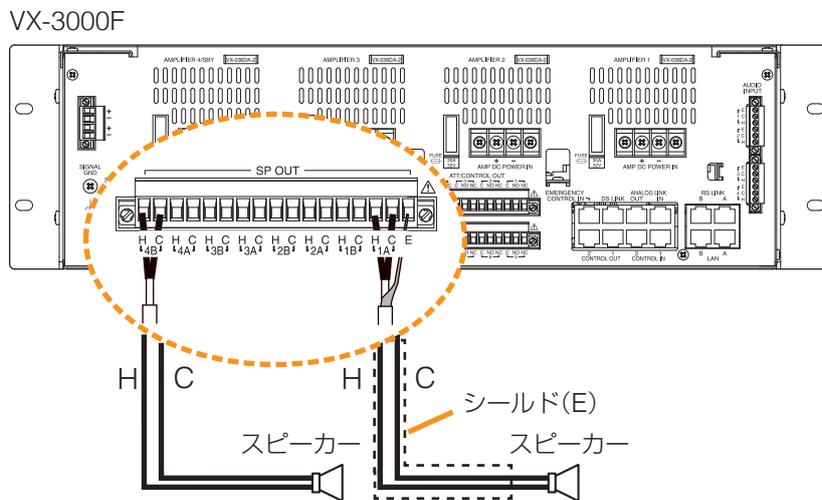
ご注意

- 1回線あたり、スピーカーの定格入力の合計が右表の値以下になるようにしてください。それを超えると2回線に分けてください。

スピーカーの入力電圧	スピーカーの定格入力の合計
100系	360 W
70系	250 W
50系	180 W

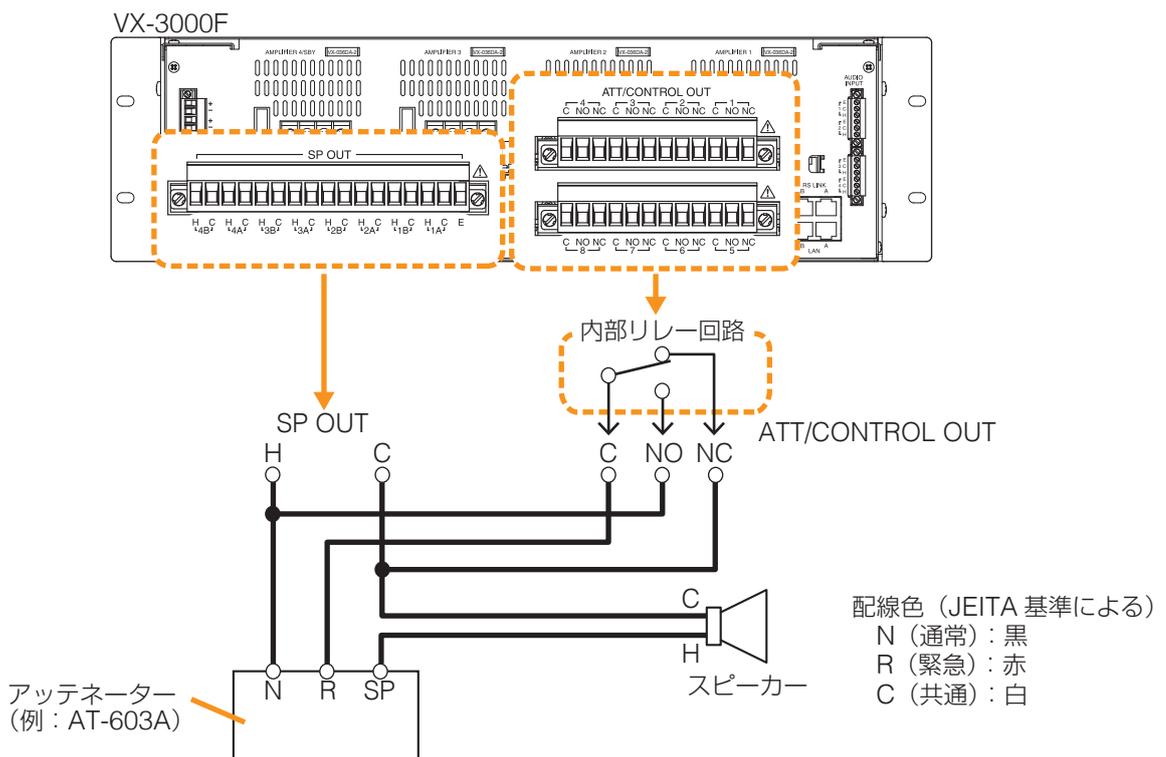
- VX-3004F の Ch 4 をスタンバイアンプとして使用するときには、スピーカー出力端子 4A、4B にスピーカーを接続しないでください。

● 2線式配線の場合



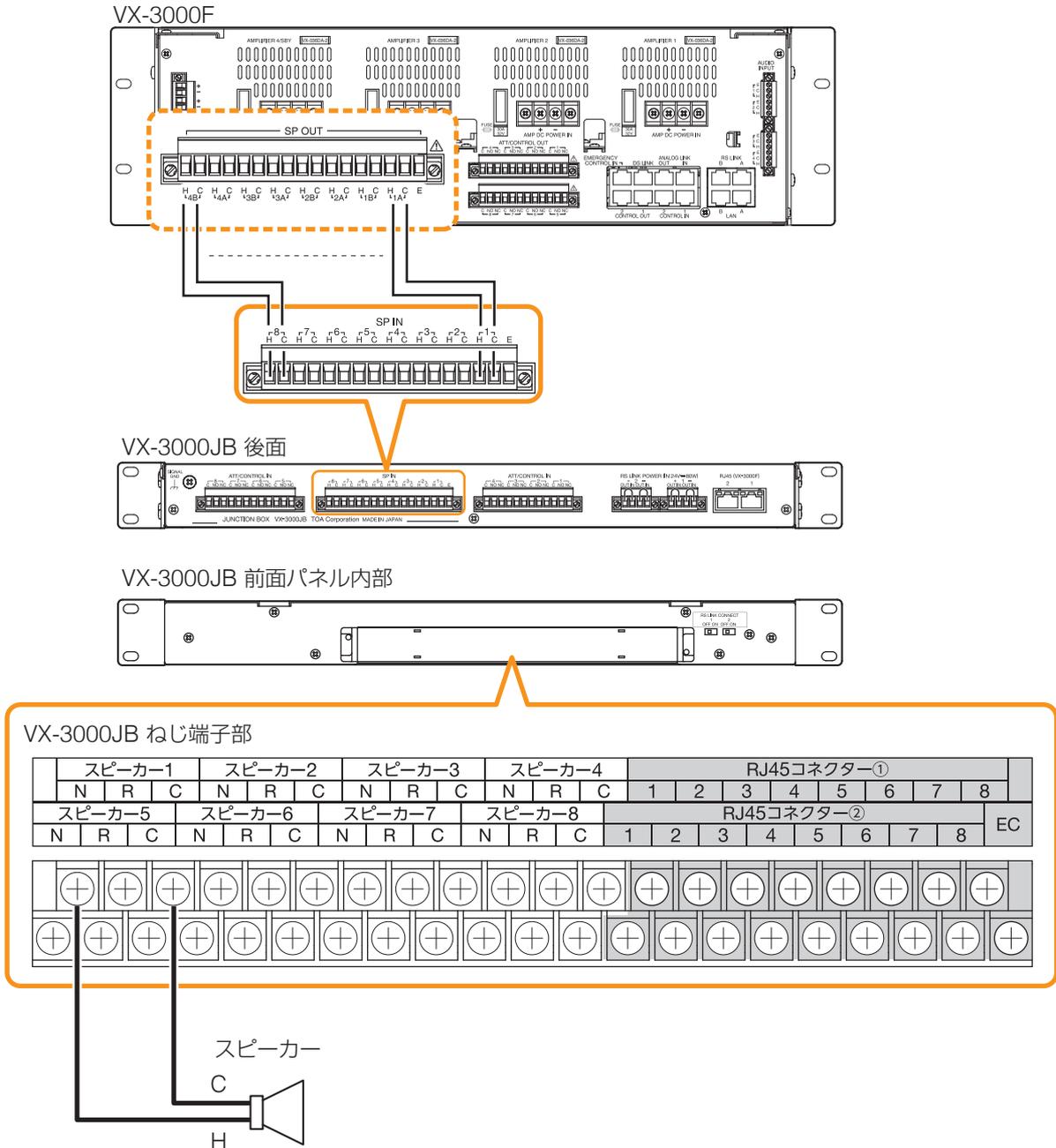
● 3線式配線の場合

[アッテネーターを設けるときの]



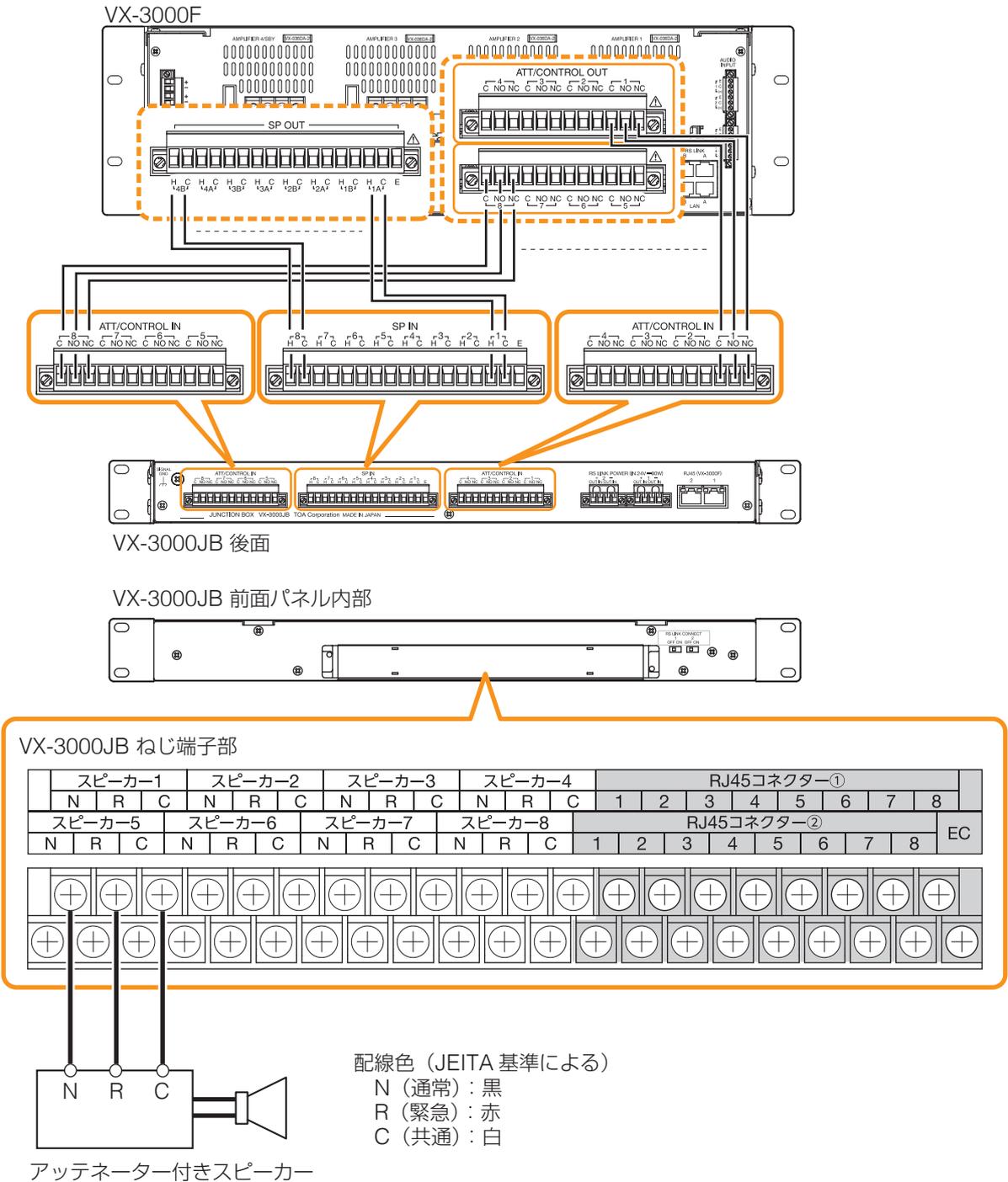
● 2線式配線で VX-3000JB を使用する場合

- VX-3000F 後面のスピーカー出力端子 (SP OUT) と、VX-3000JB 後面のスピーカー入力端子 (SP IN) の対応する番号同士を接続します。(VX-3004F の場合は、1A-1、1B-2、2A-3…というように接続)
- VX-3000JB 前面パネル内部のスピーカー回線接続端子 (N、C) から、スピーカーを接続します。



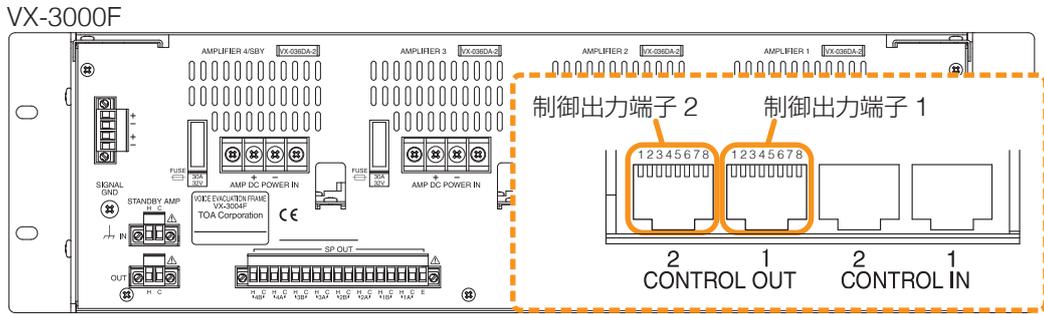
● 3 線式配線で VX-3000JB を使用する場合

- VX-3000F 後面のスピーカー出力端子 (SP OUT) と、VX-3000JB 後面のスピーカー入力端子 (SP IN) の対応する番号同士を接続します。(VX-3004F の場合は、1A-1、1B-2、2A-3…というように接続)
- VX-3000F 後面のアッテネーター制御出力端子 (ATT/CONTROL OUT) と、VX-3000JB 後面のアッテネーター制御入力端子 (ATT/CONTROL IN) の対応する番号同士を接続します。
- VX-3000JB 前面パネル内部のスピーカー回線接続端子 (N、R、C) から、スピーカーを接続します。



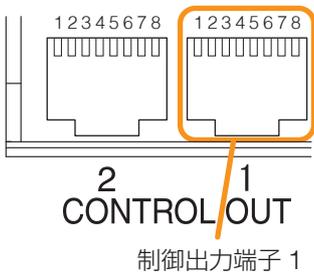
■ 制御出力端子の接続

制御出力を出力する端子です。
本機の動作に同期して制御信号（メイク接点）が出力されます。



RJ45 のピン配置と端子機能は以下のとおりです。

【制御出力端子 1】



- VX-3004F/3008F

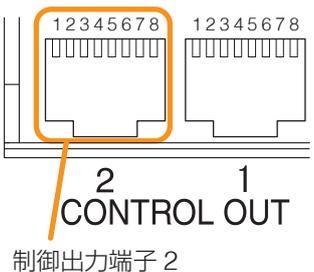
ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
CO_9	CO_10	CO_11	CO_12	CO_13	CO_14	CO_15	CO_16	Com
NO	NO	NO	NO	NO	NO	NO	NO	—

- VX-3016F

ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
CO_17	CO_18	CO_19	CO_20	CO_21	CO_22	CO_23	CO_24	Com
NO	—							

VX-3000 設定ソフトウェアを使用して出力動作を設定してください。
(別冊の設定ソフトウェア説明書「機器構成設定」「制御出力パターン設定」)

【制御出力端子 2】

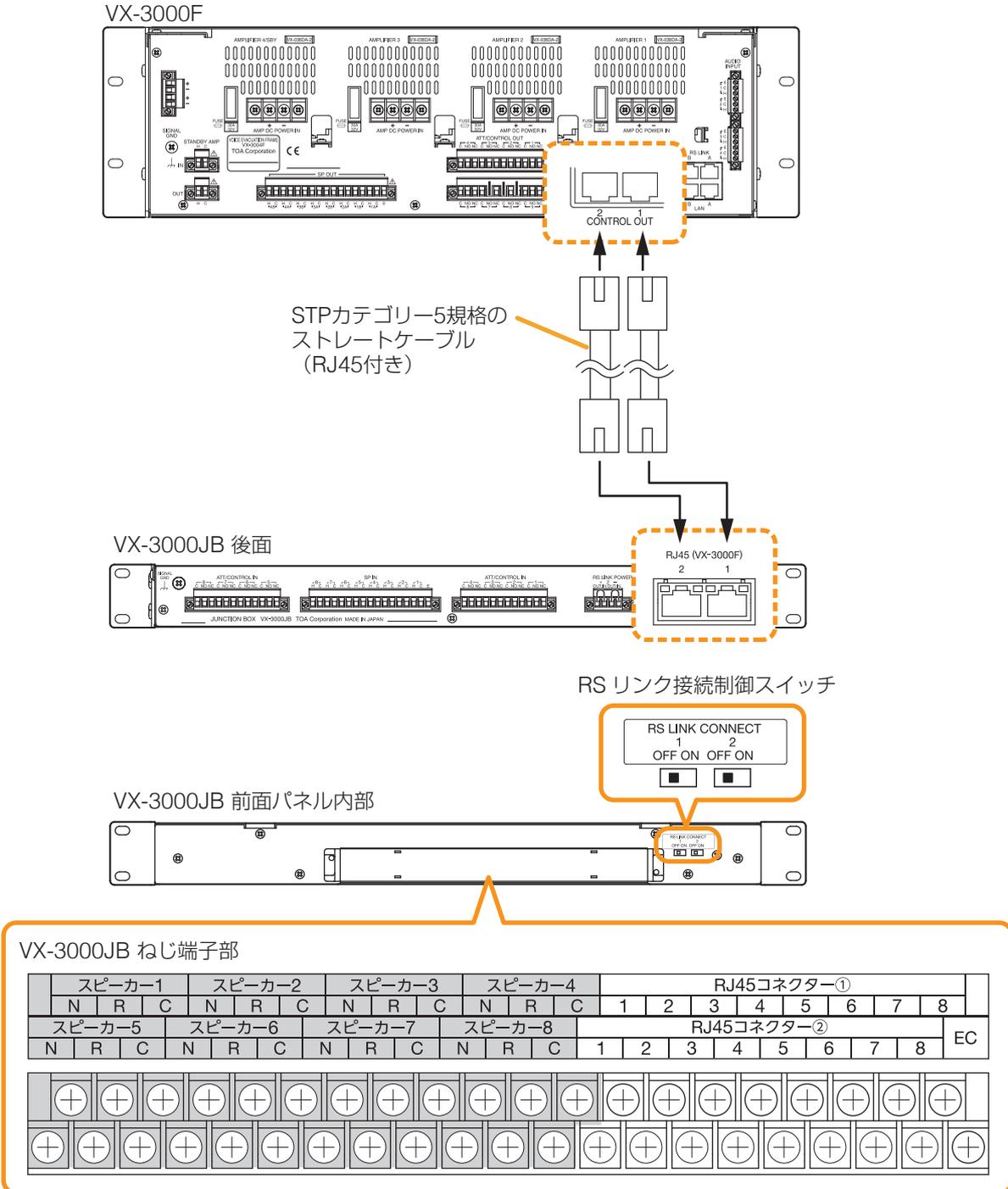


ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
システム異常	CPU 異常	CPU オフ	NC	NC	NC	NC	NC	Com
NO	NO	NO	NO	NO	NO	NO	NO	—

- システム異常：[VX-3000F が ID 番号「0」に設定されている場合]
VX-3000 システム内のいずれかの VX-3000F が異常を検出したとき、およびリモートマイクによって CPU オフ機能による緊急一斉放送を行っているときにメイク接点を出力します。
[VX-3000F が「0」以外の ID 番号に設定されている場合]
システムの状態に関係なく、回路が開いたままになります（ブレイク接点）。
- CPU 異常：CPU 異常が発生したときにメイク接点を出力します。
- CPU オフ：リモートマイクによって CPU オフ機能による緊急一斉放送を行っているときにメイク接点を出力します。

[VX-3000JB を使用する場合]

- VX-3000F 後面の制御出力端子（CONTROL OUT）を、VX-3000JB 後面のRJ45 入力端子（RJ45）に接続すると、VX-3000JB 前面パネル内部のRJ45 コネクター接続端子から、制御出力線を出すことができます。
- 前面のRS リンク接続制御スイッチは OFF 側（工場出荷時の設定）にします。

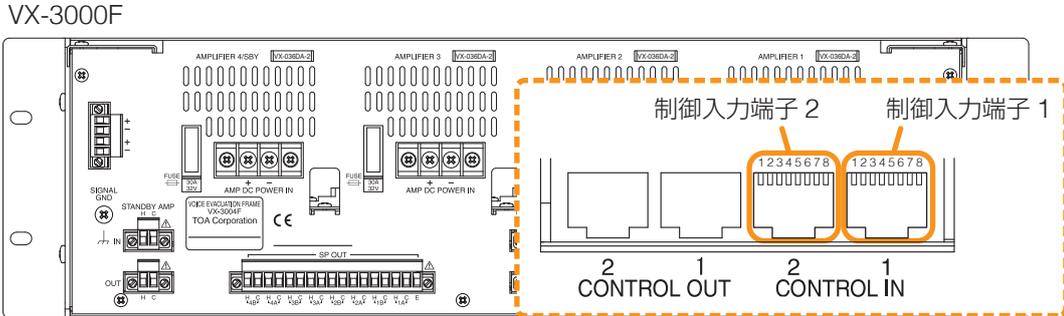


■ 制御入力端子の接続

接点入力で制御する端子です。ケーブルの断線と短絡は、この端子を用いて検出できます。

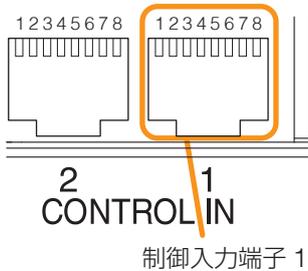
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、機能、極性、故障検知を設定します。

(別冊の設定ソフトウェア説明書「故障検知設定」「故障検知パターン設定」、「制御入力イベント設定」)



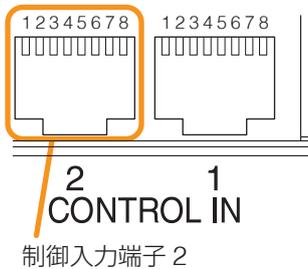
RJ45 のピン配置と端子機能は以下のとおりです。

【制御入力端子 1】



ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
CI_1	CI_2	CI_3	CI_4	CI_5	CI_6	CI_7	CI_8	Com

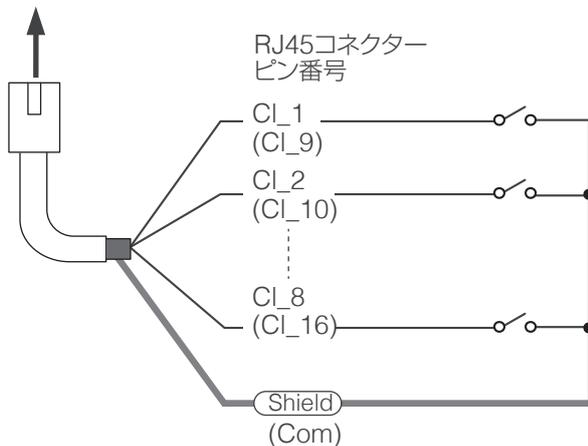
【制御入力端子 2】



ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
CI_9	CI_10	CI_11	CI_12	CI_13	CI_14	CI_15	CI_16	Com

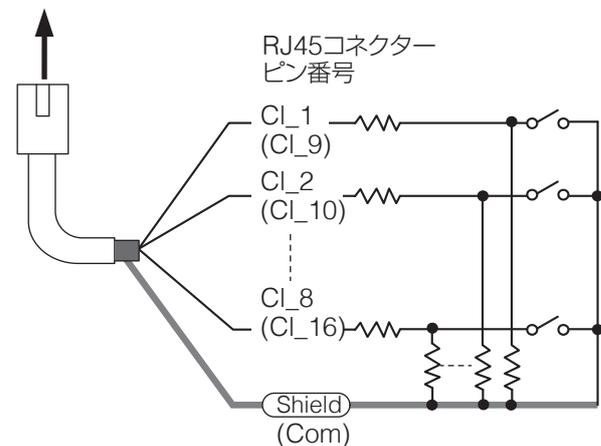
故障検出をしない場合の接続

VX-3000Fへ



故障検出をする場合の接続

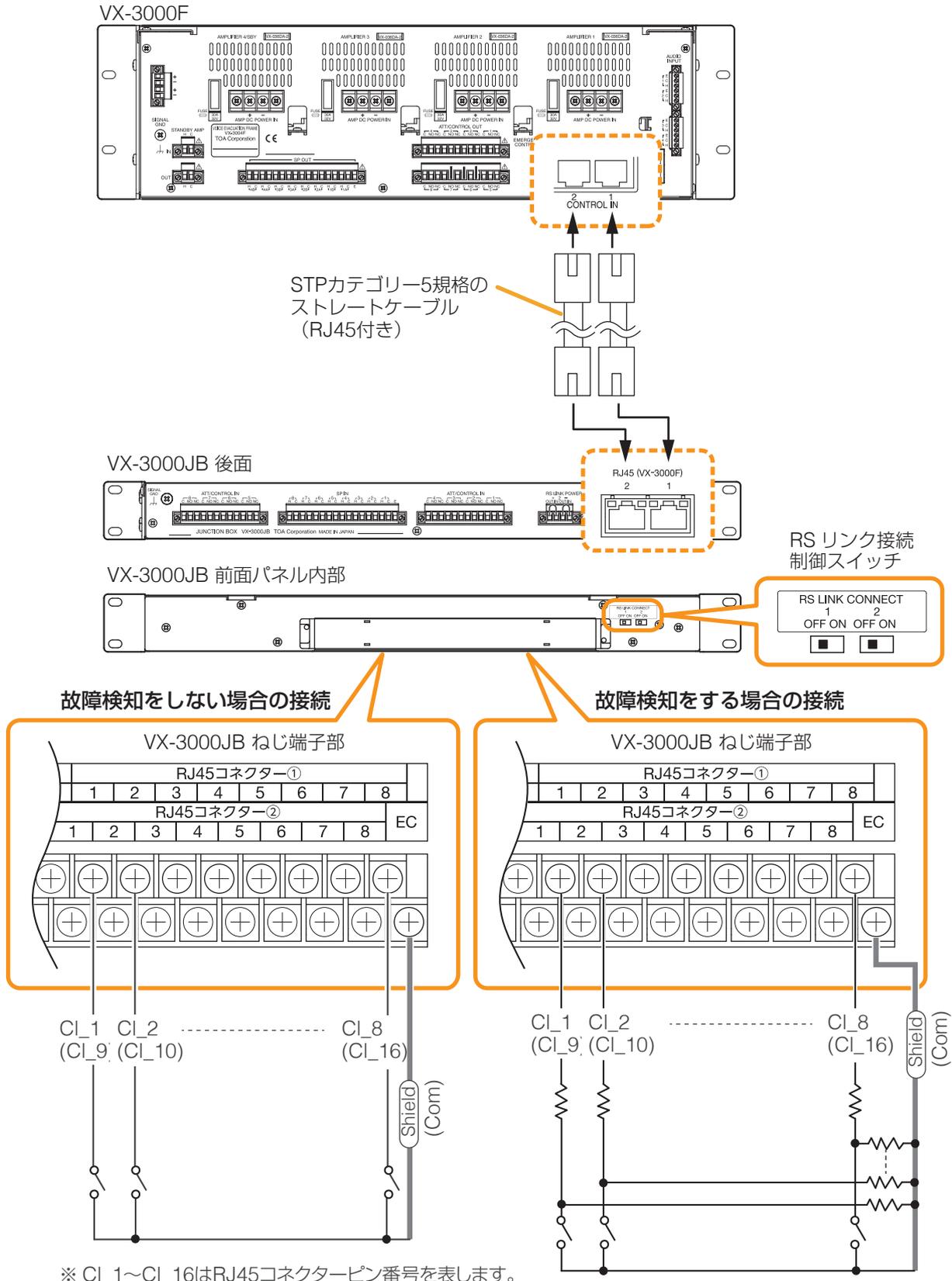
VX-3000Fへ



~ : 4.7 kΩの抵抗です。
スイッチの近くに接続してください。

[VX-3000JB を使用する場合]

- VX-3000F 後面の制御入力端子 (CONTROL IN) を、VX-3000JB 後面の RJ45 入力端子 (RJ45) に接続すると、VX-3000JB 前面パネル内部の RJ45 コネクタ接続端子から、制御入力線を出すことができます。
- 前面の RS リンク接続制御スイッチは OFF 側 (工場出荷時の設定) にします。



※ CL_1~CL_16はRJ45コネクタピン番号を表します。

— ω — : 4.7 kΩの抵抗です。
スイッチの近くに接続してください。

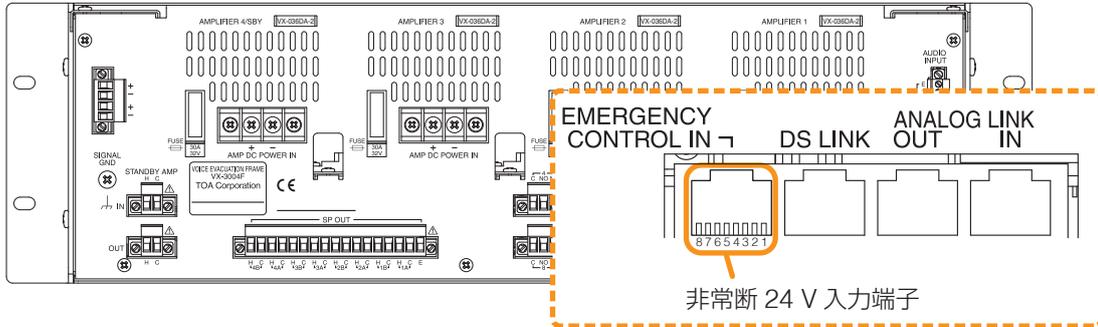
■ 非常断 24 V 入力端子の接続

非常断 24 V 入力端子は電圧入力で制御する端子です。

VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、機能と極性を設定します。

(別冊の設定ソフトウェア説明書「故障検知設定」「故障パターンの設定」、「制御入力のイベント設定」)

VX-3000F



RJ45 のピン配置と端子機能は以下のとおりです。

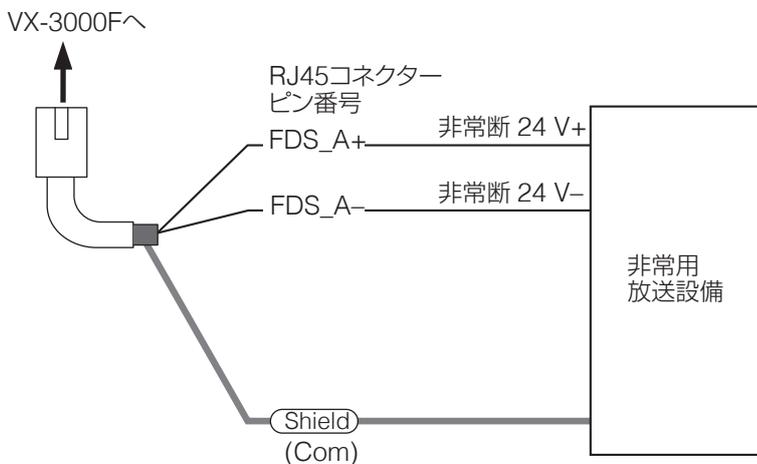
[非常断 24 V 入力端子]

EMERGENCY CONTROL IN



CIN17		CIN18						
ピン 1	ピン 2	ピン 3	ピン 4	ピン 5	ピン 6	ピン 7	ピン 8	シールド
FDS_A+	FDS_A-	NC	FDS_B+	FDS_B-	NC	NC	NC	Com

[接続例]



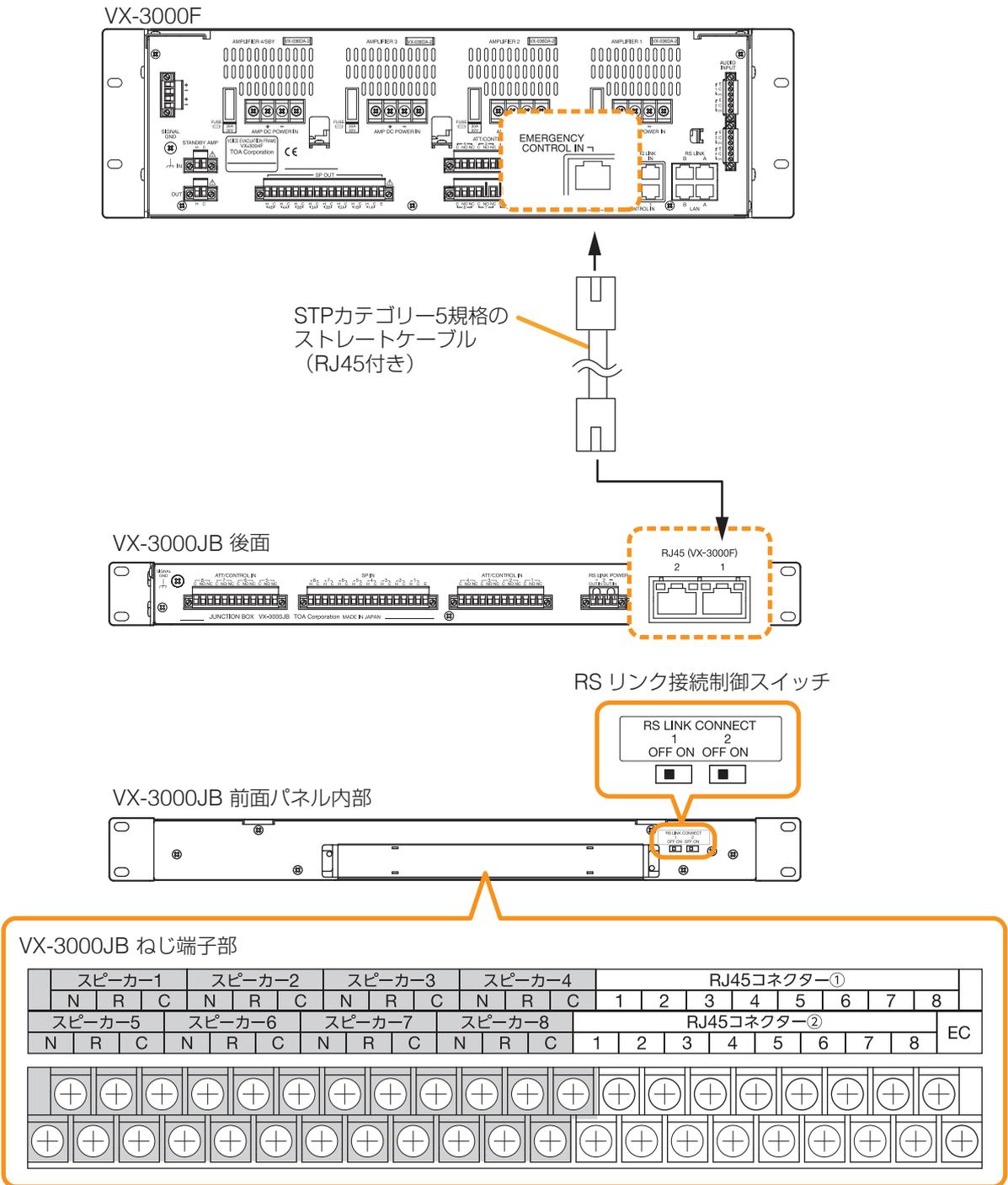
ご注意

CIN17 (ピン 1 と 2) に対応する故障検知機能はオフに設定し、ブレイク時 (極性が NC) に全ゾーンの音量が $-\infty$ に減衰されるように設定してください。

(別冊の設定ソフトウェア説明書「故障検知設定」、「イベント設定」)

[VX-3000JB を使用する場合]

- VX-3000F 後面の非常断 24 V 入力端子 (EMERGENCY CONTROL IN) を、VX-3000JB 後面の RJ45 入力端子 (RJ45) に接続すると、VX-3000JB 前面パネル内部の RJ45 コネクター接続端子から、非常断 24 V 入力線を出すことができます。
- 前面の RS リンク接続制御スイッチは OFF 側 (工場出荷時の設定) にします。



■ VX-3000 機器の LAN 端子の接続

● LAN 端子の接続

システム内のすべての VX-3000 機器の LAN 端子をスイッチングハブを介して相互に接続します。各 LAN 端子 A と B を同じスイッチングハブに接続します。スター配線で接続されたときは、異なるスイッチングハブに接続します。

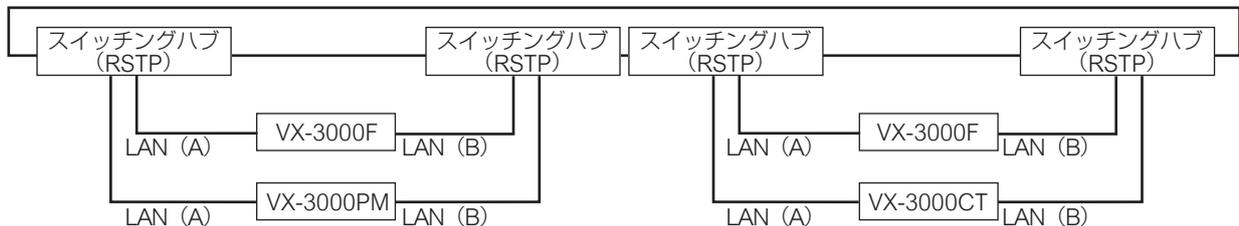
また、VX-3000F は RSTP (Rapid Spanning Tree Protocol) 準拠のハブ機能を備えているため、スイッチングハブを使用せずに VX-3000F 間をループ接続することができます。

本製品は電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続することができません。

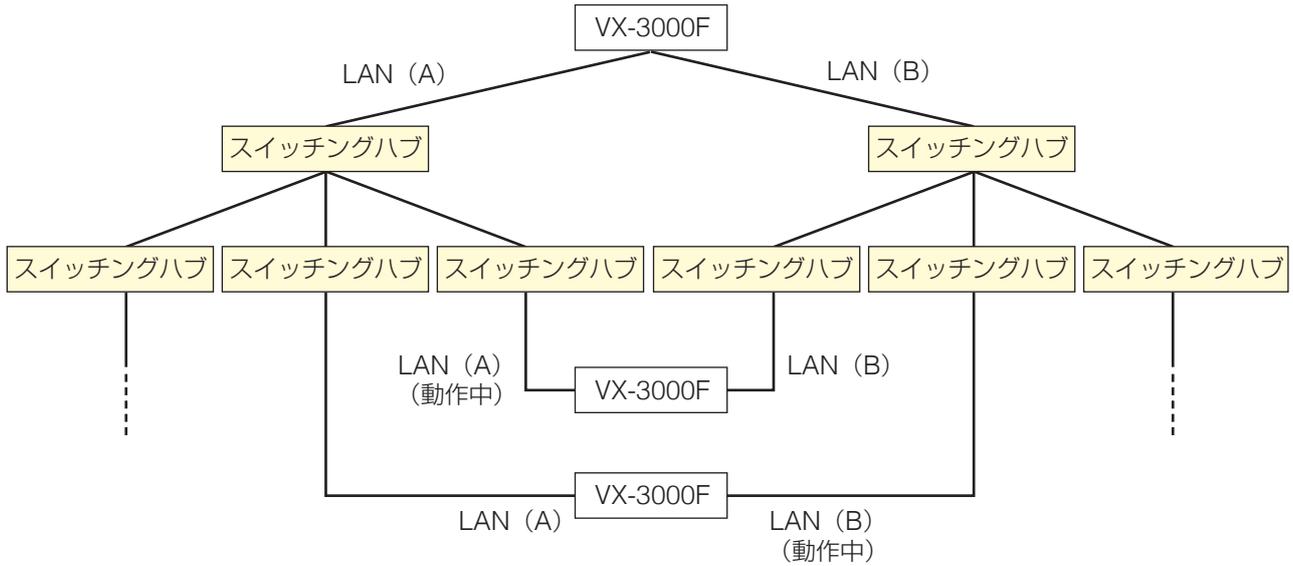
ご注意

- RSTP 非準拠のスイッチングハブを使用した場合、VX-3000 機器の台数が増えると、VX-3000F でループ検出を行うまでの間にスイッチングハブ間でパケットのループが発生し、接続が異常になることがあります。RSTP 準拠のスイッチングハブの使用を推奨します。
- パケットロスが発生するなどの不安定なネットワークに接続すると、予期しないシステム再起動の発生、放送状態の不一致など、動作が不安定になることがあります。
- LAN 端子を他の LAN から完全に独立させてください。
- VX-3000PM の音声入力のみ、ユニキャストによりルーター経由で他ネットワークエリアに音声伝送が可能です。このとき、VPN などを利用して専用回線を構築してください。
- LAN 端子の接続には、UTP または STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブル (RJ-45 コネクタ付き) を使用してください。ただし、接続距離が長くなる場合は、STP カテゴリー 5 規格のストレートケーブルを使用することを推奨します。
- VX-3000 機器とスイッチングハブの間、およびスイッチングハブ間の距離は 100 m 未満です。
- 二重化構成にする場合は端子 A と B の両方を接続してください。二重化の必要がない場合は端子 A のみ接続してください。
- VX-3000CT または VX-3000PM を含むシステムで二重化構成にする場合は、RSTP 準拠のスイッチングハブを使用してください。
- RSTP 準拠のスイッチングハブを使用せずに VX-3000CT または VX-3000PM を接続する場合は、LAN 端子 A のみ、接続してください。
- RSTP 準拠のスイッチングハブを使用せずに VX-3000F を二重化構成にする場合は、BPDU (Bridge Protocol Data Unit) を透過できるスイッチングハブを使用してください。
- 複数のスイッチングハブを使用する場合は、接続例 4 のようにスター接続をしてください。

[接続例 1 : RSTP 準拠スイッチングハブの二重化構成]

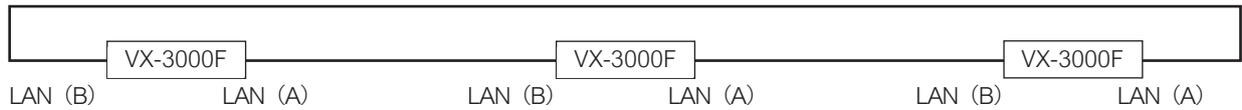


[接続例 2 : RSTP 非準拠スイッチングハブの二重化構成]

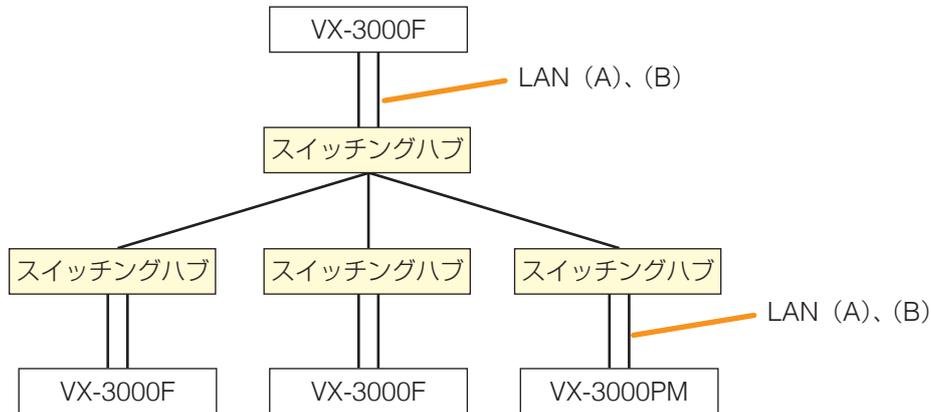


VX-3000F の LAN 端子 A と B をそれぞれ異なるスイッチングハブに接続して、ケーブルが切れたり電源が切れたときにシステムがダウンするのを防ぎます。

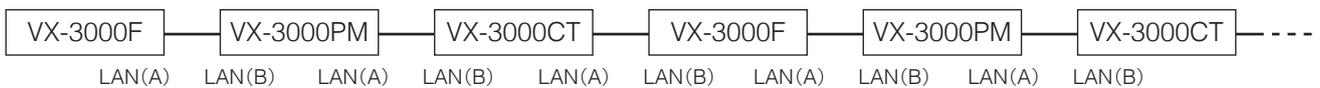
[接続例 3 : スイッチングハブを使用しない場合の二重化構成]



[接続例 4 : スイッチングハブの非二重化構成]



[接続例 5 : スイッチングハブを使用しない場合の非二重化構成]

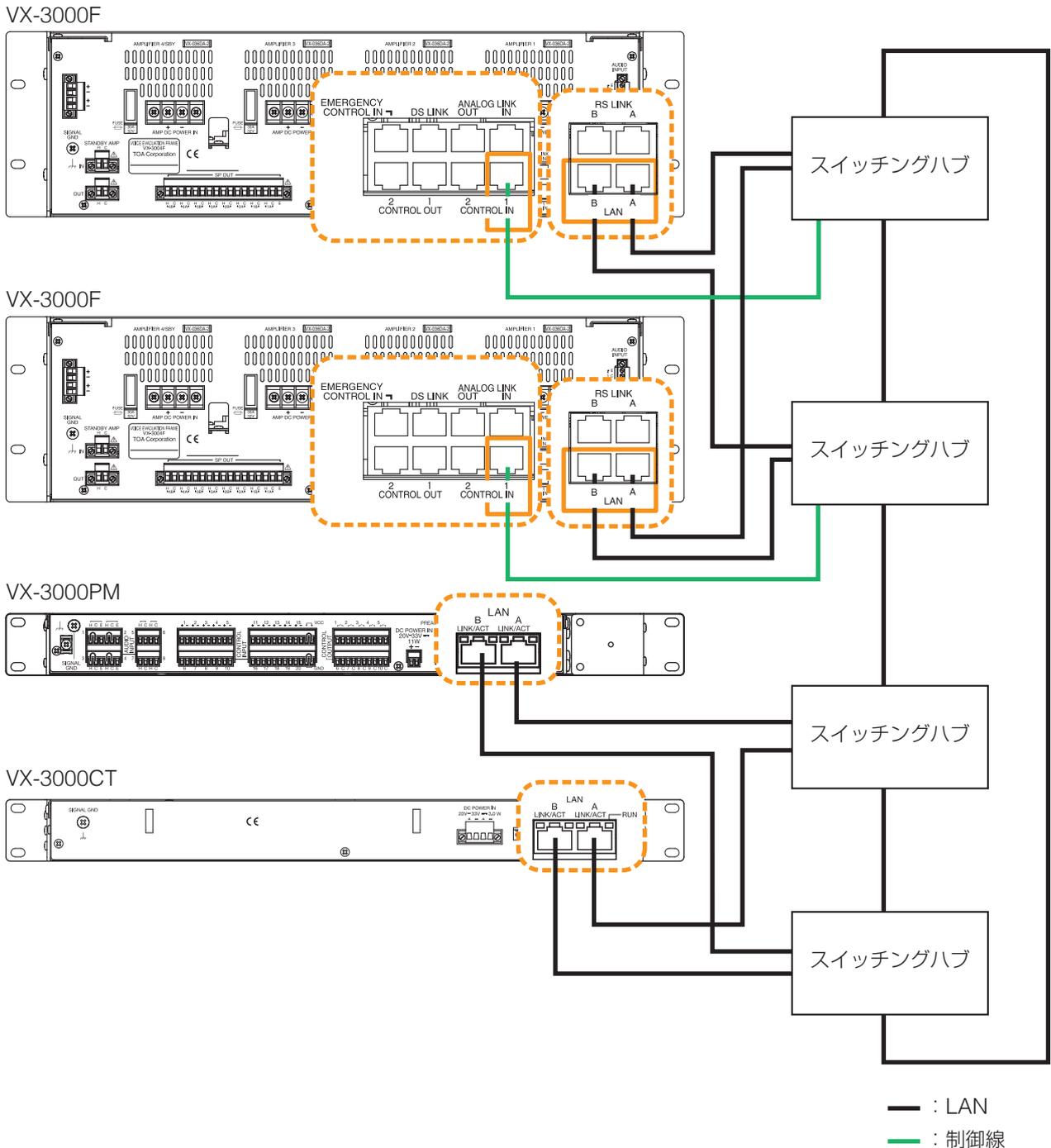


● 接続例 1：RSTP 準拠スイッチングハブの二重化構成

以下の接続例では、各 VX-3000 機器の LAN リンク A と B の端子がどちらも同じスイッチングハブに接続されています。故障状態出力機能付きスイッチングハブを使用することにより、いずれかのスイッチングハブが故障したり、配線が切断されたとき、故障として検出できます。

ご注意

- スwitchングハブ接続には、最大 7 段のカスケード接続が可能です。
- 接続が完了したら、VX-3000 機器を再起動してください。
- スwitchングハブ内でスパンニングツリー設定を行ってください。
- 外部故障入力機能は、本機の、スswitchングハブの故障状態出力が接続されている制御入力端子に割り当ててください。（詳細については、別冊の設定ソフトウェア説明書の「イベント設定」「故障検知パターン設定」を参照してください。）

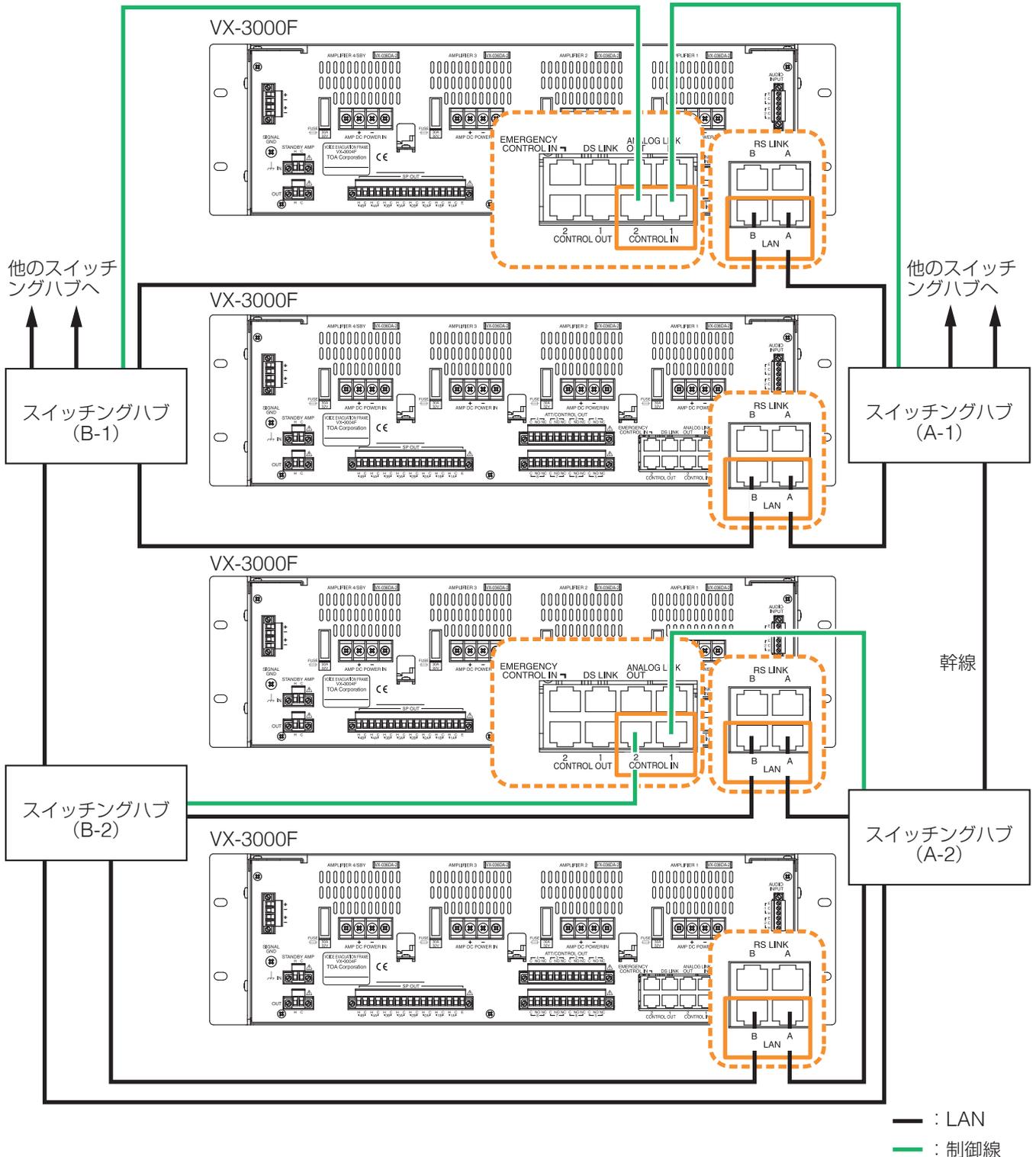


● 接続例 2 : RSTP 非準拠スイッチングハブの二重化構成

以下の接続例では、各 VX-3000F の LAN 端子 A と B がそれぞれ異なるスイッチングハブに接続されています。故障状態出力機能付きスイッチングハブを使用することにより、いずれかのスイッチングハブが故障したり、配線が切断されたとき、故障として検出されます。

ご注意

- スwitchングハブ接続には、最大 7 段のカスケード接続が可能です。
- 接続が完了したら、VX-3000F を再起動してください。
- 外部故障入力機能は、本機の、スイッチングハブの故障状態出力が接続されている制御入力端子に割り当ててください。(詳細については、別冊の設定ソフトウェア説明書の「イベント設定」「故障検知パターン設定」を参照してください。)

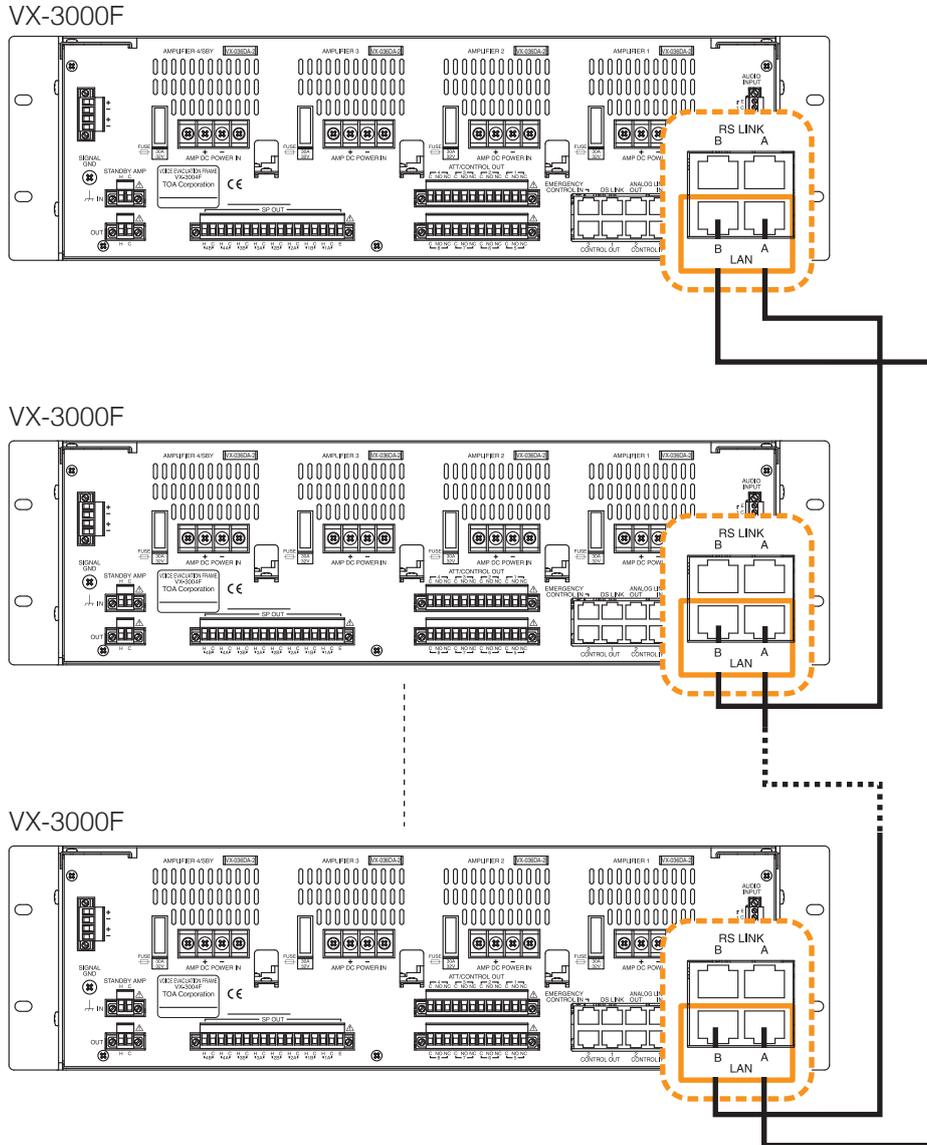


● 接続例 3：スイッチングハブを使用しない場合の二重化構成

以下の接続例では、各 VX-3000F の LAN 端子 A と B がどちらも別の VX-3000F に接続されています。

ご注意

- 最大 8 台の VX-3000F を接続できます。
- 接続が完了したら、VX-3000F を再起動してください。

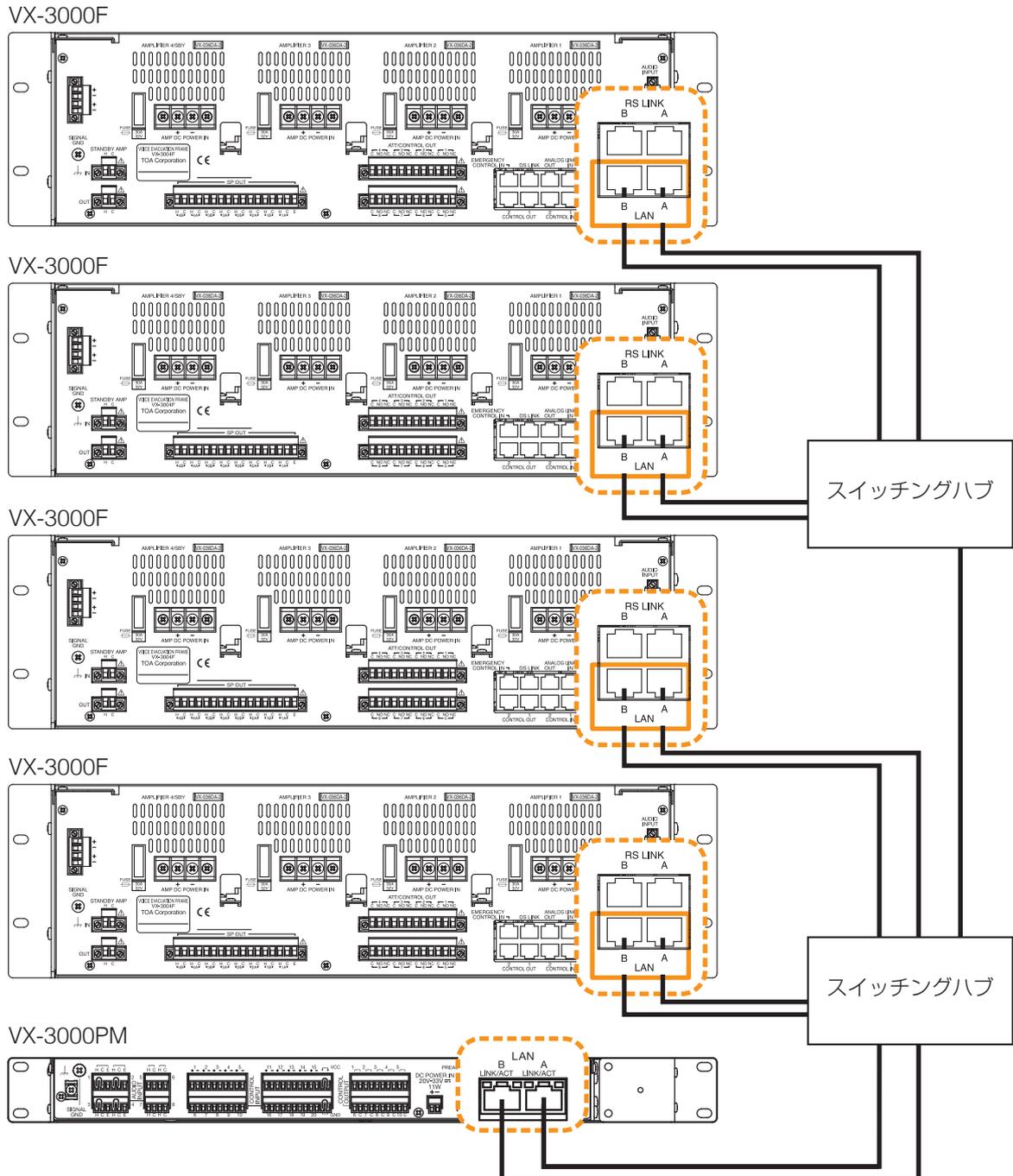


● 接続例 4：スイッチングハブの非二重化構成

以下の接続例では、各 VX-3000F または VX-3000PM の LAN 端子 A と B がどちらも同じスイッチングハブに接続されています。

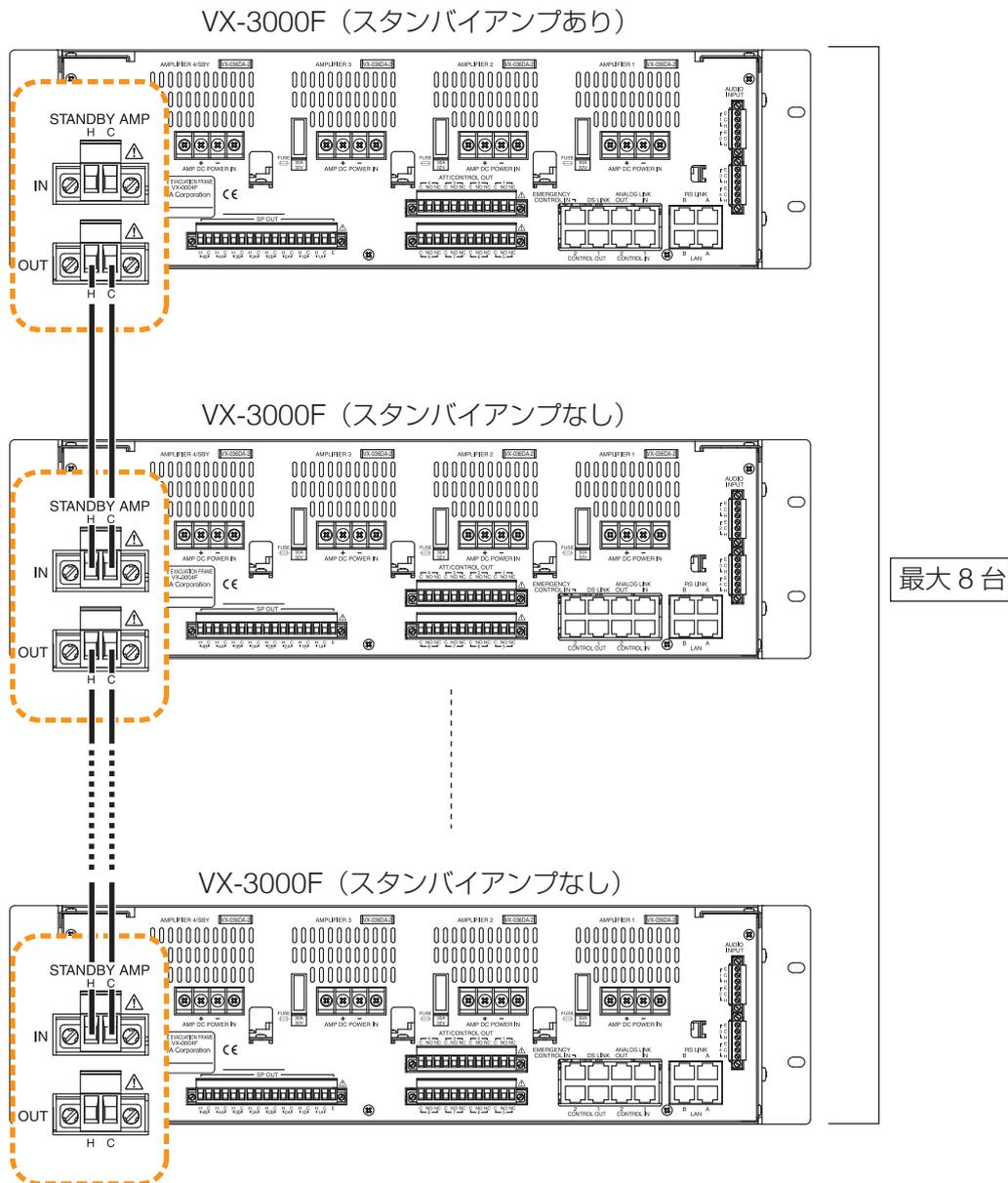
● ご注意

- スwitchングハブ接続には、最大 7 段のカスケード接続が可能です。
- 接続が完了したら、VX-3000 機器を再起動してください。



■ スタンバイアンプを共用する

1台のスタンバイアンプで最大31台のパワーアンプモジュールを冗長化することが可能です。
 1台のスタンバイアンプ出力端子に接続できる VX-3000F は、スタンバイアンプを組み込んだ VX-3000F を含め、最大8台までです。
 スタンバイアンプの定格出力は、接続するパワーアンプモジュールの最大出力のものより大きくしてください。
 スタンバイアンプを内蔵している VX-3000F のスタンバイアンプ出力端子を、次の VX-3000F のスタンバイアンプ入力端子に接続してください。
 同様に、他の VX-3000F のスタンバイアンプ出力端子から入力端子への接続を順々に行ってください



■ スピーカーセレクターの拡張

VX-3008F または VX-3016F は、パワーアンプを内蔵していなければ、回線数を拡張するスピーカーセレクターとして使用できます。

1 台の VX-3008F または VX-3016F には、放送ゾーン拡張用で最大 3 台の VX-3000F を接続できます。アンプモジュールを内蔵している VX-3008F または VX-3016F の拡張出力端子を、次の VX-3008F または VX-3016F の拡張入力端子に接続してください。

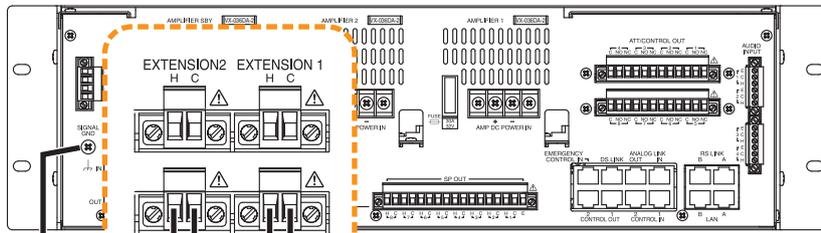
同様に、他の VX-3000F の拡張出力端子から入力端子への接続を順々に行ってください。

VX-3008F の接続では拡張入出力端子 1 と 2 を使用し、VX-3016F の接続では拡張入出力端子 1 を使用してください。

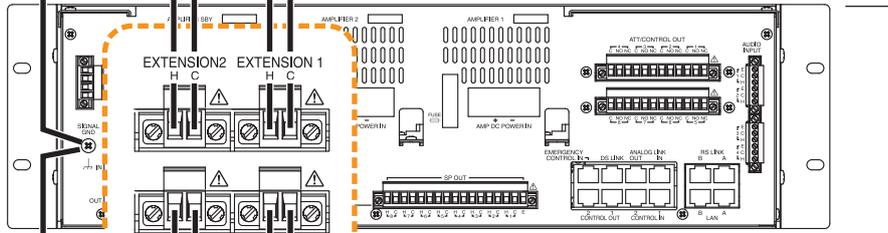
ご注意

- VX-3008F のゾーン拡張には VX-3008F のみ、VX-3016F のゾーン拡張には VX-3016F のみが使用できます。ただし、VX-3016F を「アンプ 2 系統、8 回線」モードで使用する場合、ゾーン拡張はできません。
- 必ず機能アース端子を接地してください。接地しないと地絡を検出できません。

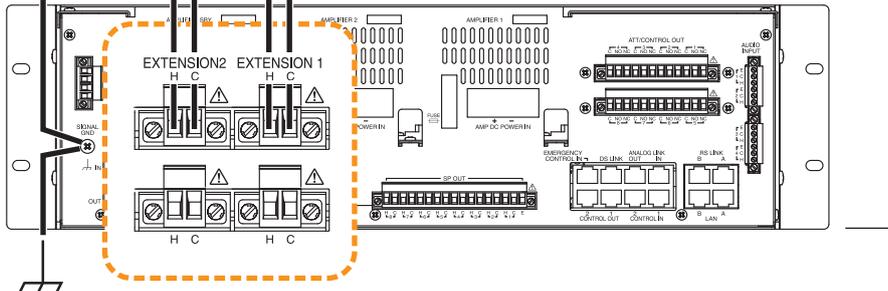
VX-3008F (アンプモジュール組み込みあり)



VX-3008F (アンプモジュール組み込みなし)



VX-3008F (アンプモジュール組み込みなし)



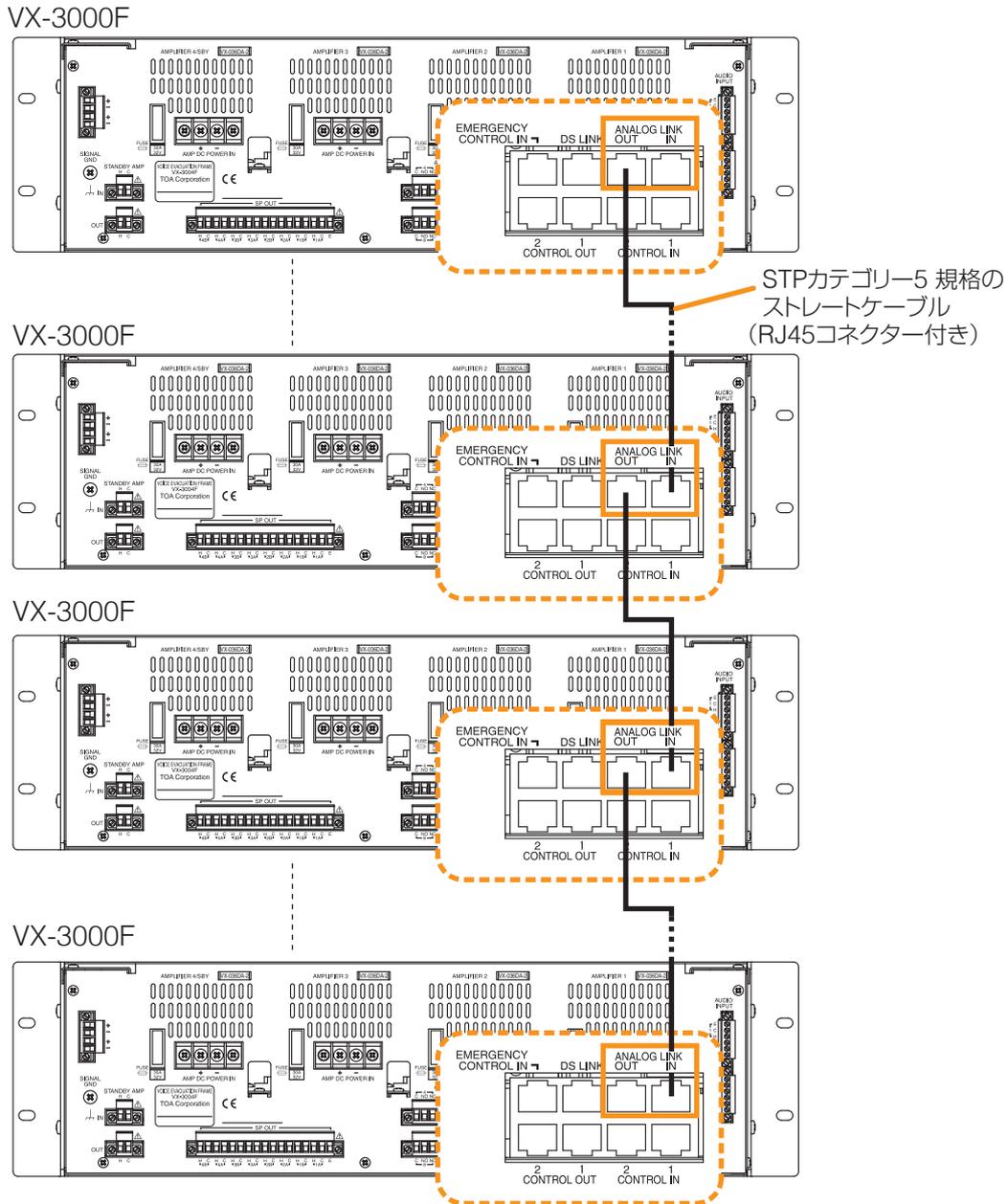
拡張ユニット：最大 3 台

■ アナログリンク端子の接続

システム内のすべての VX-3000F をアナログリンクで接続しておくと、故障などで通常の放送ができないときに、この線を使用して RM-300X または RM-200SF から緊急一斉放送を行うことができます。(参照 P. 3-30)
 VX-3000F のアナログリンク出力端子から、他の VX-3000F のアナログリンク入力端子へ接続します。
 VX-3000F を 2 台以上使用する場合は接続してください。

ご注意

システム内のアナログリンクの総延長距離は、800 m 以内にしてください。



■ プリアンプマトリクスパネルの接続

● 入力機器の接続

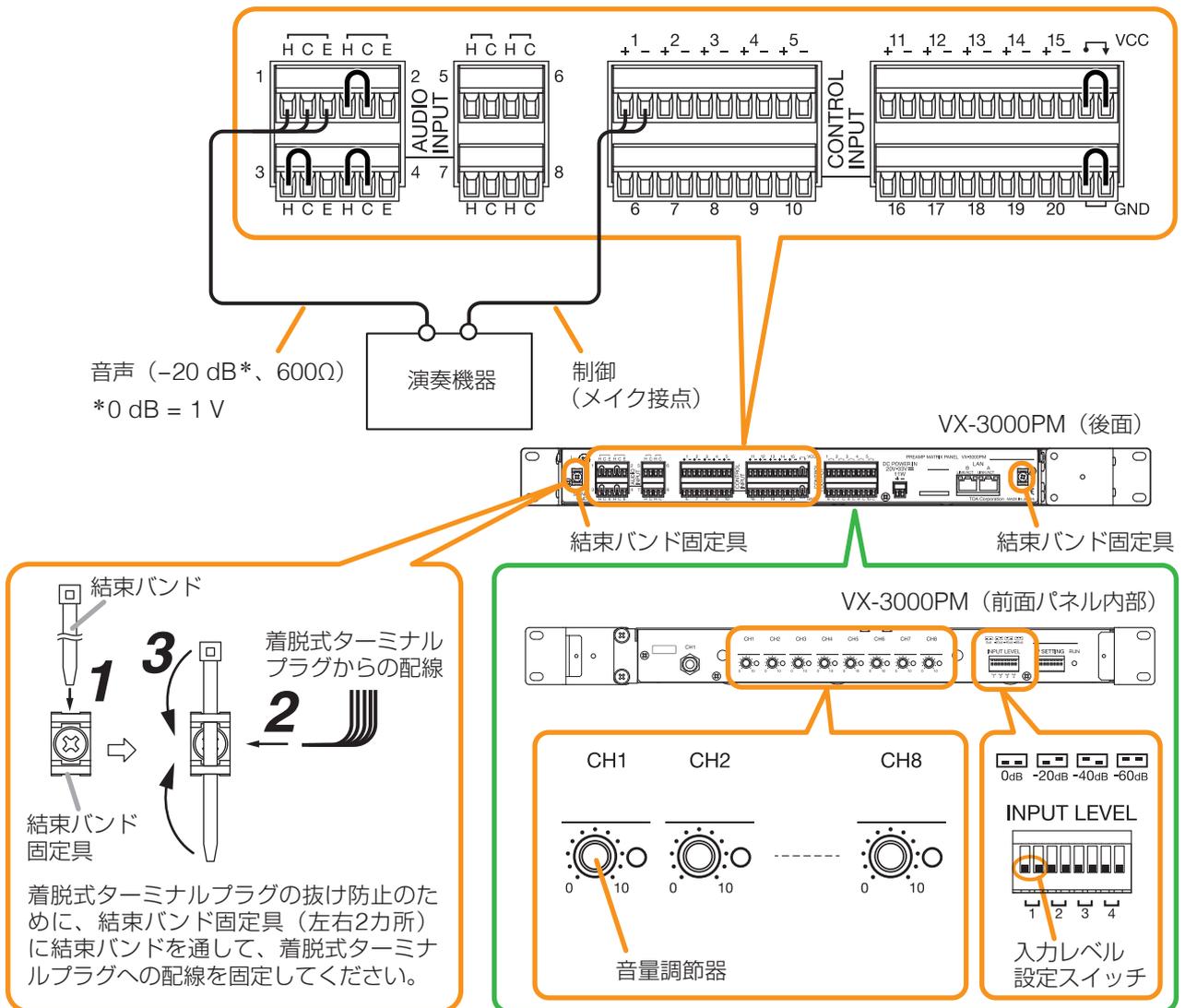
2心シールド線または1心シールド線を使用して、マイクやその他の演奏機器を音声入力に接続します。音声入力には8つの入力チャンネル（1～8）があり、音声入力1～4は2心シールド線、音声入力5～8は1心シールド線を接続します。

制御出力を持つ演奏機器の制御出力はプリアンプマトリクスパネルの制御入力に接続します。

プリアンプマトリクスパネルの音声入力1～4は前面の入力レベル設定スイッチで入力信号レベルの切り換えが可能です。また、前面の音量調節器で音声入力1～8の音量を個別に調節できます。

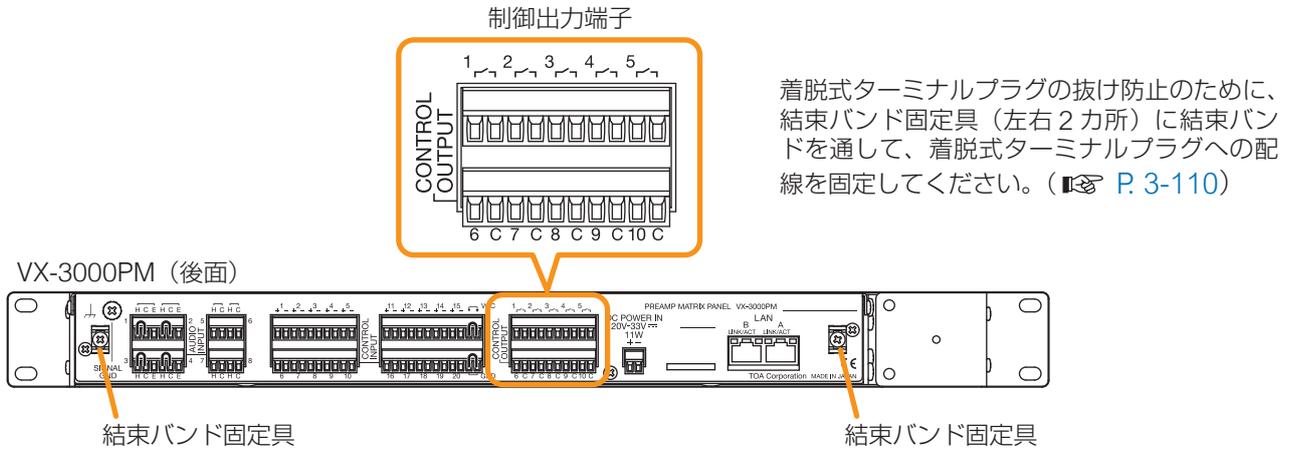
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、目的、タイプなどを設定します。（別冊の設定ソフトウェア説明書「機器構成設定」）

※ 使用する端子のジャンパー線を取り外してください。
それ以外のジャンパー線は取り外さないでください。



● 制御出力端子の接続

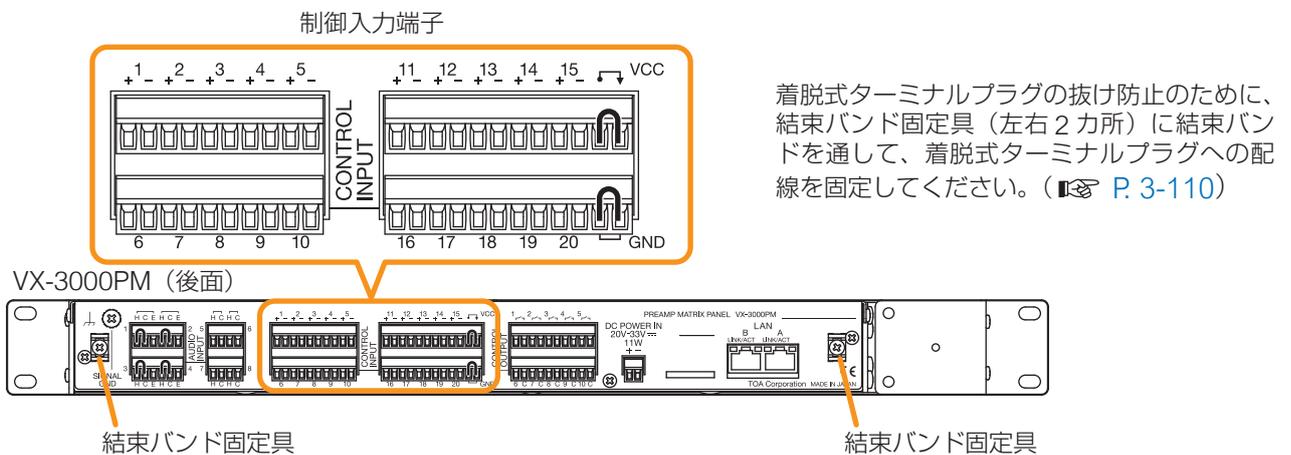
制御出力を出力する端子です。
本機の動作に同期して制御信号（メイク接点）が出力されます。



VX-3000 設定ソフトウェアを使用して出力動作を設定してください。
（参照 別冊の設定ソフトウェア説明書「機器構成設定」「制御出力パターン設定」）

● 制御入力端子の接続

接点入力で制御する端子です。
VX-3000 設定ソフトウェアを使用して、機能、極性を設定してください。
（参照 別冊の設定ソフトウェア説明書「制御入力のイベント設定」）

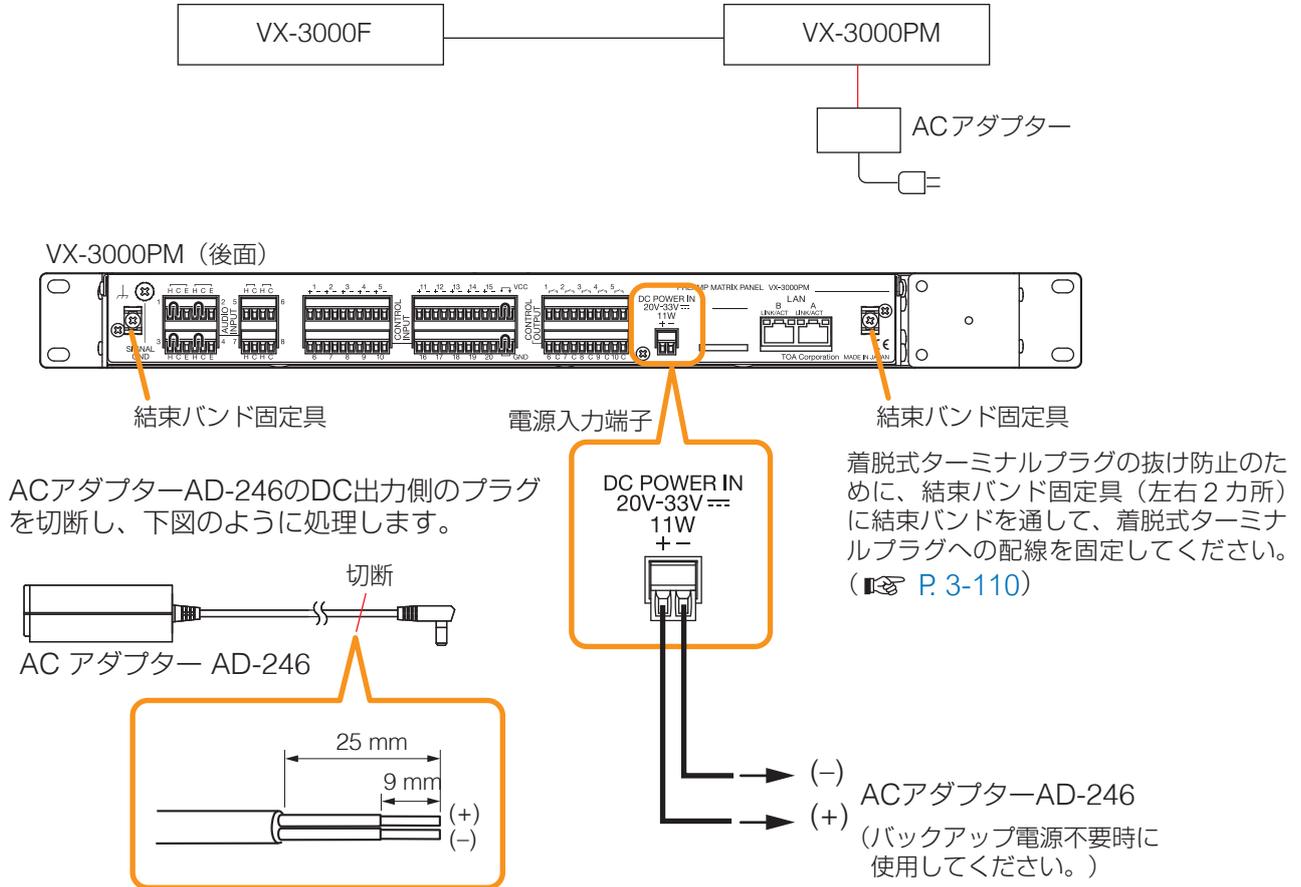


● 電源の接続

[VX-3000AD から電源を供給するとき]

VX-3000AD に付属の設置説明書をお読みください。

[AC アダプターから電源を供給するとき]



ご注意

停電中でも VX-3000PM に電源を供給するためには、AC アダプター用のバックアップ電源が必要です。あるいは、AC アダプターを使わずに VX-3000AD から VX-3000PM に電源を供給してください。

● LAN 接続端子の接続

P.3-101 「VX-3000 機器の LAN 端子の接続」をお読みください。

■ コントロールパネルの接続

● 電源の接続

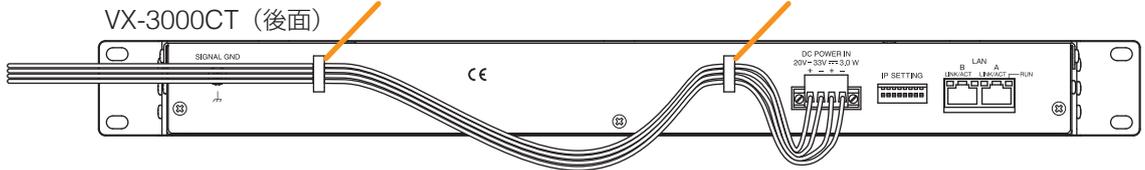
ご注意

電源線は2カ所のコードクランプを通し、VX-3000CTの高さからはみ出さないように固定してください。電源線がはみ出すと、ラック内の他の機器に挟み込まれてしまう可能性があります。

● 良い例



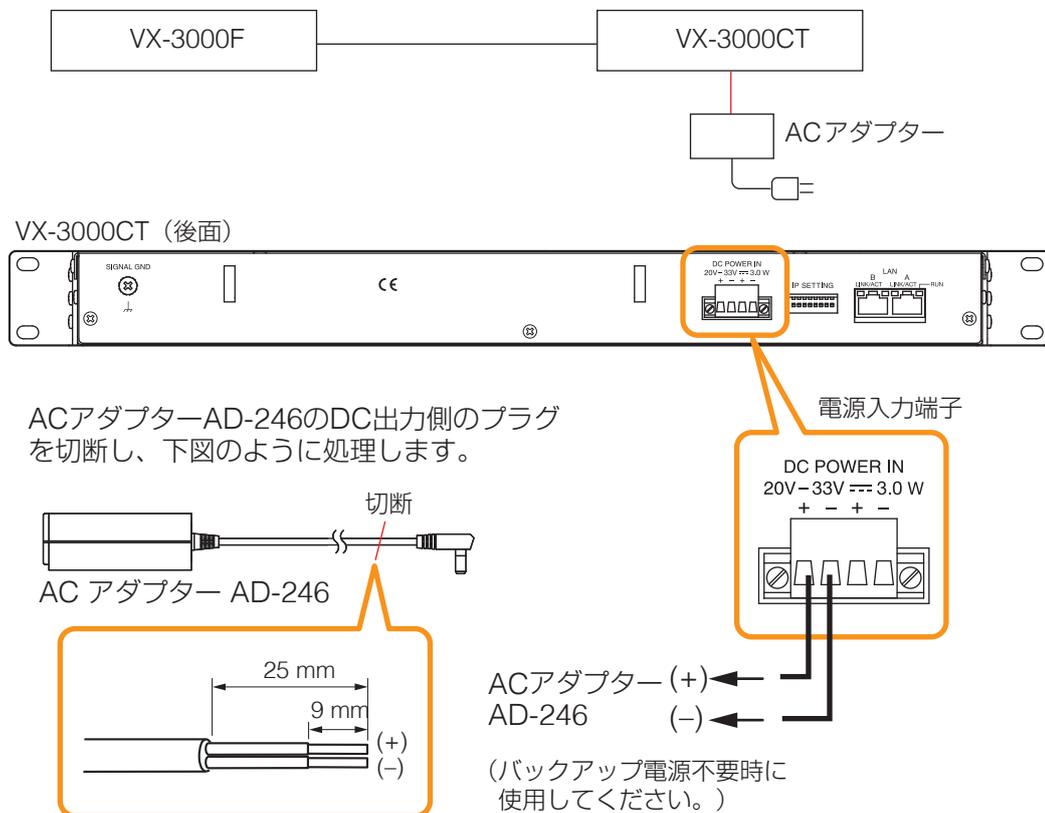
● 悪い例



[VX-3000AD から電源を供給するとき]

VX-3000AD に付属の設置説明書をお読みください。

[AC アダプターから電源を供給するとき]



ご注意

停電中でも VX-3000CT に電源を供給するためには、AC アダプター用のバックアップ電源が必要です。あるいは、AC アダプターを使わずに VX-3000AD から VX-3000CT に電源を供給してください。

● LAN 接続端子の接続

P. 3-101 「VX-3000 機器の LAN 端子の接続」をお読みください。

■ アース線の接続

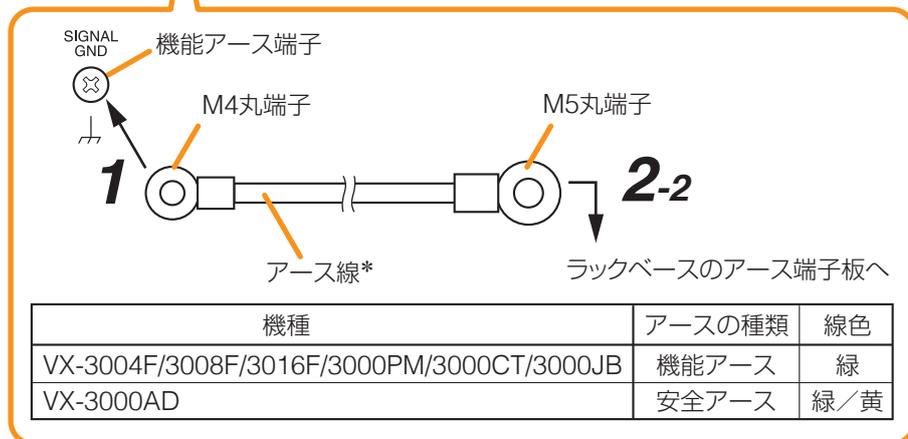
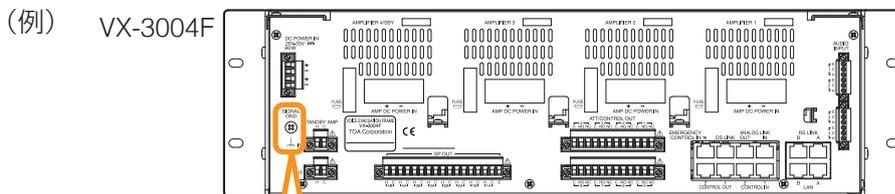
VX-3000AD の安全アース端子、および VX-3000F、VX-3000PM、VX-3000CT、VX-3000JB の機能アース端子とラックのアース端子板を接続します。



警告

- アース線は、専用のアース端子に接続してください。
- 安全アース（感電防止用）および機能アース（サージ保護用）を必ず接続してください。

1 各ユニットの安全アース端子および機能アース端子に、アース線の M4 丸端子を取り付ける。



* VX-3000AD の場合は、付属のアース線をお使いください。
それ以外の機種の場合は、アース線を別途ご用意ください。

2 ラックのアース端子板にアース線の M5 丸端子を取り付ける。(P. 3-115 の図参照)

2-1 ラックベースに設けられたタップにアース端子板を取り付ける。

※ アース端子板については当社営業所にお問い合わせください。

2-2 アース端子板に各ユニットのアース線の M5 丸端子を接続する。

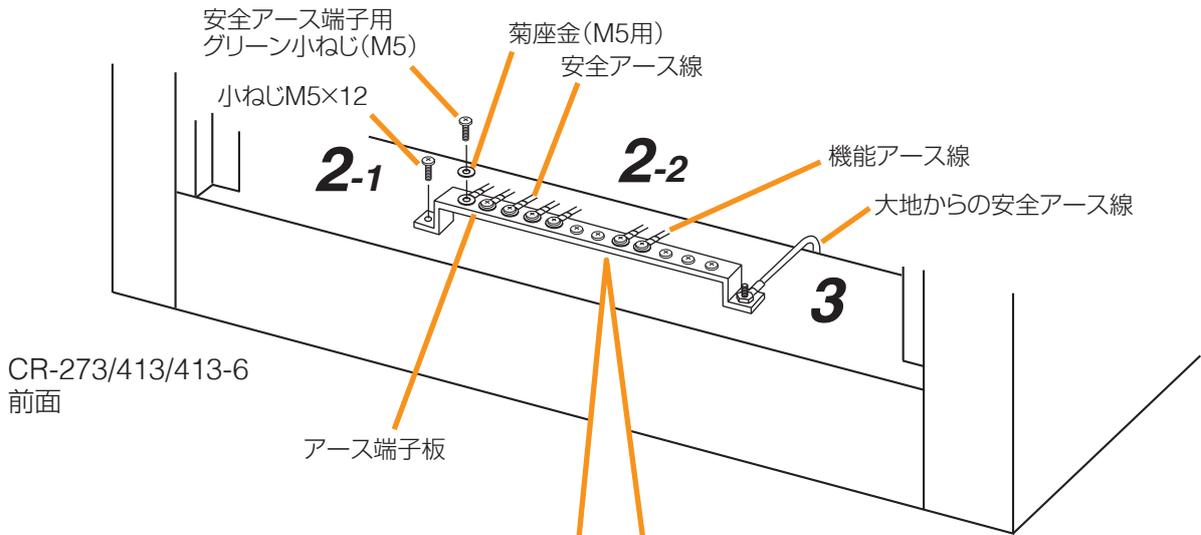
ご注意

- 機能アース線と安全アース線を同じ端子に接続しないでください。
- 安全アース線同士の共締めは、安全アース端子用グリーン小ねじ 1 本につき 2 本まで可能です。

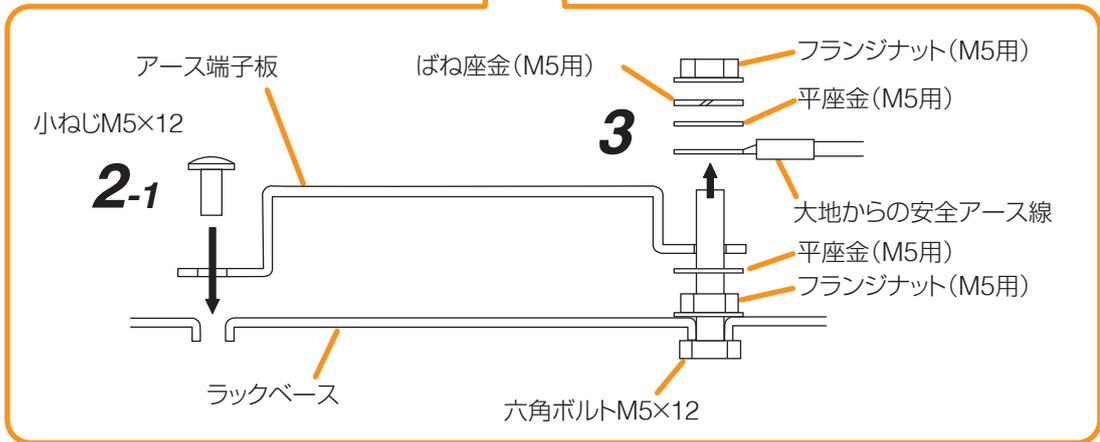


ラック内側に機能アース線を取り付けても機能上は問題ありません。

3 大地からの接地線をアース端子板に接続し、ラックのアースを取る。



アース端子板の取り付け例



スピーカー線の初期設定

スピーカーや配線の故障検出機能を使用する場合は、VX-3000F の接続が完了した後、次のように VX-3000F の初期設定をしてください。

■ 設定項目

[初期インピーダンス値の設定]

VX-3000F は、この初期インピーダンス値を基準値（通常のインピーダンス値）として、スピーカーラインが開放であるか短絡であるかを判別します。

重要

故障検知機能を使用する場合は、必ず初期インピーダンス値を設定してください。

[スピーカー線開放しきい値調整]

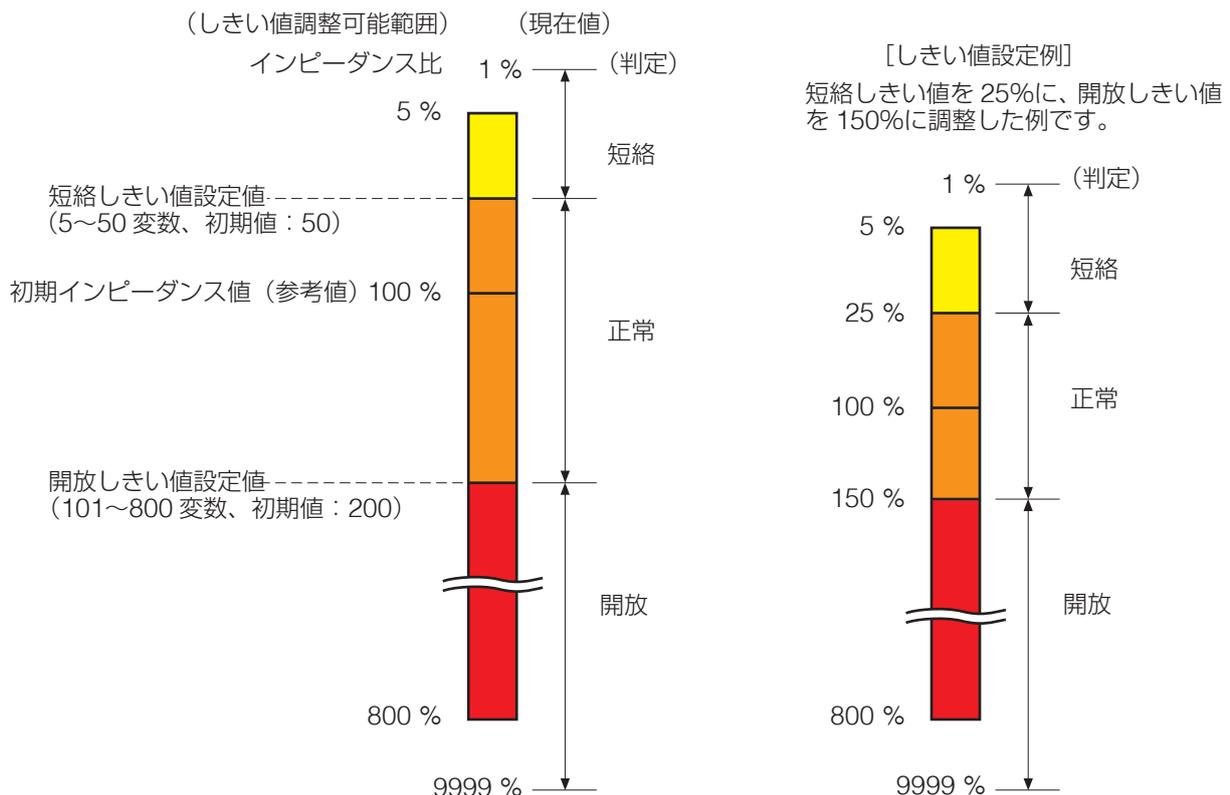
VX-3000F が、初期インピーダンス値に基づいてスピーカー線の開放を判断できるようにしきい値を調整することができます。

[スピーカー線短絡しきい値調整]

VX-3000F が、初期インピーダンス値に基づいてスピーカー線の短絡を判断できるようにしきい値を調整することができます。

■ 現在値と初期インピーダンス値の比較による開放／短絡の基準

現在値としきい値は、初期インピーダンス値（100%として定義）に対する比率として表されます。開放しきい値と短絡しきい値が工場出荷時設定のままである場合、スピーカー線は、現在値が初期インピーダンス値の半分未満になると短絡、初期インピーダンス値の2倍を超えると開放と判断されます。



■ 設定手順

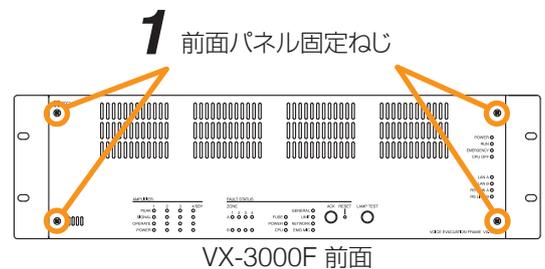
● 初期インピーダンス値の設定

ご注意

- スピーカー線の異常を検出する場合は、必ずこの設定を行ってください。
- 初期インピーダンス値の設定をする前に、VX-3000 設定ソフトウェアを使って、故障検知機能を使用する設定にしておいてください。故障検知機能を使用する設定にしておかないと、初期インピーダンス値の設定はできません。(別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「故障検知機能」)
- システムでスリープモード*1を使用する設定にしているときは、インピーダンス測定の前に「電源 ON」の機能*2を使用し、アンプ電源をオンにしてください。
*1 スリープモードの使用設定 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「基本設定」
*2 「電源 ON」機能の割り当てかた 別冊の設定ソフトウェア取扱説明書「イベント設定」
- 初期インピーダンス値の設定後に配線や接続を変更した場合は、必ず初期インピーダンス値をリセットしてください。
- インピーダンスを測定するときは、すべての放送を停止してください。
音声を出力している状態では、正しく測定できません。

1 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。



警告

デジタルパワーアンプモジュールのフィルター内部には電圧の高い部分があります。決してモジュール内部に指や金属物を挿入しないでください。

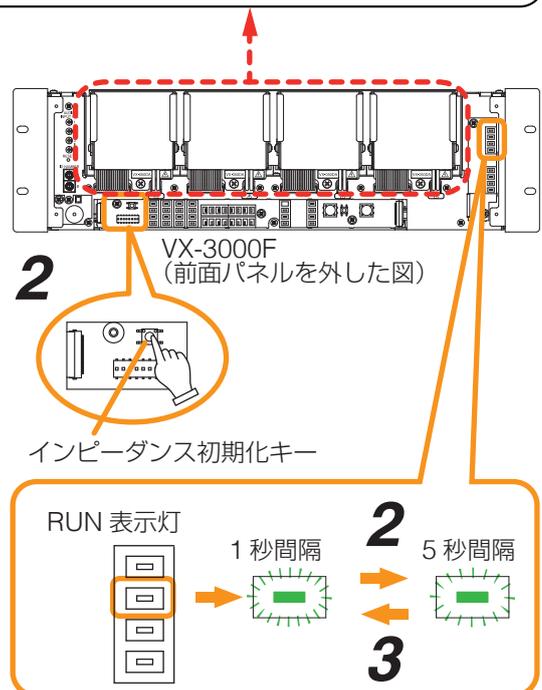
2 インピーダンス初期化キーを押す。

インピーダンス測定が開始されます。
RUN 表示灯 (本機右側に縦に配置された 8 個の LED の上から 2 個目の LED) の点滅間隔が 1 秒から 5 秒に変わります。

3 RUN 表示灯が通常状態 (1 秒間隔点滅) に戻るまで待つ。

4 前面パネルを元に戻す。

前面パネル固定ねじ 4 本で固定します。



● スピーカー線の開放しきい値を調整する

開放しきい値は、初期インピーダンス値（100%として定義）に対する比率で表され、101%から800%の範囲内で調整することができます。初期設定では、すべてのチャンネルで「200」に設定されています。この設定は、VX-3000 設定ソフトウェアを使って行います。

ご注意

設定を101%に近づけると開放しきい値が上がり、開放の検出精度が向上します。
設定を800%に近づけると開放しきい値が下がり、そのため開放の検出動作が不安定になります。

● スピーカーラインの短絡しきい値を調整する

短絡しきい値は、初期インピーダンス値（100%として定義）に対する比率として表され、5%から50%の範囲内で調整することができます。初期設定では、すべてのチャンネルで「50」に設定されています。この設定は、VX-3000 設定ソフトウェアを使って行います。

ご注意

設定を5%に近づけると短絡しきい値が下がり、そのため短絡の検出動作が不安定になります。

重要

短絡しきい値は、パワーアンプの定格負荷の2倍を超えない範囲で調整してください。
その範囲を超えると、パワーアンプが破損する恐れがあります。

(例)

- 定格負荷のスピーカーが接続されている場合 : 「50」(初期インピーダンス値)を変更しないでください。
- 定格負荷の半分のスピーカーが接続されている場合 : 「25」～「50」の範囲で設定してください。

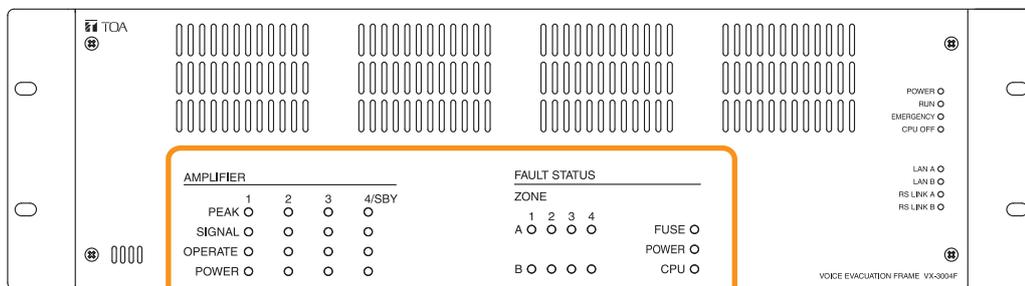
第4章

付 録

ファームウェアバージョンを確認する

VX-3000F の前面パネルの内側にある DIP スイッチを設定することにより、前面の表示灯でファームウェアバージョンを確認できます。

[前面の表示灯]

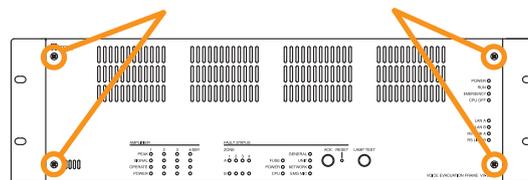


※ 上図は VX-3004F です。

1 前面パネルを取り外す。

固定ねじ 4 本を外し、前面パネルを取り外してください。

1 前面パネル固定ねじ



VX-3000F 前面

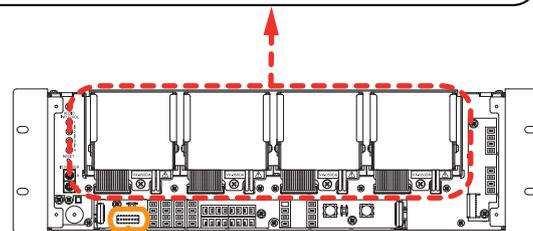
2 DIP スイッチのスイッチ 7 を ON に設定する。

警告

デジタルパワーアンプモジュールのフィルター内部には電圧の高い部分があります。決してモジュール内部に指や金属物を挿入しないでください。

3 前面パネルを元に戻す。

手順 1 で外した固定ねじ 4 本を使用して、前面パネルを固定してください。



VX-3000F 前面
(前面パネルを外した図)

4 前面パネルの表示灯の点灯状態を見て、ファームウェアのバージョンを確認する。 (P. 4-3)



5 再度、前面パネルを取り外して、DIP スイッチのスイッチ 7 を OFF に戻し、VX-3000F を元の状態に戻す。

【ファームウェアバージョンの確認のしかた】

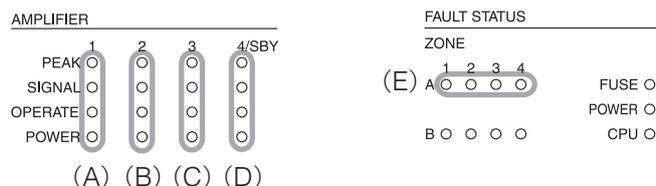
●ファームウェアバージョンの表示

VX-3000 のファームウェアバージョンは、次の例のように表されます。
ここでは、個々の番号を (A) ~ (E) と表記します。

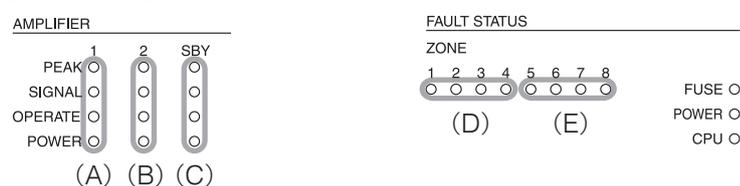
例： Ver. 1 . 2 3 . 4 5
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 (A) (B)(C) (D)(E)

●下記のように、ファームウェアバージョンの各桁は、(A) ~ (E) の表示灯の状態により決まります。

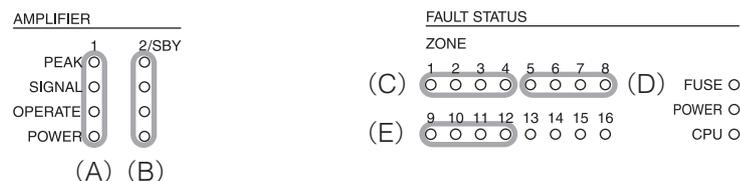
[VX-3004F]



[VX-3008F]



[VX-3016F]

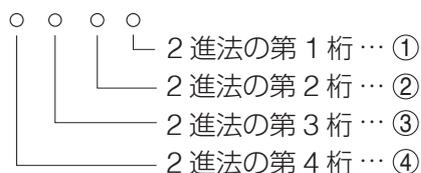


●ファームウェアバージョンの番号は、(A) ~ (E) の4つの表示灯により、2進法 (0: 消灯、1: 点灯) で表されます。下表を参照して、表示灯で示された2進数を10進数に置き換えてください。

(縦に配置された表示灯の場合)

- — 2進法の第4桁 … ④
- — 2進法の第3桁 … ③
- — 2進法の第2桁 … ②
- — 2進法の第1桁 … ①

(横に配置された表示灯の場合)

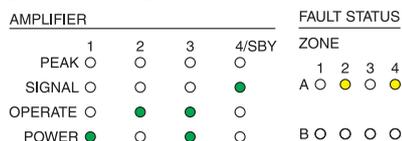


10進数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
表示灯の状態	④	○	○	○	○	○	○	○	●	●
	③	○	○	○	○	●	●	●	●	○
	②	○	○	●	●	○	○	●	●	○
	①	○	●	○	●	○	●	○	●	●

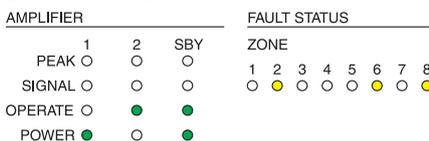
○ : 消灯 ● : 点灯

(バージョン 1.23.45 の表示例)

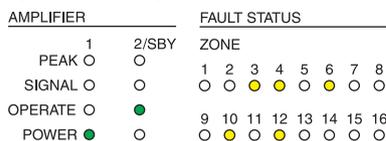
[VX-3004F]



[VX-3008F]



[VX-3016F]



仕 様

■ VX-3000 フレーム 4AB VX-3004F

電 源	DC20 ~ 33 V、着脱式ターミナルブロック (4P)
消 費 電 流	0.55 A (フレーム単体)、2.55 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC33 V 入力時 0.66 A (フレーム単体)、2.66 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC24 V 入力時
L A N A、B	コネクター数 : 2 (LAN A、LAN B) ネットワーク I/F : 100BASE-TX ネットワークプロトコル : TCP、UDP、ARP、ICMP、RTP、IGMP、FTP、HTTP、NTP スパニングツリープロトコル : RSTP 音声伝送方式 : パケットオーディオ技術*1 音声符号化方式 : PCM 音声サンプリング周波数 : 48 kHz 量子化ビット数 : 16 ビット 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、NX-300、VX-3000PM、VX-3000CT、スイッチングハブ 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上) スイッチングハブ段数 : 最大 7 段 最大延長距離 : 100 m
R S リ ン ク A、B	コネクター数 : 2 (RS LINK A、RS LINK B) 音声入力レベル : 0 dB *2 給電 : 最大 1 A / コネクター 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 1200 m
D S リ ン ク	適合機種 : DS リンクのある電源ユニット 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 5 m
ア ナ ロ グ リ ン ク	コネクター数 : 1 入力、1 出力 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 800 m
制 御 入 力 1、2	16 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧 : DC24 V、短絡電流 : 2 mA 故障検出システム : 短絡回路、開放回路、検出方式 : 電圧検知 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)
非 常 断 24 V 入 力	2 系統 : 絶縁電圧入力 (-24 ~ +24 V) 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上)
V O X 機 能	スレッシュホールド : -60 ~ 0 dB、1 dB ステップ ヒステリシス : 0 ~ 10 dB ホールドタイム : 10 ms ~ 10 s 音声入力ごとに選択可能
制 御 出 力 1、2	通常出力 : 制御出力 1 の 8 系統 専用出力 : 制御出力 2 の 3 系統 システム異常、CPU 異常、CPU OFF 無電圧メイク接点、オープンコレクター出力、耐電圧 : DC28 V、許容電流 : 10 mA 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)

ATT / 制 御 出 力	8 系統、無電圧メイク接点、リレー接点 (NC、NO、C) 耐電圧：AC125 V、DC40 V、許容電流：2 mA ~ 5 A 着脱式ターミナルブロック (12P) × 2
音 声 入 力	4 系統 入力レベル： LINE：-20 dB *2、MIC：-60 dB *2 LINE/MIC/ANC センサー (設定ソフトウェアにより制御可) ゲイン設定：ボリューム調節つまみ (フロントパネル内部)、 -∞ ~ 0 dB 入力インピーダンス：47 kΩ、電子バランス 周波数特性：40 Hz ~ 20 kHz、± 1 dB (DA 制御リンク、0 dB 出力時) 歪率：1% 以下 (DA 制御リンク、0 dB、1 kHz 出力時) SN 比：60 dB 以上 (DA 制御リンク、JIS-A) ファンタム電源供給：DC24 V、ソフトウェアで設定可 着脱式ターミナルブロック (6P) × 2
デ	ハウリング制御機能 (FBS 機能)
ジ	7 フィルター (オート)、各音声入力と RS LINK (A/B) に設定可能
タ	3 ポイント、各音声入力と RS LINK (A/B) に設定可能：6 ポイント、各アンプ出力に設定可能 パラメトリックイコライザー：20 Hz ~ 20 kHz、± 15 dB、Q：0.267 ~ 69.249 フィルター： ハイパスフィルター 20 Hz ~ 20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ローパスフィルター 20 Hz ~ 20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ハイシェルピングフィルター 6 ~ 20 kHz、± 15 dB ローシェルピングフィルター 20 ~ 500 Hz、± 15 dB ノッチフィルター(アンプ出力のみ) 20 Hz ~ 20 kHz、Q：8.651 ~ 69.249 オールパスフィルター(アンプ出力のみ) 20 Hz ~ 20 kHz、Q：0.267 ~ 69.249 ホーンイコライザー(アンプ出力のみ) 20 kHz、0 ~ 18 dB (0.5 dB ステップ)
ル	コンプレッサー
信	スレッシュホールド：-20 ~ 0 dB、1 dB ステップ レシオ：1:1、1.1:1、1.2:1、1.3:1、1.5:1、1.7:1、2:1、2.3:1、2.6:1、3:1、 4:1、5:1、7:1、8:1、10:1、12:1、20:1、∞:1 アタックタイム：0.2 ms ~ 5 s リリースタイム：10 ms ~ 5 s ゲイン：-∞ ~ +10 dB ニータイプ：ハードニー、ミドルニー、ソフトニー
号	デ ィ レ イ
処	遅延時間：0 ~ 2730 ms、0.021 ms ステップ (各アンプ出力)
理	アンビエントノイズコントロール (ANC 機能) アンプ出力制御、センサー入力基準レベル自動測定、 センサー入力基準レベル微調節 最大出力レベル調節：-15 ~ 0 dB 最小出力レベル調節：-18 ~ -3 dB サンプル時間設定：10 s、20 s、30 s、1 min、5 min ゲインレシオ設定 (周囲騒音：出力レベル)：6:3、5:3、4:3、3:3、3:4、3:5、3:6 周囲騒音測定周波数設定：20 Hz ~ 20 kHz、3 ポイント
プログラムタイマー	週間プログラム方式 運用プログラム：50 ステップ、10 種類 休日プログラム：50 種類
時 刻 補 正	制御入力、NTP
ス ピ ー カ ー 出 力	4 回線 (A / B ラインスピーカー出力)、アンプ 4 系統、1 アース端子 最大電圧/電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック (17P) 故障検出システム：短絡回路、開放回路、接地異常 検出方式：インピーダンス
スタンバイアンプ入出力	入力 1、出力 1 最大電圧/電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック (2P) × 2
モ ジ ュ ー ル *3	組込可能台数：4 DA 制御リンク … 4、 DA 出力リンク … 4 (パワーアンプモジュール組み込み時のみ)

表 示 灯	POWER (緑) × 1、RUN (緑) × 1、EMERGENCY (赤) × 1、CPU OFF (赤) × 1、LAN A (緑) × 1、LAN B (緑) × 1、RS LINK A (緑) × 1、RS LINK B (緑) × 1 FAULT STATUS (黄) GENERAL × 1、UNIT × 1、NETWORK × 1、EMG MIC × 1、FUSE × 1、POWER × 1、CPU × 1、ZONE × 8 AMPLIFIER PEAK (赤) × 4、SIGNAL (緑) × 4、OPERATE (緑) × 4、POWER (緑) × 4
操 作 ス イ ッ チ	異常制御スイッチ× 2 (ACK/RESET) テストスイッチ× 1 (LAMP TEST) 設定スイッチ：ID 番号、リセット、インピーダンスの設定 (フロントパネル内部)
使 用 温 度 範 囲	-5 ~ +45°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル：表面処理鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装、3 分艶
寸 法	483 (幅) × 132.6 (高さ) × 345 (奥行) mm
質 量	7.6 kg

*1 IP ネットワーク上で高品質の音声をリアルタイムに伝送できる TOA 独自の技術

*2 0 dB = 1 V

*3 モジュール：デジタルパワーアンプモジュール、ラインアウトプットモジュール

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
CD (設定ソフトウェア)	1
着脱式ターミナルプラグ (2P)	2
着脱式ターミナルプラグ (4P)	1
着脱式ターミナルプラグ (6P)	2
着脱式ターミナルプラグ (12P)	2
着脱式ターミナルプラグ (17P)	1
フェライトクランプ	2

■ VX-3000 フレーム 8SS VX-3008F

電 源	DC20 ~ 33 V、着脱式ターミナルブロック (4P)
消 費 電 流	0.65 A (フレーム単体)、2.65 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC33 V 入力時 0.78 A (フレーム単体)、2.78 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC24 V 入力時
L A N A、B	コネクター数 : 2 (LAN A、LAN B) ネットワーク I/F : 100BASE-TX ネットワークプロトコル : TCP、UDP、ARP、ICMP、RTP、IGMP、FTP、HTTP、NTP スパンニングツリープロトコル : RSTP 音声伝送方式 : パケットオーディオ技術*1 音声符号化方式 : PCM 音声サンプリング周波数 : 48 kHz 量子化ビット数 : 16 ビット 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、NX-300、VX-3000PM、VX-3000CT、スイッチングハブ 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上) スイッチングハブ段数 : 最大 7 段 最大延長距離 : 100 m
R S リ ン ク A、B	コネクター数 : 2 (RS LINK A、RS LINK B) 音声入力レベル : 0 dB *2 給電 : 最大 1 A / コネクター 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 1200 m
D S リ ン ク	適合機種 : DS リンクのある電源ユニット 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 5 m
ア ナ ロ グ リ ン ク	コネクター数 : 1 入力、1 出力 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 800 m
制 御 入 力 1、2	16 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧 : DC24 V、短絡電流 : 2 mA 故障検出システム : 短絡回路、開放回路、検出方式 : 電圧検知 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)
非 常 断 24 V 入 力	2 系統 : 絶縁電圧入力 (-24 ~ +24 V) 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上)
V O X 機 能	スレッシュホールド : -60 ~ 0 dB、1 dB ステップ ヒステリシス : 0 ~ 10 dB ホールドタイム : 10 ms ~ 10 s 音声入力ごとに選択可能
制 御 出 力 1、2	通常出力 : 制御出力 1 の 8 系統 専用出力 : 制御出力 2 の 3 系統 システム異常、CPU 異常、CPU OFF 無電圧メイク接点、オープンコレクター出力、耐電圧 : DC28 V、許容電流 : 10 mA 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)
ATT / 制 御 出 力	8 系統、無電圧メイク接点、リレー接点 (NC、NO、C) 耐電圧 : AC125 V、DC40 V、許容電流 : 2 mA ~ 5 A 着脱式ターミナルブロック (12P) × 2

音 声 入 力	4系統 入力レベル： LINE：-20 dB *2、MIC：-60 dB *2 LINE/MIC/ANC センサー（設定ソフトウェアにより制御可） ゲイン設定：ボリューム調節つまみ（フロントパネル内部）、 -∞～0 dB 入力インピーダンス：47 kΩ、電子バランス 周波数特性：40 Hz～20 kHz、±1 dB（DA 制御リンク、0 dB 出力時） 歪率：1% 以下（DA 制御リンク、0 dB、1 kHz 出力時） SN 比：60 dB 以上（DA 制御リンク、JIS-A） ファンタム電源供給：DC24 V、ソフトウェアで設定可 着脱式ターミナルブロック（6P）×2	
デ	ハウリング制御機能（FBS 機能）	7 フィルター（オート）、各音声入力と RS LINK（A/B）に設定可能
ジ	イコライザー／ フィルター	3 ポイント、各音声入力と RS LINK（A/B）に設定可能：6 ポイント、各アンプ出力に設定可能 パラメトリックイコライザー：20 Hz～20 kHz、±15 dB、Q：0.267～69.249 フィルター： ハイパスフィルター 20 Hz～20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ローパスフィルター 20 Hz～20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ハイシェルピングフィルター 6～20 kHz、±15 dB ローシェルピングフィルター 20～500 Hz、±15 dB ノッチフィルター（アンプ出力のみ） 20 Hz～20 kHz、Q：8.651～69.249 オールパスフィルター（アンプ出力のみ） 20 Hz～20 kHz、Q：0.267～69.249 ホーンイコライザー（アンプ出力のみ） 20 kHz、0～18 dB（0.5 dB ステップ）
タ	コンプレッサー	スレッシュホールド：-20～0 dB、1 dB ステップ レシオ：1:1、1.1:1、1.2:1、1.3:1、1.5:1、1.7:1、2:1、2.3:1、2.6:1、3:1、 4:1、5:1、7:1、8:1、10:1、12:1、20:1、∞:1 アタックタイム：0.2 ms～5 s リリースタイム：10 ms～5 s ゲイン：-∞～+10 dB ニータイプ：ハードニー、ミドルニー、ソフトニー
ル	デ イ レ イ	遅延時間：0～2730 ms、0.021 ms ステップ（各アンプ出力）
信	アンビエントノイズ コントロール （ANC 機能）	アンプ出力制御、センサー入力基準レベル自動測定、 センサー入力基準レベル微調節 最大出力レベル調節：-15～0 dB 最小出力レベル調節：-18～-3 dB サンプル時間設定：10 s、20 s、30 s、1 min、5 min ゲインレシオ設定（周囲騒音：出力レベル）：6:3、5:3、4:3、3:3、3:4、3:5、3:6 周囲騒音測定周波数設定：20 Hz～20 kHz、3 ポイント
号	プログラムタイマー	週間プログラム方式 運用プログラム：50 ステップ、10 種類 休日プログラム：50 種類
処	時 刻 補 正	制御入力、NTP
理	ス ピ ー カ ー 出 力	8 回線、アンプ 2 系統、1 アース端子 最大電圧／電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック（17P） 故障検出システム：短絡回路、開放回路、接地異常 検出方式：インピーダンス
	スタンバイアンプ入出力	入力 1、出力 1 最大電圧／電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック（2P）×2
	拡張用アンプ入出力	入力 2、出力 2 最大電圧／電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック（2P）×4
	モ ジ ュ ー ル *3	組込可能台数：3（ラインアウトプットモジュール組み込み時は 2） DA 制御リンク…3、 DA 出力リンク…3（パワーアンプモジュール組み込み時のみ）

表 示 灯	POWER (緑) × 1、RUN (緑) × 1、EMERGENCY (赤) × 1、CPU OFF (赤) × 1、LAN A (緑) × 1、LAN B (緑) × 1、RS LINK A (緑) × 1、RS LINK B (緑) × 1 FAULT STATUS (黄) GENERAL × 1、UNIT × 1、NETWORK × 1、EMG MIC × 1、FUSE × 1、POWER × 1、CPU × 1、ZONE × 8 AMPLIFIER PEAK (赤) × 3、SIGNAL (緑) × 3、OPERATE (緑) × 3、POWER (緑) × 3
操 作 ス イ ッ チ	異常制御スイッチ×2 (ACK/RESET) テストスイッチ×1 (LAMP TEST) 設定スイッチ：ID 番号、リセット、インピーダンスの設定 (フロントパネル内部)
使 用 温 度 範 囲	-5 ~ +45°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル：表面処理鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装、3分艶
寸 法	483 (幅) × 132.6 (高さ) × 345 (奥行) mm
質 量	7.9 kg

*1 IP ネットワーク上で高品質の音声をリアルタイムに伝送できる TOA 独自の技術

*2 0 dB = 1 V

*3 モジュール：デジタルパワーアンプモジュール、ラインアウトプットモジュール

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
CD (設定ソフトウェア)	1
着脱式ターミナルプラグ (2P)	6
着脱式ターミナルプラグ (4P)	1
着脱式ターミナルプラグ (6P)	2
着脱式ターミナルプラグ (12P)	2
着脱式ターミナルプラグ (17P)	1
フェライトクランプ	2

■ VX-3000 フレーム 16SS VX-3016F

電 源	DC20 ~ 33 V、着脱式ターミナルブロック (4P)
消 費 電 流	0.75 A (フレーム単体)、2.75 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC33 V 入力時 0.91 A (フレーム単体)、2.91 A (RS LINK : 2 A 出力)、DC24 V 入力時
L A N A、B	コネクター数 : 2 (LAN A、LAN B) ネットワーク I/F : 100BASE-TX ネットワークプロトコル : TCP、UDP、ARP、ICMP、RTP、IGMP、FTP、HTTP、NTP スパニングツリープロトコル : RSTP 音声伝送方式 : パケットオーディオ技術*1 音声符号化方式 : PCM 音声サンプリング周波数 : 48 kHz 量子化ビット数 : 16 ビット 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、NX-300、VX-3000PM、VX-3000CT、スイッチングハブ 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上) スイッチングハブ段数 : 最大 7 段 最大延長距離 : 100 m
R S リ ン ク A、B	コネクター数 : 2 (RS LINK A、RS LINK B) 音声入力レベル : 0 dB*2 給電 : 最大 1 A / コネクター 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 1200 m
D S リ ン ク	適合機種 : DS リンクのある電源ユニット 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 5 m
ア ナ ロ グ リ ン ク	コネクター数 : 1 入力、1 出力 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 最大延長距離 : 800 m
制 御 入 力 1、2	16 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧 : DC24 V、短絡電流 : 2 mA 故障検出システム : 短絡回路、開放回路、検出方式 : 電圧検知 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)
非 常 断 24 V 入 力	2 系統 : 絶縁電圧入力 (-24 ~ +24 V) 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上)
V O X 機 能	スレッシュホールド : -60 ~ 0 dB、1 dB ステップ ヒステリシス : 0 ~ 10 dB ホールドタイム : 10 ms ~ 10 s 音声入力ごとに選択可能
制 御 出 力 1、2	通常出力 : 制御出力 1 の 8 系統 専用出力 : 制御出力 2 の 3 系統 システム異常、CPU 異常、CPU OFF 無電圧メイク接点、オープンコレクター出力、耐電圧 : DC28 V、許容電流 : 10 mA 接続コネクター : RJ45 接続線 : シールド付きカテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上)

ATT / 制 御 出 力	16 系統、無電圧メイク接点、リレー接点 (NC、NO、C) 耐電圧：AC125 V、DC40 V、許容電流：2 mA ~ 5 A 着脱式ターミナルブロック (12P) × 4
音 声 入 力	4 系統 入力レベル： LINE：-20 dB *2、MIC：-60 dB *2 LINE/MIC/ANC センサー (設定ソフトウェアにより制御可) ゲイン設定：ボリューム調節つまみ (フロントパネル内部)、 -∞ ~ 0 dB 入力インピーダンス：47 kΩ、電子バランス 周波数特性：40 Hz ~ 20 kHz、± 1 dB (DA 制御リンク、0 dB 出力時) 歪率：1% 以下 (DA 制御リンク、0 dB、1 kHz 出力時) SN 比：60 dB 以上 (DA 制御リンク、JIS-A) ファンタム電源供給：DC24 V、ソフトウェアで設定可 着脱式ターミナルブロック (6P) × 2
デ	ハウリング制御機能 (FBS 機能)
ジ	7 フィルター (オート)、各音声入力と RS LINK (A/B) に設定可能
タ	3 ポイント、各音声入力と RS LINK (A/B) に設定可能：6 ポイント、各アンプ出力に設定可能 パラメトリックイコライザー：20 Hz ~ 20 kHz、± 15 dB、Q：0.267 ~ 69.249 フィルター： ハイパスフィルター 20 Hz ~ 20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ローパスフィルター 20 Hz ~ 20 kHz、6 dB/oct、12 dB/oct ハイシェルピングフィルター 6 ~ 20 kHz、± 15 dB ローシェルピングフィルター 20 ~ 500 Hz、± 15 dB ノッチフィルター(アンプ出力のみ) 20 Hz ~ 20 kHz、Q:8.651 ~ 69.249 オールパスフィルター(アンプ出力のみ) 20 Hz ~ 20 kHz、Q:0.267 ~ 69.249 ホーンイコライザー(アンプ出力のみ) 20 kHz、0 ~ 18 dB (0.5 dB ステップ)
ル	コンプレッサー
信	スレッシュホールド：-20 ~ 0 dB、1 dB ステップ レシオ：1:1、1.1:1、1.2:1、1.3:1、1.5:1、1.7:1、2:1、2.3:1、2.6:1、3:1、 4:1、5:1、7:1、8:1、10:1、12:1、20:1、∞:1 アタックタイム：0.2 ms ~ 5 s リリースタイム：10 ms ~ 5 s ゲイン：-∞ ~ +10 dB ニータイプ：ハードニー、ミドルニー、ソフトニー
号	デ イ レ イ
処	遅延時間：0 ~ 2730 ms、0.021 ms ステップ (各アンプ出力)
理	アンビエントノイズコントロール (ANC 機能) アンプ出力制御、センサー入力基準レベル自動測定、 センサー入力基準レベル微調節 最大出力レベル調節：-15 ~ 0 dB 最小出力レベル調節：-18 ~ -3 dB サンプル時間設定：10 s、20 s、30 s、1 min、5 min ゲインレシオ設定 (周囲騒音：出力レベル)：6:3、5:3、4:3、3:3、3:4、3:5、3:6 周囲騒音測定周波数設定：20 Hz ~ 20 kHz、3 ポイント
プログラムタイマー	週間プログラム方式 運用プログラム：50 ステップ、10 種類 休日プログラム：50 種類
時刻補正	制御入力、NTP
スピーカー出力	16 回線、アンプ 2 系統、2 アース端子 最大電圧/電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック (17P) × 2 故障検出システム：短絡回路、開放回路、接地異常 検出方式：インピーダンス
スタンバイアンプ入出力	入力 1、出力 1 最大電圧/電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック (2P) × 2

拡張用アンプ入出力	入力1、出力1 最大電圧/電流：100 V/5 A 着脱式ターミナルブロック (2P) × 2
モジュール *3	組込可能台数：2 DA 制御リンク … 2、 DA 出力リンク … 2 (パワーアンプモジュール組み込み時のみ)
表示灯	POWER (緑) × 1、RUN (緑) × 1、EMERGENCY (赤) × 1、CPU OFF (赤) × 1、 LAN A (緑) × 1、LAN B (緑) × 1、RS LINK A (緑) × 1、RS LINK B (緑) × 1 FAULT STATUS (黄) GENERAL × 1、UNIT × 1、NETWORK × 1、EMG MIC × 1、FUSE × 1、 POWER × 1、CPU × 1、ZONE × 16 AMPLIFIER PEAK (赤) × 2、SIGNAL (緑) × 2、OPERATE (緑) × 2、POWER (緑) × 2
操作スイッチ	異常制御スイッチ × 2 (ACK/RESET) テストスイッチ × 1 (LAMP TEST) 設定スイッチ：ID 番号、リセット、インピーダンスの設定 (フロントパネル内部)
使用温度範囲	-5 ~ +45°C
使用湿度範囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕上げ	パネル：表面処理鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装、3 分艶
寸法	483 (幅) × 132.6 (高さ) × 345 (奥行) mm
質量	8.1 kg

*1 IP ネットワーク上で高品質の音声をリアルタイムに伝送できる TOA 独自の技術

*2 0 dB = 1 V

*3 モジュール：デジタルパワーアンプモジュール、ラインアウトブットモジュール

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
CD (設定ソフトウェア)	1
着脱式ターミナルプラグ (2P)	4
着脱式ターミナルプラグ (4P)	1
着脱式ターミナルプラグ (6P)	2
着脱式ターミナルプラグ (12P)	4
着脱式ターミナルプラグ (17P)	2
フェライトクランプ	2

■ デジタルパワーアンプモジュール 120W VX-012DA-2

電 源	DC24 V (動作範囲：DC20～30 V) DC入力：M4ねじ端子、バリアー間隔 11 mm
増 幅 方 式	D級増幅方式 (デジタルアンプ)
消 費 電 流	0.038 A (省電力状態)、0.55 A (待機時)、1.45 A (定格の 1/8 出力)、 6.05 A (定格出力時) DC24 V 入力時、出力電圧設定 100 系時
定 格 出 力	120 W (ハイインピーダンス 100 系、84 Ω) 80 W (ハイインピーダンス 70 系、62 Ω) 60 W (ハイインピーダンス 50 系、42 Ω) (AC 電源 VX-3000AD：90～110 V)
出 力 電 圧	100 系 (70 系 / 50 系：選択可能)
最 大 容 量 負 荷	0.5 μF
系 統 数	1 系統
入 力	DA 制御リンク：コネクタ (15P)
出 力	DA 出力リンク：コネクタ (2P)
周 波 数 特 性	40 Hz～20 kHz：-5～+1 dB (ハイインピーダンス 100 系、30 dB *出力)
歪 率	1% 以下 (ハイインピーダンス 100 系、1 kHz 定格出力時)
S N 比	100 dB 以上 (ハイインピーダンス 100 系、JIS-A)
使 用 温 度 範 囲	0～40℃
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	表面処理鋼板
寸 法	82.8 (幅) × 91 (高さ) × 358.2 (奥行) mm
質 量	1.3 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

DA 制御リンクケーブル	1
DA 出力リンクケーブル	1
DC ヒューズ (10 A)	1

■ デジタルパワーアンプモジュール 240W VX-024DA-2

電 源	DC24 V (動作範囲：DC20 ~ 30 V) DC 入力：M4 ねじ端子、バリアー間隔 11 mm
増 幅 方 式	D 級増幅方式 (デジタルアンプ)
消 費 電 流	0.038 A (省電力状態)、0.55 A (待機時)、2.29 A (定格の 1/8 出力)、 11.9 A (定格出力時) DC24 V 入力時、出力電圧設定 100 系時
定 格 出 力	240 W (ハイインピーダンス 100 系、42 Ω) 160 W (ハイインピーダンス 70 系、31 Ω) 120 W (ハイインピーダンス 50 系、21 Ω) (AC 電源 VX-3000AD：90 ~ 110 V)
出 力 電 圧	100 系 (70 系 / 50 系：選択可能)
最 大 容 量 負 荷	0.5 μF
系 統 数	1 系統
入 力	DA 制御リンク：コネクタ (15P)
出 力	DA 出力リンク：コネクタ (2P)
周 波 数 特 性	40 Hz ~ 20 kHz：-5 ~ +1 dB (ハイインピーダンス 100 系、30 dB *出力)
歪 率	1% 以下 (ハイインピーダンス 100 系、1 kHz 定格出力時)
S N 比	100 dB 以上 (ハイインピーダンス 100 系、JIS-A)
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	表面処理鋼板
寸 法	82.8 (幅) × 91 (高さ) × 358.2 (奥行) mm
質 量	1.3 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

DA 制御リンクケーブル	1
DA 出力リンクケーブル	1
DC ヒューズ (20 A)	1

■ デジタルパワーアンプモジュール 360W VX-036DA-2

電 源	DC24 V (動作範囲：DC20 ~ 30 V) DC 入力：M4 ねじ端子、バリアー間隔 11 mm
増 幅 方 式	D 級増幅方式 (デジタルアンプ)
消 費 電 流	0.038 A (省電力状態)、0.71 A (待機時)、3.54 A (定格の 1/8 出力)、 18.75 A (定格出力時) DC24 V 入力時、出力電圧設定 100 系時
定 格 出 力	360 W (ハイインピーダンス 100 系、28 Ω) 250 W (ハイインピーダンス 70 系、20 Ω) 180 W (ハイインピーダンス 50 系、14 Ω) (AC 電源 VX-3000AD：90 ~ 110 V)
出 力 電 圧	100 系 (70 系 / 50 系：選択可能)
最 大 容 量 負 荷	0.5 μF
系 統 数	1 系統
入 力	DA 制御リンク：コネクタ (15P)
出 力	DA 出力リンク：コネクタ (2P)
周 波 数 特 性	40 Hz ~ 20 kHz：-5 ~ +1 dB (ハイインピーダンス 100 系、30 dB *出力)
歪 率	1% 以下 (ハイインピーダンス 100 系、1 kHz 定格出力時)
S N 比	100 dB 以上 (ハイインピーダンス 100 系、JIS-A)
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	表面処理鋼板
寸 法	82.8 (幅) × 91 (高さ) × 358.2 (奥行) mm
質 量	1.4 kg

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

DA 制御リンクケーブル	1
DA 出力リンクケーブル	1
DC ヒューズ (30 A)	1

■ ラインアウトプットモジュール VX-300LO

電 源	VX-3000 フレームから供給 (DA 制御リンク)
消 費 電 流 *1	最大 2 mA (DC POWER IN の電流 (DC20 ~ 33 V))
入 力	DA 制御リンク : コネクター (15P)
音 声 出 力 *1	1 系統 出力レベル : 0 dB *2 音量調節器調節幅 : -∞ ~ 0 dB 出力方式 : 10 kΩ、トランス平衡 適合負荷インピーダンス : 2 kΩ以上 周波数特性 : 40 Hz ~ 20 kHz、± 1 dB 歪率 : 1% 以下 (0 dB *2、1 kHz 出力時) SN 比 : 60 dB 以上 (JIS-A) 着脱式ターミナルブロック (3P)
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	表面処理鋼板
寸 法	76 (幅) × 39 (高さ) × 33.2 (奥行) mm
質 量	56 g

*1 VX-3000 フレーム搭載時

*2 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

DA 制御リンクケーブル	1
着脱式ターミナルプラグ (3P)	1
マウントベース	2
小ねじ M4 × 8 (平座金付き)	1

■ プリアンプマトリクスパネル VX-3000PM

電 源	DC20 ~ 33 V、着脱式ターミナルブロック (2P)
消 費 電 流	0.33 A、DC33 V入力時 0.35 A、DC24 V入力時
L A N A、B	コネクター数 : 2 (LAN A、LAN B) ネットワーク I/F : 100BASE-TX ネットワークプロトコル : TCP、UDP、ARP、ICMP、RTP、IGMP、HTTP スパニングツリープロトコル : RSTP 音声伝送方式 : パケットオーディオ技術*1 音声符号化方式 : PCM 音声サンプリング周波数 : 48 kHz 量子化ビット数 : 16 ビット 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、NX-300、 VX-3000CT、VX-3000PM、スイッチングハブ 接続コネクター : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上) 最大延長距離 : 100 m
音 声 入 力	8 系統 入力レベル : 入力 1 ~ 4 : -60 dB*2/-40 dB*2/-20 dB*2/0 dB*2 切り換え 入力インピーダンス 600 Ω、トランス平衡 入力 5、6 : -20 dB*2、入力インピーダンス 10 kΩ、不平衡 入力 7、8 : 0 dB*2、入力インピーダンス 10 kΩ、不平衡 周波数特性 : -60 dB*2 : 200 Hz ~ 10 kHz、-2 dB ± 3 dB 以内 -40 dB*2/-20 dB*2/0 dB*2 : 100 Hz ~ 15 kHz、-2 dB ± 3 dB 以内 歪率 : 1% 以下 SN 比 : 60 dB 以上 着脱式ターミナルブロック (6P × 2、4P × 2) 入力 1 のみ前面 ø6.3 ホーンジャックと兼用
制 御 入 力	20 系統、無電圧メイク接点、開放電圧 : DC30 V 短絡電流 : 2 ~ 10 mA 端子 : 着脱式ターミナルブロック (10P × 2、12P × 2)
制 御 出 力	1 ~ 5 系統 : リレー (a 接点)、接点容量 : DC30 V 短絡電流 : 1 A 6 ~ 10 系統 : オープンコレクター出力 (極性あり)、接点容量 : DC30 V/100 mA 端子 : 着脱式ターミナルブロック (10P × 2)
表 示 灯	信号表示灯 (緑) × 8、RUN (緑) × 1、LINK/ACT (緑) × 2
音 量 調 節 器	チャンネル数 : 8
操 作 部	入力レベル設定スイッチ × 1、IP アドレス設定スイッチ × 1
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル : プレコート鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶 音量調節部カバー : アクリル樹脂、グレースモーク
寸 法	482 (幅) × 44 (高さ) × 292.4 (奥行) mm
質 量	3.2 kg

*1 IP ネットワーク上で高品質の音声をリアルタイムに伝送できる TOA 独自の技術

*2 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
着脱式ターミナルプラグ (6P)	2
着脱式ターミナルプラグ (4P)	2
着脱式ターミナルプラグ (10P)	4
着脱式ターミナルプラグ (12P)	2
着脱式ターミナルプラグ (2P)	1

■ コントロールパネル VX-3000CT

電 源	DC20 ~ 33 V、着脱式ターミナルブロック (4P)
消 費 電 流	0.09 A、DC 33 V 入力時 0.11 A、DC 24 V 入力時
L A N A、B	コネクタ数 : 2 (LAN A、LAN B) ネットワーク I/F : 100BASE-TX ネットワークプロトコル : TCP、ARP、ICMP、HTTP 適合機種 : VX-3004F、VX-3008F、VX-3016F、NX-300、 VX-3000CT、VX-3000PM、スイッチングハブ 接続コネクタ : RJ45 接続線 : カテゴリー 5 ツイストペアケーブル (CAT5 以上) 最大延長距離 : 100 m
表 示 灯	POWER (緑) × 1、RUN (緑) × 1、LINK/ACT (緑) × 2、SIGNAL (緑) × 8、FAULT (黄) × 1、STATUS (緑/黄) × 9、SELECT (緑) × 9
音 量 調 節 器	チャンネル数 : 8
操 作 部	機能キー × 9、リセットキー × 1、IP アドレス設定スイッチ × 1
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル : 表面処理鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装、3 分艶 音量調節部カバー : ABS 樹脂、グレースモーク
寸 法	482 (幅) × 44 (高さ) × 315.2 (奥行) mm
質 量	3 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
着脱式ターミナルプラグ (4P)	1

■ 接続端子盤パネル VX-3000JB

S P I N 端 子	8 系統 最大電圧／電流：ハイインピーダンス 100 系 (100 Vrms) /3.6 A 着脱式ターミナルブロック (17P)
ATT/CONTROL IN 端子	8 系統 最大電圧／電流：ハイインピーダンス 100 系 (100 Vrms) /3.6 A 着脱式ターミナルブロック (12P) × 2
RJ45 入 力 端 子	2 系統 シールド共通
RS LINK 電 源 端 子	2 系統 最大電圧／電流：DC30 V/3 A 着脱式ターミナルブロック (4P) × 2
RS LINK 接 続 制 御 ス イ ッ チ	2 系統
出 力 端 子	スピーカー出力 (N、R、C) × 8 系統 RJ45 バラ端子 × 2 系統 (ケース端子 × 1) ねじ端子 (41P)
使 用 温 度 範 囲	0 ～ 40℃
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	パネル：プレコート鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、3 分艶
寸 法	482 (幅) × 44 (高さ) × 284 (奥行) mm
質 量	2.7 kg

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

ラック取付ねじ 5 × 12	4
着脱式ターミナルプラグ (17P)	1
着脱式ターミナルプラグ (12P)	2
着脱式ターミナルプラグ (4P)	2

■ 壁掛型リモートマイク RM-200SF

電 源	DC24 V (動作範囲：DC15～40 V、本体側から供給)
消 費 電 流	240 mA 以下
音 声 出 力	0 dB*、600 Ω、トランス平衡
歪 率	1% 以下
周 波 数 特 性	200 Hz～15 kHz
S N 比	55 dB 以上
使 用 マ イ ク ロ ホ ン	単一指向性ダイナミックマイクロホン、AGC 付き (ON/OFF 可能)、トークスイッチ付き マイク故障検知可能
チ ャ イ ム	内蔵 (PCM 音源)、内蔵スピーカーによりモニター可能 チャイム 1：上り 4 音、チャイム 2：下り 4 音、チャイム 3：2 音チャイム、 チャイム 4：ゴング
音 量 調 節 器	マイク音量調節器、モニタースピーカー音量調節器
接 続 線	シールド付き CPEV 線 (音声線 1 対 + データ線 1 対 + モニター/制御線 1 対 + 電源線 1 対) または シールド付き LAN 用カテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) M3 ねじ端子
最 大 延 長 距 離	1200 m
拡 張 ユ ニ ッ ト 接 続 数	最大 4 台
モ ニ タ ー ス ピ ー カ ー	内蔵
操 作 部	カバー付きキー、機能キー、CPU スイッチ、リセットスイッチ
表 示 部	状態表示灯、電源表示灯、異常表示灯、CPU 表示灯、機能キー表示灯、マイク表示灯、 放送状態表示灯
使 用 温 度 範 囲	0～40℃
使 用 湿 度 範 囲	35～80%RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	ABS 樹脂、ブルーグレー (マンセル 6.4PB8.0/0.5 近似色)
寸 法	200 (幅) × 215 (高さ) × 82.5 (幅) mm (コード部を除く)
質 量	1.5 kg (壁取付金具含む)
適 合 ボ ッ ク ス	露出ボックス：YS-11A

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

フェライトクランプ	1
壁掛金具ユニット	1
タッピンねじ 4 × 25	2
小ねじ M3.5 × 20	2

● 別売品

壁掛型リモートマイク拡張ユニット：RM-220FW

■ 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW

電 源	RM-200FW (別売) から供給
商 用 電 源 消 費 電 力	5.4 W (JIS C 6065 による、非常用電源パネルの電源供給損失を含む) 0.6 W (待機時、非常用電源パネルの電源供給損失を含む)
消 費 電 流	180 mA 以下 (別売の RM-200FW の電源入力での増加分)
操 作 部	回線選択キー× 20
表 示 部	放送状態 (黄/緑) × 20、回線選択 (緑) × 20
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40℃
使 用 湿 度 範 囲	35 ~ 80%RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	ABS 樹脂、ブルーグレー (マンセル 6.4PB8.0/0.5 近似色)
寸 法	175 (幅) × 215 (高さ) × 70 (奥行) mm
質 量	700 g
適 合 機 種	壁掛型リモートマイク : RM-200SF

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

壁取付金具	1
タッピンねじ 4 × 25	2

● 別売品

壁掛型リモートマイク : RM-200SF

■ 卓上型リモートマイク RM-300X

電 源	DC24 V (動作範囲：DC15 ~ 40 V、本体側から供給) DC 入力電源コネクタから供給可能 (適合電源：別売の AC アダプター AD-246) 適合 DC 電源プラグ：外径 5.5 mm、内径 2.1 mm、長さ 9.5 mm、無極性
消 費 電 流	240 mA 以下
音 声 出 力	0 dB*、600 Ω、平衡
外 部 マ イ ク 入 力	-40 dB*、2.2 kΩ、不平衡、ø3.5 ミニジャック (2P) エレクトレットコンデンサーマイク用 (ファンタム電源 DC3 V 供給) -20 dB*、4.7 kΩ、不平衡、ø3.5 ミニジャック (2P) (AUX 入力)
歪 率	1% 以下
周 波 数 特 性	100 Hz ~ 20 kHz
S N 比	60 dB 以上
使 用 マ イ ク ロ ホ ン	単一指向性エレクトレットコンデンサー型、AGC 付き (ON/OFF 可能)
チ ャ イ ム	内蔵 (PCM 音源)、内蔵スピーカーによりモニター可能 チャイム 1：上り 4 音、チャイム 2：下り 4 音、チャイム 3：2 音チャイム、 チャイム 4：ゴング
調 節 器	マイク感度調節器、モニタースピーカー音量調節器、チャイム (ソフトウェアで調節)
接 続 線	幹線：シールド付き CPEV 線 (音声線 1 対+データ線 1 対+モニター/制御線 1 対+電源線 1 対) または シールド付き LAN 用カテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) 支線：シールド付き LAN 用カテゴリ 5 ツイストペアケーブル (CAT5-STP 以上) RJ45 コネクタ
最 大 延 長 距 離	1200 m
拡 張 ユ ニ ッ ト 接 続 数	最大 7 台
モ ニ タ ー ス ピ ー カ ー	内蔵
操 作 部	機能キー、カバー付きキー、トークキー
表 示 部	電源表示灯、異常表示灯、機能キー表示灯、カバー付きキー表示灯、トークキー表示灯
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40℃
使 用 湿 度 範 囲	35 ~ 80%RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	ABS 樹脂、黒、半艶
寸 法	190 (幅) × 76.5 (高さ) × 215 (奥行) mm (マイク部を除く)
質 量	880 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 別売品

卓上型リモートマイク拡張ユニット：RM-210F

リモートマイク壁掛金具：WB-RM200

エレクトレットコンデンサーマイク：WH-1000、WH-4000A、YP-M101、YP-M301 など

■ 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F

電 源	RM-200F (別売) から供給
商 用 電 源 消 費 電 力	2.4 W (JIS C 6065 による、非常用電源パネルの電源供給損失を含む) 0.4 W (待機時、非常用電源パネルの電源供給損失を含む)
消 費 電 流	80 mA 以下 (別売の RM-200F の電源入力での増加分)
操 作 部	回線選択キー× 10
表 示 部	放送状態 (黄/緑) × 10、回線選択 (緑) × 10
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	35 ~ 80%RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	ABS 樹脂、黒 (マンセル N1.0 近似色)、半艶
寸 法	110 (幅) × 76.5 (高さ) × 215 (奥行) mm
質 量	350 g
適 合 機 種	卓上型リモートマイク : RM-300X

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

拡張ケーブル (8P、8 cm)	1
連結用金具 A	2
連結用金具 B	1
連結用ねじ	12

● 別売品

卓上型リモートマイク : RM-300X
リモートマイク壁掛金具 : WB-RM200

■ RJ45 端子盤 RM-200RJ

印 加 電 圧	40 V 以下
耐 電 流	1 A
電 圧 表 示 部	監視端子 : 7 端子 (+) と 8 番端子 (-)、消灯電圧 : 14 V 以下、 点灯電圧 : 21 V 以上、スイッチから切り離し可能
コ ネ ク タ ー	RJ45 コネクター : 1
端 子 台	M3 ねじ端子 (10P)、バリアー間隔 : 6.62 mm
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C
使 用 湿 度 範 囲	35 ~ 80%RH (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	表面処理鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装
寸 法	84 (幅) × 116 (高さ) × 25.7 (奥行) mm
質 量	250 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ 卓上型リモートマイク RM-500

電 源	DC24 V (動作範囲: DC15 ~ 30 V) 本体側から供給 (プッシュイン式端子台) または適合 AC アダプター AD-246 (別売) から供給 (DC 入力電源コネクタ) 適合 DC 電源プラグ: 外径 5.5 mm、内径 2.1 mm、長さ 9.5 mm、極性あり、センター⊕
消 費 電 流	130 mA 以下
音 声 出 力	0 dB*、平衡、プッシュイン式端子台
A U X 入 力	1 系統、不平衡、ライン/マイク (設定スイッチで切り換え) ライン: -20 dB*、10 kΩ、プッシュイン式端子台 マイク: -60 dB*、2.2 kΩ、プッシュイン式端子台
制 御 入 力	1 系統、無電圧メイク接点入力、開放電圧: DC30 V 短絡電流: 10 mA、プッシュイン式端子台
制 御 出 力	1 系統、オープンコレクター出力、耐電圧: DC30 V 許容電流: 35 mA、プッシュイン式端子台
歪 率	1% 以下
周 波 数 特 性	100 Hz ~ 20 kHz
S N 比	60 dB 以上
使 用 マ イ ク ロ ホ ン	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
チ ャ イ ム	本体システム内蔵音源を使用 (本体システム設定により変更可能)
調 節 器	マイク音量調節器、AUX 音量調節器
本 体 シ ス テ ム 接 続 線	シールド付き CPEV 線 (音声線 1 対 + データ線 1 対 + 電源線 1 対 + シールド線): プッシュイン式端子台 最大延長距離: 1200 m (別売の AC アダプター AD-246 から給電の場合)
外 部 機 器 接 続 線	銅単線 $\phi 0.4 \sim 1.1$ mm (AWG28 ~ 17)
操 作 部	数字キー×10、左右選択キー×2、チャイムキー×2、一斉キー×1、復旧/クリアキー×1、トークキー×1、AUXキー×1
表 示 部	液晶表示: 3 型 (255 × 160 dot)、バックライト付き 表示灯: 放送表示灯 (緑)、マイク表示灯 (緑)
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40 °C
使 用 湿 度 範 囲	90%RH 以下 (ただし結露のないこと)
仕 上 げ	ABS 樹脂、オフホワイト (マンセル N9.5 近似色)、塗装
寸 法	224 (幅) × 47.2 (高さ) × 136 (奥行) mm (マイク部を除く)
質 量	650 g

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

結束バンド 2

● 別売品

リモートマイク壁掛金具: WB-RM500
AC アダプター: AD-246

■ リモートマイク壁掛金具 WB-RM500

仕 上 げ	ステンレス
寸 法	146 (幅) × 113 (高さ) × 23.9 (奥行) mm
質 量	170 g

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

タッピンねじ 4 × 25 (壁直付け用) 2
小ねじ M4 × 20 (電工ボックス取り付け用) 2

<p>TOA お客様相談センター</p>	<p>フリーダイヤル（固定電話専用） 0120-108-117</p>	<p>商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。</p>
<p>商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00～17：00（土日、祝日除く）</p>	<p>ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。</p>	

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

202407